「広島市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」及び「こどもアンケート」

報告書

令和６年９月

広島市こども未来局

目　次

「広島市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」

■ 調査の概要 ---------- 1
１．調査目的等---------- 1
２．回答者の属性---------- 2
■ 調査の結果 ---------- 6
Ⅰ．こどもの育ちをめぐる環境、保護者の就労状況等について ---------- 6
１．家庭での子育ての状況 ---------- 6
１）子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人・施設、影響する環境---------- 6
２）子育て（教育を含む）について相談できる人・場所 ---------- 7
３）ワーク・ライフ・バランス ---------- 8
４）日頃こどもをみてもらえる環境 ---------- 9
５）こどもをみてもらうことへの意識 ---------- 10
２．保護者の就労状況 ---------- 12
１）父親の就労状況 ---------- 12
２）母親の就労状況 ---------- 14
３）パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望---------- 16
３．就労していない母親の就労希望---------- 17
１）就労希望状況 ---------- 17
２）希望する就労形態 ---------- 18
４．育児休業制度（対象：就学前児童のいる世帯） ---------- 19
１）育児休業の取得状況 ---------- 19
２）育児休業を取得していない理由 ---------- 20
３）育児休業取得後の職場復帰 ---------- 21
４）育児休業取得後の職場復帰の時期 ---------- 21
５）短時間勤務制度の利用状況 ---------- 24
６）育児休業中及び育児休業終了後にあればよいと思う支援 ---------- 25
Ⅱ．定期的な教育・保育事業について（対象：就学前児童のいる世帯） ---------- 26
１．平日の定期的な教育・保育事業の利用状況---------- 26
１）平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無 ---------- 26
２）平日の定期的な教育・保育事業の利用時間 ---------- 27
３）平日の定期的な教育・保育事業を利用している理由 ---------- 28
４）平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由 ---------- 29
２．平日の定期的な教育・保育事業の利用希望---------- 30
３．土日祝、長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望---------- 31
１）土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望 ---------- 31
２）日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望 ---------- 32
３）幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用希望 ---------- 33

Ⅲ．放課後の過ごし方、病児・病後児保育、一時預かり等について ---------- 34
１．現在の放課後の時間を過ごしている場所（対象：就学児童のいる世帯） ---------- 34
２．放課後の時間を過ごさせたい場所（対象：就学児童のいる世帯） ---------- 36
３．放課後児童クラブの利用状況（対象：就学児童のいる世帯） ---------- 38
１）放課後児童クラブの満足度 ---------- 38
２）放課後児童クラブを利用していない理由 ---------- 39
３）放課後児童クラブの今後の利用希望 ---------- 40
４．低学年の間の放課後の過ごし方についての希望（対象：5 歳以上の就学前児童のいる世帯） - 42
１）低学年の間の放課後を過ごさせたい場所 ---------- 42
２）放課後児童クラブの利用希望 ---------- 43
５．高学年の間の放課後の過ごし方についての希望（対象：5 歳以上の就学前児童のいる世帯） - 44
１）高学年の間の放課後を過ごさせたい場所 ---------- 44
２）放課後児童クラブの利用希望 ---------- 45
６．土日祝、長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望（対象：5 歳以上の就学前児童の
いる世帯と、就学児童のいる世帯)---------- 46
７．病児・病後児保育(対象：平日の定期的な教育・保育事業を利用している就学前児童
のいる世帯と、就学児童のいる世帯)---------- 48
１）こどもの病気・ケガの際の対処 ---------- 48
２）病児・病後児保育についての希望 ---------- 49
３）こどもが病気の際に親が仕事を休んで看護することの希望とその困難度---------- 50
８．一時預かり等 ---------- 51
１）利用している一時預かり等 ---------- 51
２）一時預かり等を利用していない理由 ---------- 51
３）一時預かり等の利用希望 ---------- 52
４）こどもを泊まりがけで家族以外に監護してもらわなければならなかった経験--------- 53
Ⅳ．こどもの遊び環境、地域子育て支援拠点事業、子育てに関する悩みや精神的負担等について-- 54
１．こどもの遊び環境 ---------- 54
１）こどもの日常的な遊び場 ---------- 54
２）こどもの遊び環境への満足度 ---------- 55
３）こどもの遊び場への要望 ---------- 57
２．地域子育て支援拠点事業（対象：就学前児童のいる世帯） ---------- 58
１）常設オープンスペースの利用状況 ---------- 58
２）常設オープンスペースを利用していない理由 ---------- 58
３）常設オープンスペースの利用希望 ---------- 59
４）3 歳未満のこどもを対象とした交流の場の利用---------- 60
３．子育てに関する悩みや精神的負担等---------- 61
１）子育てに関する悩みや不安感等の有無 ---------- 61
２）子育てに関する悩み等の内容 ---------- 61
３）子育てに関する情報 ---------- 62
４）子育ての楽しさと精神的負担 ---------- 63
５）子育てにかかわってからの経験 ---------- 64
６）子育ての精神的負担を減らすために必要な支援 ---------- 65
７）子育てしやすい社会づくりに向けた行政への期待 ---------- 66
８）地域における子育ての環境や支援への満足度 ---------- 67
Ⅴ．子育て支援に関する意見---------- 68

「こどもアンケート」

■ 調査の概要 ---------- 92
１．調査目的等---------- 92
２．回答者の属性---------- 93
■ 調査の結果 ---------- 94
１．悩みごと等の相談状況---------- 94
１）悩みごと等の有無 ---------- 94
２）悩みごと等の内容 ---------- 94
３）相談先の有無 ---------- 95
４）具体的な相談先 ---------- 95
５）相談できる人や場所がないと答えた理由 ---------- 96
６）相談できるようになるために必要なこと ---------- 97
２．家や学校以外の居場所---------- 98
１）放課後や休みの日に過ごしたい場所 ---------- 98
２）家や学校以外の居場所の有無 ---------- 98
３）家や学校以外で居場所だと感じている場所 ---------- 99
４）居場所だと感じている場所の利用を始めた理由 ---------- 100
５）居場所だと感じている場所の印象 ---------- 101
６）居場所だと感じる場所に行くようになって変わったこと---------- 102
７）居場所だと感じる場所でやってみたいこと ---------- 102
８）ここに居たいと思う場所がないと答えた理由 ---------- 103
９）どんな場所があれば行ってみたいと思うか ---------- 103
３．最近の生活の満足度---------- 104
４．国や広島市への意見表明---------- 105
５．国や広島市がこどもたちのために力をいれた方がいいこと ---------- 106
６．役所の人などの大人に伝えたいこと---------- 107

「広島市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」

■ 調査の概要

１．調査目的等

１）調　査　目　的 ：　子育て家庭の実態や子育て支援に関するニーズ等を把握し、「広島市子ども・子育て支援事業計画」策定のための基礎資料とする。

２）調 査 実 施 方 法 ：　郵送配付回収、無記名自記式

３）調　査　時　期 ：　令和 6 年 2 月

４）調 査 対 象 者 ：　広島市内に居住する就学前児童（0～5 歳）又は就学児童（6～11 歳）のいる世帯

５）抽　出　方　法 ：　住民基本台帳より、居住区及び令和 5 年 4 月 1 日現在の満年齢を基に区分し無作為抽出

６）送　　付　　数 ：　就学前児童のいる世帯：8,000 世帯　　就学児童のいる世帯：5,500 世帯

７）調査結果の表示方法 ：
○　表やグラフ中の「ｎ」は、回答総数を表している。
○　比率（％）は小数点以下第 2 位を四捨五入で算出しているため、合計が合わないことや 100％にならないことがある。
○　表やグラフ、文章において、回答の選択肢等の表現を一部省略している場合がある。
○　グラフでは見やすさを優先し、「0.0％」の数値表示を省略しているものがある。

８）送付数及び回収数：

◆　就学前児童のいる世帯

調査区分 （こどもの年齢）	送付数	回収数	回収率
乳児（0歳）	2,500世帯	1,110世帯	44.4%
幼児（1～2歳）	2,700世帯	1,091世帯	40.4%
幼児（3～5歳）	2,800世帯	1,180世帯	42.1%
不明	-	20世帯	-
計	8,000世帯	3,401世帯	42.5%

◆　就学児童のいる世帯

調査区分 （こどもの年齢）	送付数	回収数	回収率
小学校低学年 （6～8歳）	2,700世帯	740世帯	27.4%
小学校高学年 （9～11歳）	2,800世帯	846世帯	30.2%
不明	-	34世帯	-
計	5,500世帯	1,620世帯	29.5%

全体	13,500世帯	5,021世帯	37.2%

２．回答者の属性

１）就学前児童のいる世帯

① 令和5年4月１日現在の対象のこどもの年齢

	人数	%
0歳	1,110	32.6
1歳	560	16.5
2歳	531	15.6
3歳	372	10.9
4歳	410	12.1
5歳	398	11.7
不明	20	0.6
全体	3,401	100.0

② こどもの数

	人数	%
1人	1,263	37.1
2人	1,491	43.8
3人	530	15.6
4人	100	2.9
5人以上	17	0.5
不明	0	0.0
全体	3,401	100.0

③ 末子の生まれ年

（回答対象：こどもが2人以上の方）

	人数	%
平成29年	91	4.3
平成30年	174	8.1
平成31年/令和元年	184	8.6
令和2年	291	13.6
令和3年	305	14.3
令和4年	491	23.0
令和5年	319	14.9
令和6年	37	1.7
不明	246	11.5
全体	2,138	100.0

④ 双子や三つ子などの多胎児

（回答対象：こどもが2人以上の方）

	人数	%
いる	77	3.6
いない	2,044	95.6
不明	17	0.8
全体	2,138	100.0

⑤ 調査票の回答者

	人数	%
母親	3,005	88.4
父親	373	11.0
その他	15	0.4
不明	8	0.2
全体	3,401	100.0

⑥ 回答者の配偶関係

	人数	%
配偶者はいる	3,261	95.9
配偶者はいない	129	3.8
不明	11	0.3
全体	3,401	100.0

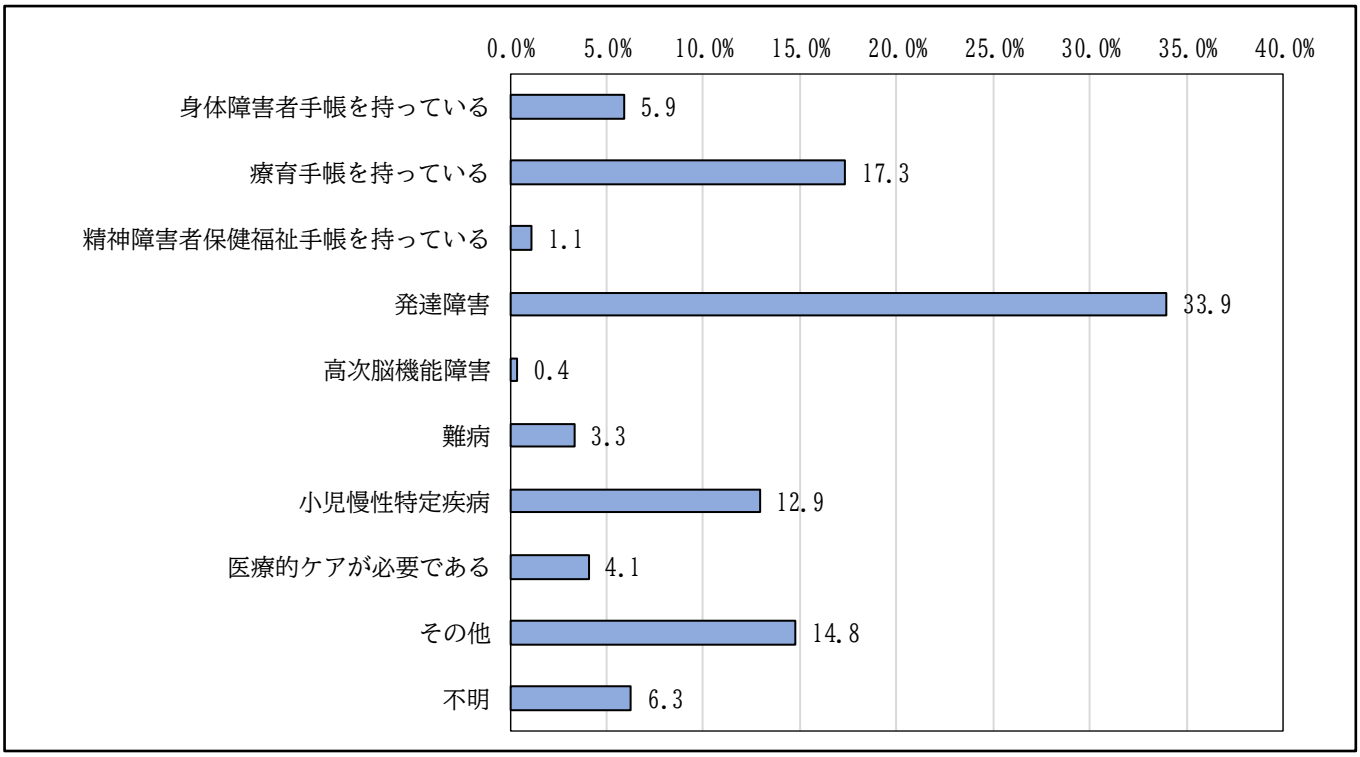
⑦ 居住区

	人数	%
中区	386	11.3
東区	322	9.5
南区	428	12.6
西区	572	16.8
安佐南区	776	22.8
安佐北区	269	7.9
安芸区	201	5.9
佐伯区	425	12.5
不明	22	0.6
全体	3,401	100.0

⑧ 対象のこどもに係る障害や慢性的な疾病等の有無

	人数	%
ない	3,204	94.2
ある	180	5.3
不明	17	0.5
全体	3,401	100.0

⑨　障害等の状況や種類（複数回答）（回答対象：対象のこどもに障害、慢性的な疾病等がある方）（n=180）



2）就学児童のいる世帯

① 令和5年4月1日現在の対象のこどもの年齢

	人数	%
6歳	237	14.6
7歳	231	14.3
8歳	272	16.8
9歳	330	20.4
10歳	192	11.9
11歳	324	20.0
不明	34	2.1
全体	1,620	100.0

② こどもの数

	人数	%
1人	282	17.4
2人	866	53.5
3人	379	23.4
4人	63	3.9
5人以上	12	0.7
不明	18	1.1
全体	1,620	100.0

③ 末子の生まれ年

（回答対象：こどもが2人以上の方）

	人数	%
平成23年	98	7.4
平成24年	81	6.1
平成25年	134	10.2
平成26年	138	10.5
平成27年	168	12.7
平成28年	170	12.9
平成29年	107	8.1
平成30年	121	9.2
平成31年/令和元年	79	6.0
令和２年	67	5.1
令和３年	29	2.2
令和４年	30	2.3
令和５年	21	1.6
令和６年	0	0.0
不明	77	5.8
全体	1,320	100.0

④ 双子や三つ子などの多胎児

（回答対象：こどもが2人以上の方）

	人数	%
いる	39	3.0
いない	1,259	95.4
不明	22	1.7
全体	1,320	100.0

⑤ 調査票の回答者

	人数	%
母親	1,407	86.9
父親	202	12.5
その他	5	0.3
不明	6	0.4
全体	1,620	100.0

⑥ 回答者の配偶関係

	人数	%
配偶者はいる	1,494	92.2
配偶者はいない	123	7.6
不明	3	0.2
全体	1,620	100.0

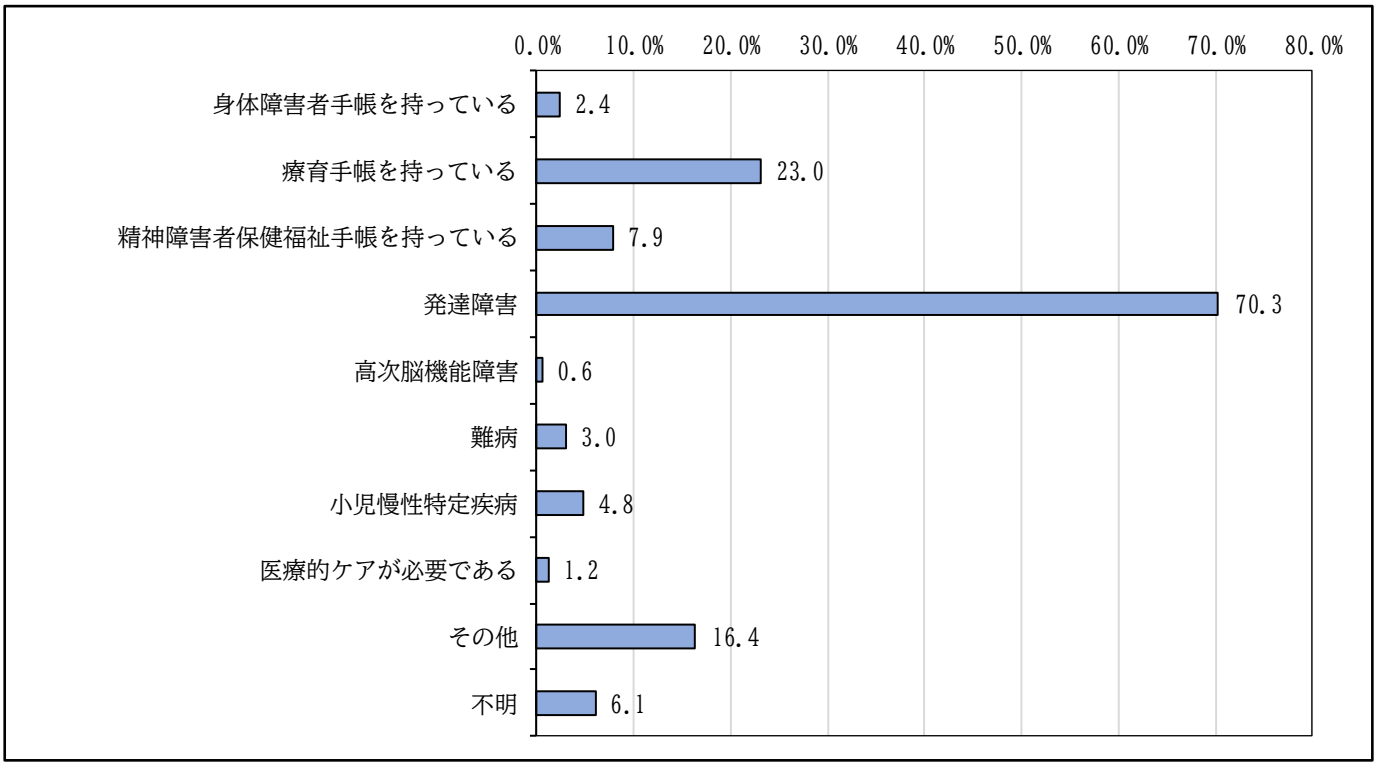
⑦ 居住区

	人数	%
中区	142	8.8
東区	173	10.7
南区	197	12.2
西区	247	15.2
安佐南区	407	25.1
安佐北区	150	9.3
安芸区	92	5.7
佐伯区	201	12.4
不明	11	0.7
全体	1,620	100.0

⑧ 対象のこどもに係る障害や慢性的な疾病等の有無

	人数	%
ない	1,447	89.3
ある	165	10.2
不明	8	0.5
全体	1,620	100.0

⑨ 障害等の状況や種類（複数回答）（回答対象：対象のこどもに障害、慢性的な疾病等がある方）（n=165）



■ 調査の結果

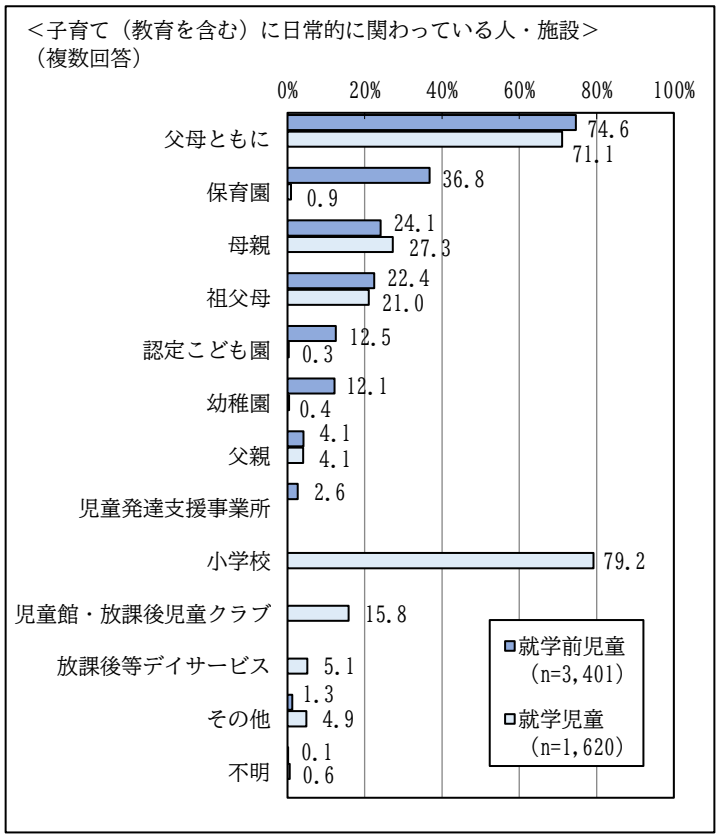
Ⅰ．こどもの育ちをめぐる環境、保護者の就労状況等について

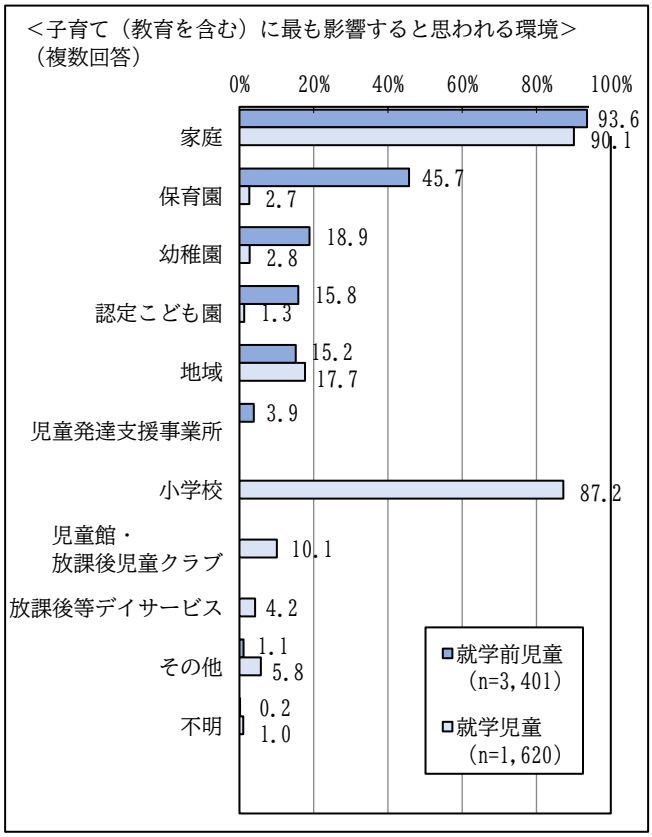
１．家庭での子育ての状況

１）子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人・施設、影響する環境

子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人・施設について、就学前児童のいる世帯では、「父母ともに」が最も多く 74.6%、次いで「保育園」が 36.8%となっている。就学児童のいる世帯では、「小学校」が最も多く 79.2%、次いで「父母ともに」が 71.1%となっている。

子育て（教育を含む）に最も影響すると思われる環境について、就学前児童のいる世帯では「家庭」が最も多く 93.6%、次いで「保育園」が 45.7%、「幼稚園」が 18.9%となっている。就学児童のいる世帯では「家庭」が最も多く 90.1%、次いで「小学校」が 87.2%、「地域」が 17.7%となっている。





＜内訳＞

	父母ともに	保育園	母親	祖父母	認定こども園	幼稚園	父親	児童発達支援事業所	小学校	児童館・放課後児童クラブ	放課後等デイサービス	その他	不明
就学前児童・計	74.6%	36.8%	24.1%	22.4%	12.5%	12.1%	4.1%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.1%
0歳	74.6%	24.7%	27.3%	24.3%	5.0%	0.5%	4.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.1%
1歳	74.6%	46.1%	23.8%	24.5%	11.4%	1.4%	5.2%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.2%
2歳	71.4%	45.2%	24.3%	18.6%	15.6%	13.2%	4.7%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%
3歳以上	75.9%	40.1%	21.3%	21.6%	18.9%	27.8%	3.6%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.3%
不明	85.0%	30.0%	15.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
就学児童・計	71.1%	0.9%	27.3%	21.0%	0.3%	0.4%	4.1%	0.0%	79.2%	15.8%	5.1%	4.9%	0.6%
低学年	72.7%	0.9%	25.8%	23.0%	0.4%	0.8%	3.9%	0.0%	83.0%	28.6%	6.5%	3.2%	0.0%
高学年	70.2%	0.8%	28.3%	19.7%	0.2%	0.1%	4.3%	0.0%	77.0%	4.8%	3.9%	6.5%	0.1%
不明	58.8%	0.0%	35.3%	11.8%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	52.9%	8.8%	5.9%	0.0%	23.5%

＜内訳＞

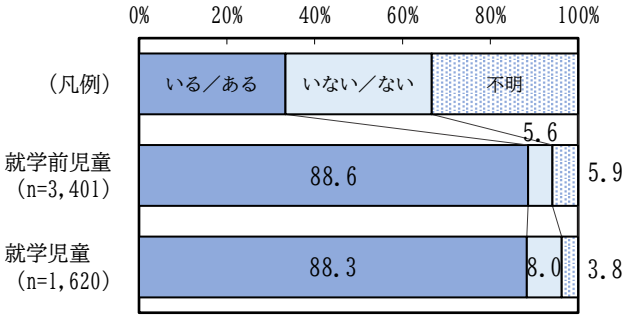
	家庭	保育園	幼稚園	認定こども園	地域	児童発達支援事業所	小学校	児童館・放課後児童クラブ	放課後等デイサービス	その他	不明
就学前児童・計	93.6%	45.7%	18.9%	15.8%	15.2%	3.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.2%
0歳	95.9%	44.8%	10.9%	12.3%	16.8%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.1%
1歳	94.3%	51.6%	9.8%	14.1%	16.4%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.2%
2歳	91.7%	47.3%	19.4%	18.5%	12.4%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%
3歳以上	92.3%	43.0%	30.5%	19.0%	14.3%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.3%
不明	85.0%	45.0%	15.0%	5.0%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
就学児童・計	90.1%	2.7%	2.8%	1.3%	17.7%	0.0%	87.2%	10.1%	4.2%	5.8%	1.0%
低学年	90.0%	3.1%	3.4%	1.2%	17.6%	0.0%	87.3%	17.8%	5.1%	4.3%	0.4%
高学年	90.3%	2.2%	2.1%	1.2%	17.4%	0.0%	87.2%	3.4%	3.2%	6.7%	0.2%
不明	85.3%	2.9%	5.9%	5.9%	26.5%	0.0%	85.3%	5.9%	8.8%	13.5%	32.4%

2）子育て（教育を含む）について相談できる人・場所

子育て（教育を含む）に関して気軽に相談できる人・場所について、就学前児童のいる世帯では「いる／ある」が88.6%、「いない／ない」が5.6%、就学児童のいる世帯では「いる／ある」が88.3%、「いない／ない」が8.0%となっている。内訳を見ると、「いる／ある」との回答は、2歳児のいる世帯で最も多く90.6%となっており、1歳児のいる世帯で最も低く86.6%となっている。

気軽に相談できる先について、就学前児童のいる世帯では、「親・兄弟・姉妹等の親族」が最も多く91.0%、次いで「友人や知人」が65.4%、「保育士」が33.7%となっている。就学児童のいる世帯では、「親・兄弟・姉妹等の親族」が最も多く84.8%、次いで「友人や知人」が70.1%、「小学校教諭等」が30.1%となっている。内訳を見ると、「親･兄弟･姉妹等の親族」は、0歳児のいる世帯で最も多く93.8%となっており、高学年のいる世帯で最も低く83.7%となっている。

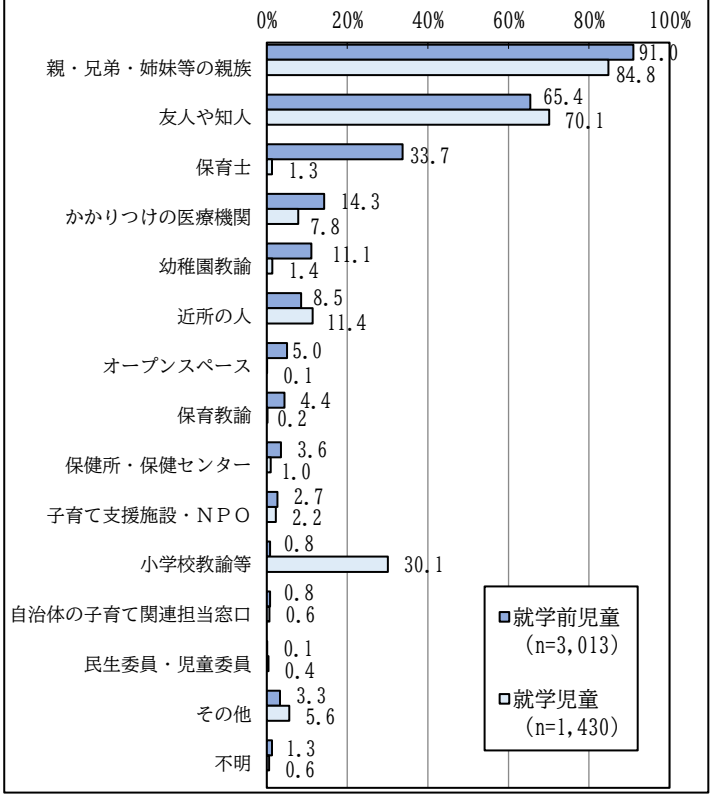
＜子育て(教育を含む)に関して気軽に相談できる人・場所＞



＜内訳＞

	いる／ある	いない／ない	不明
就学前児童・計	88.6%	5.6%	5.9%
0歳	89.6%	5.2%	5.1%
1歳	86.6%	5.5%	7.9%
2歳	90.6%	4.5%	4.9%
3歳以上	87.9%	6.1%	6.0%
不明	75.0%	20.0%	5.0%
就学児童・計	88.3%	8.0%	3.8%
低学年	90.1%	6.4%	3.5%
高学年	86.9%	9.3%	3.8%
不明	82.4%	8.8%	8.8%

＜子育て（教育を含む）に関して気軽に相談できる先＞（複数回答）
（回答対象：相談できる人・場所が「いる又はある」世帯）



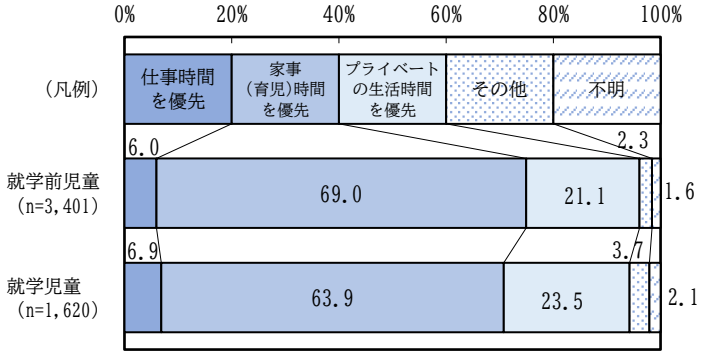
＜内訳＞

	親・兄弟・姉妹等の親族	友人や知人	保育士	かかりつけの医療機関	幼稚園教諭	近所の人	オープンスペース	保育教諭	保健所・保健センター	子育て支援施設・ＮＰＯ	小学校教諭等	自治体の子育て関連担当窓口	民生委員・児童委員	その他	不明
就学前児童・計	91.0%	65.4%	33.7%	14.3%	11.1%	8.5%	5.0%	4.4%	3.6%	2.7%	0.8%	0.8%	0.1%	3.3%	1.3%
0歳	93.8%	67.6%	24.4%	17.7%	2.2%	7.9%	11.0%	2.8%	5.2%	4.9%	0.1%	1.1%	0.0%	2.2%	0.7%
1歳	92.4%	66.6%	41.6%	14.4%	3.7%	6.2%	4.1%	3.9%	2.9%	1.4%	0.4%	1.2%	0.0%	2.7%	1.4%
2歳	90.9%	62.2%	42.6%	11.4%	12.9%	7.7%	2.5%	5.2%	3.3%	1.0%	0.2%	0.6%	0.0%	4.6%	1.9%
3歳以上	88.1%	64.0%	34.9%	12.3%	22.4%	10.4%	0.8%	5.8%	2.4%	1.8%	1.8%	0.4%	0.3%	4.1%	1.4%
不明	73.3%	80.0%	20.0%	6.7%	0.0%	13.3%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
就学児童・計	84.8%	70.1%	1.3%	7.8%	1.4%	11.4%	0.1%	0.2%	1.0%	2.2%	30.1%	0.6%	0.4%	5.6%	0.6%
低学年	85.6%	71.7%	2.1%	8.7%	2.4%	11.5%	0.1%	0.4%	1.5%	3.4%	29.2%	0.9%	0.4%	4.9%	0.4%
高学年	83.7%	68.7%	0.7%	7.3%	0.5%	11.0%	0.0%	0.0%	0.5%	1.2%	31.2%	0.4%	0.4%	6.3%	0.7%
不明	96.4%	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	17.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%

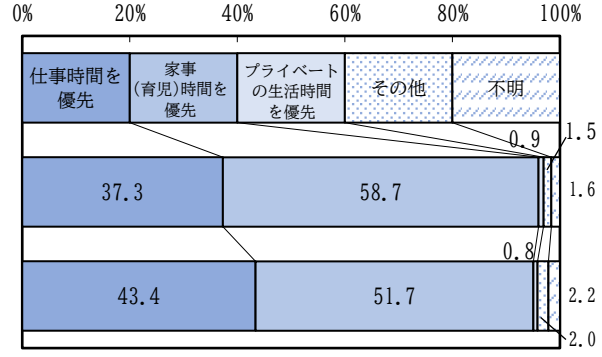
3）ワーク・ライフ・バランス

ワーク・ライフ・バランスについて、生活の中での「仕事時間」、「家事（育児）時間」、「プライベートの生活時間」の優先度は、就学前児童のいる世帯、就学児童のいる世帯ともに、「希望」も「現実」も、「家事（育児）時間を優先」が最も多くなっている。一方、「仕事時間」については、「希望」は6%台であるのに対し「現実」は40%前後、「プライベートの生活時間」については、「希望」は20%台であるのに対し、「現実」は1％未満となっており、ギャップが大きくなっている。

＜仕事時間、家事（育児）時間、プライベートの生活時間の優先度＞『希望』



＜仕事時間、家事（育児）時間、プライベートの生活時間の優先度＞『現実』



母親がフルタイムで就労している人の、生活の中での「仕事時間」、「家事（育児）時間」、「プライベートの生活時間」の「希望」の優先度について、就学前児童のいる世帯では、「家事（育児）時間」が最も多く69.5%、次いで「プライベートの生活時間」が21.1%、「仕事時間」では5.7%となっている。就学児童のいる世帯では、「家事（育児）時間」が最も多く70.1%、次いで「プライベートの生活時間」が18.7%、「仕事時間」が6.0%となっている。

「現実」の優先度について、「その他」を除き、就学前児童のいる世帯では、「仕事時間」が最も多く54.2%、次いで「家事（育児）時間」が41.2%、「プライベートの生活時間」が0.9%となっている。就学児童のいる世帯では、「その他」を除き、「仕事時間」が最も多く73.7%、次いで「家事（育児）時間」が22.1%、「プライベートの生活時間」が0.2%となっている。

＜内訳＞　　（就学前児童　n＝3,401　就学児童　n＝1,620）

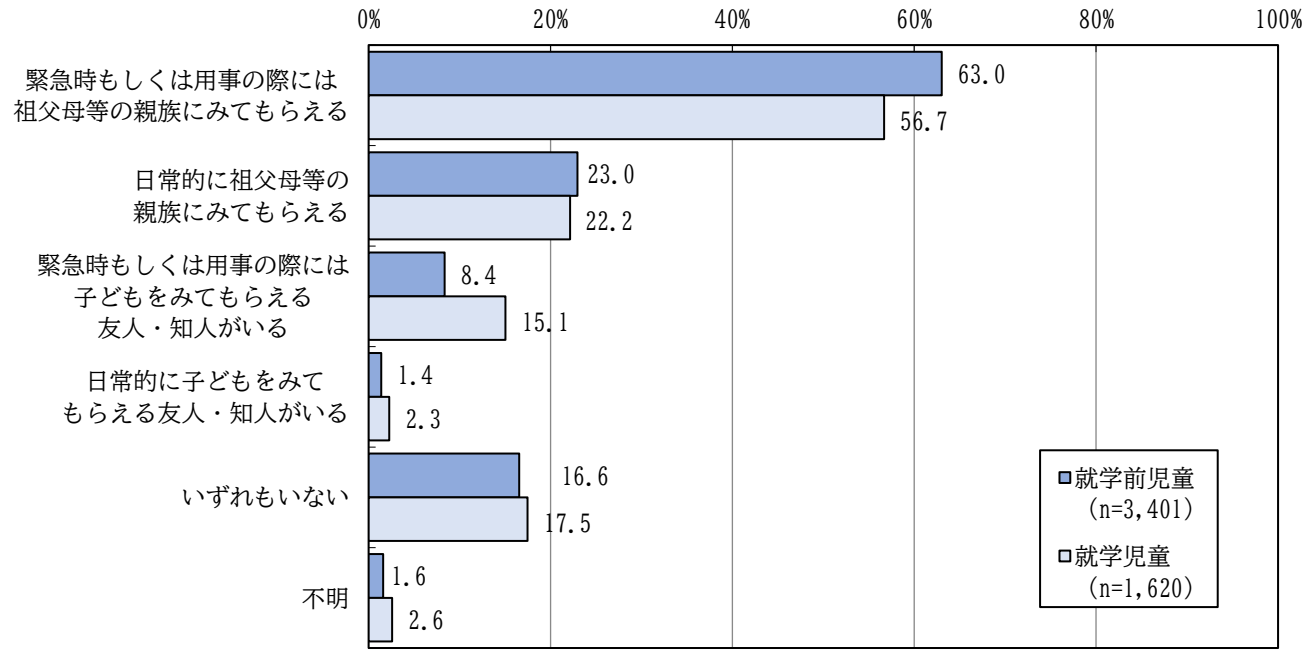
		希望					現実				
		仕事時間	家事（育児）時間	プライベートの生活時間	その他	不明	仕事時間	家事（育児）時間	プライベートの生活時間	その他	不明
母の就労状況	就学前児童・計	6.0%	69.0%	21.1%	2.3%	1.6%	37.3%	58.7%	0.9%	1.5%	1.6%
	フルタイム	5.7%	69.5%	21.1%	2.1%	1.6%	54.2%	41.2%	0.9%	1.6%	2.0%
	パート・アルバイト等	6.7%	68.4%	20.2%	2.9%	1.7%	35.0%	61.5%	0.9%	1.6%	1.0%
	無業	5.8%	68.7%	22.1%	2.0%	1.5%	9.6%	87.6%	0.9%	1.0%	0.9%
	不明	5.4%	67.6%	21.6%	5.4%	0.0%	29.7%	54.1%	0.0%	2.7%	13.5%
	就学児童・計	6.9%	63.9%	23.5%	3.7%	2.1%	43.4%	51.7%	0.8%	2.0%	2.2%
	フルタイム	6.0%	70.1%	18.7%	3.3%	2.0%	73.7%	22.1%	0.2%	2.0%	2.0%
	パート・アルバイト等	8.8%	61.7%	24.3%	4.0%	1.3%	34.5%	60.9%	1.0%	2.1%	1.6%
	無業	4.5%	58.9%	29.9%	3.9%	2.7%	12.7%	81.9%	1.5%	1.8%	2.1%
	不明	3.3%	56.7%	20.0%	3.3%	16.7%	36.7%	43.3%	0.0%	0.0%	20.0%

4）日頃こどもをみてもらえる環境

日頃こどもをみてもらえる親族・知人の有無について、就学前児童のいる世帯では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く 63.0%、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 23.0%、「いずれもいない」が 16.6%となっている。就学児童のいる世帯では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く 56.7%、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 22.2%。「いずれもいない」が 17.5%となっている。

内訳を見ると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」は、1 歳児のいる世帯で最も多く 63.6%、低学年のいる世帯で最も低く 55.7%となっている。

＜日頃こどもをみてもらえる親族・知人の有無＞（複数回答）



＜内訳＞

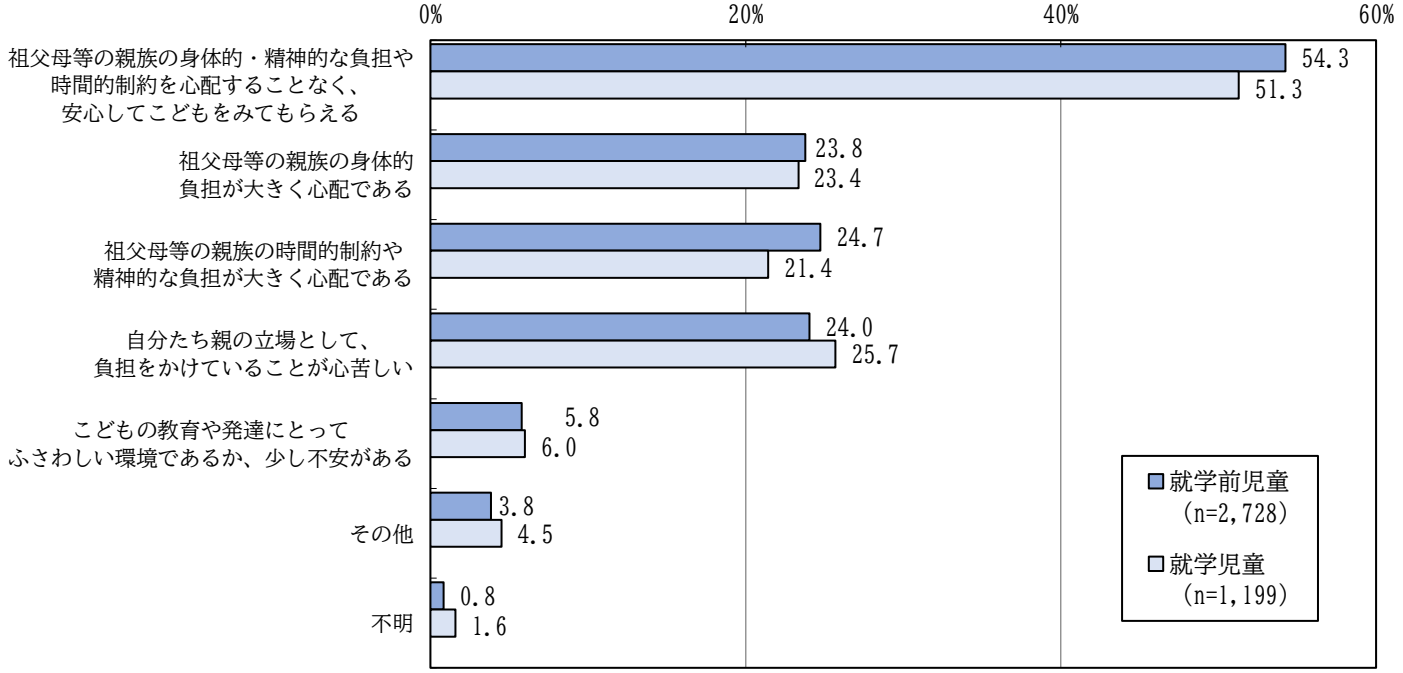
	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	いずれもいない	不明
就学前児童・計	63.0%	23.0%	8.4%	1.4%	16.6%	1.6%
0歳	63.0%	25.9%	7.0%	1.4%	14.8%	1.5%
1歳	63.6%	24.3%	7.0%	1.3%	16.6%	2.5%
2歳	63.1%	20.9%	8.3%	1.5%	17.1%	1.5%
3歳以上	63.0%	20.5%	10.3%	1.4%	17.6%	1.4%
不明	50.0%	20.0%	5.0%	0.0%	35.0%	0.0%
就学児童・計	56.7%	22.2%	15.1%	2.3%	17.5%	2.6%
低学年	55.7%	22.7%	15.0%	3.1%	17.6%	2.8%
高学年	57.2%	21.7%	15.1%	1.7%	17.4%	2.2%
不明	64.7%	20.6%	14.7%	0.0%	17.6%	5.9%

5）こどもをみてもらうことへの意識

祖父母等の親族に日常的又は緊急時にこどもをみてもらう状況について、就学前児童のいる世帯では、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心してこどもをみてもらえる」が最も多く 54.3%、次いで「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が 24.7%、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 24.0%となっている。就学児童のいる世帯では、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心してこどもをみてもらえる」が最も多く 51.3%、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 25.7%、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が 23.4%となっている。

内訳を見ると、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心してこどもをみてもらえる」は、0 歳児のいる世帯で最も多く 57.0%、低学年のいる世帯で最も低く 49.3%となっている。

＜祖父母等の親族にこどもをみてもらう状況について＞（複数回答）
（回答対象：祖父母等の親族に日常的又は緊急時にこどもをみてもらえる世帯）



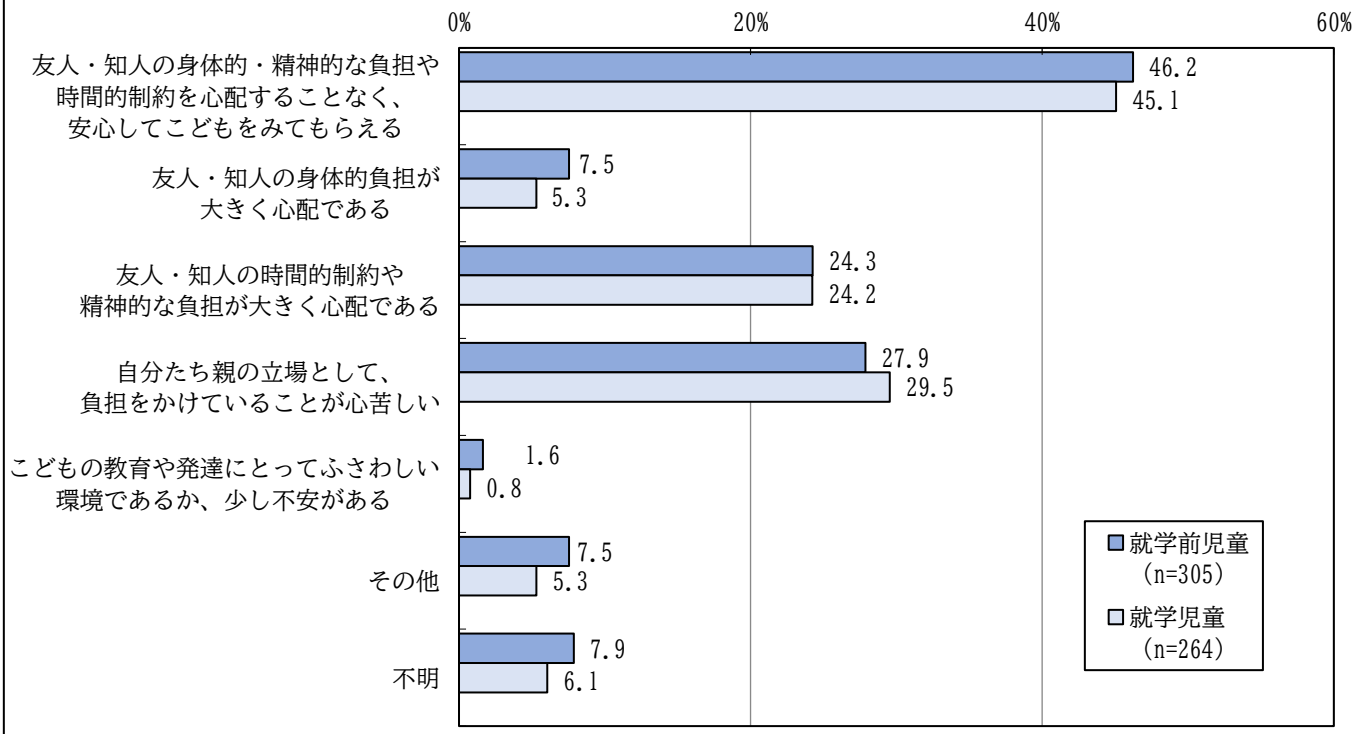
＜内訳＞

	祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる	祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である	祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である	自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい	こどもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある	その他	不明
就学前児童・計	54.3%	23.8%	24.7%	24.0%	5.8%	3.8%	0.8%
0歳	57.0%	22.8%	23.7%	21.9%	6.5%	3.7%	1.2%
1歳	55.8%	22.0%	23.8%	24.7%	5.1%	4.4%	1.1%
2歳	54.4%	24.2%	23.3%	23.0%	5.9%	2.6%	0.2%
3歳以上	51.1%	25.3%	26.7%	26.3%	5.4%	4.3%	0.5%
不明	30.8%	38.5%	38.5%	23.1%	0.0%	0.0%	7.7%
就学児童・計	51.3%	23.4%	21.4%	25.7%	6.0%	4.5%	1.6%
低学年	49.3%	25.5%	26.8%	27.9%	6.4%	4.6%	1.6%
高学年	53.0%	21.4%	17.1%	23.8%	5.6%	4.5%	1.6%
不明	54.2%	25.0%	12.5%	25.0%	8.3%	4.2%	0.0%

友人・知人に日常的又は緊急時にこどもをみてもらう状況について、就学前児童のいる世帯では、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心してこどもをみてもらえる」が最も多く 46.2%、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 27.9%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が 24.3%となっている。就学児童のいる世帯では、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心してこどもをみてもらえる」が最も多く 45.1%、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 29.5%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が 24.2%となっている。

内訳を見ると、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心してこどもをみてもらえる」は、2 歳児のいる世帯で最も多く 53.2%、3 歳児以上のいる世帯で最も低く 42.0%となっている。

<友人・知人にこどもをみてもらう状況について>（複数回答）
（回答対象者：友人・知人に日常的又は緊急時にこどもをみてもらえる世帯）



＜内訳＞

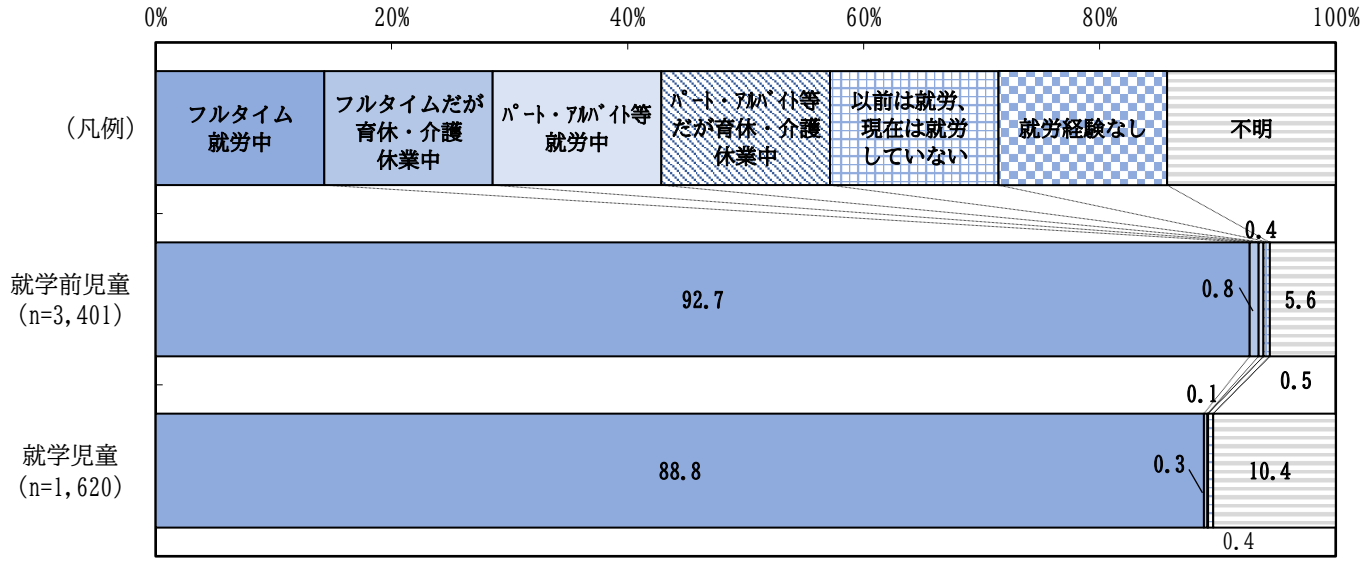
	友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心してこどもをみてもらえる	友人・知人の身体的負担が大きく心配である	友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である	自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい	こどもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある	その他	不明
就学前児童・計	46.2%	7.5%	24.3%	27.9%	1.6%	7.5%	7.9%
0歳	51.2%	7.1%	26.2%	27.4%	3.6%	4.8%	6.0%
1歳	42.9%	16.7%	19.0%	21.4%	0.0%	19.0%	9.5%
2歳	53.2%	8.5%	27.7%	29.8%	2.1%	2.1%	4.3%
3歳以上	42.0%	4.6%	22.9%	29.8%	0.8%	7.6%	9.9%
不明	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
就学児童・計	45.1%	5.3%	24.2%	29.5%	0.8%	5.3%	6.1%
低学年	44.4%	4.0%	23.4%	30.6%	1.6%	7.3%	5.6%
高学年	44.4%	6.7%	25.9%	28.9%	0.0%	3.7%	6.7%
不明	80.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%

２．保護者の就労状況

１）父親の就労状況

父親の就労状況について、就学前児童のいる世帯では、「フルタイム就労中」が最も多く 92.7%、次いで「フルタイムだが育休・介護休業中」が 0.8%、「以前は就労、現在は就労していない」が 0.5%となっている。就学児童のいる世帯では、「フルタイム就労中」が最も多く 88.8%、次いで「以前は就労、現在は就労していない」が 0.4%、「フルタイムだが育休・介護休業中」が 0.3%となっている。

＜父親の就労状況＞



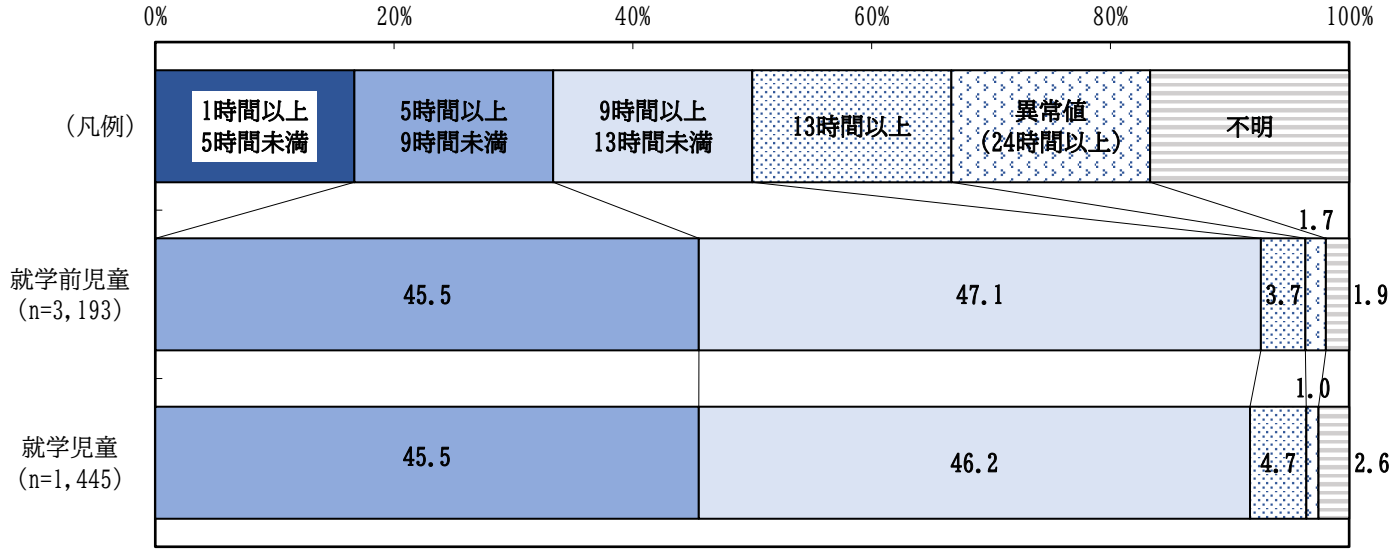
※　「パート・アルバイト等だが育休・介護休業中」、「就労経験なし」については、就学前児童のいる世帯、就学児童のいる世帯のいずれにおいても 0.0%

＜内訳＞

	フルタイム就労中	フルタイムだが育休・介護休業中	パート・アルバイト等就労中	パート・アルバイト等だが育休・介護休業中	以前は就労、現在は就労していない	就労経験なし	不明
就学前児童・計	92.7%	0.8%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	5.6%
0歳	93.8%	0.5%	0.5%	0.0%	0.4%	0.0%	5.0%
1歳	91.4%	1.4%	0.4%	0.0%	0.7%	0.0%	6.1%
2歳	93.4%	1.3%	0.6%	0.0%	0.4%	0.0%	4.3%
3歳以上	92.1%	0.5%	0.3%	0.0%	0.7%	0.0%	6.4%
不明	85.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.0%
就学児童・計	88.8%	0.3%	0.1%	0.0%	0.4%	0.0%	10.4%
低学年	88.9%	0.3%	0.1%	0.0%	0.4%	0.0%	10.3%
高学年	88.8%	0.4%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	10.4%
不明	88.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%

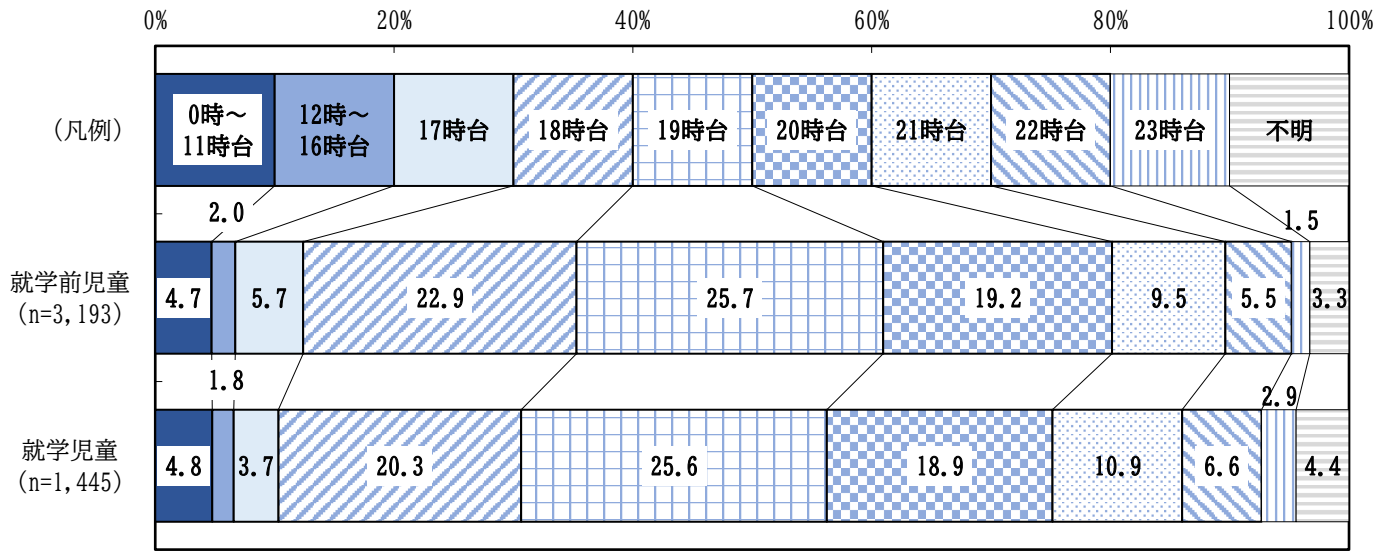
就労している父親の 1 日の就労時間について、就学前児童のいる世帯では、「9 時間以上 13 時間未満」が最も多く 47.1%、次いで「5 時間以上 9 時間未満」が 45.5%、「13 時間以上」が 3.7%となっている。就学児童のいる世帯では、「9 時間以上 13 時間未満」が最も多く 46.2%、次いで「5 時間以上 9 時間未満」が 45.5%、「13 時間以上」が 4.7%となっている。

＜就労している父親の1日の就労時間＞（回答対象：父親が就労している世帯）



就労している父親の帰宅時間について、就学前児童のいる世帯では、「19 時台」が最も多く 25.7%、次いで「18 時台」が 22.9%、「20 時台」が 19.2%となっている。就学児童のいる世帯では、「19 時台」が最も多く 25.6%、次いで「18 時台」が 20.3%、「20 時台」が 18.9%となっている。

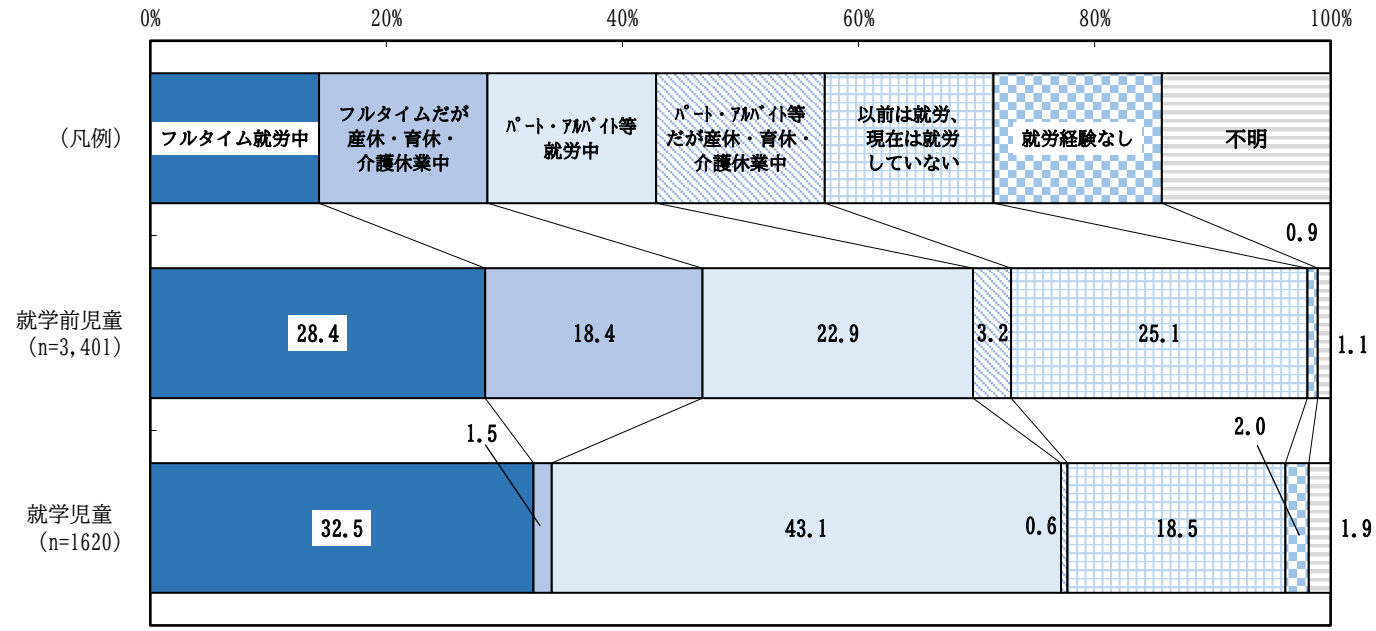
＜就労している父親の帰宅時間＞（回答対象：父親が就労している世帯）



2）母親の就労状況

母親の就労状況について、就学前児童のいる世帯では、「フルタイム就労中」が最も多く 28.4%、次いで「以前は就労、現在は就労していない」が 25.1%、「パート・アルバイト等で就労中」が 22.9%となっている。就学児童のいる世帯では、「パート・アルバイト等で就労中」が最も多く 43.1%、次いで「フルタイム就労中」が 32.5%、「以前は就労、現在は就労していない」が 18.5%となっている。

＜母親の就労状況＞

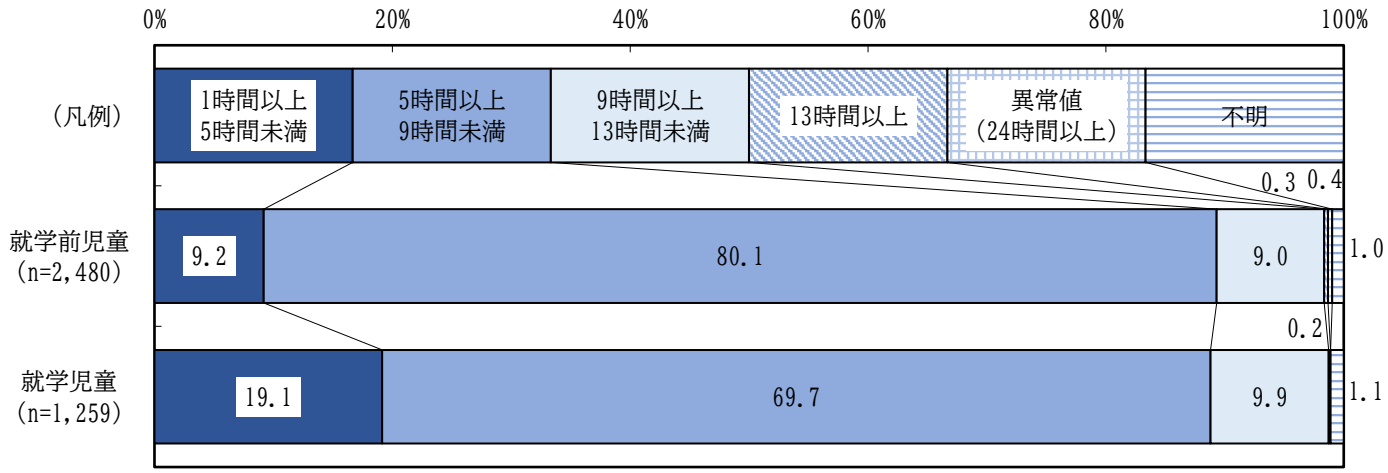


＜内訳＞

	フルタイム就労中	フルタイムだが産休・育休・介護休業中	パート・アルバイト等就労中	パート・アルバイト等だが産休・育休・介護休業中	以前は就労、現在は就労していない	就労経験なし	不明
就学前児童・計	28.4%	18.4%	22.9%	3.2%	25.1%	0.9%	1.1%
0歳	19.6%	34.6%	14.2%	5.0%	25.2%	0.7%	0.6%
1歳	33.0%	16.8%	18.4%	3.2%	27.0%	0.7%	0.9%
2歳	29.6%	13.4%	26.0%	2.3%	26.4%	1.5%	0.9%
3歳以上	34.0%	6.4%	31.8%	2.0%	23.4%	0.8%	1.6%
不明	20.0%	10.0%	30.0%	0.0%	35.0%	0.0%	5.0%
就学児童・計	32.5%	1.5%	43.1%	0.6%	18.5%	2.0%	1.9%
低学年	31.4%	2.3%	41.4%	0.5%	21.2%	1.8%	1.5%
高学年	33.7%	0.9%	44.4%	0.6%	16.3%	2.0%	2.0%
不明	26.5%	0.0%	50.0%	0.0%	11.8%	5.9%	5.9%

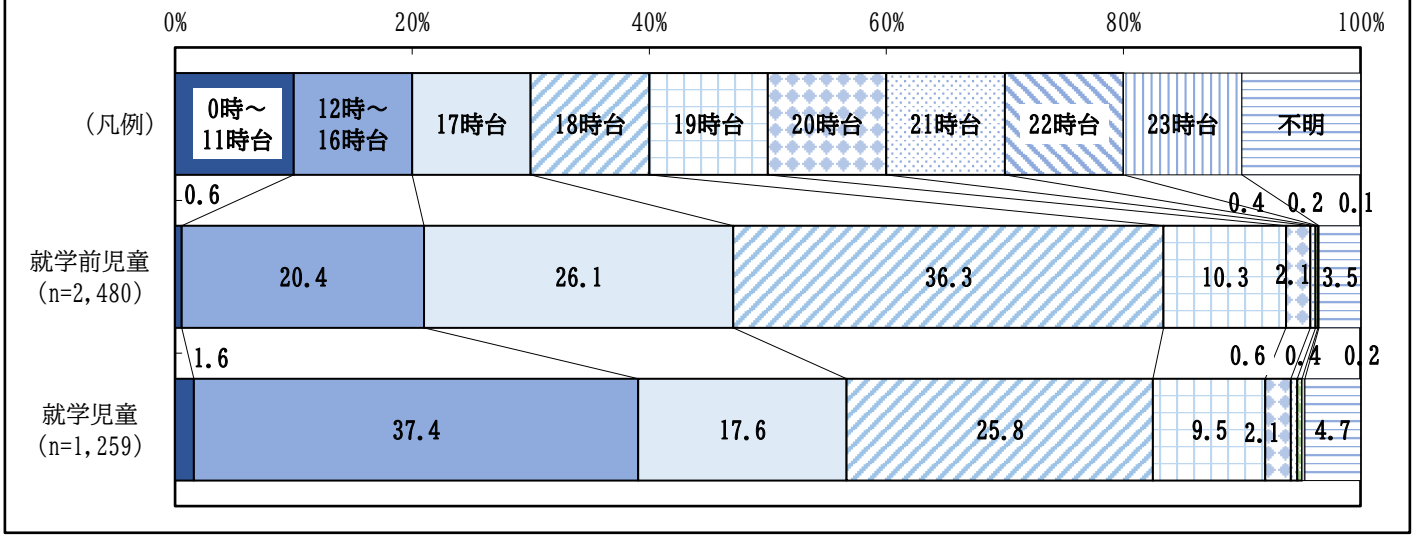
就労している母親の 1 日の就労時間について、就学前児童のいる世帯では、「5 時間以上 9 時間未満」が最も多く 80.1%、次いで「1 時間以上 5 時間未満」が 9.2%、「9 時間以上 13 時間未満」が 9.0%となっている。就学児童のいる世帯では「5 時間以上 9 時間未満」が最も多く 69.7%、次いで「1 時間以上 5 時間未満」が 19.1%、「9 時間以上 13 時間未満」が 9.9%となっている。

＜就労している母親の1日の就労時間＞（回答対象：母親が就労している世帯）



就労している母親の帰宅時間について、就学前児童のいる世帯では、「18 時台」が最も多く 36.3%、次いで「17 時台」が 26.1%、「12 時～16 時台」が 20.4%となっている。就学児童のいる世帯では、「12 時～16 時台」が最も多く 37.4%、次いで「18 時台」が 25.8%、「17 時台」が 17.6%となっている。

＜就労している母親の帰宅時間＞（回答対象：母親が就労している世帯）

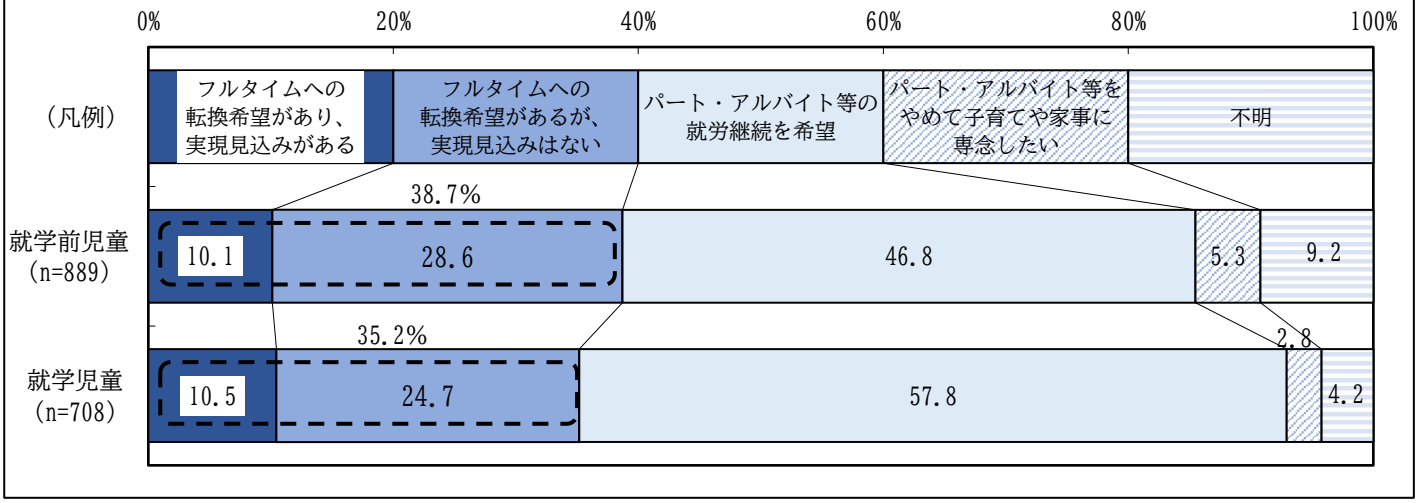


3）パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望について、就学前児童のいる世帯では、「パート・アルバイト等の就労継続を希望」が最も多く 46.8%、次いで「フルタイムへの転換希望があるが、実現見込みはない」が 28.6%、「フルタイムへの転換希望があり、実現見込みがある」が 10.1%であり、「フルタイムへの転換希望があり、実現見込みがある」と「フルタイムへの転換希望があるが、実現見込みはない」を合計したフルタイムへの転換希望率は、38.7%となっている。

就学児童のいる世帯では、「パート・アルバイト等の就労継続を希望」が最も多く 57.8%、次いで「フルタイムへの転換希望があるが、実現見込みはない」が 24.7%、「フルタイムへの転換希望があり、実現見込みがある」が 10.5%であり、「フルタイムへの転換希望があり、実現見込みがある」と「フルタイムへの転換希望があるが、実現見込みはない」を合計したフルタイムへの転換希望率は、35.2%となっている。

＜母親のフルタイムへの転換希望＞（回答対象：母親がパート・アルバイト等で就労している世帯）



＜内訳＞

	フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	フルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない	パート・アルバイト等の就労を続けることを希望	パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい	不明
就学前児童・計	10.1%	28.6%	46.8%	5.3%	9.2%
0歳	8.5%	31.0%	43.7%	5.6%	11.3%
1歳	10.7%	24.8%	47.1%	5.8%	11.6%
2歳	9.3%	30.0%	46.7%	7.3%	6.7%
3歳以上	11.0%	28.3%	47.9%	4.3%	8.5%
不明	16.7%	0.0%	83.3%	0.0%	0.0%
就学児童・計	10.5%	24.7%	57.8%	2.8%	4.2%
低学年	12.9%	24.8%	54.5%	2.6%	5.2%
高学年	8.7%	24.7%	60.4%	2.6%	3.7%
不明	5.9%	23.5%	58.8%	11.8%	0.0%

3．就労していない母親の就労希望

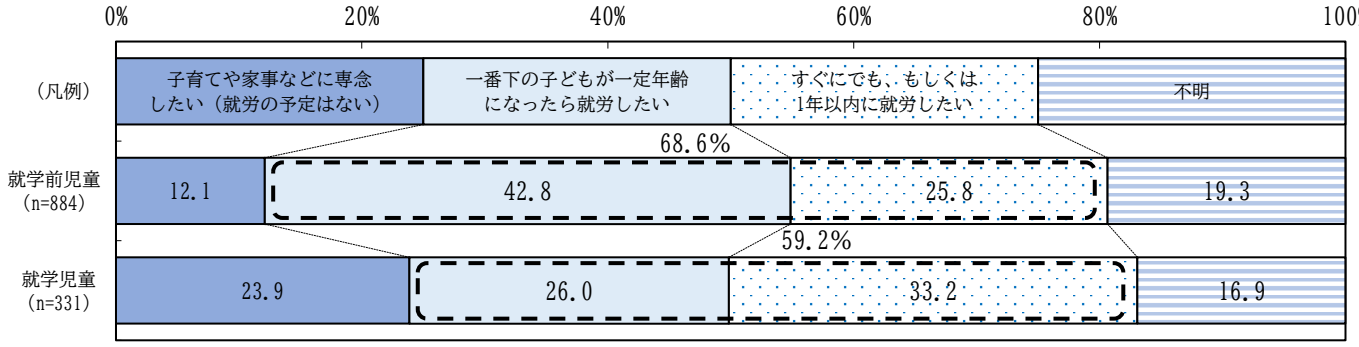
1）就労希望状況

就労していない母親の就労希望について、就学前児童のいる世帯では、「一番下のこどもが一定年齢になったら就労したい」が最も多く 42.8%、次いで「すぐにでも、もしくは 1 年以内に就労したい」が 25.8%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が 12.1%となっており、「一番下のこどもが一定年齢になったら就労したい」、「すぐにでも、もしくは 1 年以内に就労したい」を合計した就労希望率は、68.6%となっている。

就学児童のいる世帯では、「すぐにでも、もしくは 1 年以内に就労したい」が最も多く 33.2%、次いで「一番下のこどもが一定年齢になったら就労したい」が 26.0%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が 23.9%となっており、就労希望率は 59.2%となっている。

内訳を見ると、就労希望率は、2 歳児のいる世帯で最も高く 77.1%となっている。

＜就労していない母親の就労希望＞（回答対象：母親が就労していない世帯）



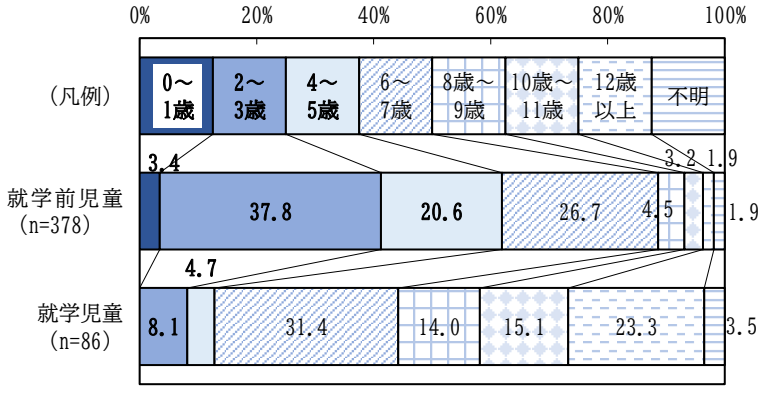
＜内訳＞

	子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）	一番下のこどもが一定年齢になったら就労したい	すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	不明
就学前児童・計	12.1%	42.8%	25.8%	19.3%
0歳	12.8%	46.2%	22.9%	18.1%
1歳	13.5%	42.6%	19.4%	24.5%
2歳	12.2%	37.2%	39.9%	10.8%
3歳以上	10.8%	42.0%	24.8%	22.4%
不明	0.0%	57.1%	28.6%	14.3%
就学児童・計	23.9%	26.0%	33.2%	16.9%
低学年	22.9%	31.8%	28.2%	17.1%
高学年	25.2%	19.4%	38.1%	17.4%
不明	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%

77.1%

「一番下のこどもが一定年齢になったころに就労したい」と回答した世帯の母親の就労希望時期について、就学前児童のいる世帯では「こどもが 2～3 歳になったころ」との回答が最も多く 37.8%、就学児童のいる世帯では「こどもが 6～7 歳になったころ」との回答が最も多く 31.4%となっている。

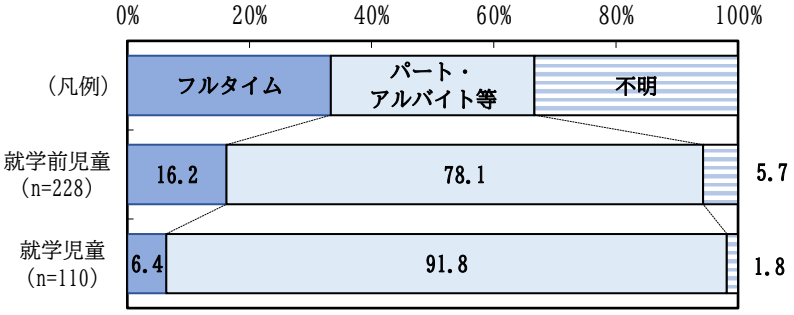
＜就労していない母親の就労希望時期：こどもの年齢＞
（回答対象：一番下のこどもが一定年齢になったら就労したいと思う世帯）



2）希望する就労形態

就労していない母親のうち、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人の、希望する就労形態について、就学前児童のいる世帯では「フルタイム」が16.2%、「パート・アルバイト等」が78.1%、就学児童のいる世帯では「フルタイム」が6.4%、「パート・アルバイト等」が91.8%となっている。

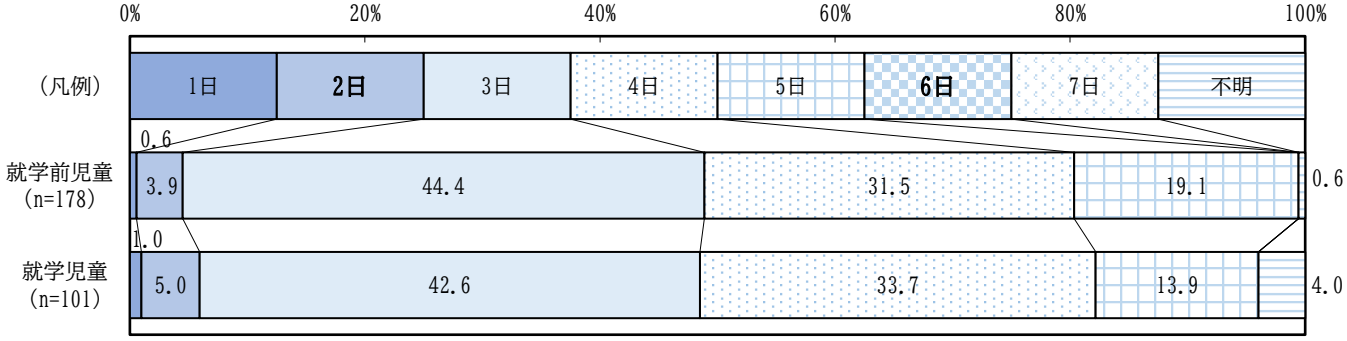
＜早期の就労を検討している母親の希望する就労形態＞
（回答対象：現在就労していない母親のうち、すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい世帯）



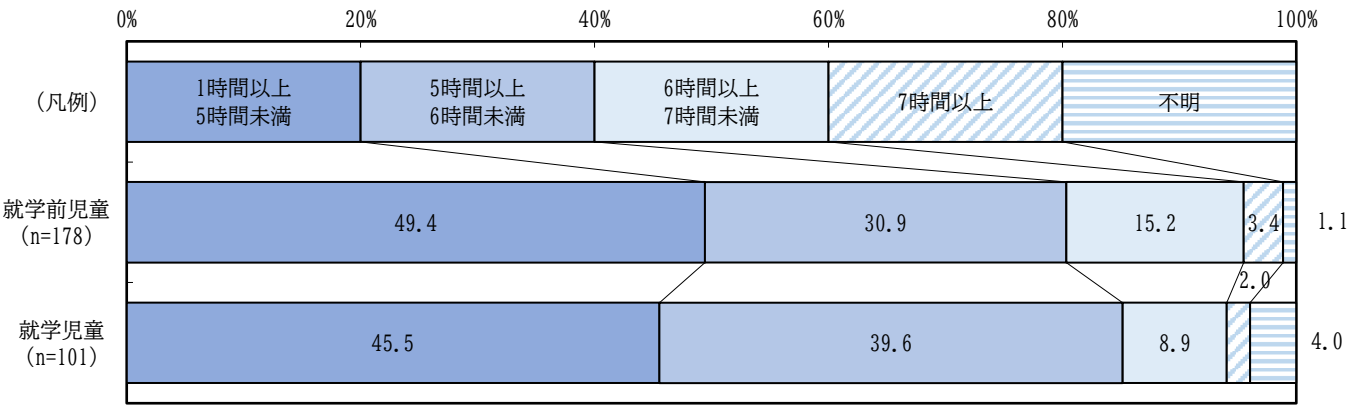
パート・アルバイト等による就労を希望する母親の1週当たりの希望就労日数について、就学前児童のいる世帯では、「3日」が最も多く44.4%、次いで「4日」が31.5%、「5日」が19.1%となっている。就学児童のいる世帯では、「3日」が最も多く42.6%、次いで「4日」が33.7%、「5日」が13.9%となっている。

1日当たりの希望就労時間については、就学前児童のいる世帯では、「1時間以上5時間未満」が最も多く49.4%、次いで「5時間以上6時間未満」が30.9%、「6時間以上7時間未満」が15.2%となっている。就学児童のいる世帯では、「1時間以上5時間未満」が最も多く45.5%、次いで「5時間以上6時間未満」が39.6%、「6時間以上7時間未満」が8.9%となっている。

＜パート・アルバイト等による就労を希望する人の1週あたりの希望就労日数＞
（回答対象：パート・アルバイト等による就労を希望する世帯）



＜パート・アルバイト等による就労を希望する人の1日あたりの希望就労時間＞
（回答対象：パート・アルバイト等による就労を希望する世帯）

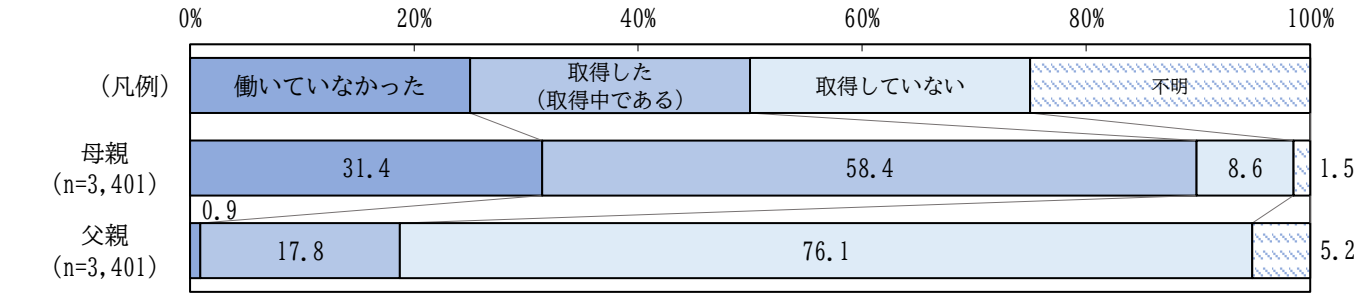


４．育児休業制度（対象：就学前児童のいる世帯）

１）育児休業の取得状況

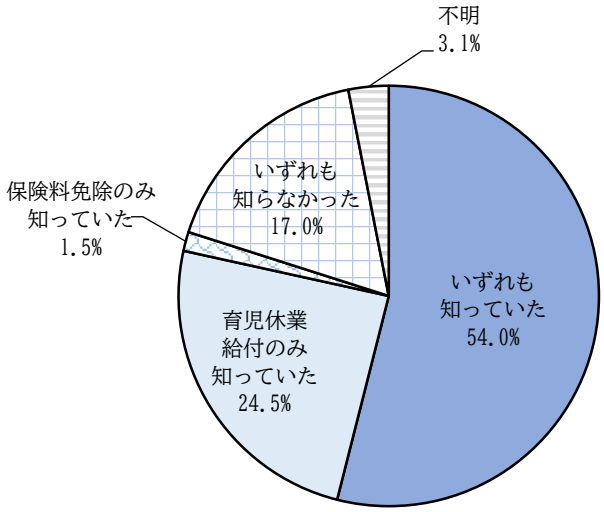
育児休業の取得状況について、母親では、「取得した（取得中である）」が最も多く 58.4%、次いで「働いていなかった」が 31.4%、「取得していない」が 8.6%となっている。
父親では、「取得していない」が最も多く 76.1%、次いで「取得した（取得中である）」が 17.8%、「働いていなかった」が 0.9%となっている。

＜育児休業の取得状況＞



こどもが原則 1 歳になるまで「育児休業給付」が支給される制度と、満 3 歳になるまでの育児休業等期間は「健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除」になる制度の認知について、「いずれも知っていた」が最も多く 54.0%、次いで「育児休業給付のみ知っていた」が 24.5%、「いずれも知らなかった」が 17.0%となっている。

＜育児休業給付及び保険料免除制度の認知＞
（ｎ＝3,401）

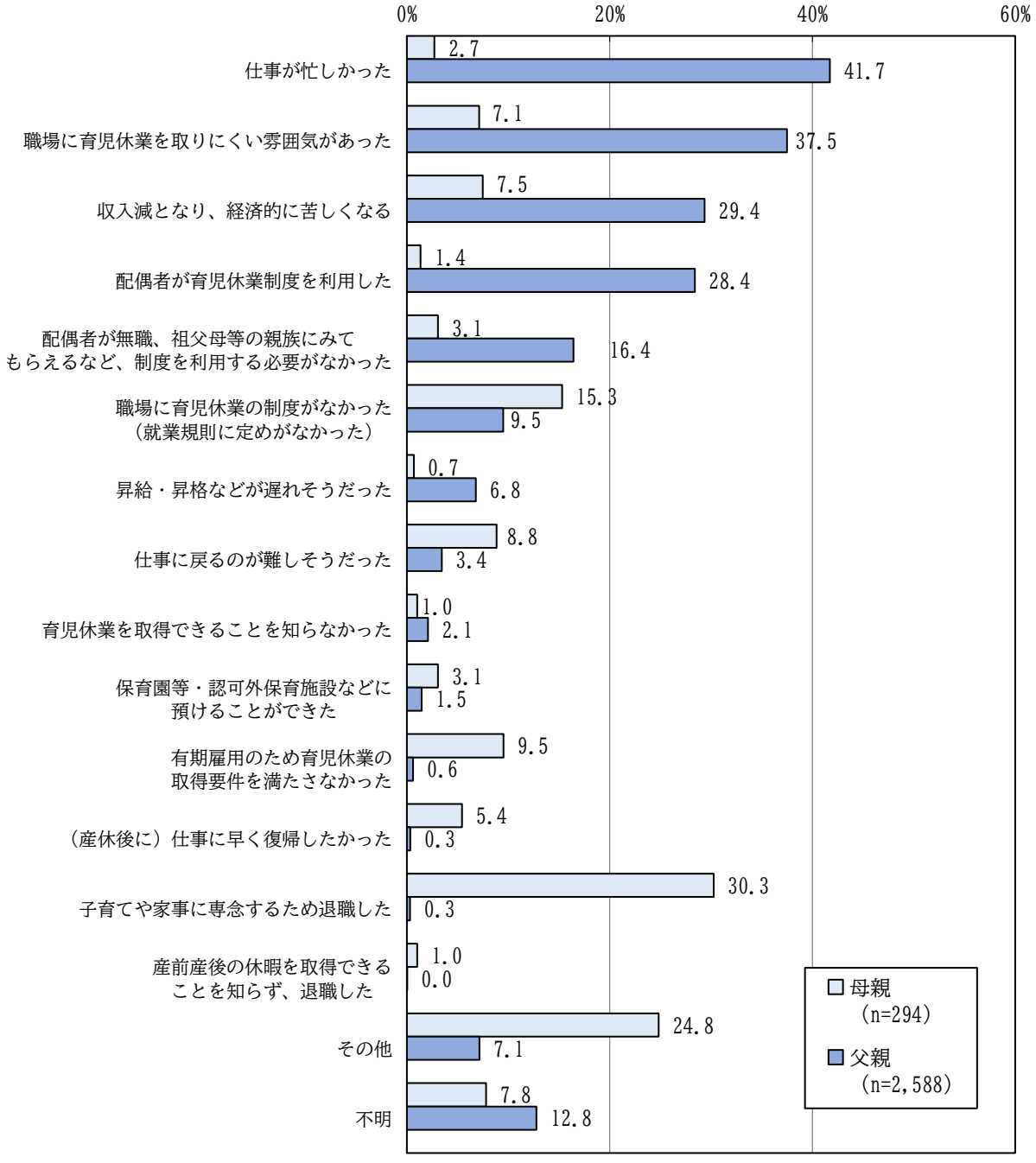


2）育児休業を取得していない理由

育児休業を取得していない理由として、母親では、「その他」を除き、「子育てや家事に専念するため退職した」が最も多く 30.3%、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が 15.3%、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」が 9.5%となっている。

父親では、「仕事が忙しかった」が最も多く 41.7%、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 37.5%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が 29.4%となっている。

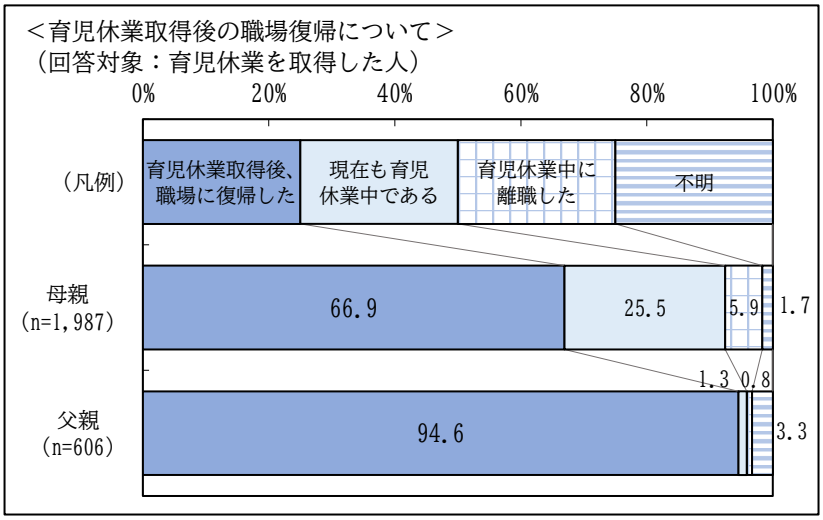
＜育児休業を取得していない人の取得していない理由＞（複数回答）（回答対象：育児休業を取得していない人）



3）育児休業取得後の職場復帰

育児休業取得後の職場復帰について、母親では「育児休業取得後、職場に復帰した」が最も多く 66.9%、次いで「現在も育児休業中である」が 25.5%、「育児休業中に離職した」が 5.9%となっている。

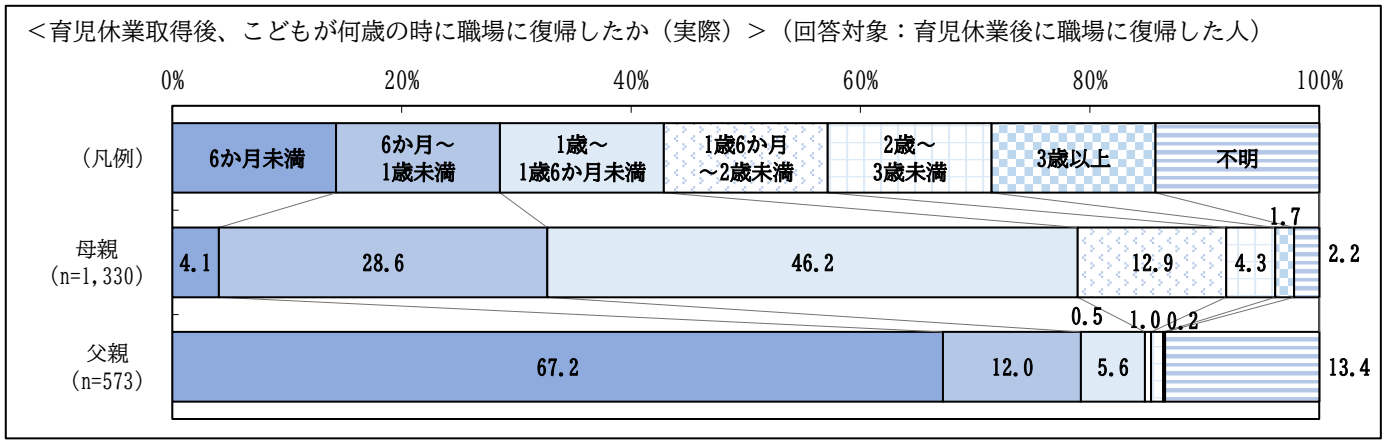
父親では「育児休業取得後、職場に復帰した」が最も多く 94.6%、次いで「現在も育児休業中である」が 1.3%、「育児休業中に離職した」が 0.8%となっている。

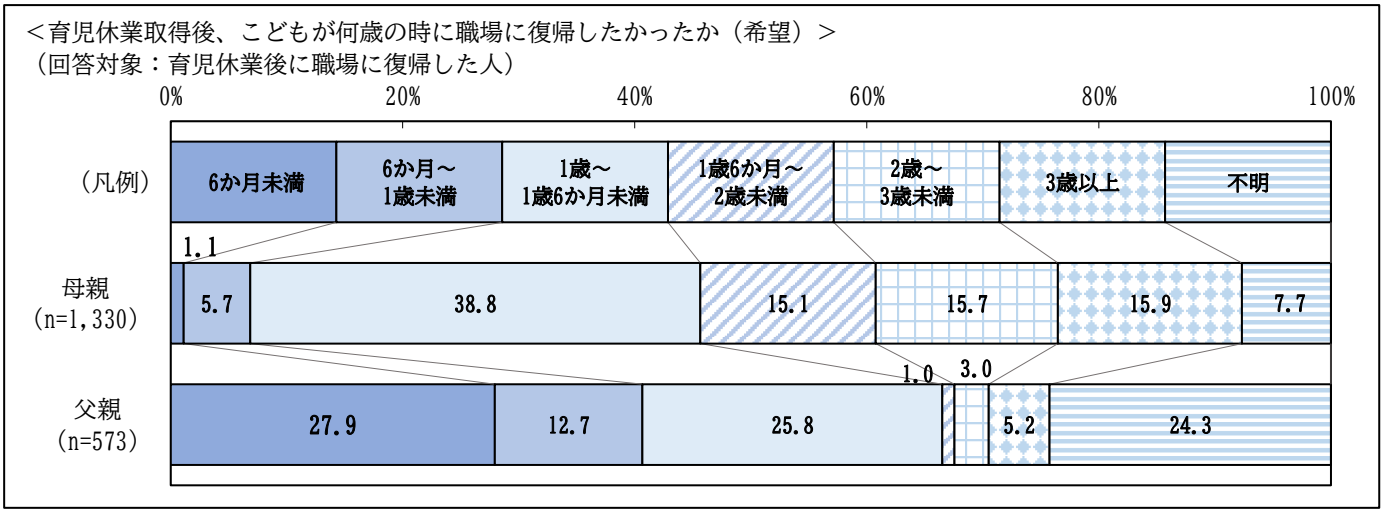


4）育児休業取得後の職場復帰の時期

育児休業取得後、こどもが何歳の時に職場に復帰したか（実際）について、母親は、「1 歳～1 歳 6 か月未満」が最も多く 46.2%、次いで「6 か月～1 歳未満」が 28.6%、「1 歳 6 か月～2 歳未満」が 12.9%となっている。父親は、「6 か月未満」が最も多く 67.2%、次いで「6 か月～1 歳未満」が 12.0%、「1 歳～1 歳 6 か月未満」が 5.6%となっている。

育児休業取得後、こどもが何歳の時に職場に復帰したかったか（希望）について、母親は、「1 歳～1 歳 6 か月未満」が最も多く 38.8%、次いで「3 歳以上」が 15.9%、「2 歳～3 歳未満」が 15.7%となっている。父親は、「6 か月未満」が最も多く 27.9%、次いで「1 歳～1 歳 6 か月未満」が 25.8%、「6 か月～1 歳未満」が 12.7%となっている。

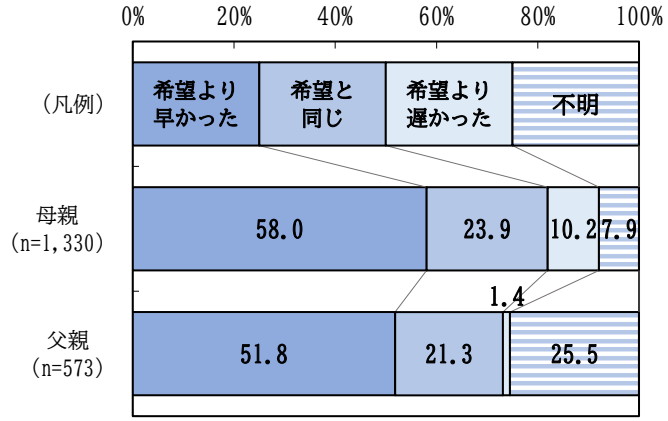




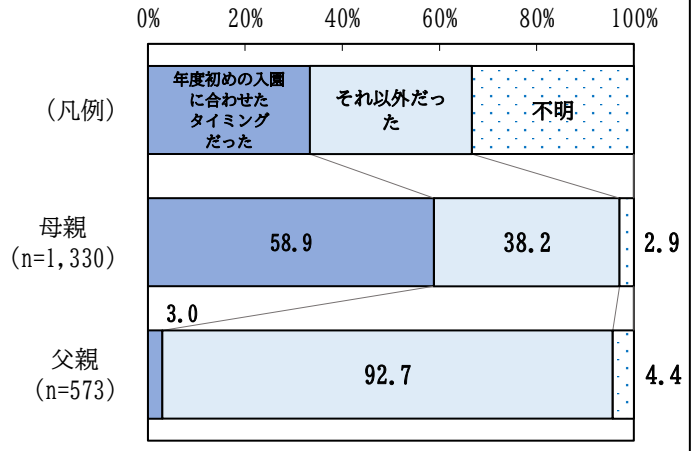
育児休業取得後の職場復帰の時期の「実際」と「希望」の比較について、母親では、「希望より早かった」が最も多く 58.0%、次いで「希望と同じ」が 23.9%、「希望より遅かった」が 10.2%となっている。父親では、「希望より早かった」が最も多く 51.8%、次いで「希望と同じ」が 21.3%、「希望より遅かった」が 1.4%となっている。

職場復帰の時期を年度初めの保育園等入園のタイミングに合わせたかについて、母親では、「年度初めの入園に合わせたタイミングだった」が 58.9%、「それ以外だった」が 38.2%となっている。父親では、「年度初めの入園に合わせたタイミングだった」が 3.0%、「それ以外だった」が 92.7%となっている。

＜育児休業取得後の職場復帰の時期の「実際」と「希望」の比較＞
（回答対象：育児休業後に職場に復帰した人）



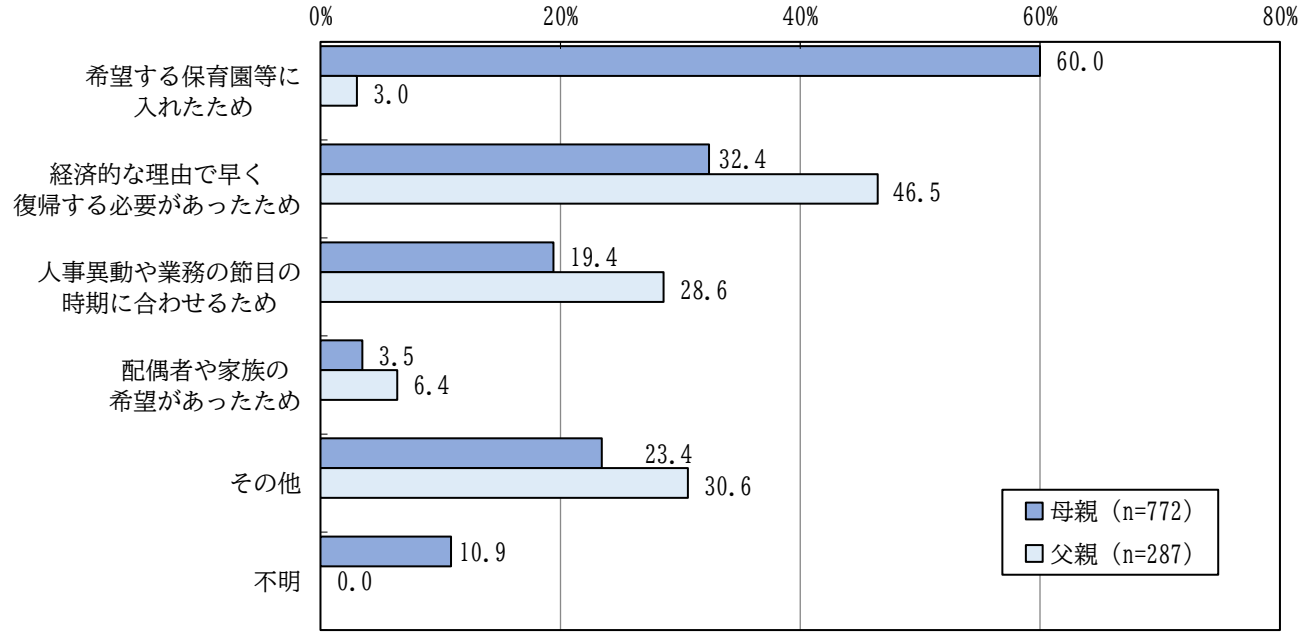
＜職場復帰の時期を年度初めの保育園等入園のタイミングに合わせたか＞（回答対象：育児休業後に職場に復帰した人）



職場復帰の時期が希望より早かった理由について、「その他」を除き、母親では、「希望する保育園等に入れたため」が最も多く 60.0%、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が 32.4%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 19.4%となっている。

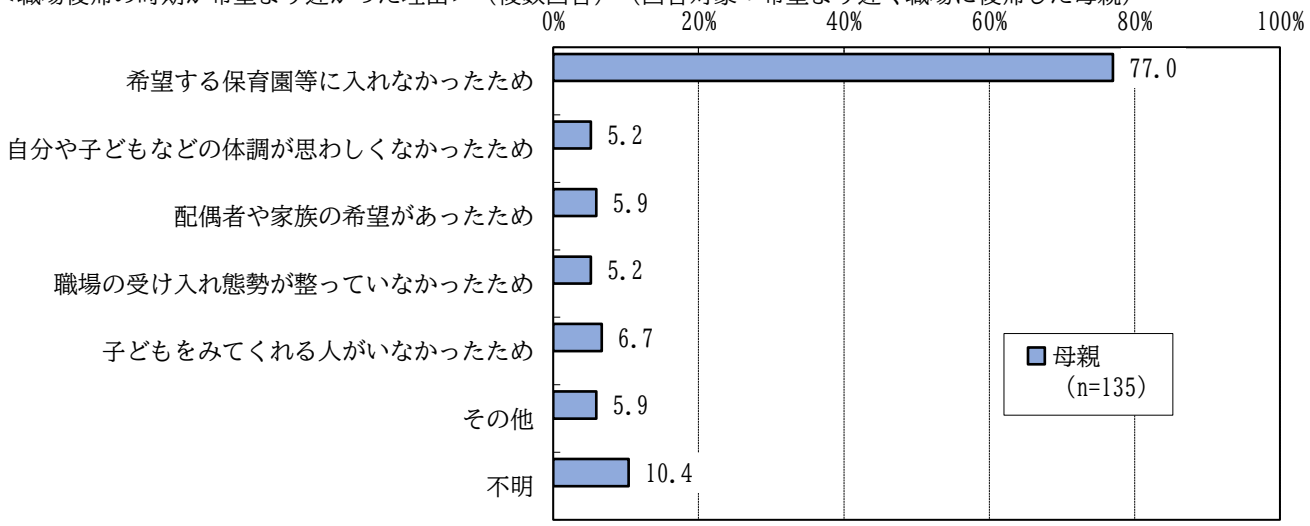
父親では、「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が最も多く 46.5%、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 28.6%、「配偶者や家族の希望があったため」が 6.4%となっている。

＜職場復帰の時期が希望より早かった理由＞（複数回答）（回答対象：希望より早く職場に復帰した人）



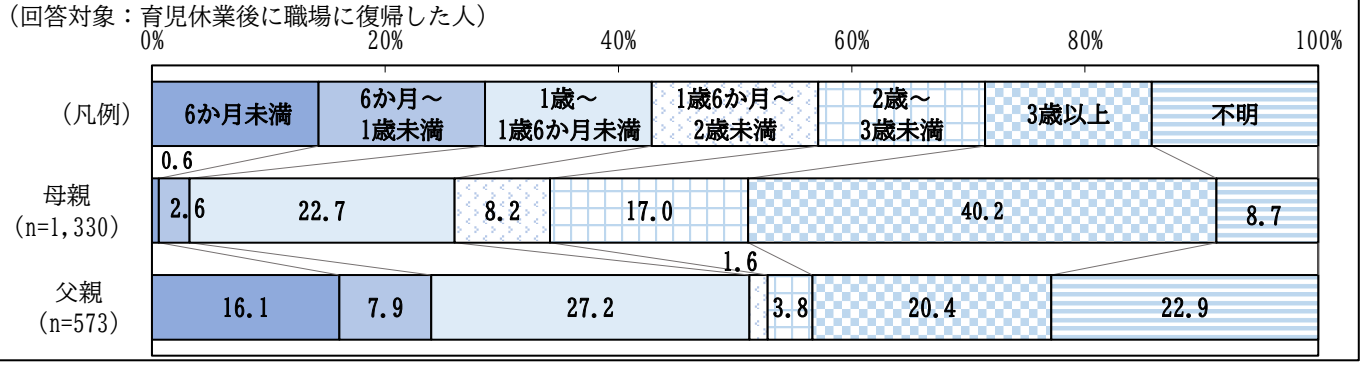
職場復帰の時期が希望より遅かった理由について、母親では、「その他」を除き、「希望する保育園等に入れなかったため」が最も多く 77.0%、次いで「こどもをみてくれる人がいなかったため」が 6.7%、「配偶者や家族の希望があったため」が 5.9%となっている。
（父親は該当者が 8 人と少ないため割愛）

＜職場復帰の時期が希望より遅かった理由＞（複数回答）（回答対象：希望より遅く職場に復帰した母親）



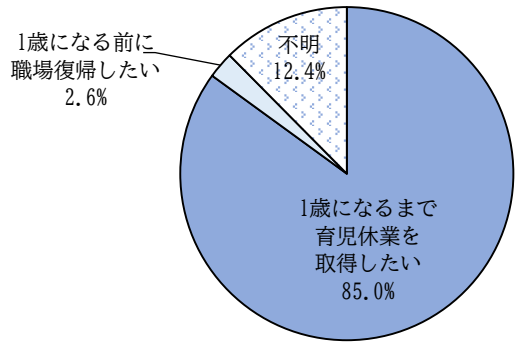
勤め先に育児のために 3 歳まで休暇を取得できる制度があった場合、こどもが何歳になるまで育児休業を取得したいかについて、母親では、「3 歳以上」が最も多く 40.2%、次いで「1 歳～1 歳 6 か月未満」が 22.7%、「2 歳～3 歳未満」が 17.0%となっている。
父親では、「1 歳～1 歳 6 か月未満」が最も多く 27.2%、次いで「3 歳以上」が 20.4%、「6 か月未満」が 16.1%となっている。

＜勤め先に育児のために3歳まで育児休業を取得できる制度があった場合、こどもが何歳になるまで取得したいか＞
（回答対象：育児休業後に職場に復帰した人）



現在も育児休業中である母親のうち、こどもが 1 歳になった時に必ず利用できる教育・保育事業がある場合、1 歳になるまで育児休業を取得したいかについて、「1 歳になるまで育児休業を取得したい」が 85.0%、「1 歳になる前に職場復帰したい」が 2.6%となっている。
（父親は該当者が 8 人と少ないため割愛）

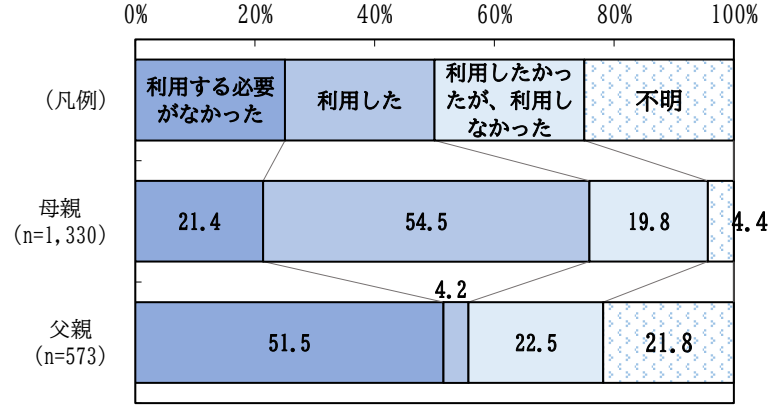
＜こどもが1歳になったときに必ず利用できる事業がある場合の育児休業の希望取得期間＞
（回答対象：育児休業中の母親）（n=507）



5）短時間勤務制度の利用状況

育児休業から職場復帰した際の短時間勤務制度の利用状況について、母親では「利用した」が最も多く 54.5%、次いで「利用する必要がなかった」が 21.4%、「利用したかったが、利用しなかった」が 19.8%となっている。父親では、「利用する必要がなかった」が最も多く 51.5%、次いで「利用したかったが、利用しなかった」が 22.5%、「利用した」が 4.2%となっている。

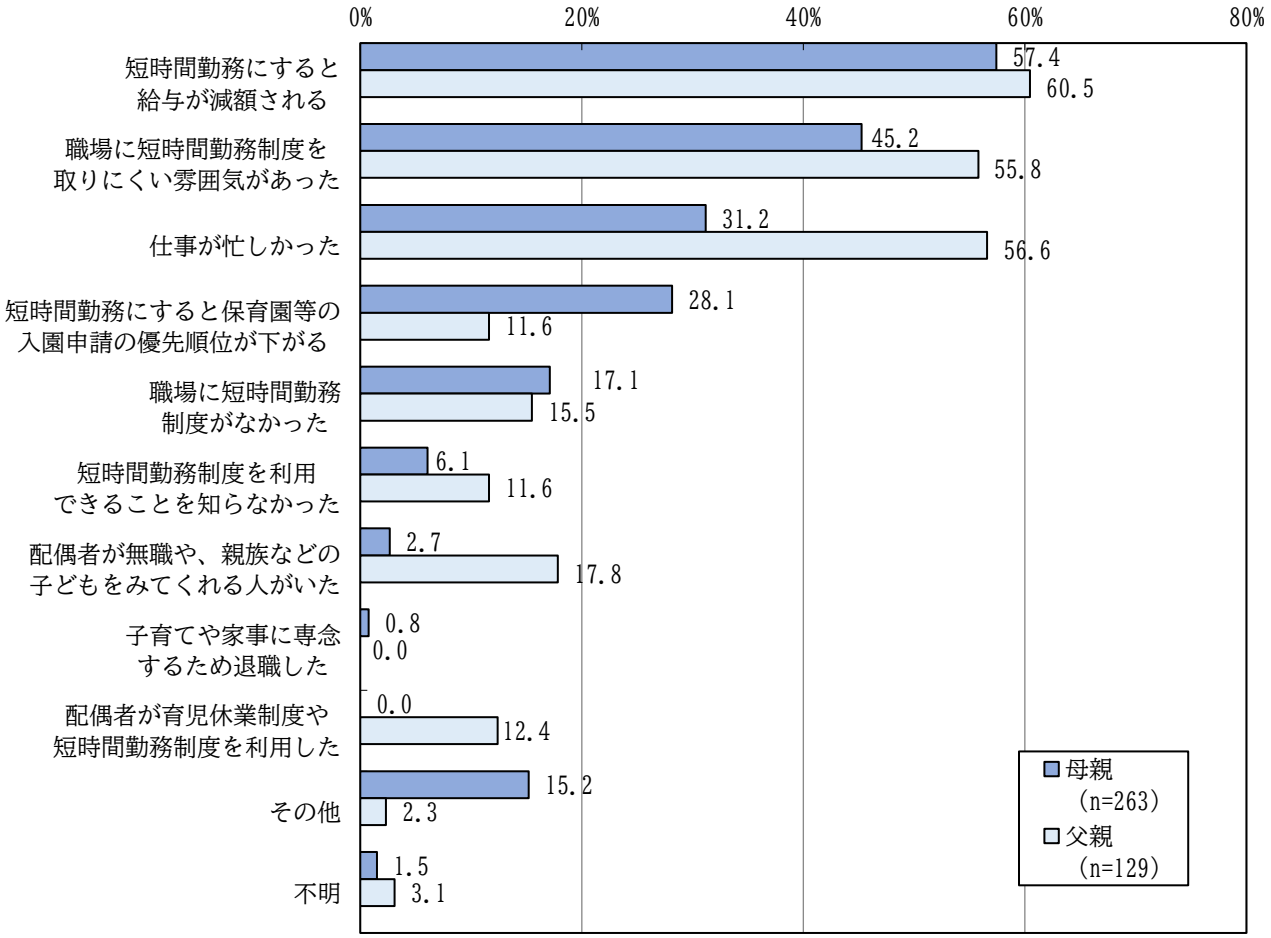
＜育児休業から職場復帰した際の短時間勤務制度の利用状況＞
（回答対象：育児休業後に職場に復帰した人）



短時間勤務制度を利用したかったが、利用しなかった理由について、母親では、「短時間勤務にすると給与が減額される」が最も多く 57.4%、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が 45.2%、次いで「仕事が忙しかった」が 31.2%となっている。

父親では、「短時間勤務にすると給与が減額される」が最も多く 60.5%、「仕事が忙しかった」が 56.6%、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が 55.8%となっている。

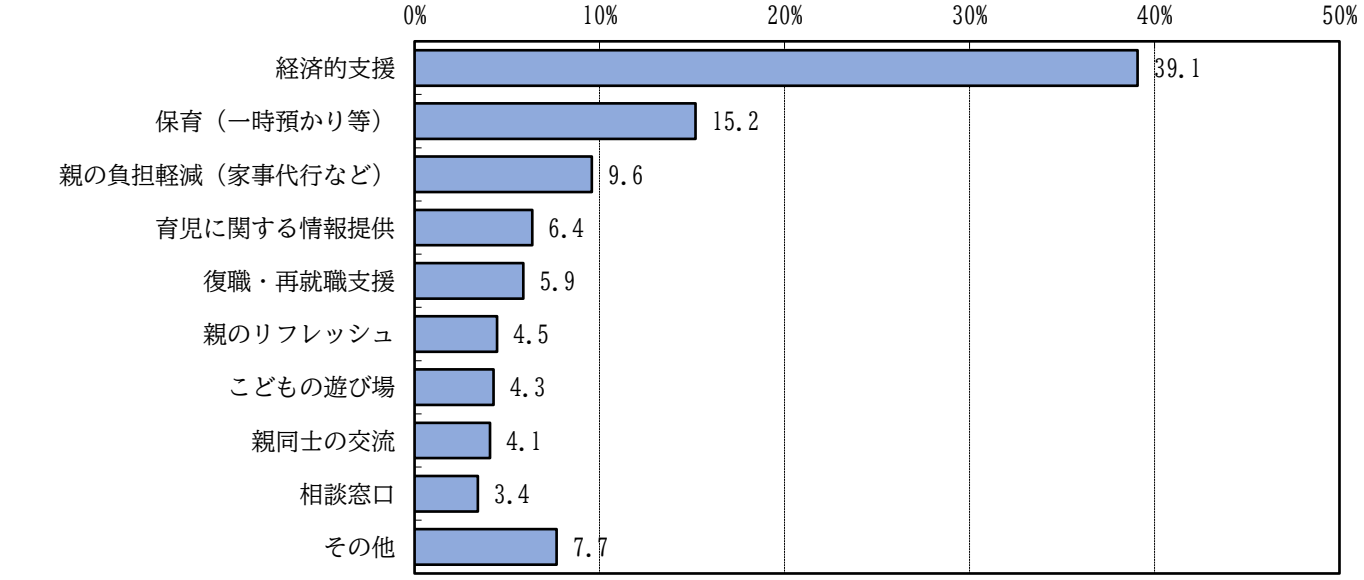
＜職場復帰後に短時間勤務制度を利用しなかった理由＞（複数回答）
（回答対象：育児休業後に短時間勤務制度を利用したかったが、利用しなかった人）



6）育児休業中及び育児休業終了後にあればよいと思う支援

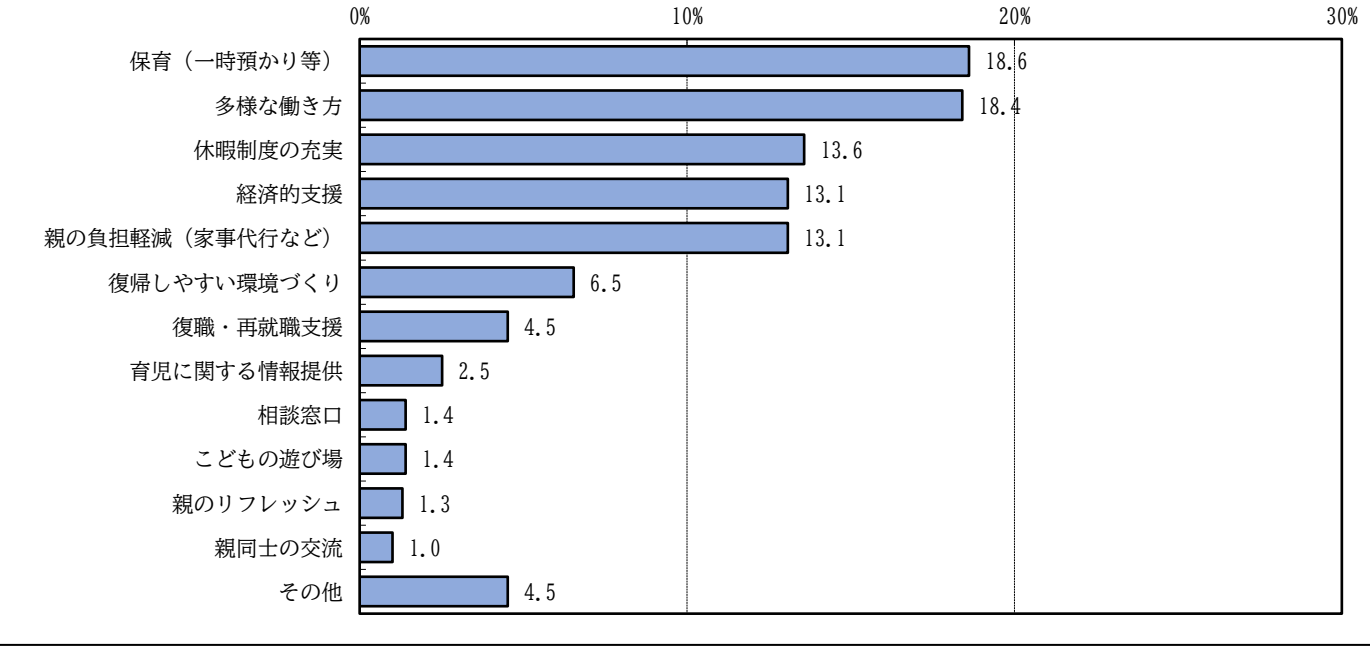
育児休業取得中にあればよいと思う支援に関する自由記述について、キーワードで分類したところ、「経済的支援」に対する意見が最も多く 39.1%、次いで「保育（一時預かり等）」が 15.2%、「親の負担軽減（家事代行など）」が 9.6%となっている。

＜育児休業取得中にあればよいと思う支援＞（ｎ＝1,054）（自由記述）



育児休業が終了した後にあればよいと思う支援に関する自由記述について、キーワードで分類したところ、「保育（一時預かり等）」に対する意見が最も多く 18.6%、次いで「多様な働き方」が 18.4%、「休暇制度の充実」が 13.6%となっている。育児休業中にあればよい支援において、最も多かった「経済的支援」については、13.1%となっている。

＜育児休業が終了した後にあればよいと思う支援＞（ｎ＝994）（自由記述）



Ⅱ．定期的な教育・保育事業について（対象：就学前児童のいる世帯）

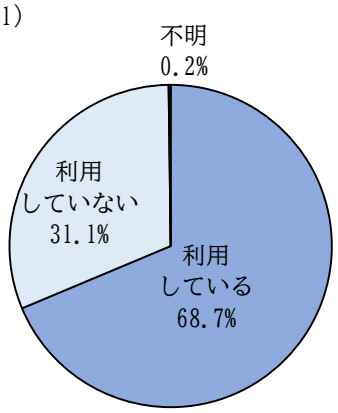
１．平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

１）平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について、「利用している」が 68.7%、「利用していない」が 31.1%となっている。

内訳を見ると、「利用している」は、3 歳児以上のいる世帯で最も多く、98.2%となっている。

＜平日の定期的な教育・保育事業の利用状況＞
（ｎ＝3,401）



＜内訳＞

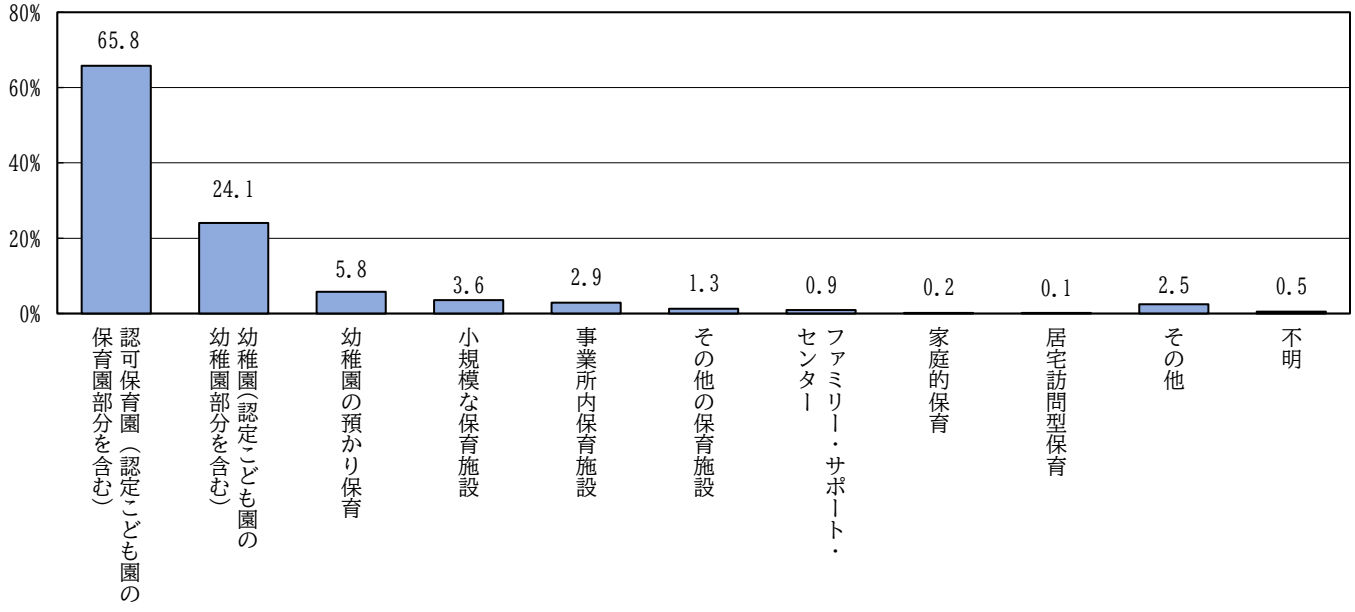
	利用している	利用していない	不明
就学前児童・計	68.7%	31.1%	0.2%
0歳	33.5%	66.1%	0.4%
1歳	66.6%	33.2%	0.2%
2歳	79.5%	20.3%	0.2%
3歳以上	98.2%	1.8%	0.0%
不明	50.0%	50.0%	0.0%

利用している教育・保育事業については、「認可保育園」が最も多く 65.8%、次いで「幼稚園」が 24.1%、「幼稚園の預かり保育」が 5.8%となっている。

「小規模な保育施設」、「事業所内保育施設」は、それぞれ 3.6%、2.9%となっているが、こどもの年齢別の内訳を見ると、0 歳児のいる世帯においては、「小規模保育な保育施設」が 9.4%、「事業所内保育施設」が 8.6%と高くなっている。

母親の就労状況別の内訳を見ると、「フルタイム就労中」の世帯では、「認可保育園」の利用率が最も高く 85.6%、となっている。「パート・アルバイト等就労中」の世帯では、「認可保育園」の利用率が最も高く 65.6%となっているが、「幼稚園」も 24.1%と一定の利用率を示している。

＜利用している教育・保育事業＞（複数回答）（回答対象：定期的な教育・保育事業を利用している世帯）
（ｎ＝2,336）



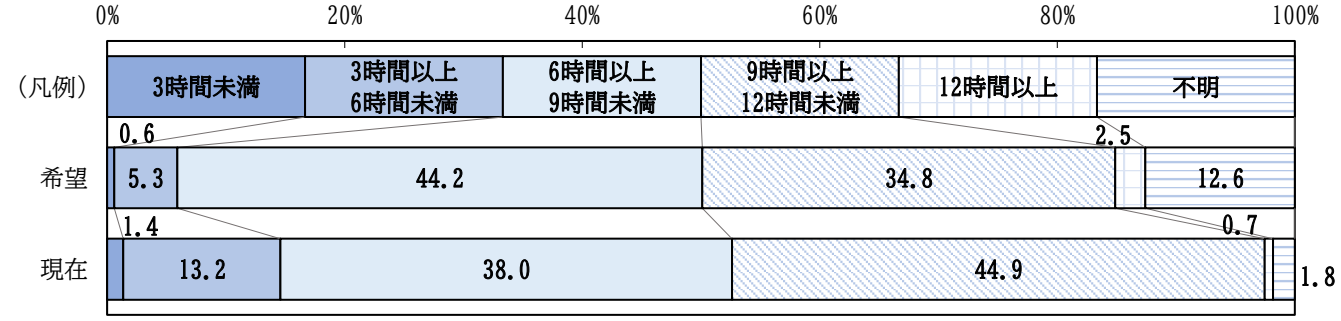
＜内訳＞

		認可保育園（認定こども園の保育園部分を含む）	幼稚園（認定こども園の幼稚園部分を含む）	幼稚園の預かり保育	小規模な保育施設	事業所内保育施設	その他の保育施設	ファミリー・サポート・センター	家庭的保育	居宅訪問型保育	その他	不明
こどもの年齢	就学前児童・計	65.8%	24.1%	5.8%	3.6%	2.9%	1.3%	0.9%	0.2%	0.1%	2.5%	0.5%
	0歳	73.1%	0.8%	1.3%	9.4%	8.6%	1.6%	2.4%	0.5%	0.3%	3.5%	0.5%
	1歳	79.6%	2.7%	0.8%	5.9%	3.5%	2.9%	1.3%	0.3%	0.3%	4.3%	0.8%
	2歳	69.9%	19.7%	2.1%	4.5%	2.8%	0.9%	0.2%	0.0%	0.2%	2.1%	0.5%
	3歳以上	57.4%	40.1%	10.2%	0.7%	0.8%	0.8%	0.6%	0.1%	0.0%	1.7%	0.4%
	不明	80.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
現在の母親の就労状況	フルタイム就労中	85.6%	5.7%	2.9%	3.4%	4.1%	1.2%	0.8%	0.1%	0.0%	1.4%	0.2%
	フルタイムだが休業中	75.8%	11.2%	1.9%	4.2%	1.9%	2.3%	1.9%	0.5%	0.0%	2.8%	0.5%
	パート・アルバイト等就労中	65.6%	24.1%	10.1%	4.6%	2.7%	1.2%	0.4%	0.1%	0.3%	1.9%	1.0%
	パート・アルバイト等だが休業中	82.4%	9.8%	7.8%	2.0%	2.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%
	以前は就労、現在は就労していない	9.4%	78.7%	5.8%	1.4%	0.8%	1.1%	1.9%	0.3%	0.3%	6.6%	0.6%
	就労経験なし	14.3%	78.6%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	不明	59.3%	25.9%	18.5%	7.4%	3.7%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

2）平日の定期的な教育・保育事業の利用時間

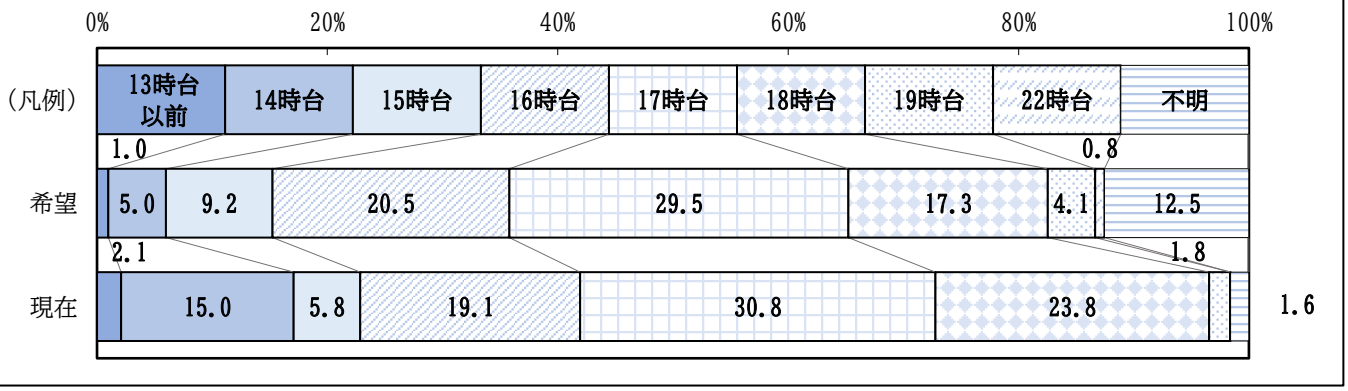
平日の定期的な教育・保育事業の 1 日当たりの利用時間について、「希望」では「6 時間以上 9 時間未満」が最も多く 44.2%、「現在」では「9 時間以上 12 時間未満」が最も多く 44.9%となっている。

＜教育・保育事業の1日当たりの利用時間＞　（回答対象：定期的な教育・保育事業を利用している世帯）（ｎ＝2,336）



教育・保育事業の利用終了時刻について、「希望する終了時刻」と「現在の終了時刻」ともに「17 時台」が最も多く、「希望の終了時刻」が「17 時台」との回答は 29.5%、「現在の終了時刻」が「17 時台」との回答は 30.8%となっている。

＜教育・保育事業の利用終了時刻＞　（回答対象：定期的な教育・保育事業を利用している世帯）（ｎ＝2,336）

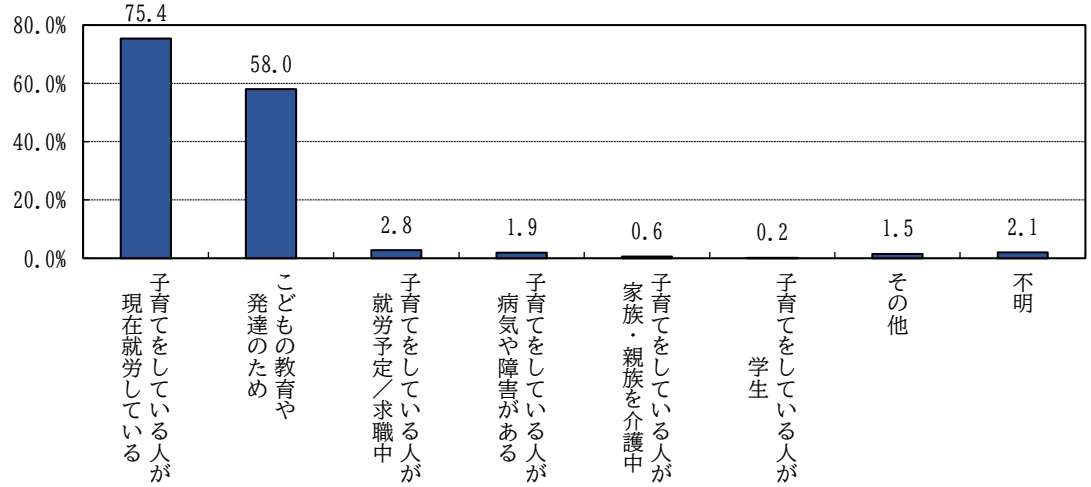


3）平日の定期的な教育・保育事業を利用している理由

平日の定期的な教育・保育事業を利用している理由について、「子育てをしている人が現在就労している」が最も多く 75.4%、次いで「こどもの教育や発達のため」が 58.0%、「子育てをしている人が就労予定／求職中」が 2.8%となっている。

内訳を見ると、「こどもの教育や発達のため」との回答は、0 歳児のいる世帯で 41.4%、1 歳児のいる世帯で 47.7%、2 歳児のいる世帯で 57.6%、3 歳児以上のいる世帯で 66.6%と、年齢が上がるにつれて増加している。

<教育・保育事業を利用している理由>（複数回答）
（回答対象：定期的な教育・保育事業を利用している世帯）（n=2,336）



<内訳>

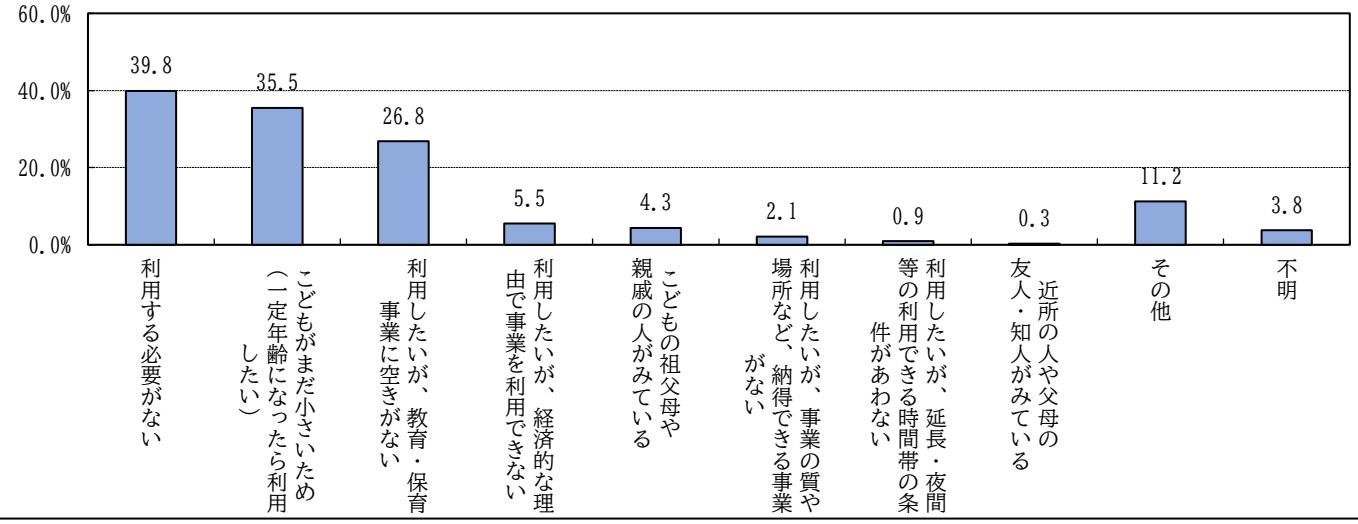
		子育てをしている人が現在就労している	こどもの教育や発達のため	子育てをしている人が就労予定／求職中	子育てをしている人が病気や障害がある	子育てをしている人が家族・親族を介護中	子育てをしている人が学生	その他	不明
こどもの年齢	就学前児童・計	75.4%	58.0%	2.8%	1.9%	0.6%	0.2%	1.5%	2.1%
	0歳	88.2%	41.4%	2.2%	0.8%	1.1%	0.3%	1.1%	2.7%
	1歳	86.3%	47.7%	3.5%	1.1%	0.3%	0.3%	3.2%	1.6%
	2歳	78.2%	57.6%	5.5%	2.4%	0.7%	0.0%	2.1%	1.2%
	3歳以上	66.8%	66.6%	1.9%	2.3%	0.5%	0.2%	0.9%	2.3%
	不明	70.0%	80.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

4）平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由

平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由について、「利用する必要がない」が最も多く 39.8%、次いで「こどもがまだ小さいため（一定年齢になったら利用したい）」が 35.5%、「利用したいが、教育・保育事業に空きがない」が 26.8%となっている。

内訳を見ると、「利用したいが、教育・保育事業に空きがない」との回答は、0 歳児のいる世帯で最も多く 31.9%となっている。

＜教育・保育事業を利用していない理由＞（複数回答）（回答対象：教育・保育事業を利用していない世帯）（ｎ＝1,059）

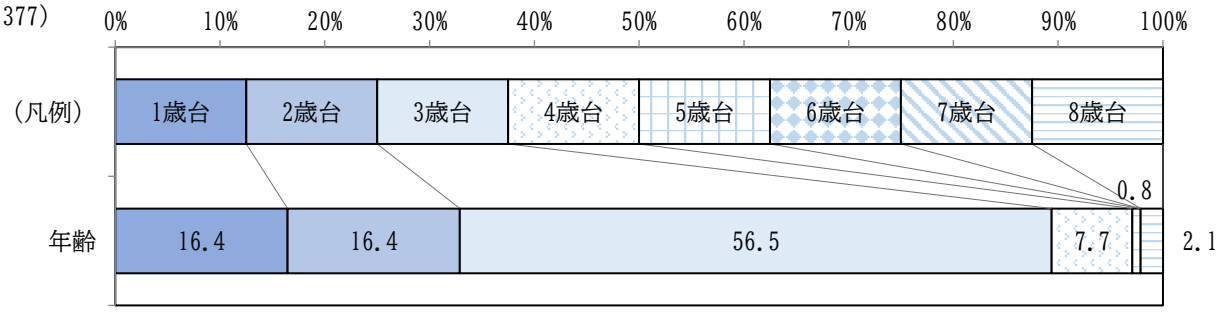


＜内訳＞

	利用する必要がない	こどもがまだ小さいため（一定年齢になったら利用したい）	利用したいが、教育・保育事業に空きがない	利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	こどもの祖父母や親戚の人がみている	利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない	利用したいが、延長・夜間等の利用できる時間帯の条件があわない	近所の人や父母の友人・知人がみている	その他	不明
就学前児童・計	39.8%	35.5%	26.8%	5.5%	4.3%	2.1%	0.9%	0.3%	11.2%	3.8%
0歳	36.1%	34.6%	31.9%	4.8%	3.7%	1.4%	1.1%	0.3%	11.0%	3.8%
1歳	49.5%	43.0%	19.9%	9.7%	5.9%	3.2%	0.5%	0.5%	7.5%	1.6%
2歳	52.8%	32.4%	10.2%	2.8%	3.7%	4.6%	0.9%	0.0%	13.9%	3.7%
3歳以上	23.8%	19.0%	0.0%	0.0%	19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	23.8%
不明	30.0%	30.0%	20.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	30.0%	0.0%

平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由として、「こどもがまだ小さいため（一定年齢になったら利用したい）」と回答した世帯の、当該事業の利用希望年齢について、「3 歳台」が最も多く 56.5%。次いで「1 歳台」、「2 歳台」がそれぞれ 16.4%となっている。

＜教育・保育事業の利用希望年齢＞
（回答対象：利用していない理由として「こどもがまだ小さいため（一定年齢になったら利用したい）」と回答した世帯）
（ｎ＝377）



２．平日の定期的な教育・保育事業の利用希望

現在の利用の有無にかかわらず、定期的に利用したいと考える平日の教育・保育事業について、第１希望から第８希望までの合計は、「認可保育園」が最も多く 82.0%、次いで「幼稚園」が 68.6%となっている。

定期的に利用したいと考える平日の教育・保育事業の第１希望について、いずれの年齢区分も「認可保育園」が最も多く、次いで「幼稚園」となっている。

一方で、0 歳児のいる世帯と 1 歳児のいる世帯では「小規模な保育施設」がそれぞれ 4.5%、3.4%となっており、2 歳児のいる世帯と 3 歳児以上のいる世帯では「幼稚園の預かり保育」がそれぞれ 3.6%、3.1%となっている。

<現在の利用の有無にかかわらず、定期的に利用したい教育・保育事業>
（n=3,401）

	認可保育園（認定こども園の保育園部分を含む）	幼稚園（認定こども園の幼稚園部分を含む）	幼稚園の預かり保育	小規模な保育施設	事業所内保育施設	家庭的保育	ファミリー・サポート・センター	その他の保育施設	居宅訪問型保育	その他
第1希望	55.9%	31.7%	2.9%	2.6%	1.9%	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%	0.6%
第2希望	11.5%	17.2%	24.1%	19.7%	4.0%	0.9%	1.6%	0.7%	0.5%	0.2%
第3希望	12.0%	10.7%	13.4%	10.8%	6.5%	2.8%	2.6%	1.5%	1.0%	0.2%
第4希望	1.6%	5.4%	8.6%	12.2%	5.8%	2.7%	2.4%	1.2%	1.1%	0.1%
第5希望	0.4%	2.2%	3.3%	3.6%	7.4%	5.0%	1.9%	1.9%	1.5%	0.1%
第6希望	0.2%	0.6%	1.1%	0.6%	3.3%	4.9%	2.4%	3.5%	2.4%	0.1%
第7希望	0.3%	0.3%	0.7%	0.2%	1.1%	2.1%	3.2%	4.0%	3.4%	0.0%
第8希望	0.1%	0.4%	0.3%	0.1%	0.4%	1.1%	3.7%	2.8%	4.5%	0.1%
合計	**82.0%**	**68.6%**	**54.2%**	**50.0%**	**30.3%**	**20.0%**	**18.3%**	**16.0%**	**14.6%**	**1.3%**

＜第１希望の内訳＞

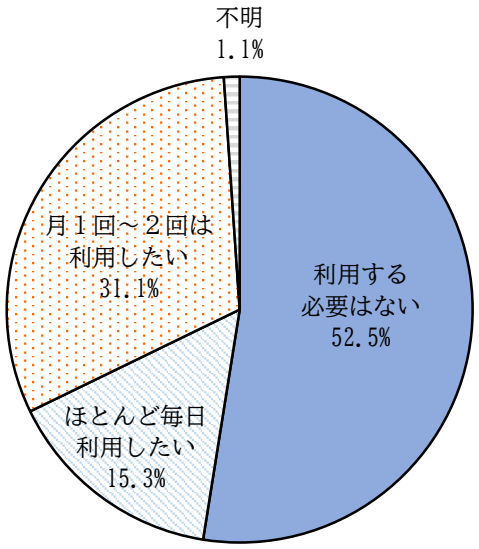
	認可保育園（認定こども園の保育園部分を含む）	幼稚園（認定こども園の幼稚園部分を含む）	幼稚園の預かり保育	小規模な保育施設	事業所内保育施設	家庭的保育	ファミリー・サポート・センター	その他の保育施設	居宅訪問型保育	その他	不明
就学前児童・計	55.9%	31.7%	2.9%	2.6%	1.9%	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%	0.6%	3.0%
0歳	62.8%	22.3%	2.4%	4.5%	2.9%	0.4%	0.7%	0.4%	0.5%	0.5%	2.6%
1歳	58.9%	28.2%	2.7%	3.4%	1.6%	0.5%	0.4%	0.4%	0.2%	0.5%	3.2%
2歳	51.4%	37.1%	3.6%	1.5%	1.3%	0.6%	0.2%	0.6%	0.2%	0.8%	2.8%
3歳以上	50.2%	39.9%	3.1%	0.9%	1.2%	0.1%	0.2%	0.4%	0.2%	0.5%	3.4%
不明	50.0%	25.0%	5.0%	0.0%	5.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%

３．土日祝、長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望

１）土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望

土曜日の定期的な教育･保育事業の利用希望について、「利用する必要はない」が最も多く 52.5%、次いで「月に 1～2 回は利用したい」が 31.1%、「ほとんど毎日利用したい」が 15.3%となっている。

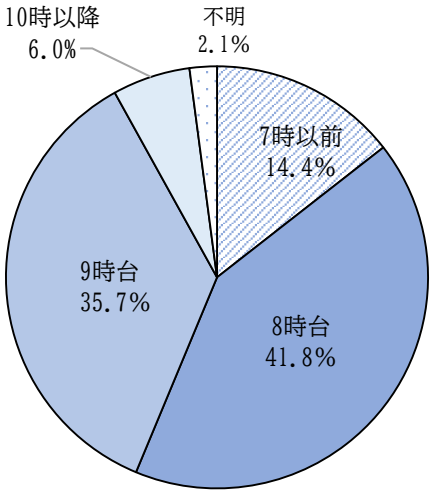
＜土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望＞（n=3,401）



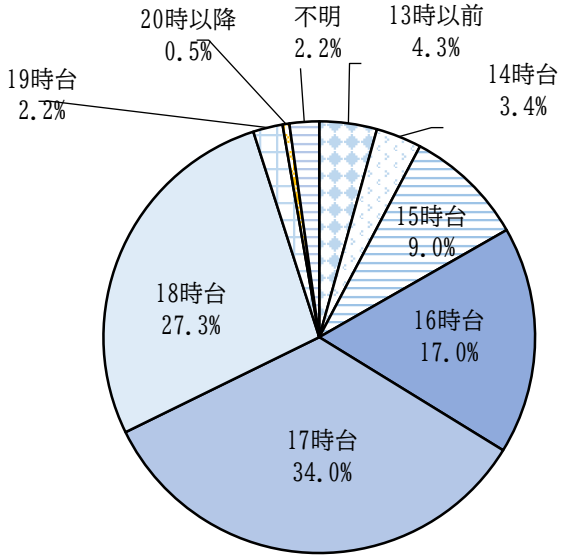
利用したい時間帯について、開始時刻では「8 時台」が最も多く 41.8%、次いで「9 時台」が 35.7%、「7 時以前」が 14.4%となっている。

終了時刻では「17 時台」が最も多く 34.0%、次いで「18 時台」が 27.3%、「16 時台」が 17.0%となっている。

＜利用したい時間帯：開始時刻＞
（回答対象：土曜日の定期的な教育・保育事業の利用を希望する世帯）（n=1,578）



＜利用したい時間帯：終了時刻＞
（回答対象：土曜日の定期的な教育・保育事業の利用を希望する世帯）（ｎ＝1,578）



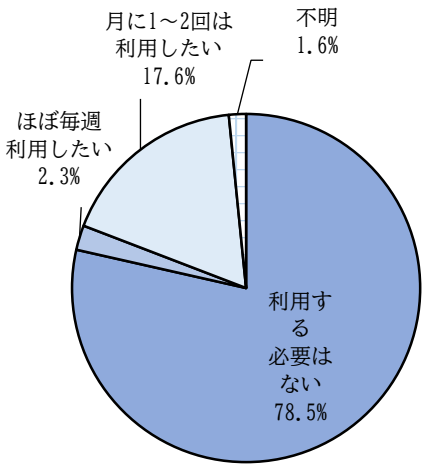
2）日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望について、「利用する必要はない」が最も多く 78.5%、次いで「月に 1～2 回は利用したい」が 17.6%、「ほぼ毎週利用したい」が 2.3%となっている。

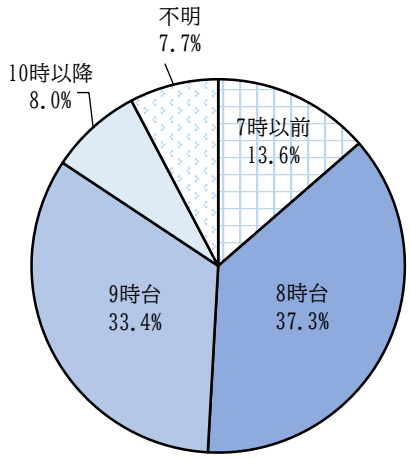
利用したい時間帯について、開始時刻では「8 時台」が最も多く 37.3%、次いで「9 時台」が 33.4%、「7 時以前」が 13.6%となっている。

終了時刻では「17 時台」が最も多く 31.4%、次いで「18 時台」が 30.2%、「16 時台」が 13.6%となっている。

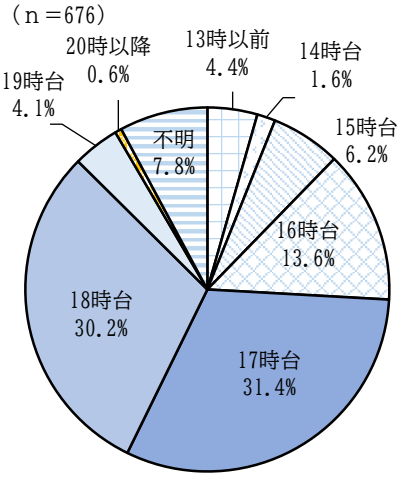
＜日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望＞
（ｎ＝3,401）



＜利用したい時間帯：開始時刻＞
（回答対象：日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用を希望する世帯）
（ｎ＝676）

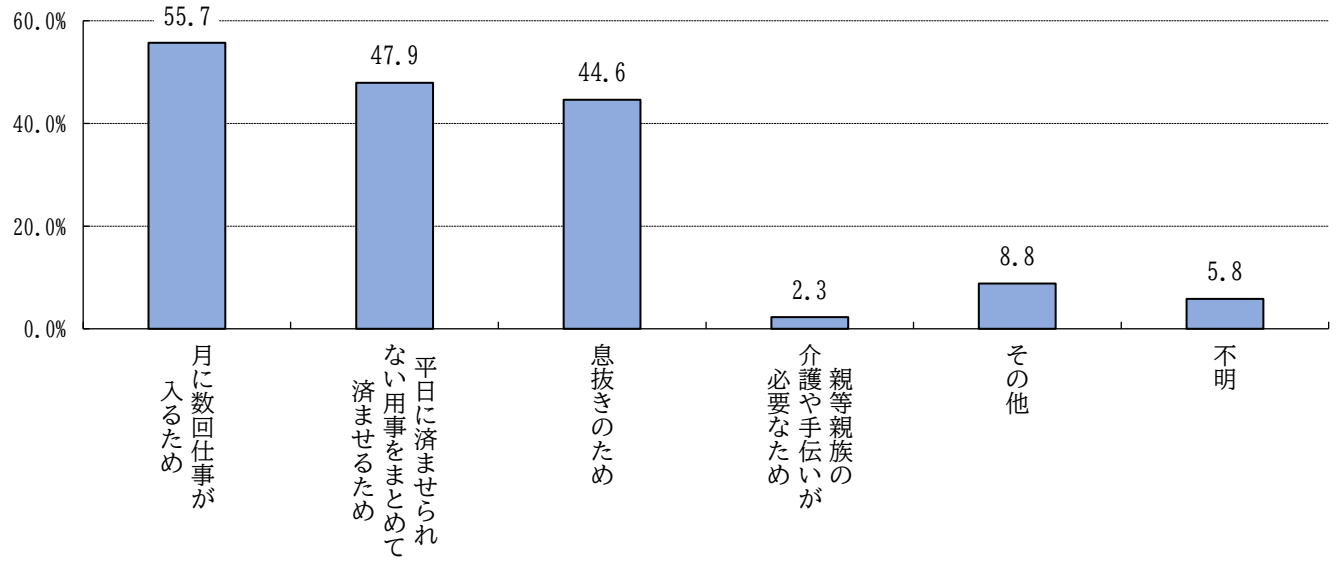


＜利用したい時間帯：終了時刻＞
（回答対象：日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用を希望する世帯）
（ｎ＝676）



土曜日又は日曜日・祝日に定期的な教育・保育事業を「月に 1～2 回は利用したい」と回答した世帯の、毎週ではなくたまに利用したい理由について、「月に数回仕事が入るため」が最も多く 55.7%、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が 47.9%、「息抜きのため」が 44.6%となっている。

<月に１～２回は利用したいと回答した理由＞（複数回答）
（回答対象：土日祝の定期的な教育・保育事業について「月に1～2回は利用したい」と回答した世帯）（ｎ＝1,266）



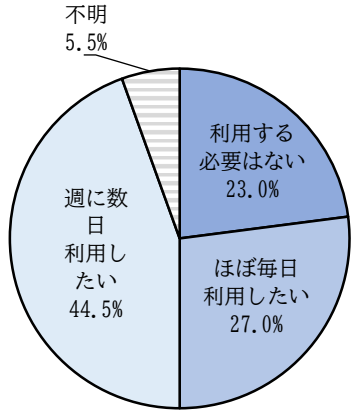
3）幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用希望について、「休みの期間中、週に数日利用したい」が最も多く 44.5%、次いで「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 27.0%、「利用する必要はない」が 23.0%となっている。

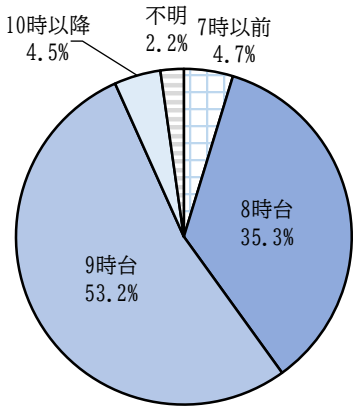
利用したい時間帯について、開始時刻では「9 時台」が最も多く 53.2%、次いで「8 時台」が 35.3%、「7 時以前」が 4.7%となっている。

終了時刻では「15 時台」が最も多く 26.1%、次いで「16 時台」が 21.4%、「17 時台」が 21.1%となっている。

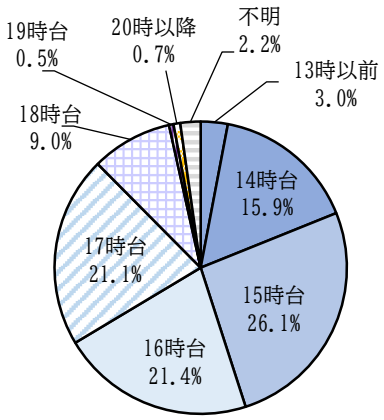
＜長期休暇中の教育・保育事業の利用＞
（回答対象：幼稚園利用者）（ｎ＝562）



＜利用したい時間帯：開始時刻＞
（回答対象：長期休暇中の教育・保育事業の利用を希望する世帯）
（ｎ＝402）

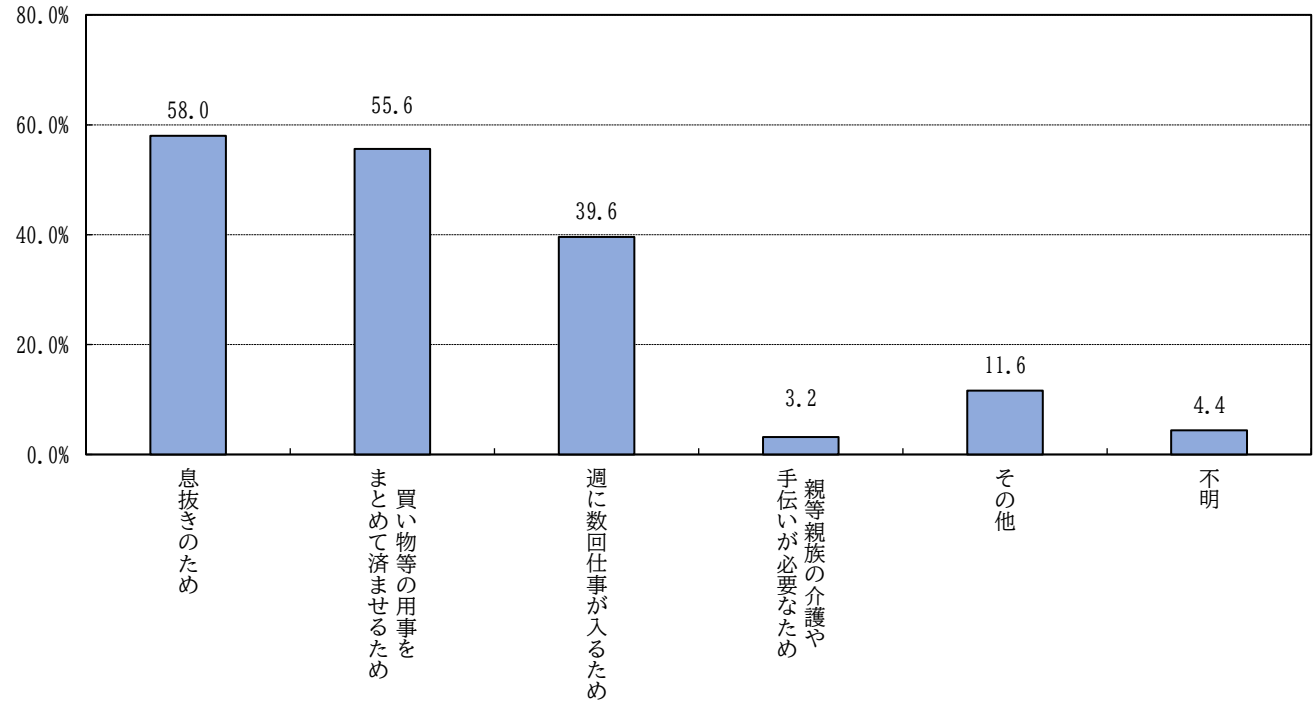


＜利用したい時間帯：終了時刻＞
（回答対象：長期休暇中の教育・保育事業の利用を希望する世帯）
（ｎ＝402）



長期休暇中に教育・保育事業を「休みの期間中、週に数日利用したい」と回答した世帯の、毎日ではなくたまに利用したい理由について、「息抜きのため」が最も多く 58.0%、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が 55.6%、「週に数回仕事が入るため」が 39.6%となっている。

＜毎日ではなくたまに利用したい理由＞（複数回答）
（回答対象：幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業について「休みの期間中、週に数日利用したい」と回答した世帯）
（ｎ＝250）



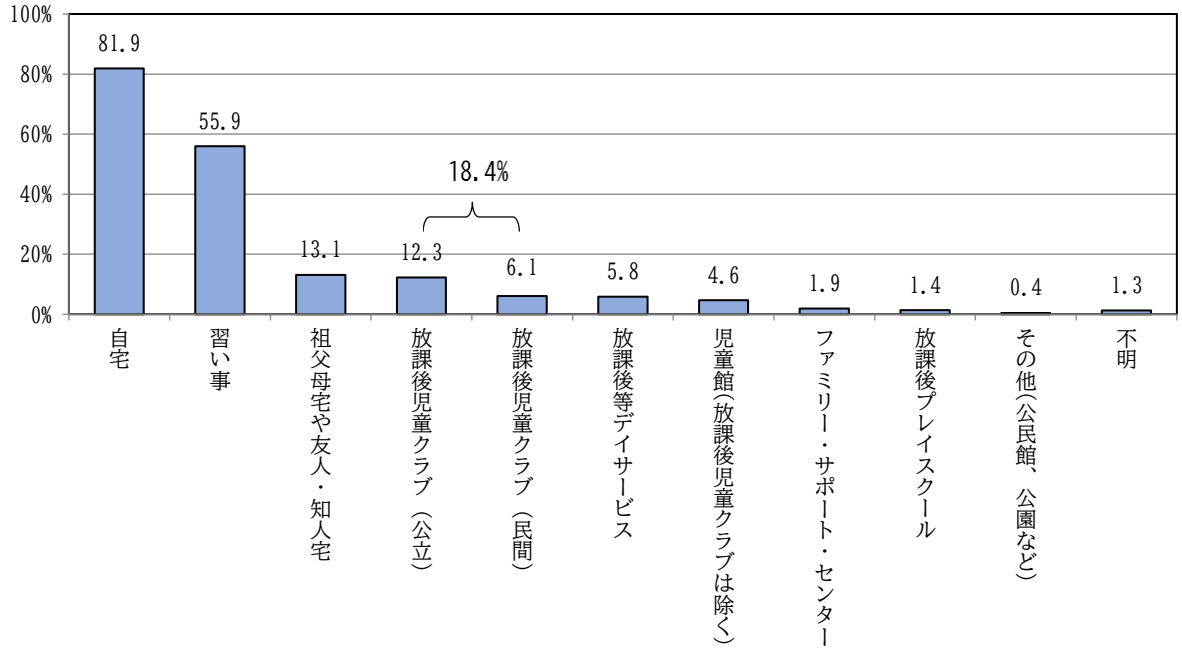
Ⅲ．放課後の過ごし方、病児・病後児保育、一時預かり等について

１．現在の放課後の時間を過ごしている場所（対象：就学児童のいる世帯）

現在、こどもが放課後の時間を過ごしている場所について、「自宅」が最も多く 81.9%、次いで「習い事」が 55.9%、「祖父母宅や友人・知人宅」が 13.1%となっており、「放課後児童クラブ」は公立が 12.3%、民間が 6.1%で、放課後児童クラブを利用している就学児童は合計で 18.4%となっている。

内訳を見ると、母親がフルタイムで就労している世帯では、「放課後児童クラブ」は公立が 22.0%、民間が 11.1%となっている。

＜現在の放課後の時間を過ごしている場所＞（複数回答）（ｎ＝1,620）

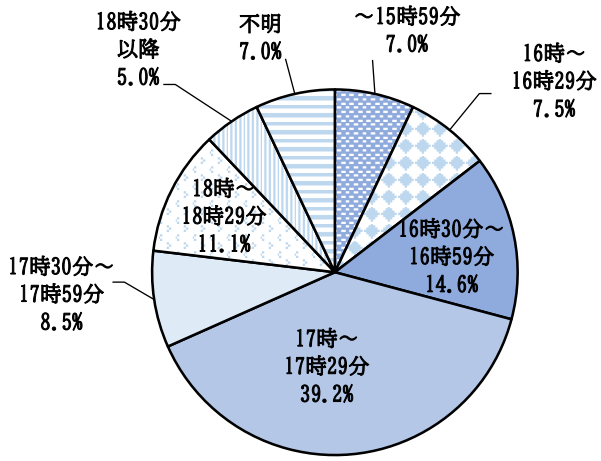


＜内訳＞

		自宅	習い事	祖父母宅や友人・知人宅	放課後児童クラブ（公立）	放課後児童クラブ（民間）	放課後等デイサービス	児童館（放課後児童クラブは除く）	ファミリー・サポート・センター	放課後プレイスクール	その他（公民館、公園など）	不明
就学児童・計		81.9%	55.9%	13.1%	12.3%	6.1%	5.8%	4.6%	1.9%	1.4%	0.4%	1.3%
母親の就労状況	フルタイム	69.0%	52.8%	14.9%	22.0%	11.1%	4.7%	3.8%	1.3%	0.9%	0.2%	0.5%
	パート・アルバイト等	87.1%	59.6%	12.4%	9.9%	4.4%	5.5%	5.4%	2.3%	1.4%	0.4%	1.4%
	無業	93.4%	55.9%	11.8%	1.8%	1.5%	8.2%	4.8%	2.4%	1.8%	0.9%	0.6%
	不明	70.0%	26.7%	13.3%	6.7%	6.7%	6.7%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	20.0%

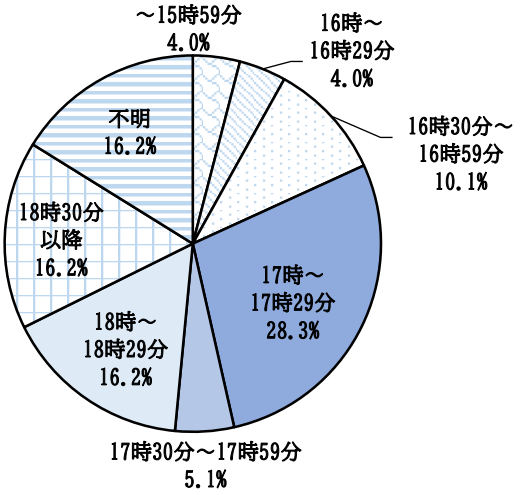
公立の放課後児童クラブ利用者の利用終了時刻について、「17 時 00 分～17 時 29 分」が最も多く 39.2%、次いで「16 時 30 分～16 時 59 分」が 14.6%、「18 時 00 分～18 時 29 分」が 11.1%となっている。

＜放課後児童クラブ（公立）利用者の利用終了時刻＞
（回答対象：放課後児童クラブ（公立）利用者）（ｎ＝199）



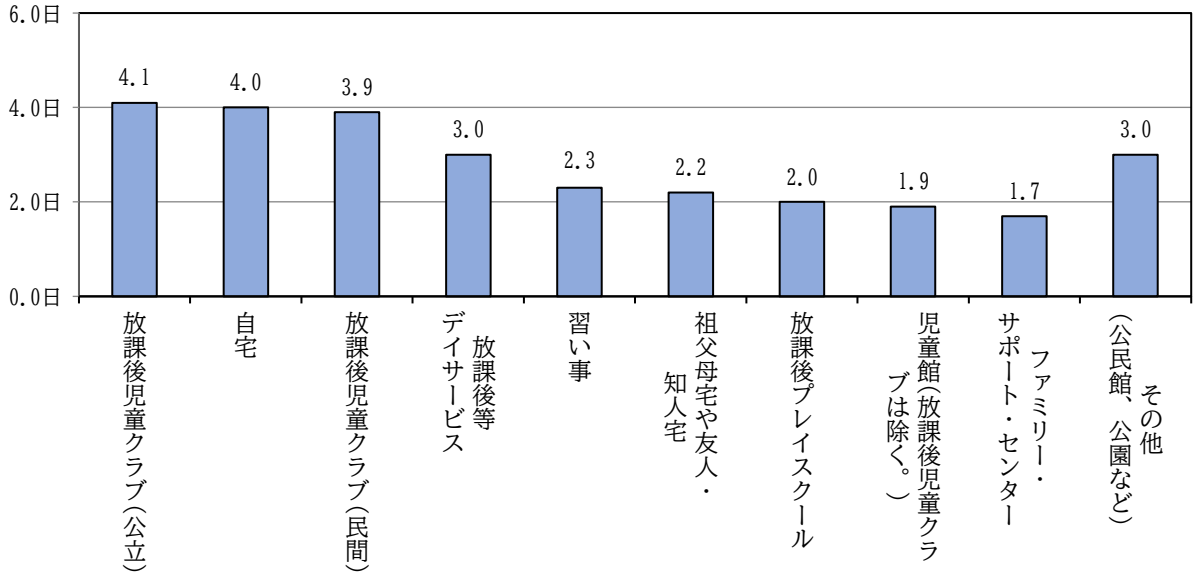
民間の放課後児童クラブ利用者の利用終了時刻について、「17 時 00 分～17 時 29 分」が最も多く 28.3%、次いで「18 時 00 分～18 時 29 分」、「18 時 30 分以降」がともに 16.2%となっている。

＜放課後児童クラブ（民間）利用者の利用終了時刻＞
（回答対象：放課後児童クラブ（民間）利用者）（ｎ＝99）



現在、こどもが放課後の時間を過ごしている場所別の 1 週当たりの平均利用日数について、「自宅」が 4.0 日、「習い事」が 2.3 日、「その他（公民館、公園など）」が 3.0 日となっており、「放課後児童クラブ」については、公立が 4.1 日、民間が 3.9 日となっている。

＜現在の放課後の時間を過ごしている場所の 1 週当たりの平均利用日数＞（複数回答）（ｎ＝1,620）

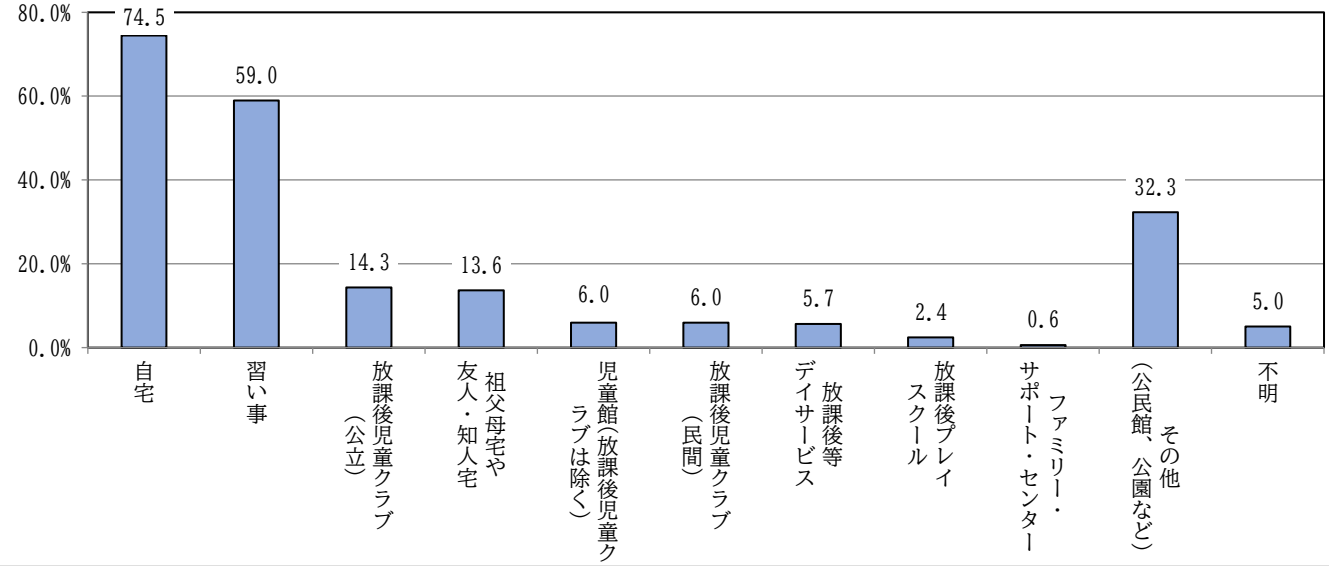


２．放課後の時間を過ごさせたい場所（対象：就学児童のいる世帯）

こどもに放課後の時間を過ごさせたい場所について、「自宅」が最も多く 74.5%、次いで「習い事」が 59.0%、「その他（公民館、公園など）」が 32.3%となっており、「放課後児童クラブ」は公立が 14.3%、民間が 6.0%となっている。

内訳を見ると、母親がフルタイムで就労している世帯では、放課後児童クラブは、公立が 22.1%、民間が 9.8%となっている。

＜こどもに放課後の時間を過ごさせたい場所＞（複数回答）（ｎ＝1,620）

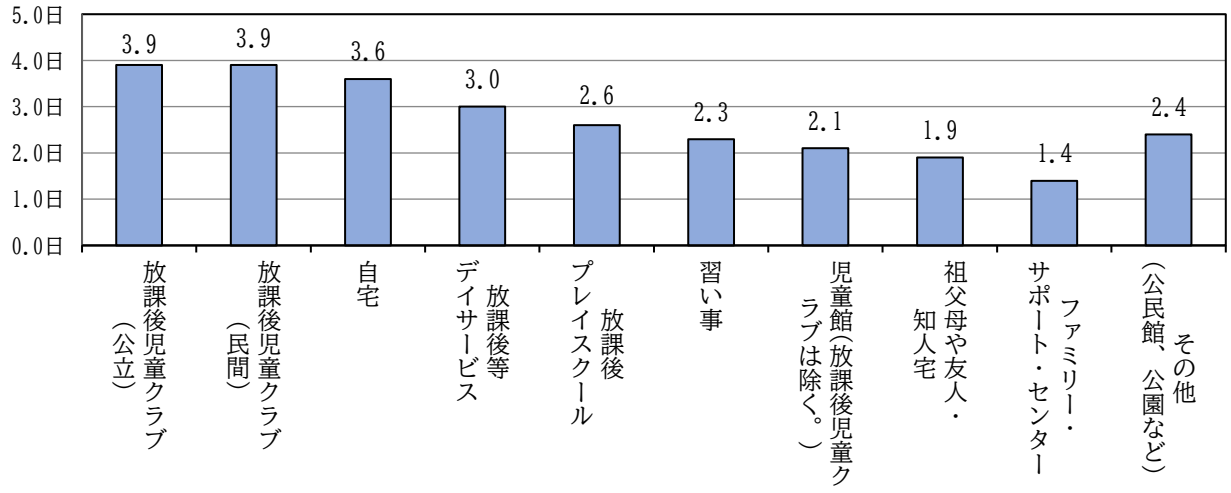


＜内訳＞

		自宅	習い事	放課後児童クラブ（公立）	祖父母宅や友人・知人宅	児童館（放課後児童クラブは除く）	放課後児童クラブ（民間）	放課後等デイサービス	放課後プレイスクール	ファミリー・サポート・センター	その他（公民館、公園など）	不明
就学児童・計		74.5%	59.0%	14.3%	13.6%	6.0%	6.0%	5.7%	2.4%	0.6%	32.3%	5.0%
母親の就労状況	フルタイム	63.3%	56.4%	22.1%	14.2%	4.2%	9.8%	4.9%	2.9%	0.5%	22.5%	5.6%
	パート・アルバイト等	80.4%	60.6%	11.9%	13.6%	6.6%	4.5%	5.2%	2.1%	0.8%	35.6%	4.2%
	無業	81.9%	62.8%	6.3%	13.0%	7.6%	3.0%	7.6%	2.4%	0.3%	43.5%	4.2%
	不明	60.0%	23.3%	16.7%	13.3%	6.7%	3.3%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%

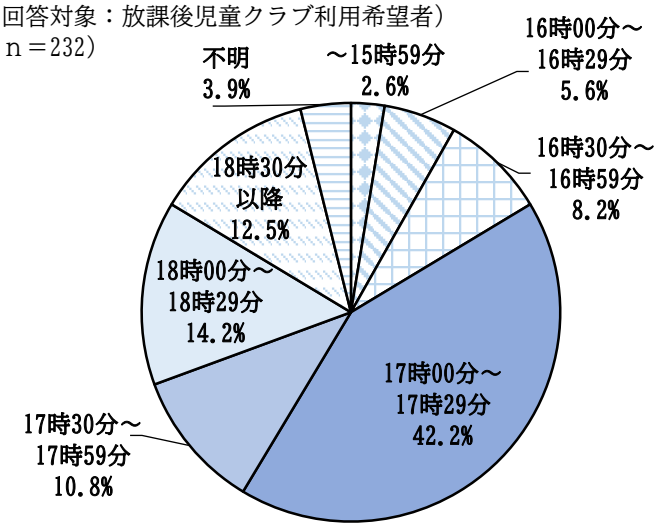
放課後の時間を過ごさせたい場所別の１週当たりの平均利用希望日数について、「自宅」が 3.6 日、「習い事」が 2.3 日、「その他（公民館、公園など）」が 2.4 日となっており、「放課後児童クラブ」については、公立、民間ともに 3.9 日となっている。

＜こどもに放課後の時間を過ごさせたい場所の１週当たりの平均利用希望日数＞（複数回答）（ｎ＝1,620）



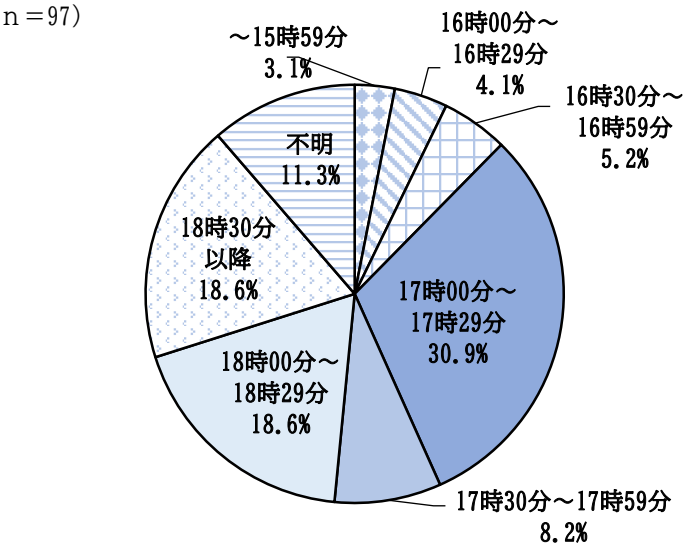
公立の放課後児童クラブの利用を希望する場合の希望の利用終了時刻について、「17 時 00 分～17 時 29 分」が最も多く 42.2%、次いで「18 時 00 分～18 時 29 分」が 14.2%、「18 時 30 分以降」が 12.5%となっている。

＜放課後児童クラブの利用を希望する場合の希望の利用終了時刻＞
（回答対象：放課後児童クラブ利用希望者）
（ｎ＝232）



民間の放課後児童クラブの利用を希望する場合の希望の利用終了時刻について、「17 時 00 分～17 時 29 分」が最も多く 30.9%、次いで「18 時 00 分～18 時 29 分」、「18 時 30 分以降」がともに 18.6%となっている。

＜放課後児童クラブの利用を希望する場合の希望の利用終了時刻＞
（回答対象：放課後児童クラブ利用希望者）
（ｎ＝97）

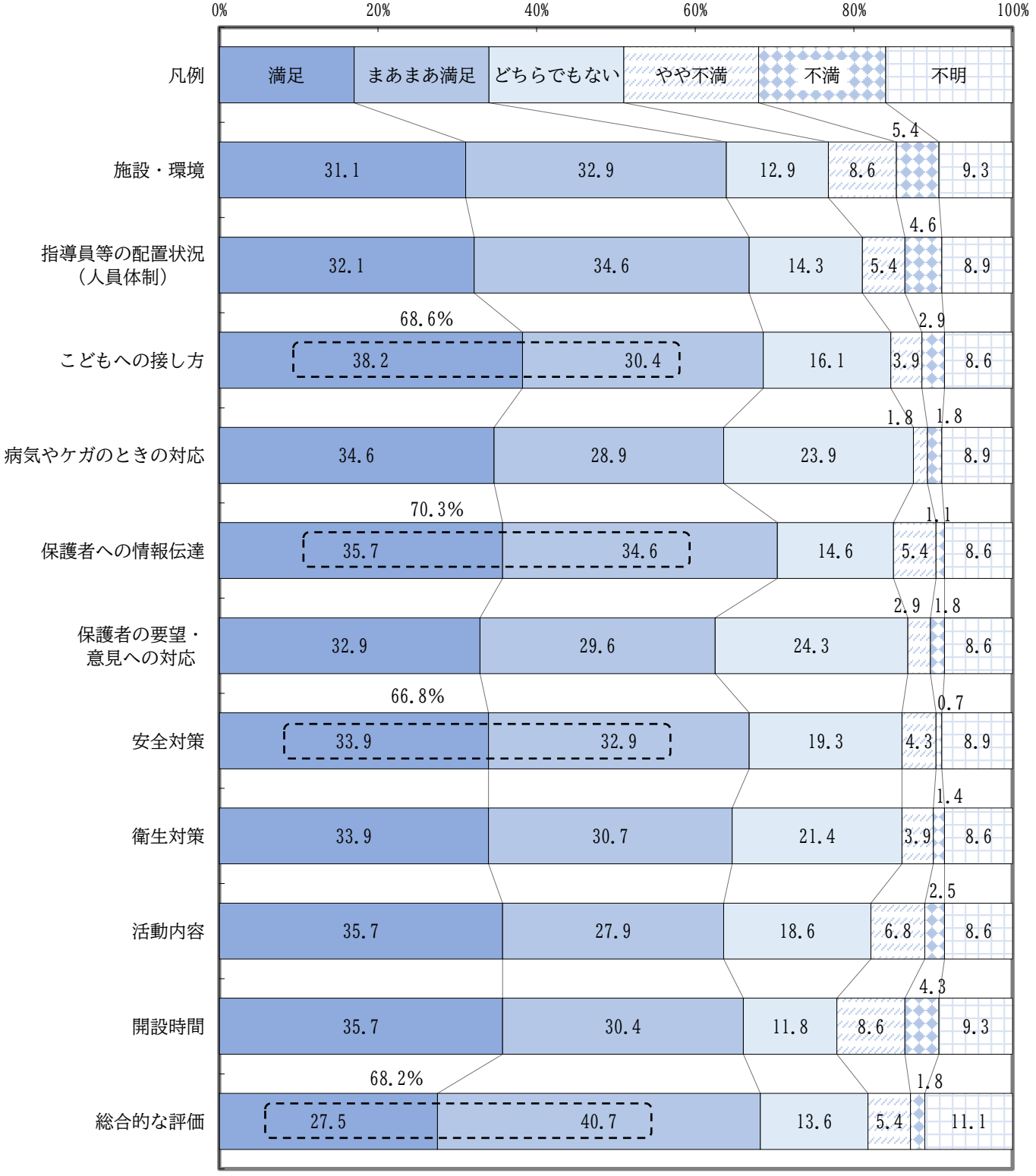


３．放課後児童クラブの利用状況（対象：就学児童のいる世帯）

１）放課後児童クラブの満足度

現在、利用している放課後児童クラブに関する利用の満足度について、満足度が最も高いのは、「保護者への情報伝達」で、「満足」と「まあまあ満足」の合計値が 70.3%、次いで「こどもへの接し方」の合計値が 68.6%、「安全対策」の合計値が 66.8%となっており、「総合的な評価」についての合計値は 68.2%となっている。

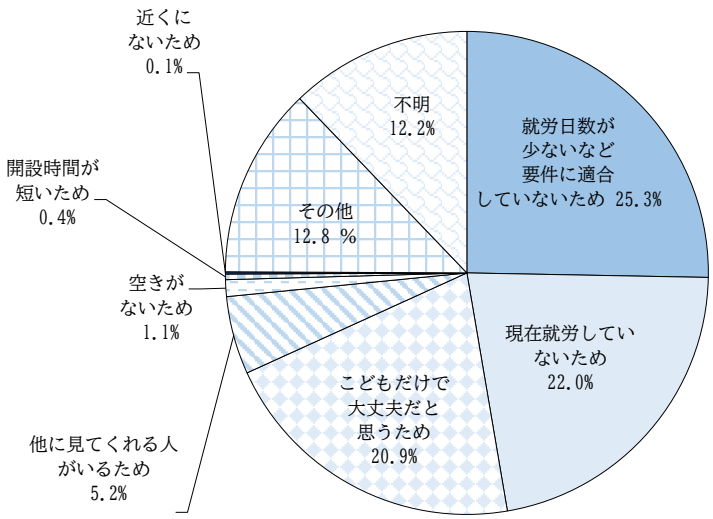
＜放課後児童クラブの利用満足度＞（回答対象：放課後児童クラブ利用者）（n＝280）



2）放課後児童クラブを利用していない理由

放課後児童クラブを利用していない理由について、「就労日数が少ないなど要件に適合していないため」が最も多く 25.3%、次いで「現在就労していないため」が 22.0%、「こどもだけで大丈夫だと思うため」が 20.9%となっている。

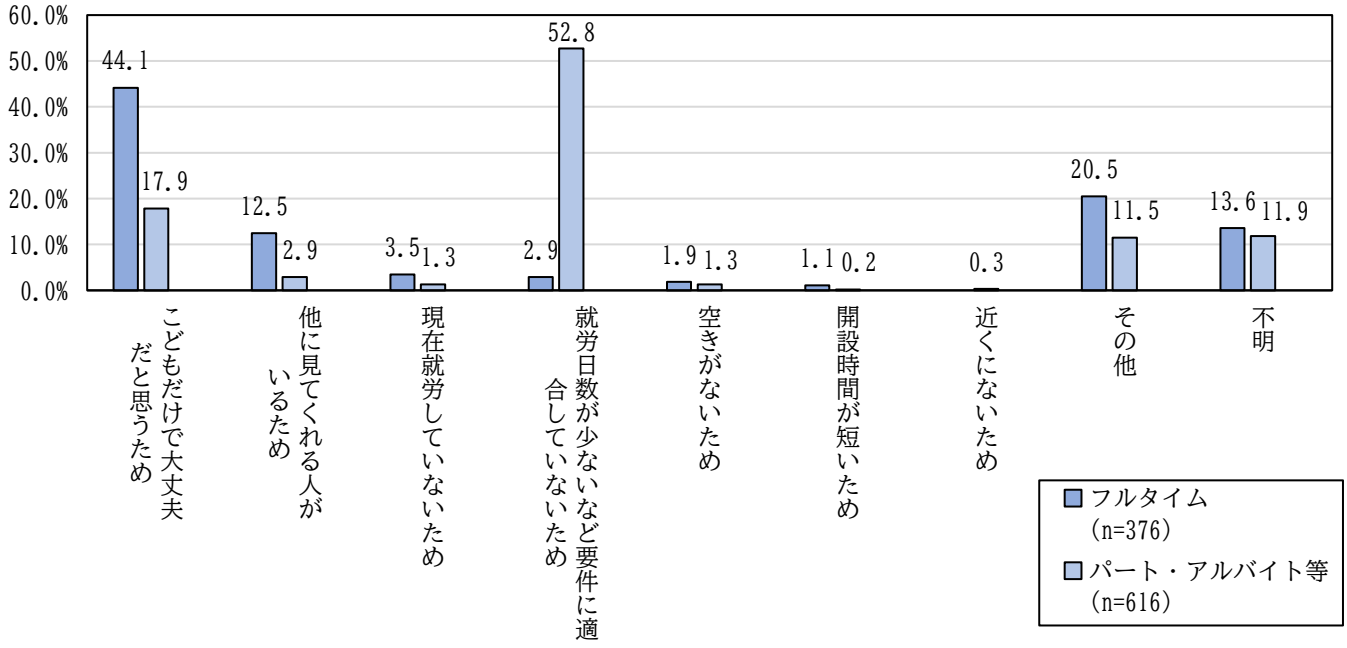
＜放課後児童クラブを利用していない理由＞
（回答対象：放課後児童クラブを利用していない世帯）（ｎ＝1,340）



母親がフルタイムで就労している世帯の放課後児童クラブを利用していない理由について、「その他」を除き、「こどもだけで大丈夫だと思うため」が最も多く 44.1%、次いで「他に見てくれる人がいるため」が 12.5%となっている。

母親がパート・アルバイト等で就労している世帯の放課後児童クラブを利用していない理由について、「就労日数が少ないなど要件に適合していないため」が最も多く 52.8%、次いで「こどもだけで大丈夫だと思うため」が 17.9%となっている。

＜母親がフルタイムで就労中又はパート・アルバイト等で就労中の世帯の放課後児童クラブを利用していない理由＞
（回答対象：放課後児童クラブを利用していない世帯）

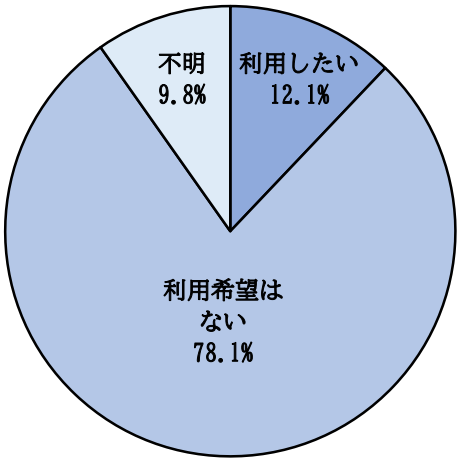


3）放課後児童クラブの今後の利用希望

放課後児童クラブを利用していない世帯の今後の利用希望について、「利用したい」が 12.1%、「利用希望はない」が 78.1%となっている。

内訳を見ると、母親がフルタイムで就労している世帯では「利用したい」が 7.7%、「利用希望はない」が 81.1%、母親がパート・アルバイト等で就労している世帯では「利用したい」が 13.5%、「利用希望はない」が 78.6%となっている。

＜放課後児童クラブの今後の利用希望＞
（回答対象：放課後児童クラブを利用していない世帯）（ｎ＝1,340）

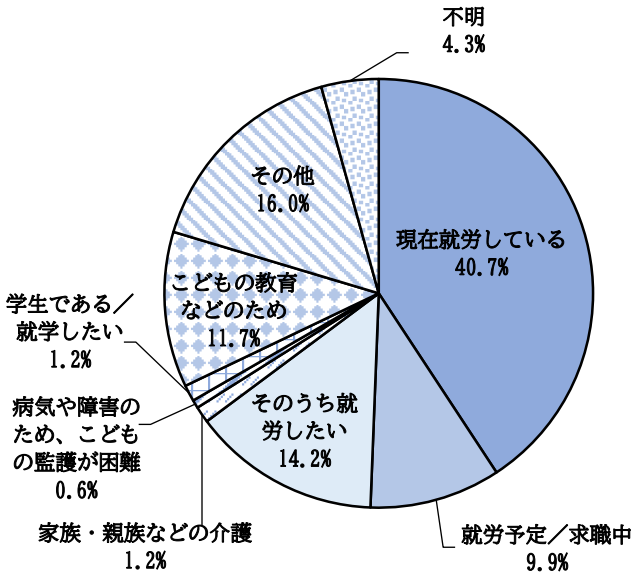


＜内訳＞

	利用したい	利用希望はない	不明
就学児童・計	12.1%	78.1%	9.8%
フルタイム	7.7%	81.1%	11.2%
パート・アルバイト等	13.5%	78.6%	8.0%
無業	14.6%	75.2%	10.2%
不明	11.5%	61.5%	26.9%

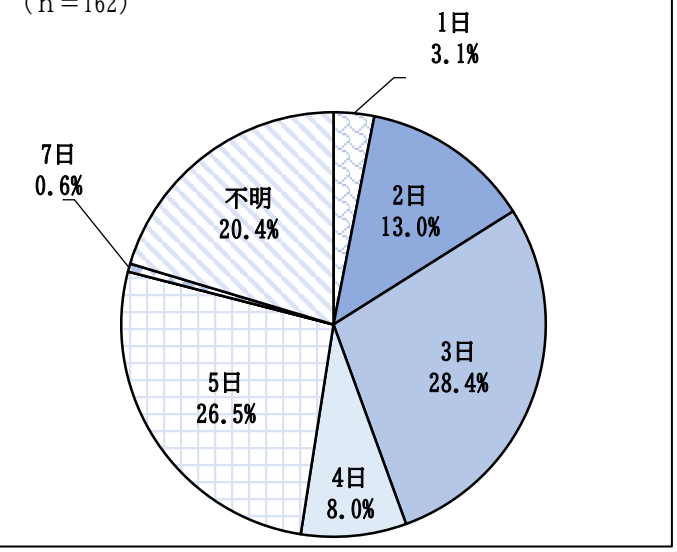
放課後児童クラブを利用したい理由について、「現在就労している」が最も多く 40.7%、次いで「そのうち就労したいと考えている」が 14.2%、「就労していないが、こどもの教育などのために預けたい」が 11.7%となっている。

＜放課後児童クラブを利用したい理由＞
（回答対象：放課後児童クラブ利用希望者）（ｎ＝162）



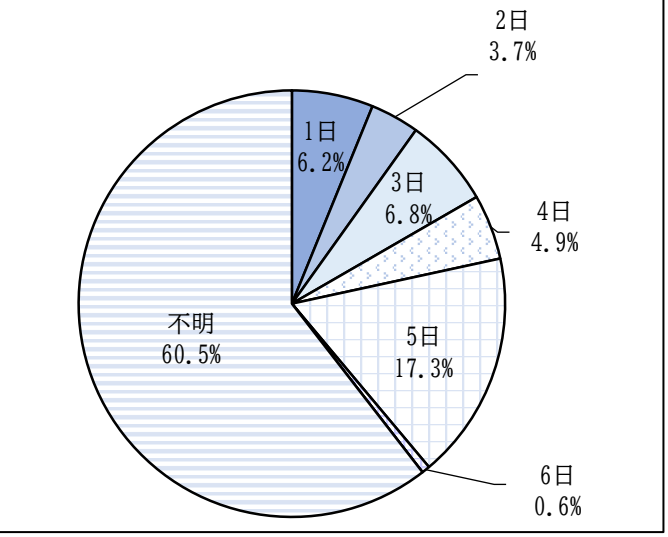
放課後児童クラブの 1 週当たりの利用希望日数について、「3 日」が最も多く 28.4%、次いで「5 日」が 26.5%、「2 日」が 13.0%となっている。

＜放課後児童クラブの1週当たりの利用希望日数＞
（回答対象：放課後児童クラブ利用希望者）
（ｎ＝162）



家族全員が、就労により自宅を不在にするなど、午後 5 時頃までこどもをみることが困難な、1 週当たりの日数について、「5 日」が最も多く 17.3%、次いで「3 日」が 6.8%、「1 日」が 6.2%となっている。

＜1 週間のうち、こどもをみることが困難な日数＞
（回答対象：放課後児童クラブ利用希望者）
（ｎ＝162）

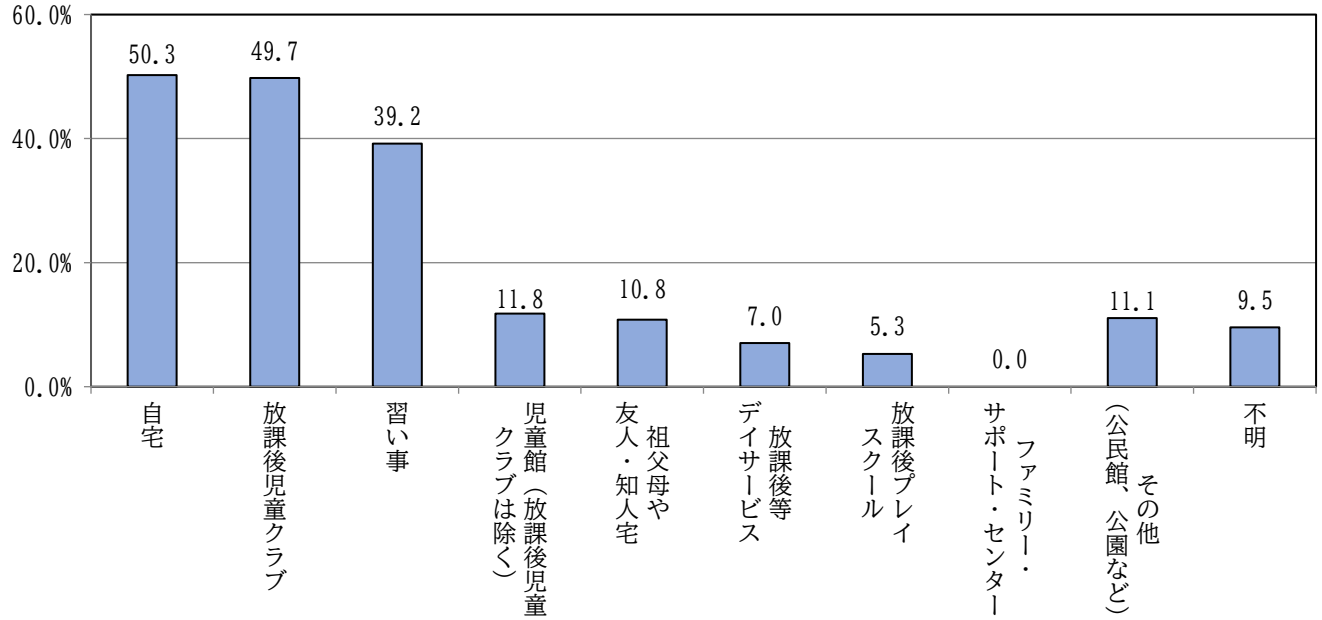


４．低学年の間の放課後の過ごし方についての希望（対象：5 歳以上の就学前児童のいる世帯）

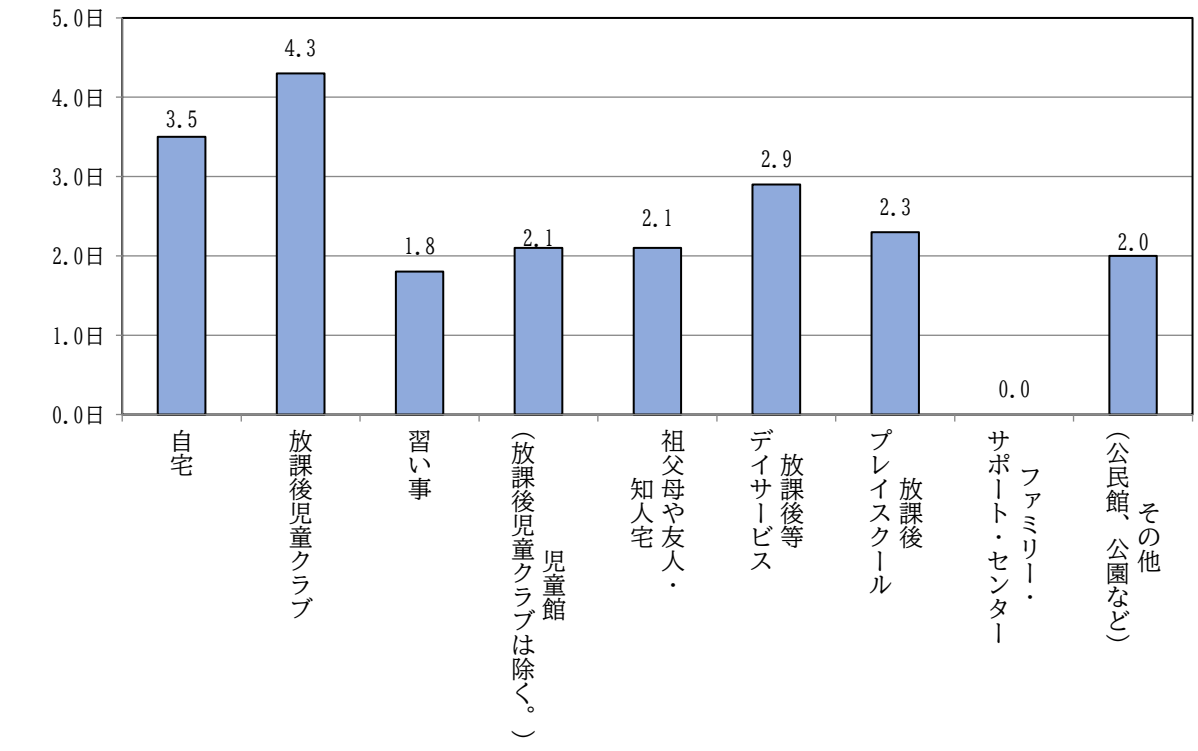
１）低学年の間の放課後を過ごさせたい場所

低学年の間の放課後を過ごさせたい場所について、「自宅」が最も多く 50.3%、次いで「放課後児童クラブ」が 49.7%、「習い事」が 39.2%となっており、それぞれの 1 週当たりの平均利用希望日数は、「自宅」が 3.5 日、「放課後児童クラブ」が 4.3 日、「習い事」が 1.8 日となっている。

＜こどもが低学年の間に放課後を過ごさせたい場所＞（複数回答）（ｎ＝398）



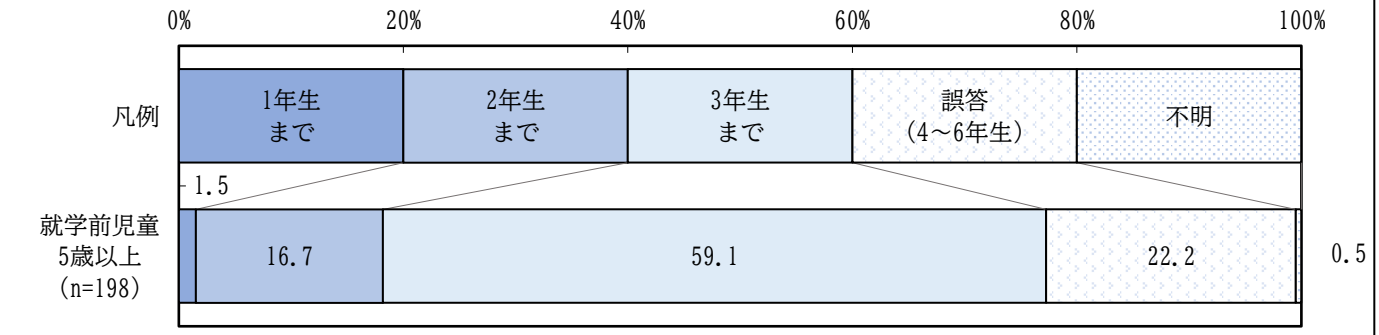
＜こどもが低学年の間に放課後を過ごさせたい場所の 1 週当たりの平均利用希望日数＞（複数回答）（ｎ＝398）



2）放課後児童クラブの利用希望

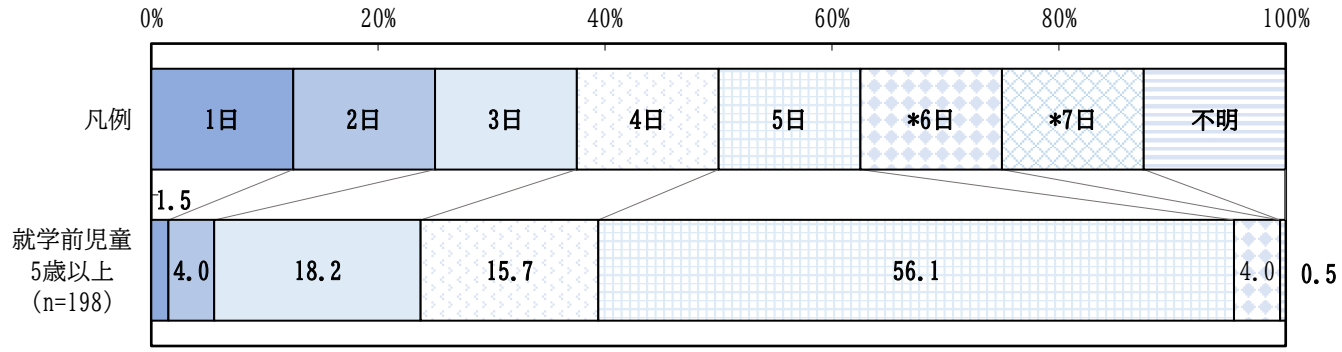
低学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する学年について、「3 年生まで」が最も多く 59.1%、次いで「2 年生まで」が 16.7%、「1 年生まで」が 1.5%となっている。

＜低学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する学年＞（回答対象：放課後児童クラブ利用希望者）



低学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する日数について、「5 日」が最も多く 56.1%、次いで「3 日」が 18.2%、「4 日」が 15.7%となっている。

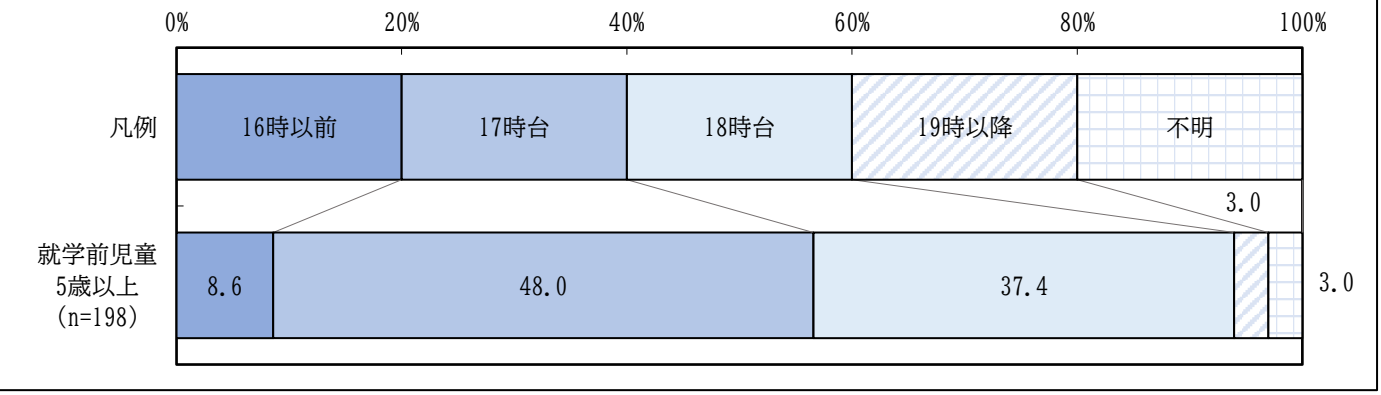
＜低学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する日数＞（回答対象：放課後児童クラブ利用希望者）



*平日の小学校終了後に関する問いに対し、週 6 日、7 日という回答がみられたが、そのまま集計した。

低学年の間の放課後児童クラブの希望終了時刻について、「17 時台」が最も多く 48.0%、次いで「18 時台」が 37.4%、「16 時以前」が 8.6%となっている。

＜低学年の間の放課後児童クラブの希望終了時刻＞（回答対象：放課後児童クラブ利用希望者）

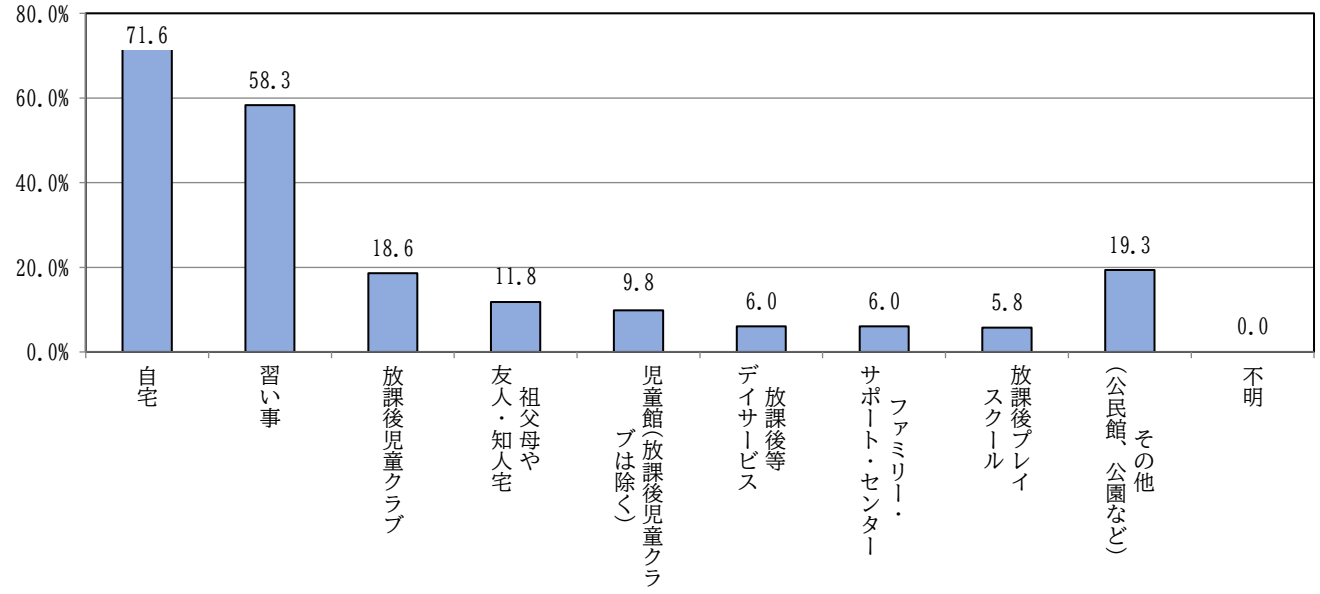


５．高学年の間の放課後の過ごし方についての希望（対象： 5 歳以上の就学前児童のいる世帯）

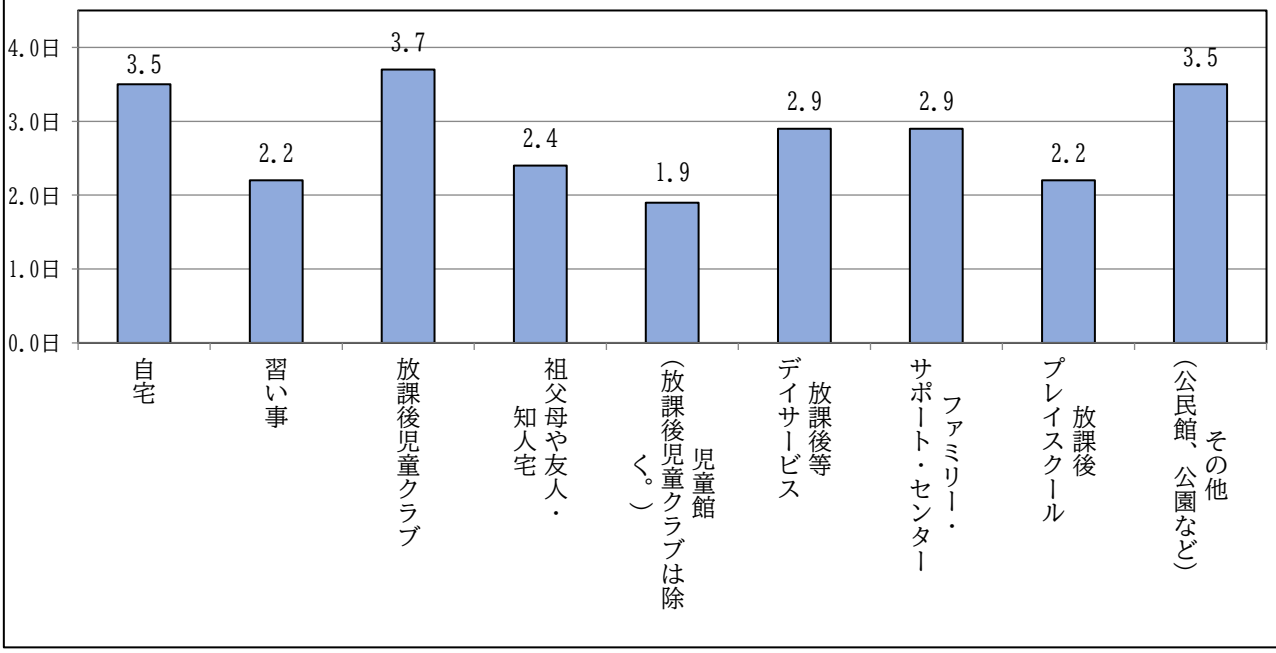
１）高学年の間の放課後を過ごさせたい場所

高学年の間の放課後を過ごさせたい場所について、「自宅」が最も多く 71.6%、次いで「習い事」が 58.3%、「その他（公民館、公園など）」が 19.3%となっている。「放課後児童クラブ」については 18.6%となっており、低学年時の 49.7%と比べて低くなっている。それぞれ 1 週当たりの平均利用希望日数は、「自宅」が 3.5 日、「習い事」が 2.2 日、「その他（公民館、公園など）が 3.5 日となっており、「放課後児童クラブ」は 3.7 日となっている。

＜こどもが高学年の間に放課後を過ごさせたい場所＞（複数回答）（n＝398）



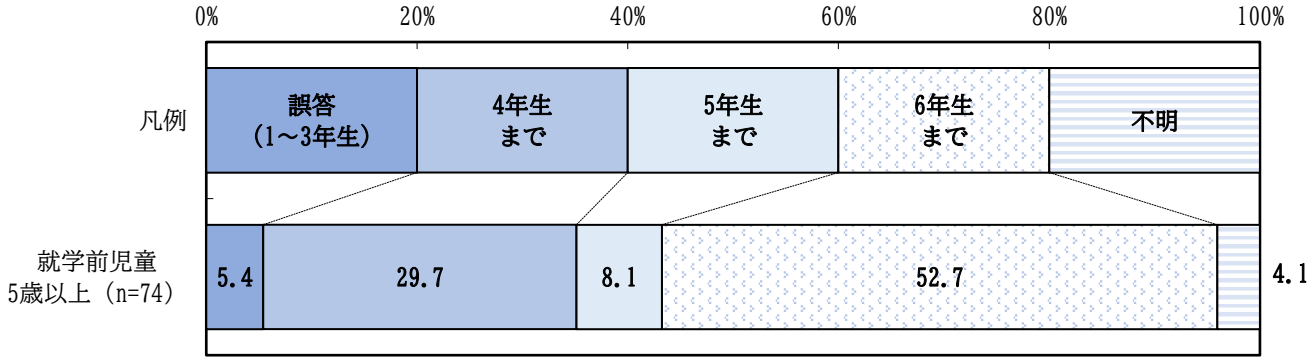
＜こどもが高学年の間に放課後を過ごさせたい場所の 1 週当たりの平均利用希望日数＞（複数回答）（n＝398）



2）放課後児童クラブの利用希望

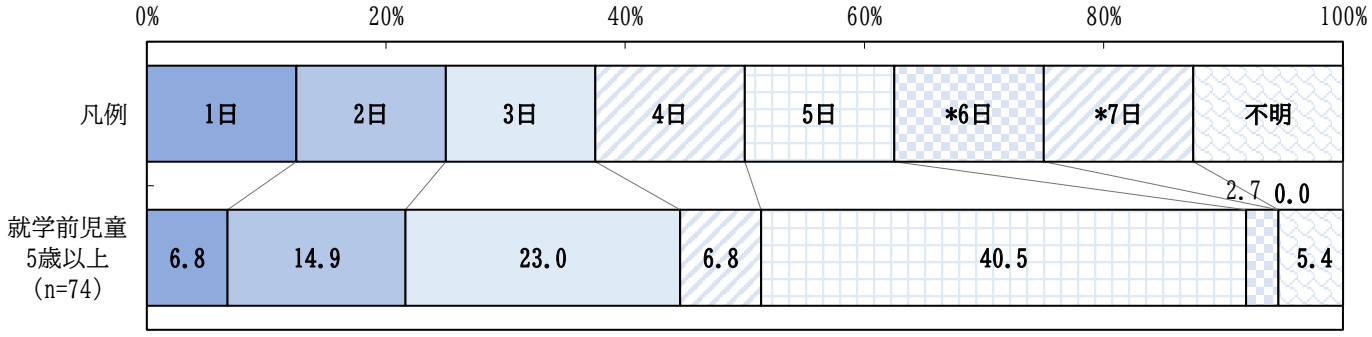
高学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する学年について、「6 年生まで」が最も多く 52.7%、次いで「4 年生まで」が 29.7%、「5 年生まで」が 8.1%となっている。

＜高学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する学年＞（回答対象：放課後児童クラブ利用希望者）



高学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する日数について、「5 日」が最も多く 40.5%、次いで「3 日」が 23.0%、「2 日」が 14.9%となっている。

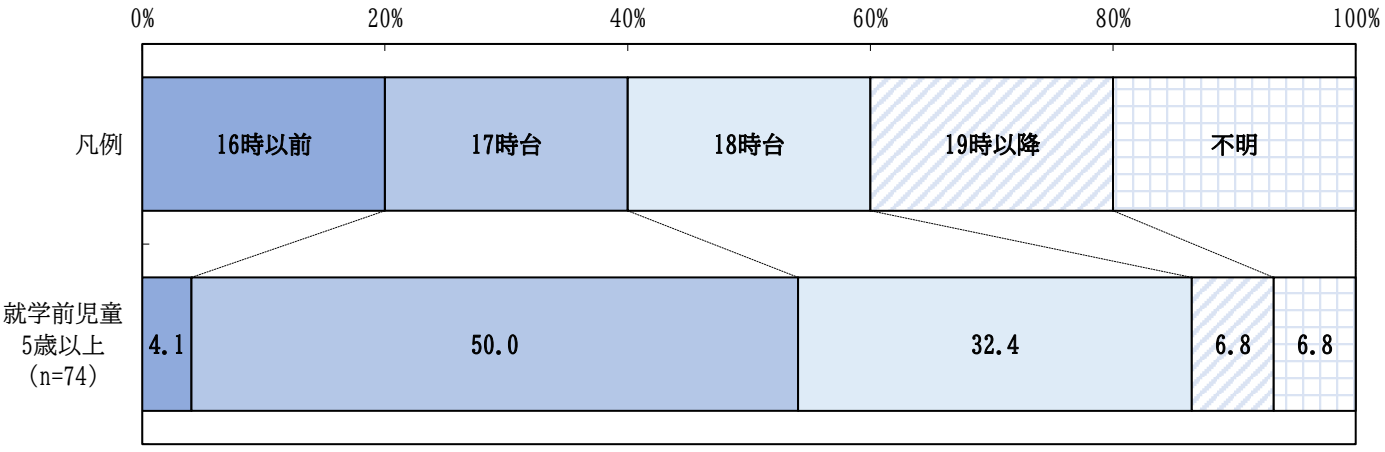
＜高学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する日数＞（回答対象：放課後児童クラブ利用希望者）



*平日の小学校終了後に関する問いに対し、週6日、7日という回答がみられたが、そのまま集計した。

高学年の間の放課後児童クラブの希望終了時刻について、「17 時台」が最も多く 50.0%、次いで「18 時台」が 32.4%、「19 時以降」が 6.8%となっている。

＜高学年の間の放課後児童クラブの利用終了時刻＞（回答対象：放課後児童クラブ利用希望者）



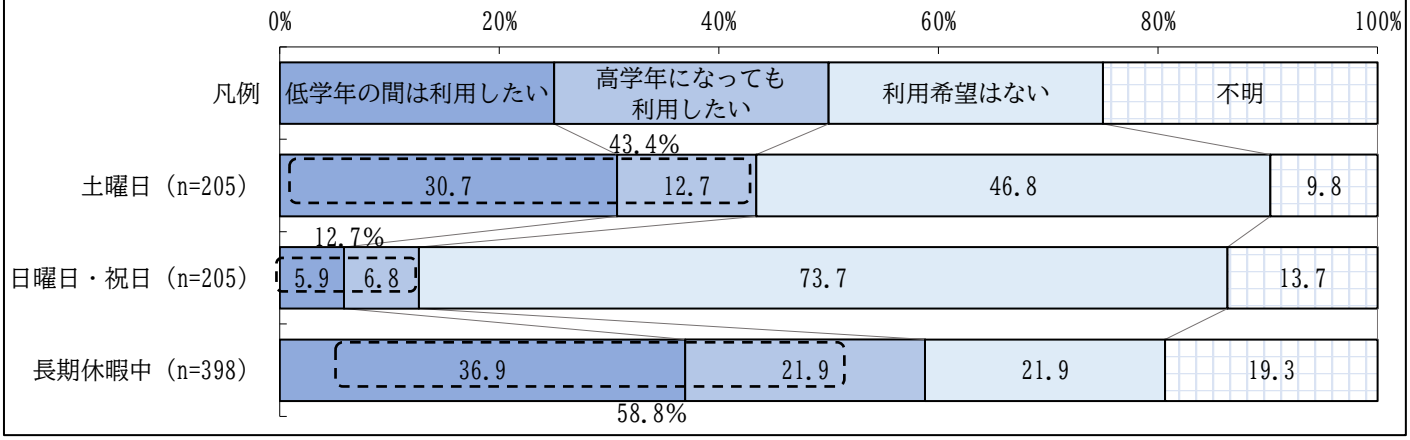
６．土日祝、長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望（対象：5 歳以上の就学前児童のいる世帯と、就学児童のいる世帯）

平日の放課後児童クラブの利用を希望する世帯のうち、土曜日の利用希望について、就学前児童のいる世帯では「利用したい（「低学年の間は利用したい」と「高学年になっても利用したい」）」が 43.4%、「利用希望はない」が 46.8%、就学児童のいる世帯では「利用したい」が 30.5%、「利用希望はない」が 60.0%となっている。

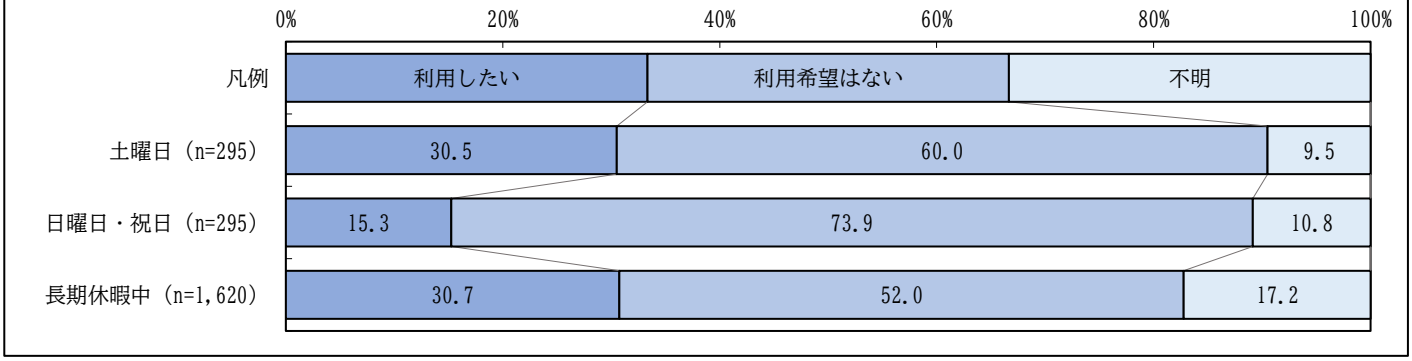
日曜日・祝日の利用希望について、就学前児童のいる世帯では「利用したい」が 12.7%、「利用希望はない」が 73.7%、就学児童のいる世帯では「利用したい」が 15.3%、「利用希望はない」が 73.9%となっている。

平日の放課後児童クラブの利用希望の有無にかかわらず、長期休暇中の利用希望について、就学前児童のいる世帯では「利用したい」が 58.8%、「利用希望はない」が 21.9%、就学児童のいる世帯では「利用したい」が 30.7%、「利用希望はない」が 52.0%となっている。

【5歳以上の就学前児童のいる世帯】＜土日祝、長期休暇中の利用希望＞
（回答対象：土日祝に関しては、平日の放課後児童クラブの利用を希望する世帯に限る。）

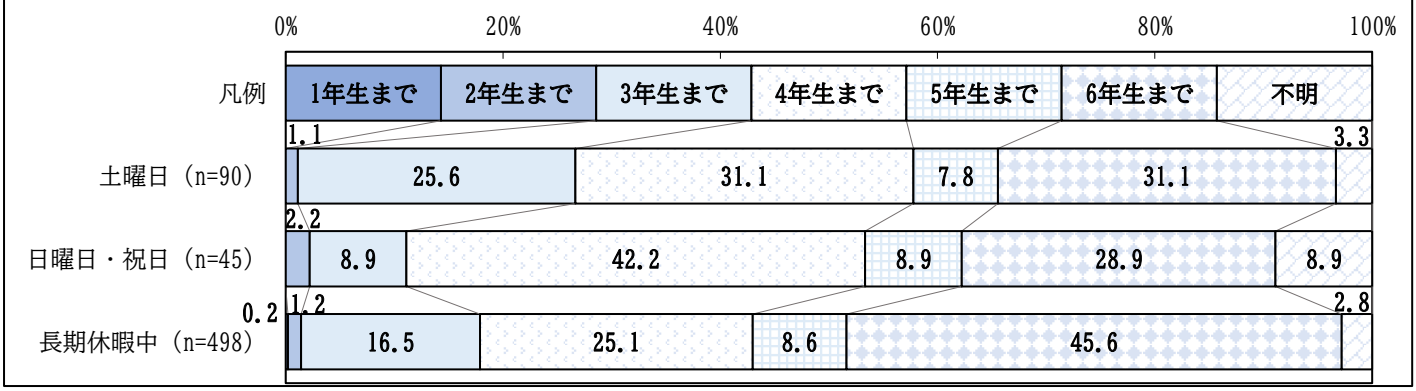


【就学児童のいる世帯】＜土日祝、長期休暇中の利用希望＞
（回答対象：土日祝に関しては、平日の放課後児童クラブの利用を希望する世帯に限る。）



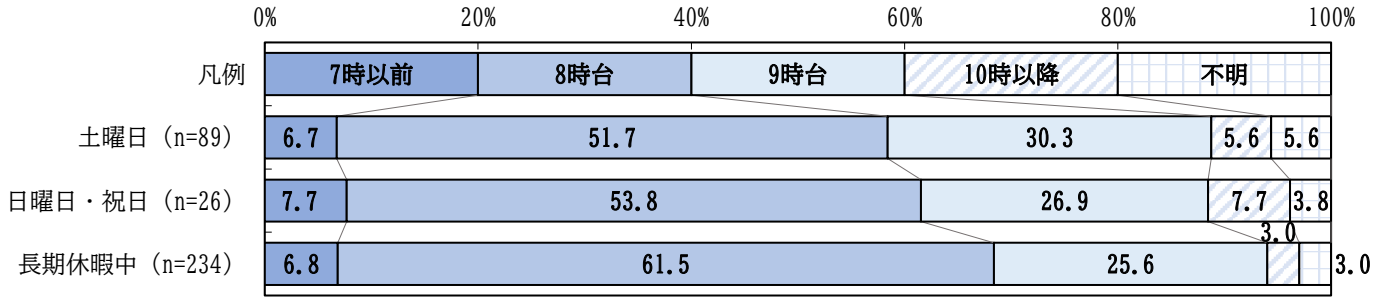
就学児童のいる世帯の放課後児童クラブの利用を希望する学年について、土曜日は「4 年生まで」と「6 年生まで」が最も多く 31.1%、日曜日・祝日は「4 年生まで」が最も多く 42.2%、長期休暇中は「6 年生まで」が最も多く 45.6%となっている。

【就学児童のいる世帯】
＜土日祝、長期休暇中に放課後児童クラブの利用を希望する学年＞

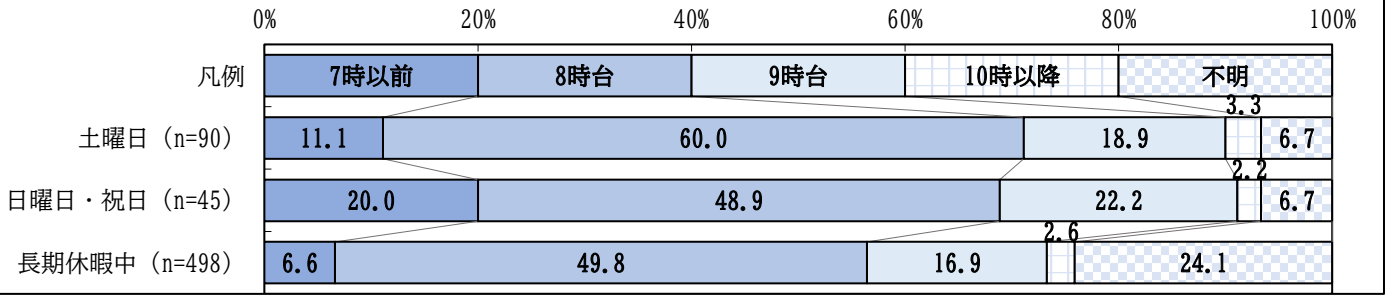


放課後児童クラブの利用を希望する世帯の土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯のうち、開始時刻について、5歳以上の就学前児童のいる世帯、就学児童のいる世帯ともに、「8 時台」が最も多く、次いで「9 時台」となっている。

【5歳以上の就学前児童のいる世帯】＜土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯（開始時刻）＞

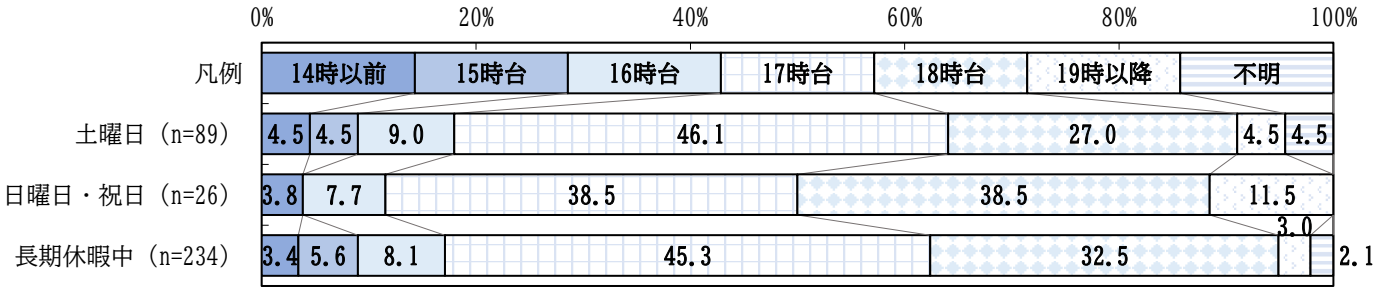


【就学児童のいる世帯】＜土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯（開始時刻）＞

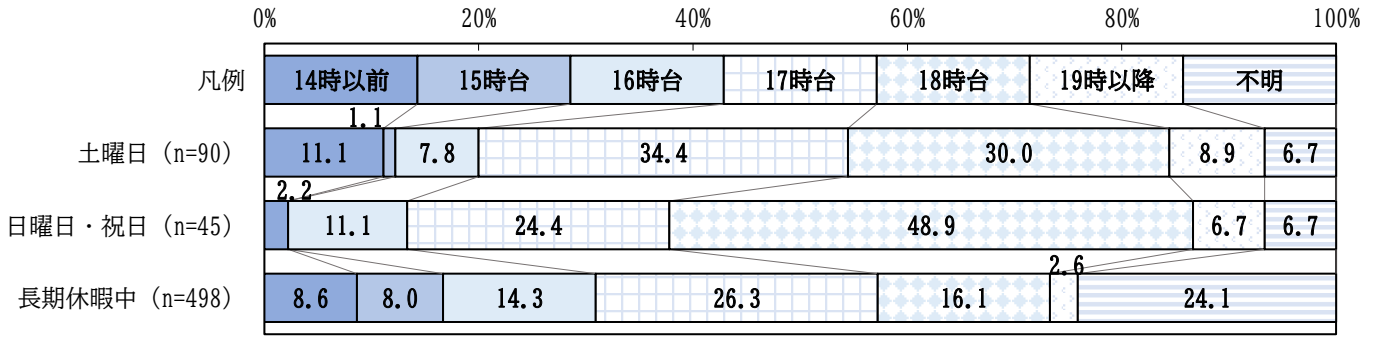


放課後児童クラブの利用を希望する世帯の土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯のうち、終了時刻について、5歳以上の就学前児童のいる世帯、就学児童のいる世帯ともに、「17 時台」と「18 時台」が多いが、就学児童のいる世帯では、長期休暇中は「16 時台」、「14 時以前」も多い傾向が見られる。

【5歳以上の就学前児童のいる世帯】＜土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯（終了時刻）＞



【就学児童のいる世帯】＜土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯（終了時刻）＞

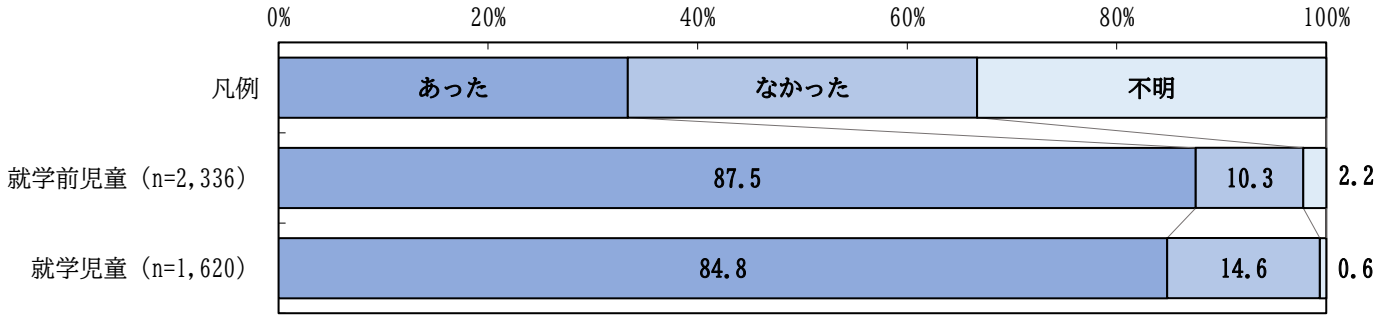


7．病児・病後児保育（対象：平日の定期的な教育・保育事業を利用している就学前児童のいる世帯と、就学児童のいる世帯）

1）こどもの病気・ケガの際の対処

この 1 年間にこどもが病気やケガで教育・保育事業や学校を休んだ経験の有無について、就学前児童のいる世帯では、「あった」が 87.5%、「なかった」が 10.3%となっている。就学児童のいる世帯では、「あった」が 84.8%「なかった」が 14.6%となっている。

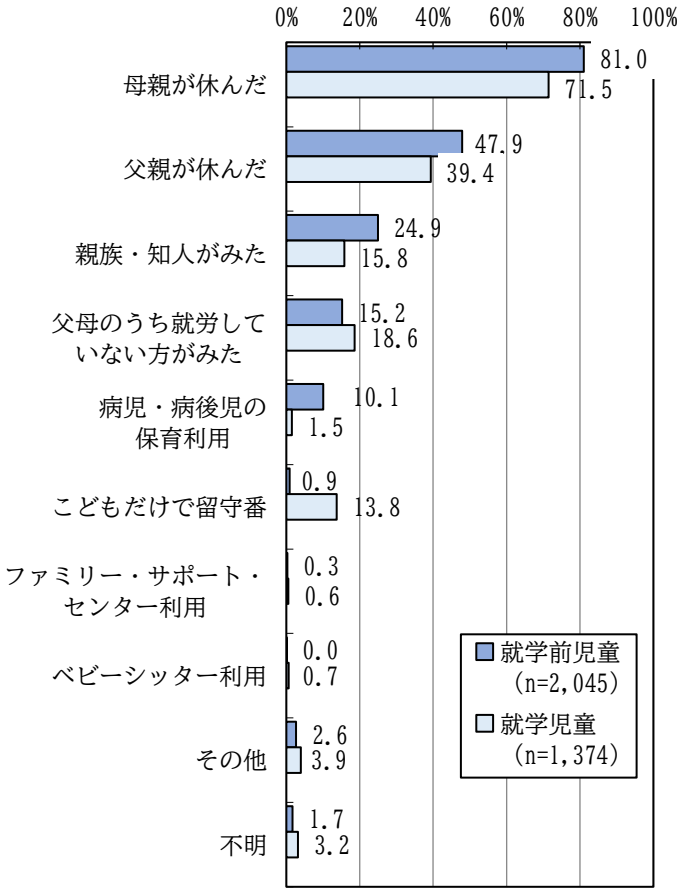
＜この1年間にこどもが病気やケガで教育・保育事業や学校を休んだ経験＞



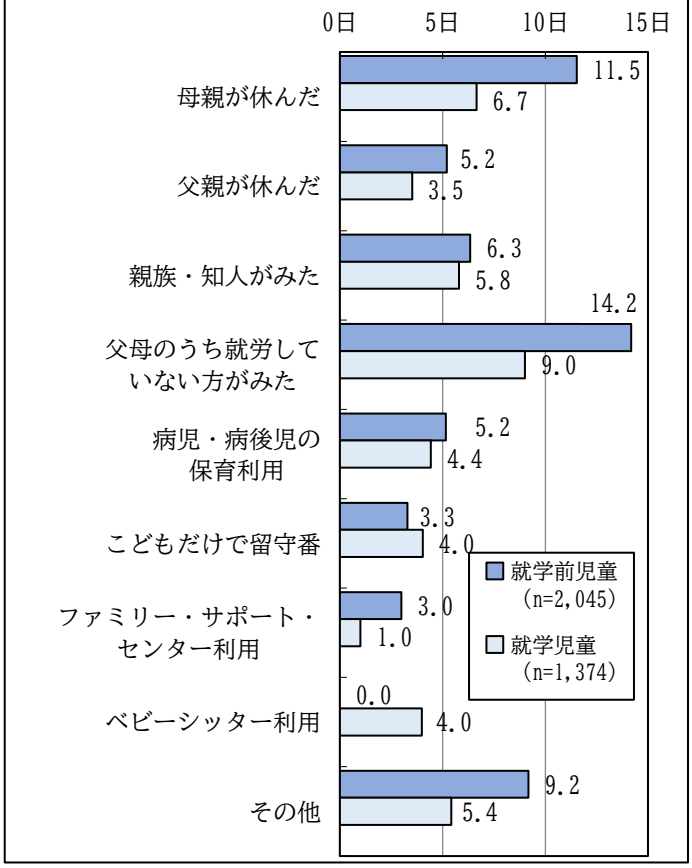
教育・保育事業や学校を休んだ時の対処方法と年間平均日数について、就学前児童のいる世帯では、「母親が休んだ」が最も多く 81.0%で 11.5 日、次いで「父親が休んだ」が 47.9%で 5.2 日、「親族・知人がみた」が 24.9%で 6.3 日となっている。

就学児童のいる世帯では、「母親が休んだ」が最も多く 71.5%で 6.7 日、次いで「父親が休んだ」が 39.4%で 3.5 日、「父母のうち就労していない方がみた」が 18.6%で 9.0 日となっている。

<教育・保育事業や学校を休んだ時の対処方法>（複数回答）



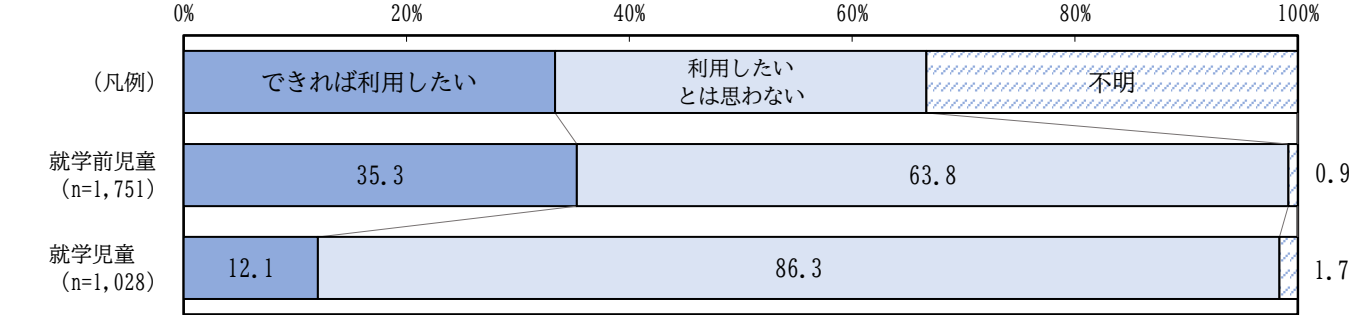
＜教育・保育事業や学校を休んだ時の対処方法別の年間平均日数＞



2）病児・病後児保育についての希望

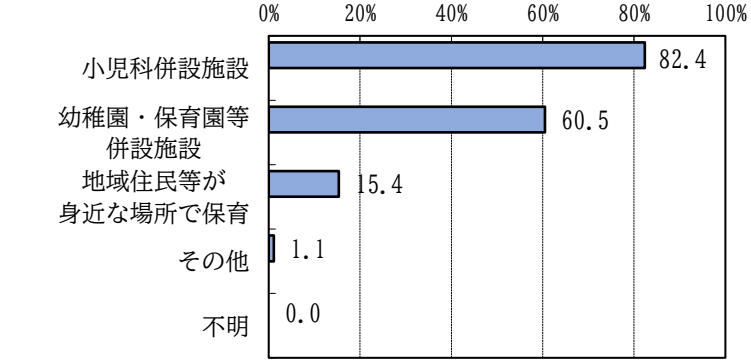
父親又は母親が休んでこどもを看護したことがある世帯の病児・病後児保育施設等の利用希望について、「利用したい」との回答は、就学前児童のいる世帯で 35.3%、就学児童のいる世帯で 12.1%となっている。

＜病児・病後児保育施設等の利用希望＞
（回答対象：父親又は母親が休んで看護したことがある世帯）



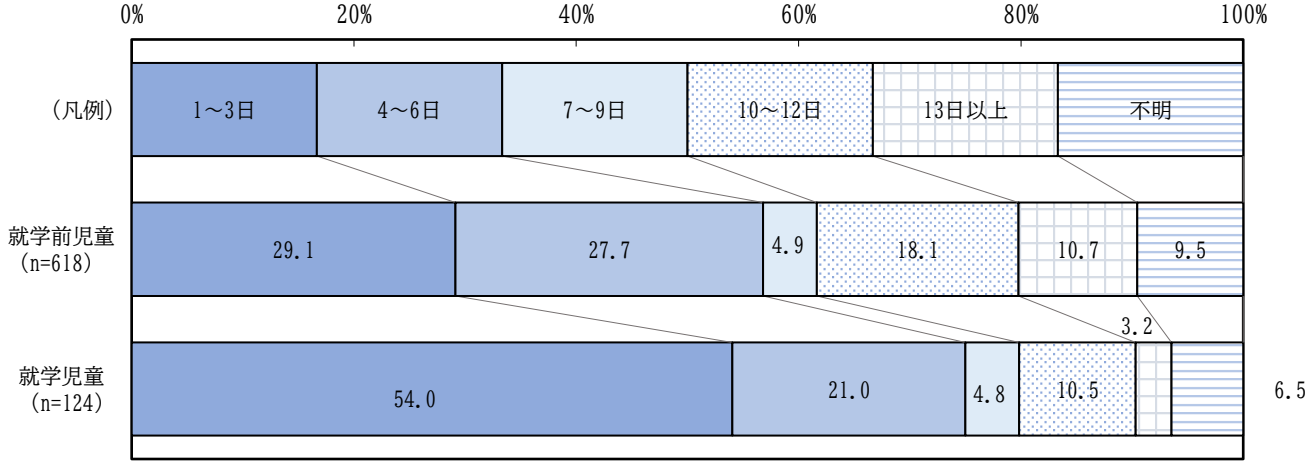
病児・病後児保育施設等の望ましい事業形態について、「小児科併設施設」が最も多く 82.4%、次いで「幼稚園・保育園等併設施設」が 60.5%、「地域住民等が身近な場所で保育」が 15.4%となっている。

【就学前児童のいる世帯】
＜望ましい事業形態＞（複数回答）
（回答対象：父親又は母親が休んで看護したことがある世帯のうち、病児・病後児保育施設等の利用を希望する世帯）（n=618）



病児・病後児保育施設等を利用したい年間の日数については、就学前児童のいる世帯では「1～3 日」が最も多く 29.1%、次いで「4～6 日」が 27.7%、「10～12 日」が 18.1%となっており、就学児童のいる世帯では「1～3 日」が最も多く 54.0%、次いで「4～6 日」が 21.0%、「10～12 日」が 10.5%となっている。

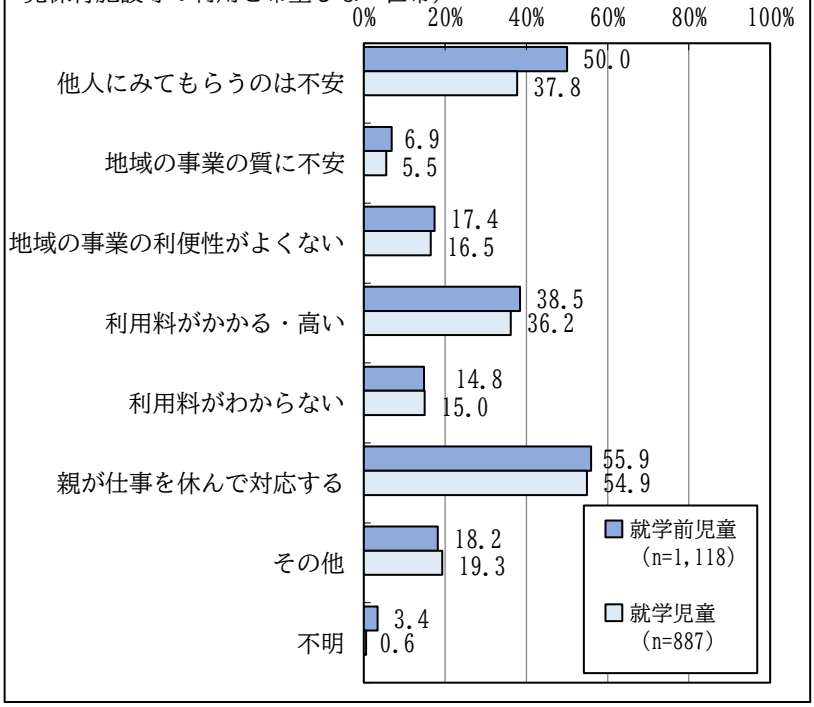
＜病児・病後児保育施設等を利用したい日数(年間)＞
（回答対象：父親又は母親が休んで看護したことがある世帯のうち、病児・病後児保育施設等の利用を希望する世帯）



病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由について、就学前児童のいる世帯では、「親が仕事を休んで対応する」が最も多く55.9%、次いで「他人にみてもらうのは不安」が50.0%、「利用料がかかる・高い」が38.5%となっている。

就学児童のいる世帯では、「親が仕事を休んで対応する」が最も多く54.9%、次いで「他人にみてもらうのは不安」が37.8%、「利用料がかかる・高い」が36.2%となっている。

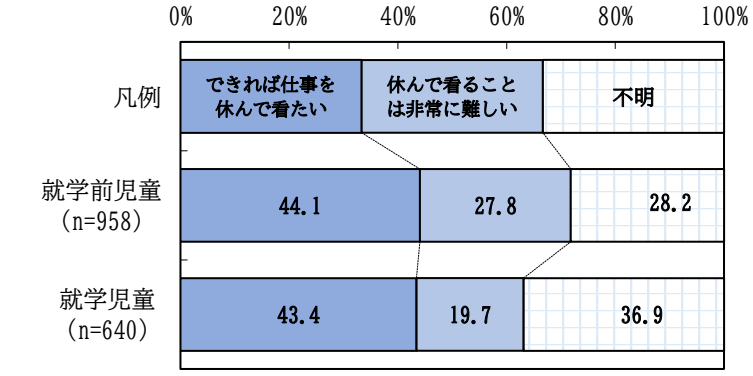
＜病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由＞(複数回答)
（回答対象：父親又は母親が休んで看護した世帯のうち、病児・病後児保育施設等の利用を希望しない世帯）



3）こどもが病気の際に親が仕事を休んで看護することの希望とその困難度

こどもが病気の際に親が仕事を休んで看護することの希望について、就学前児童のいる世帯では「できれば仕事を休んで看たい」が44.1%、「休んで看ることは非常に難しい」が27.8%、就学児童のいる世帯では「できれば仕事を休んで看たい」が43.4%、「休んで看ることは非常に難しい」が19.7%となっている。

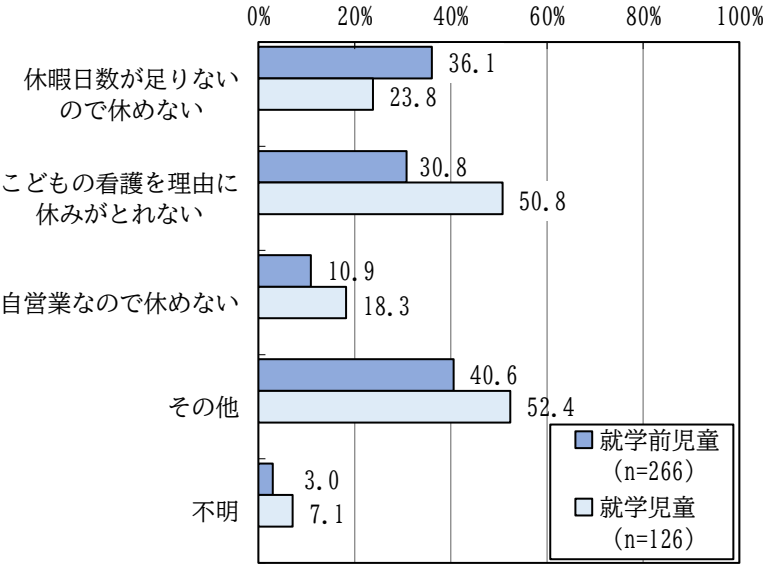
＜こどもが病気の際に親が仕事を休んで看護することの希望＞
（回答対象者：親以外の人に看てもらったことがある世帯）



親が休んで看護することが非常に難しい理由について、「その他」を除き、就学前児童のいる世帯では、「休暇日数が足りないので休めない」が最も多く36.1%、次いで「こどもの看護を理由に休みがとれない」が30.8%、「自営業なので休めない」が10.9%となっている。

就学児童のいる世帯では、「こどもの看護を理由に休みがとれない」が最も多く50.8%、次いで「休暇日数が足りないので休めない」が23.8%、「自営業なので休めない」が18.3%となっている。

＜親が休んで看護することが非常に難しい理由＞（複数回答）
（回答対象者：親が休んで看護することが非常に難しい世帯）

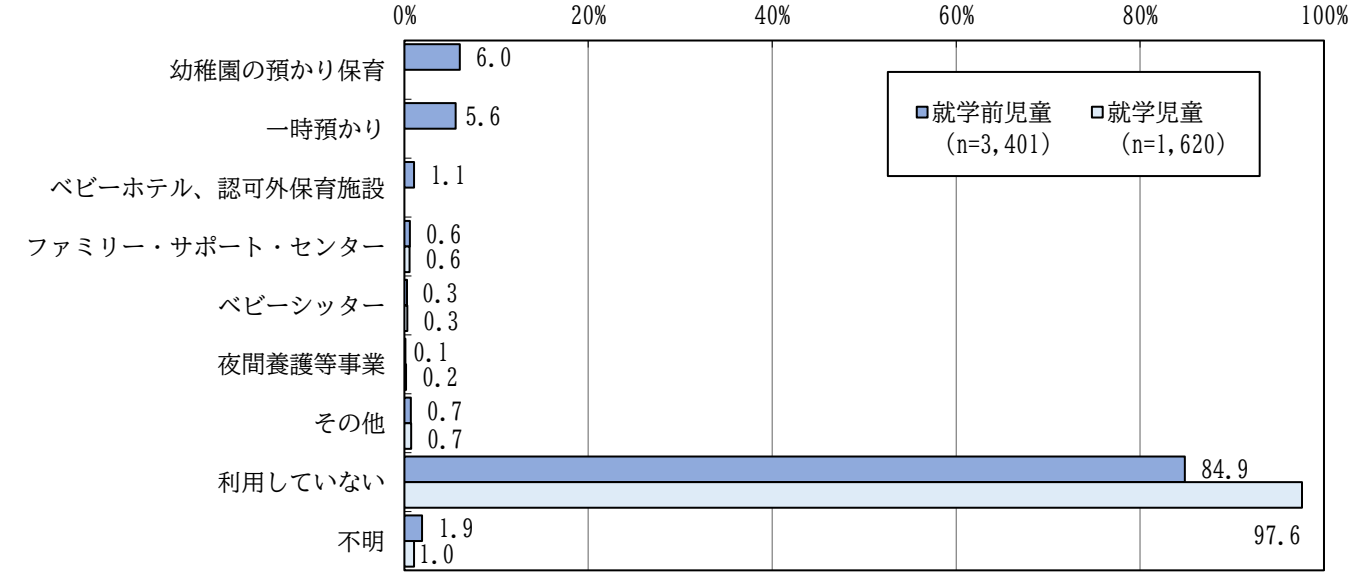


８．一時預かり等

１）利用している一時預かり等

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で利用している一時預かり等について、就学前児童のいる世帯では「幼稚園の預かり保育」が最も多く 6.0%、次いで「一時預かり」が 5.6%となっており、就学児童のいる世帯ではいずれの一時預かり等も 1%未満となっている。一方、一時預かり等を利用していない世帯は、就学前児童のいる世帯で 84.9%、就学児童のいる世帯で 97.6%となっている。

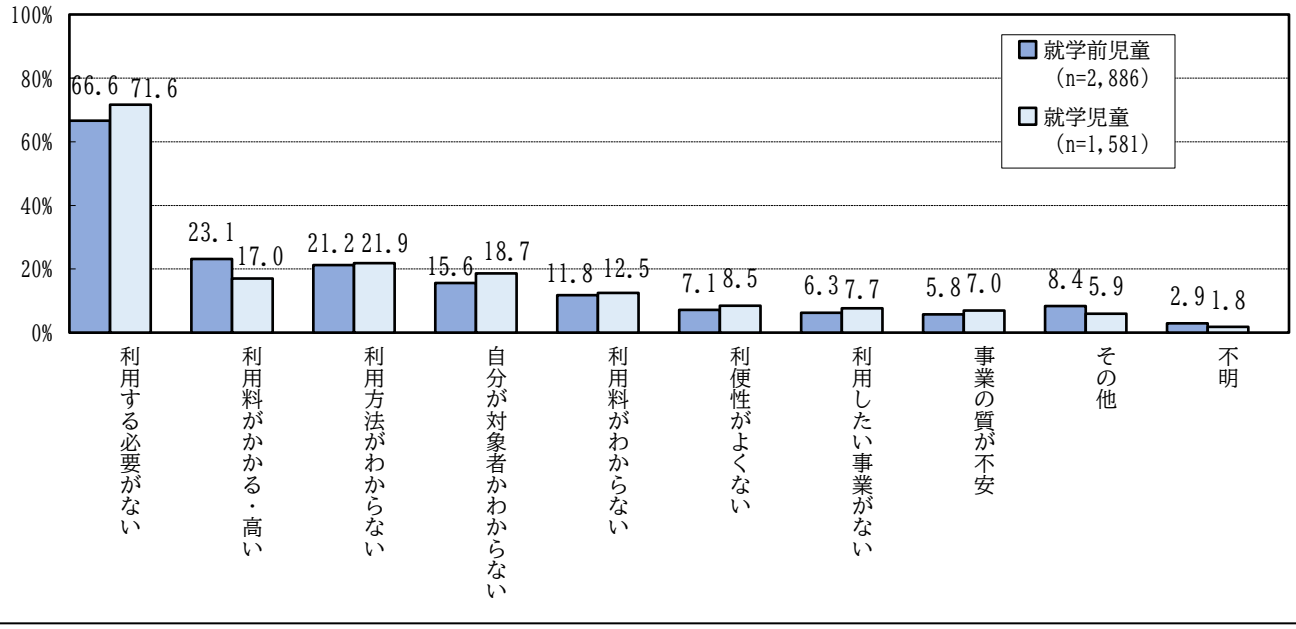
＜私用、親の通院、不定期の就労等の目的で利用している一時預かり等＞（複数回答）



２）一時預かり等を利用していない理由

一時預かり等を現在利用していない理由について、就学前児童のいる世帯では「利用する必要がない」が最も多く 66.6%、次いで「利用料がかかる・高い」が 23.1%、「利用方法がわからない」が 21.2%となっており、就学児童のいる世帯では「利用する必要がない」が最も多く 71.6%、次いで「利用方法がわからない」が 21.9 %、「自分が対象者かわからない」が 18.7%となっている。

＜一時預かり等を現在利用していない理由＞（複数回答）

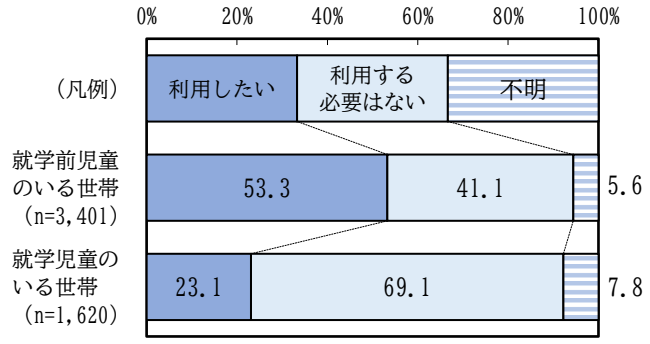


3）一時預かり等の利用希望

一時預かり等の利用希望について、「利用したい」との回答は、就学前児童のいる世帯では 53.3%、就学児童のいる世帯では 23.1%となっている。

内訳を見ると、「利用したい」との回答は、0 歳児のいる世帯で最も多く 55.7%、高学年で最も低く 15.8%となっている。

＜一時預かり等の利用希望＞

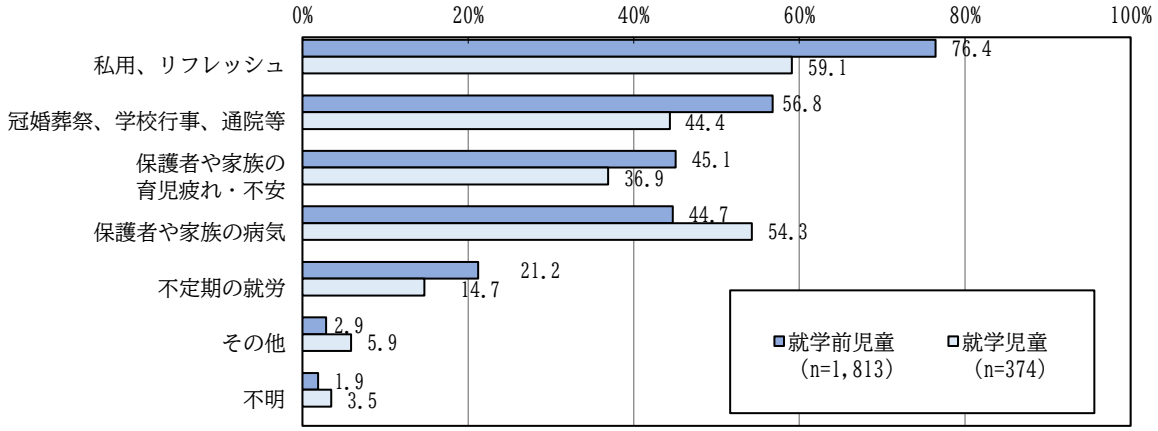


＜内訳＞

	利用したい	利用する必要はない	不明
就学前児童・計	53.3%	41.1%	5.6%
0歳	55.7%	39.4%	5.0%
1歳	55.4%	37.7%	7.0%
2歳	51.8%	43.3%	4.9%
3歳以上	51.1%	43.1%	5.8%
不明	35.0%	60.0%	5.0%
就学児童・計	23.1%	69.1%	7.8%
低学年	32.2%	60.9%	6.9%
高学年	15.8%	76.4%	7.8%
不明	5.9%	67.6%	26.5%

一時預かり等の利用を希望する目的について、就学前児童のいる世帯では、「私用、リフレッシュ」が最も多く 76.4%、次いで「冠婚葬祭、学校行事、通院」が 56.8%、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が 45.1%となっている。就学児童のいる世帯では、「私用、リフレッシュ」が最も多く 59.1%、次いで「保護者や家族の病気」が 54.3%、「冠婚葬祭、学校行事、通院」が 44.4%となっている。

＜利用の目的＞（複数回答）（回答対象：一時預かり等の利用を希望する世帯）

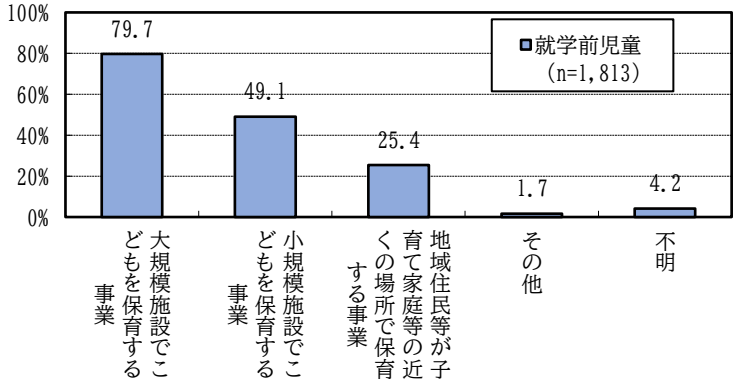


一時預かり等の望ましい事業形態について、「大規模施設でこどもを保育する事業」が最も多く 79.7%、次いで「小規模施設でこどもを保育する事業」が 49.1%、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」が 25.4%となっている。

【就学前児童のいる世帯】

＜一時預かり等の望ましい事業形態＞（複数回答）

（回答対象：一時預かり等の利用を希望する世帯）

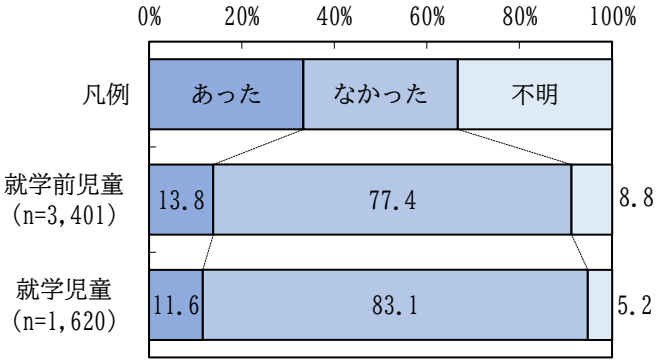


4）こどもを泊まりがけで家族以外に監護してもらわなければならなかった経験

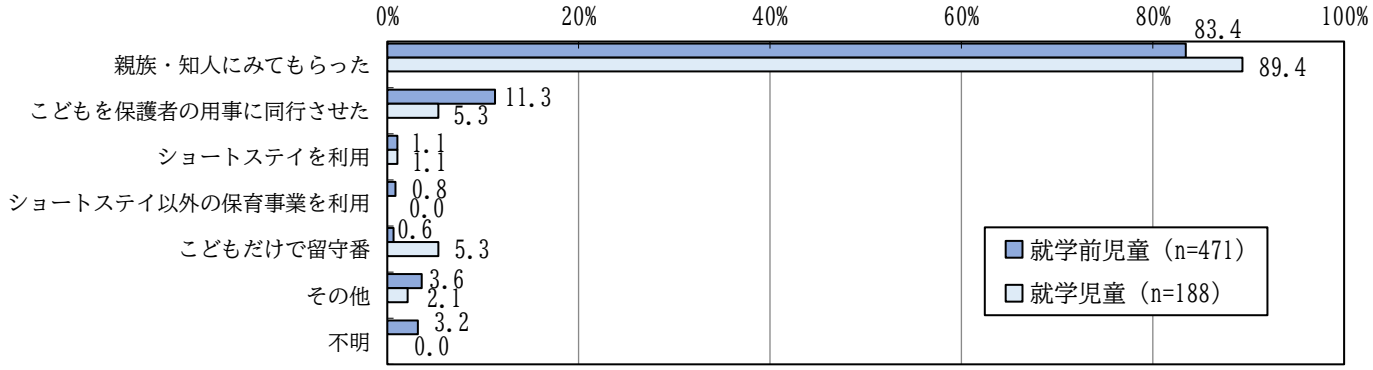
この 1 年間にこどもを泊まりがけで家族以外に監護してもらわなければならなかった経験について、就学前児童のいる世帯では「あった」が 13.8%、「なかった」が 77.4%となっており、就学児童のいる世帯では「あった」が 11.6%、「なかった」が 83.1%となっている。

その際の対処方法について、「親族・知人にみてもらった」との回答が最も多く、就学前児童のいる世帯では 83.4%、就学児童のいる世帯では 89.4%となっており、その年間平均日数は、それぞれ 5.2 日、4.2 日となっている。

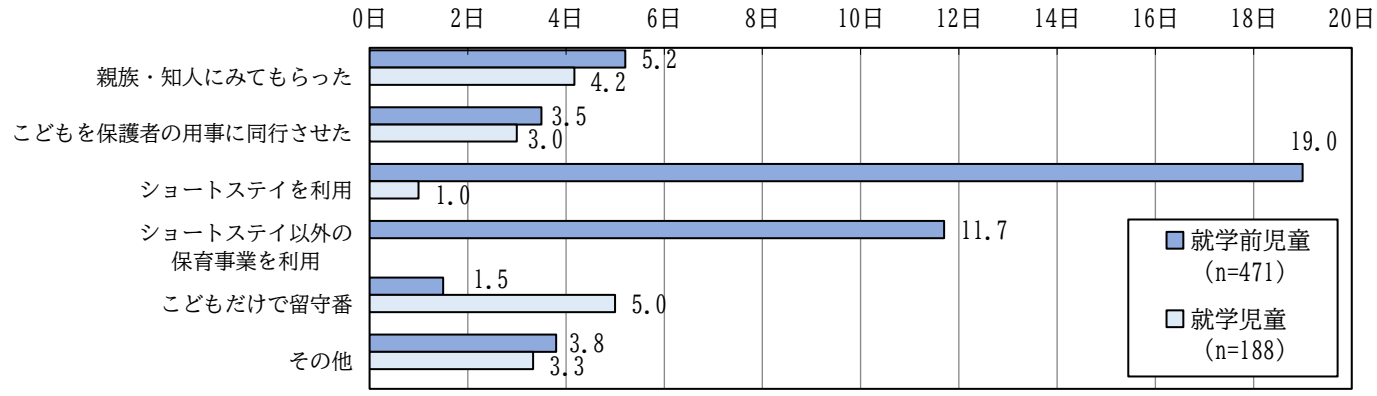
＜この 1 年間にこどもを泊まりがけで家族以外に監護してもらわなければならなかった経験＞



＜こどもを監護してもらわなければならなかった時の対処方法＞（複数回答）

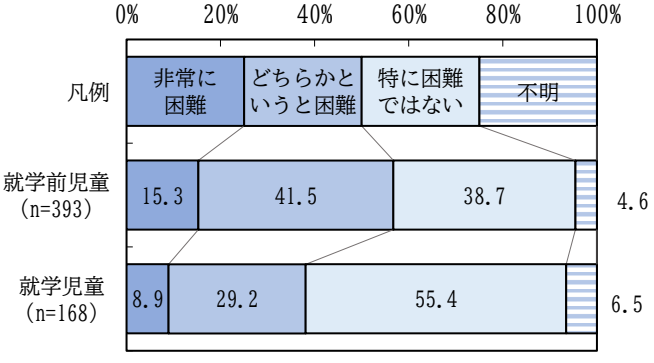


＜対処方法別の年間平均日数＞（複数回答）



親族・知人に預ける場合の困難度について、就学前児童のいる世帯では「どちらかというと困難」が最も多く 41.5%、次いで「特に困難ではない」が 38.7%、「非常に困難」が 15.3%となっており、就学児童のいる世帯では「特に困難ではない」が最も多く 55.4%、次いで「どちらかというと困難」が 29.2%、「非常に困難」が 8.9%となっている。

＜親族・知人に預ける場合の困難度＞
（回答対象：親族・知人に預けたことがある世帯）



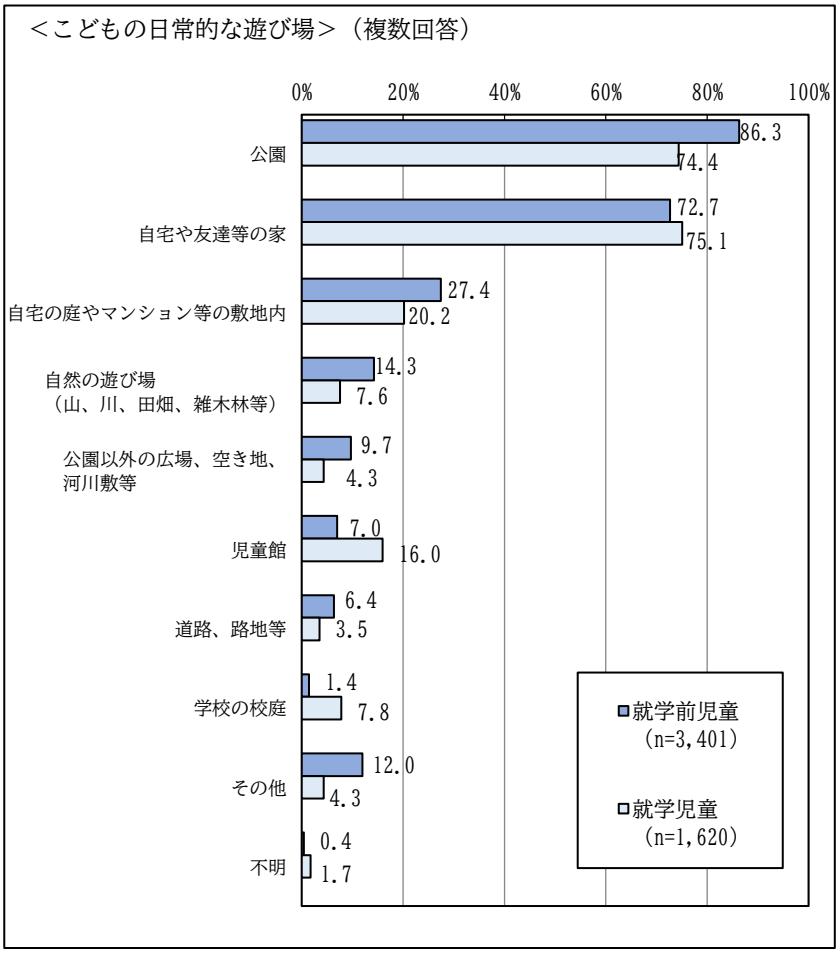
１．こどもの遊び環境

１）こどもの日常的な遊び場

こどもの日常的な遊び場について、就学前児童のいる世帯では「公園」が最も多く86.3%、次いで「自宅や友達の家」が72.7%、「自宅の庭やマンション等の敷地内」が27.4%となっており、就学児童のいる世帯では「自宅や友達等の家」が最も多く75.1%、次いで「公園」が74.4%、「自宅の庭やマンション等の敷地内」が20.2%となっている。

内訳を見ると、「公園」は2歳児のいる世帯で最も多く、92.1%となっている。

＜こどもの日常的な遊び場＞（複数回答）



＜内訳＞

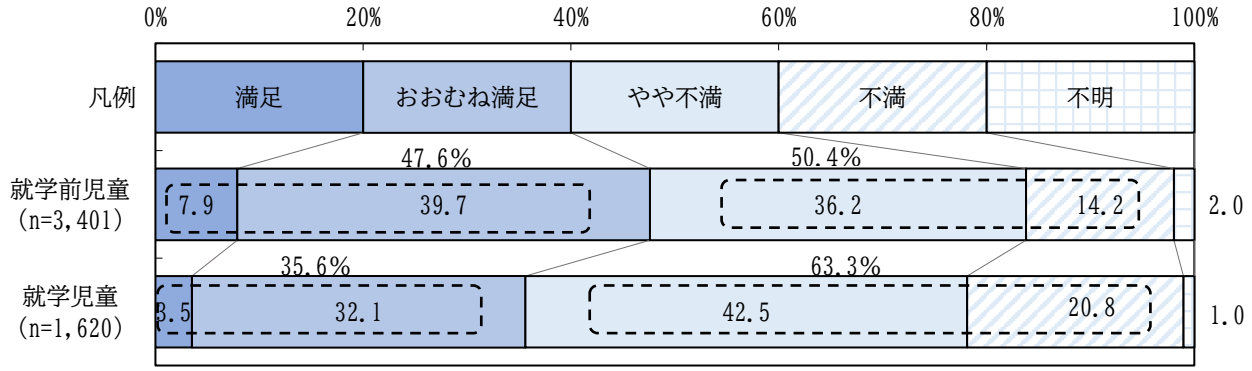
	公園	自宅や友達等の家	自宅の庭やマンション等の敷地内	自然の遊び場（山、川、田畑、雑木林等）	公園以外の広場、空き地、河川敷等	児童館	道路・路地等	学校の校庭	その他	不明
就学前児童・計	86.3%	72.7%	27.4%	14.3%	9.7%	7.0%	6.4%	1.4%	12.0%	0.4%
0歳	79.7%	74.9%	25.4%	10.9%	10.1%	13.5%	7.3%	0.9%	16.5%	0.3%
1歳	90.4%	71.1%	28.2%	16.1%	10.2%	5.7%	7.0%	1.6%	15.5%	0.5%
2歳	92.1%	71.4%	27.9%	15.3%	10.5%	3.2%	5.6%	0.6%	13.2%	0.4%
3歳以上	87.8%	72.1%	28.6%	16.0%	8.6%	3.1%	5.7%	2.3%	5.6%	0.5%
不明	95.0%	65.0%	40.0%	20.0%	15.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%
就学児童・計	74.4%	75.1%	20.2%	7.6%	4.3%	16.0%	3.5%	7.8%	4.3%	1.7%
低学年	74.1%	72.3%	22.7%	9.9%	4.7%	24.3%	3.9%	6.8%	4.2%	1.2%
高学年	74.6%	77.5%	18.0%	5.3%	3.9%	9.0%	3.0%	9.0%	4.5%	1.9%
不明	76.5%	73.5%	20.6%	14.7%	5.9%	8.8%	8.8%	2.9%	2.9%	8.8%

2）こどもの遊び環境への満足度

自身のこども時代と比べた遊び環境に対する満足度について、就学前児童のいる世帯では、「満足」と「おおむね満足」の合計値は 47.6%、「不満」と「やや不満」の合計値は 50.4%となっている。就学児童のいる世帯では、「満足」と「おおむね満足」の合計値は 35.6%、「不満」と「やや不満」の合計値は 63.3%となっている。

内訳を見ると、「満足」と「おおむね満足」の合計値は 1 歳児のいる世帯で最も高く 54.9%、高学年で最も低く 33.9%となっており、「不満」と「やや不満」の合計値は、高学年で最も高く 64.8%、 1 歳児のいる世帯で最も低く 43.4%となっている。

＜自身のこども時代と比べた遊び環境の満足度＞



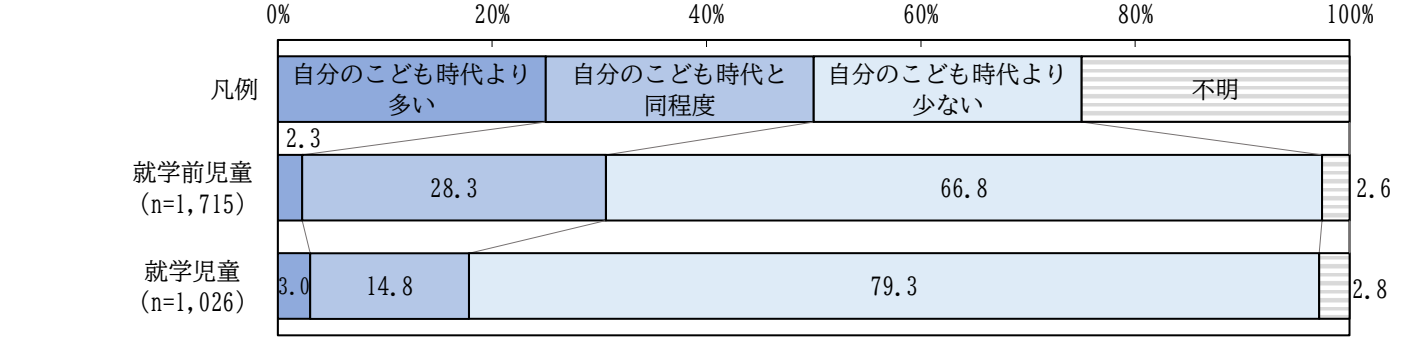
＜内訳＞

	満足	おおむね満足	やや不満	不満	不明
就学前児童・計	7.9%	39.7%	36.2%	14.2%	2.0%
0歳	9.5%	42.2%	32.6%	12.8%	3.0%
1歳	9.5%	45.4%	31.4%	12.0%	1.8%
2歳	8.5%	35.6%	37.7%	16.6%	1.7%
3歳以上	5.4%	36.2%	41.4%	15.7%	1.3%
不明	5.0%	65.0%	20.0%	10.0%	0.0%
就学児童・計	3.5%	32.1%	42.5%	20.8%	1.0%
低学年	3.9%	33.8%	41.8%	20.1%	0.4%
高学年	3.0%	30.9%	43.4%	21.4%	1.4%
不明	8.8%	26.5%	38.2%	20.6%	5.9%

54.9%
43.4%
33.9%
64.5%

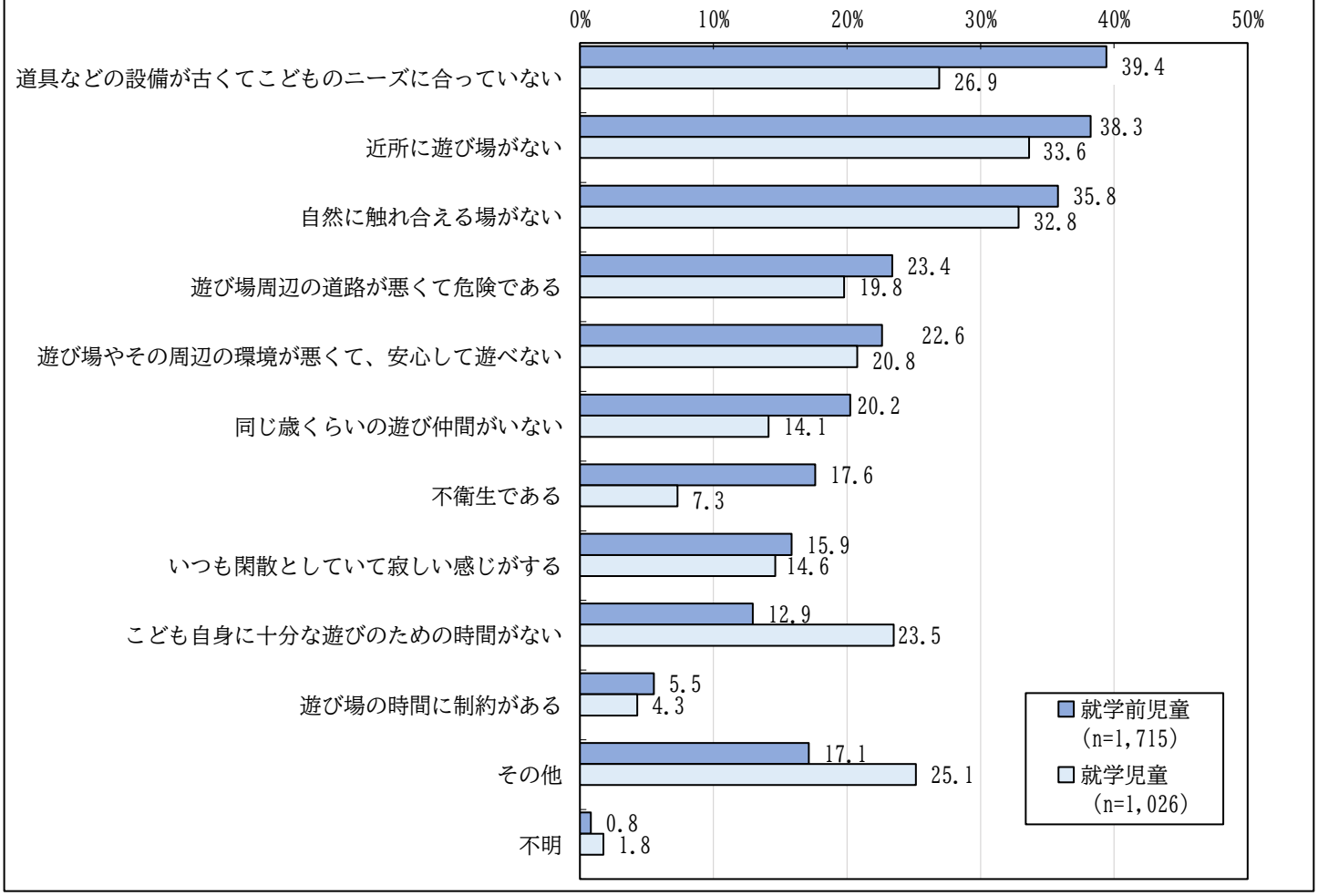
こどもの遊び環境に不満がある世帯の自身のこども時代と比べた遊び時間について、就学前児童のいる世帯では「自分のこども時代より少ない」が最も多く 66.8%、次いで「自分のこども時代と同程度」が 28.3%、「自分のこども時代より多い」が 2.3%となっており、就学児童のいる世帯では「自分のこども時代より少ない」が最も多く 79.3%、次いで「自分のこども時代と同程度」が 14.8%、「自分のこども時代より多い」が 3.0%となっている。

＜自身のこども時代と比べたこどもの遊び時間＞（回答対象：こどもの遊び環境に不満がある世帯）



こどもの遊び環境に対する不満な点について、就学前児童のいる世帯では「道具などの設備が古くてこどものニーズに合っていない」が最も多く 39.4%、次いで「近所に遊び場がない」が 38.3%、「自然に触れ合える場がない」が 35.8%となっており、就学児童のいる世帯では「近所に遊び場がない」が最も多く 33.6%、次いで「自然に触れ合える場がない」が 32.8%、「道具などの設備が古くてこどものニーズに合っていない」が 26.9%となっている。

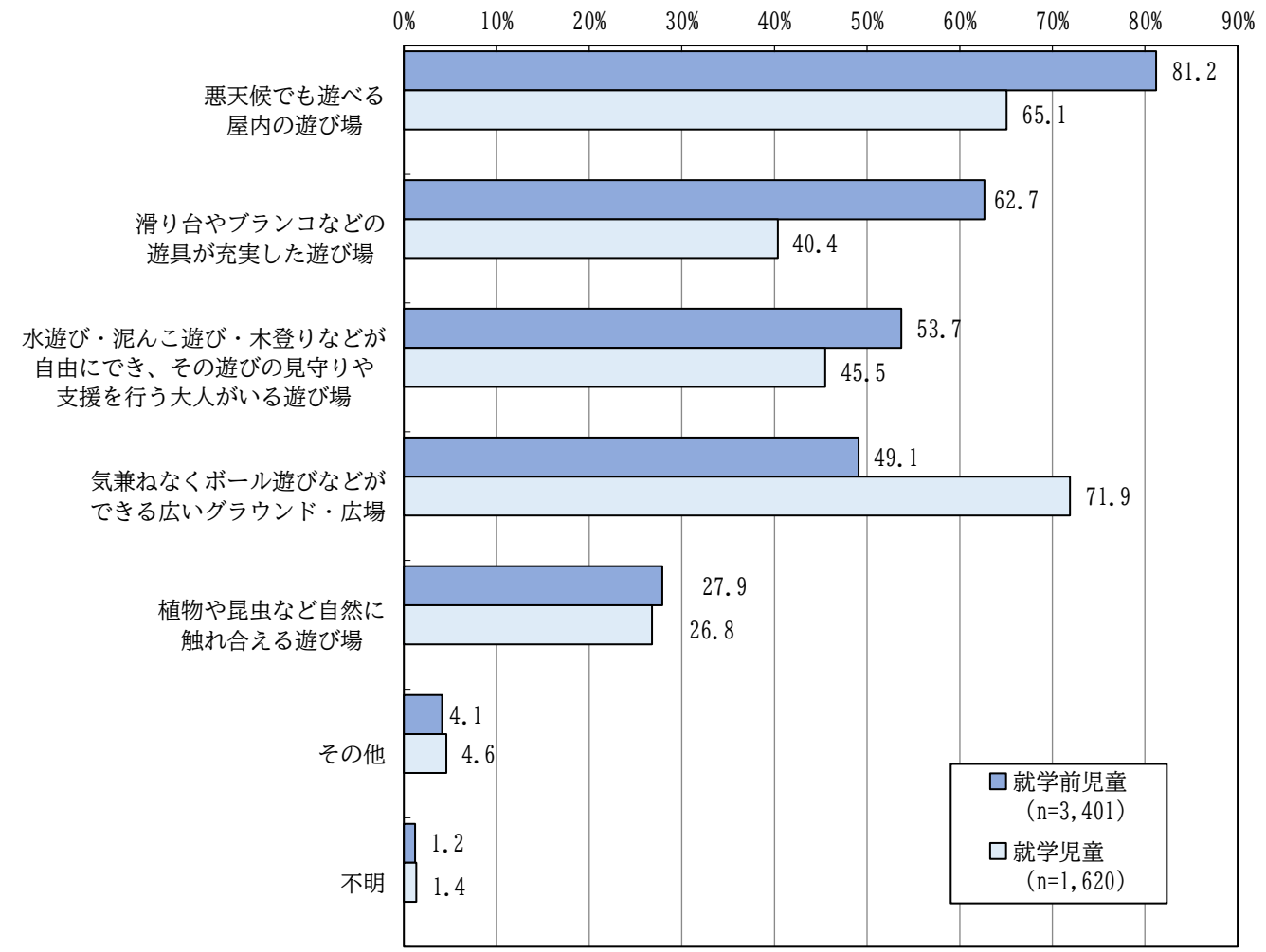
＜こどもの遊び環境に対する不満な点＞（複数回答）（回答対象者：こどもの遊び環境に不満がある世帯）



3）こどもの遊び場への要望

どんな遊び場があればいいと思うかについて、就学前児童のいる世帯では「悪天候でも遊べる屋内の遊び場」が最も多く 81.2%、次いで「滑り台やブランコなどの遊具が充実した遊び場」が 62.7%、「水遊び・泥んこ遊び・木登りなどが自由にでき、その遊びの見守りや支援を行う大人がいる遊び場」が 53.7%となっており、就学児童のいる世帯では「気兼ねなくボール遊びなどができる広いグラウンド・広場」が最も多く 71.9%、次いで「悪天候でも遊べる屋内の遊び場」が 65.1%、「水遊び・泥んこ遊び・木登りなどが自由にでき、その遊びの見守りや支援を行う大人がいる遊び場」が 45.5%となっている。

＜どんな遊び場があればいいと思うか＞（複数回答）

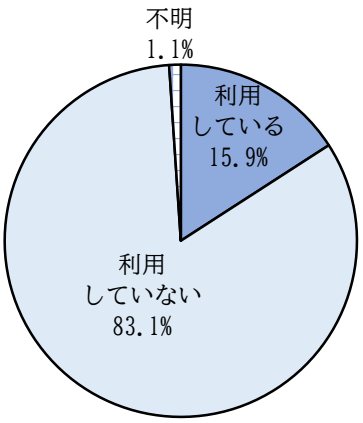


2．地域子育て支援拠点事業（対象：就学前児童のいる世帯）

1）常設オープンスペースの利用状況

常設オープンスペースの利用について、「利用している」が 15.9%、「利用していない」が 83.1%となっている。
内訳を見ると、「利用している」との回答は、0 歳児のいる世帯で 32.2%、1 歳児のいる世帯で 18.6%、2 歳児のいる世帯で 9.2%、3 歳児以上のいる世帯で 2.3%となっており、こどもの年齢が低いほど利用率は高くなっている。

＜常設ｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽの利用の有無＞
（ｎ＝3,401）

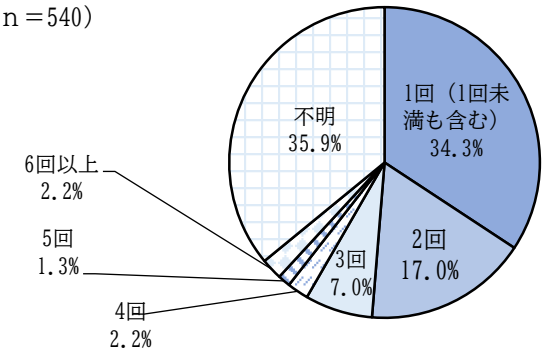


＜内訳＞

	利用している	利用していない	不明
全体	15.9%	83.1%	1.1%
0歳	32.2%	66.2%	1.6%
1歳	18.6%	80.7%	0.7%
2歳	9.2%	89.6%	1.1%
3歳以上	2.3%	97.0%	0.7%
不明	15.0%	85.0%	0.0%

1 か月当たりの利用頻度について、「1 回（1 回未満も含む）」が最も多く 34.3%、次いで「2 回」が 17.0%、「3 回」が 7.0%となっている。

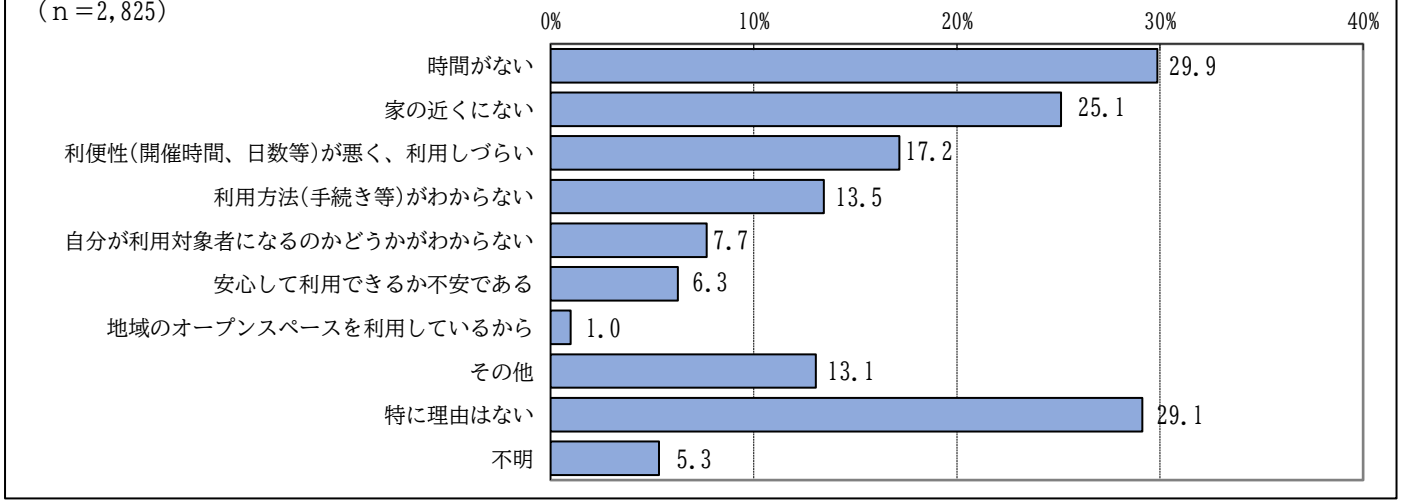
＜常設ｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽの 1 か月当たりの利用頻度＞
（回答対象：常設オープンスペースを利用している世帯）
（ｎ＝540）



2）常設オープンスペースを利用していない理由

常設オープンスペースを利用していない理由について、「時間がない」が最も多く 29.9%、次いで「家の近くにない」が 25.1%となっている。また、「特に理由はない」についても 29.1%と 3 割近い数値を示している。

＜常設オープンスペースを利用していない理由＞（複数回答）（回答対象：常設オープンスペースを利用していない世帯）
（ｎ＝2,825）

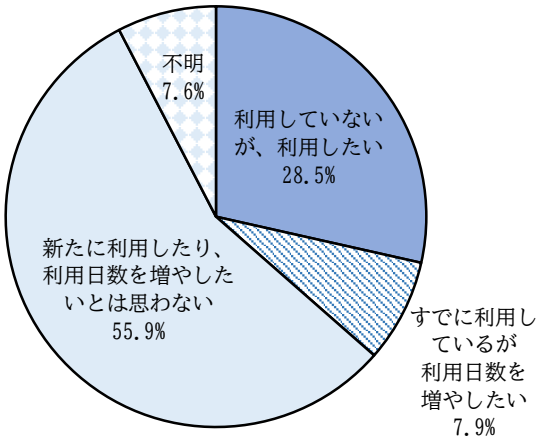


3）常設オープンスペースの利用希望

常設オープンスペースの利用希望について、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が最も多く 55.9%、次いで「利用していないが、利用したい」が 28.5%、「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」が 7.9%となっている。

内訳を見ると、「利用していないが、利用したい」と「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」の合計は、0 歳児のいる世帯では 48.2%、1 歳児のいる世帯では 42.8%、2 歳児のいる世帯では 31.8%、3 歳児以上のいる世帯では 24.4%となっており、こどもの年齢が低いほど利用希望率は高くなっている。

＜常設オープンスペースの今後の利用希望＞
（ｎ＝3,401）



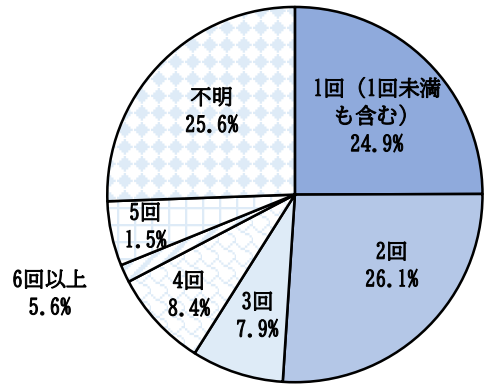
＜内訳＞

	利用していないが、利用したい	すでに利用しているが利用日数を増やしたい	新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない	不明
全体	28.5%	7.9%	55.9%	7.6%
0歳	31.6%	16.6%	45.7%	6.1%
1歳	33.2%	9.6%	50.0%	7.1%
2歳	27.7%	4.1%	60.6%	7.5%
3歳以上	23.6%	0.8%	66.4%	9.1%
不明	35.0%	0.0%	45.0%	20.0%

48.2%
42.8%
31.8%
24.4%

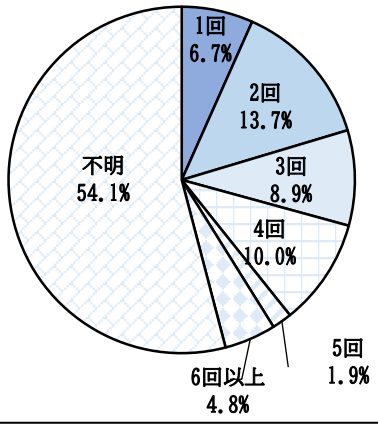
常設オープンスペースの 1 か月当たりの利用希望回数について、「2 回」が最も多く 26.1%、次いで「1 回（1 回未満も含む）」が 24.9%、「4 回」が 8.4%となっている。

＜常設ｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽの1か月当たりの利用希望回数＞
（回答対象：常設オープンスペースを利用していないが、今後、利用したい世帯）（n=970）



常設オープンスペースの 1 か月当たりの追加利用回数について、「2 回」が最も多く 13.7%、次いで「4 回」が 10.0%、「3 回」が 8.9%となっている。

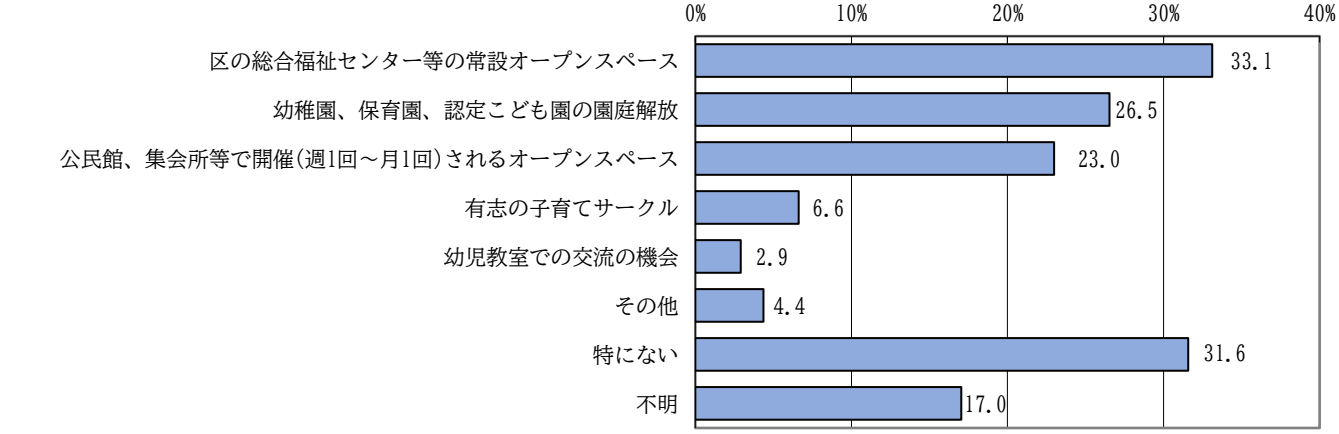
＜常設ｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽの 1 か月当たりの追加利用回数＞
（回答対象：すでに利用しているが利用日数を増やしたい世帯）
（ｎ＝270）



4）3歳未満のこどもを対象とした交流の場の利用

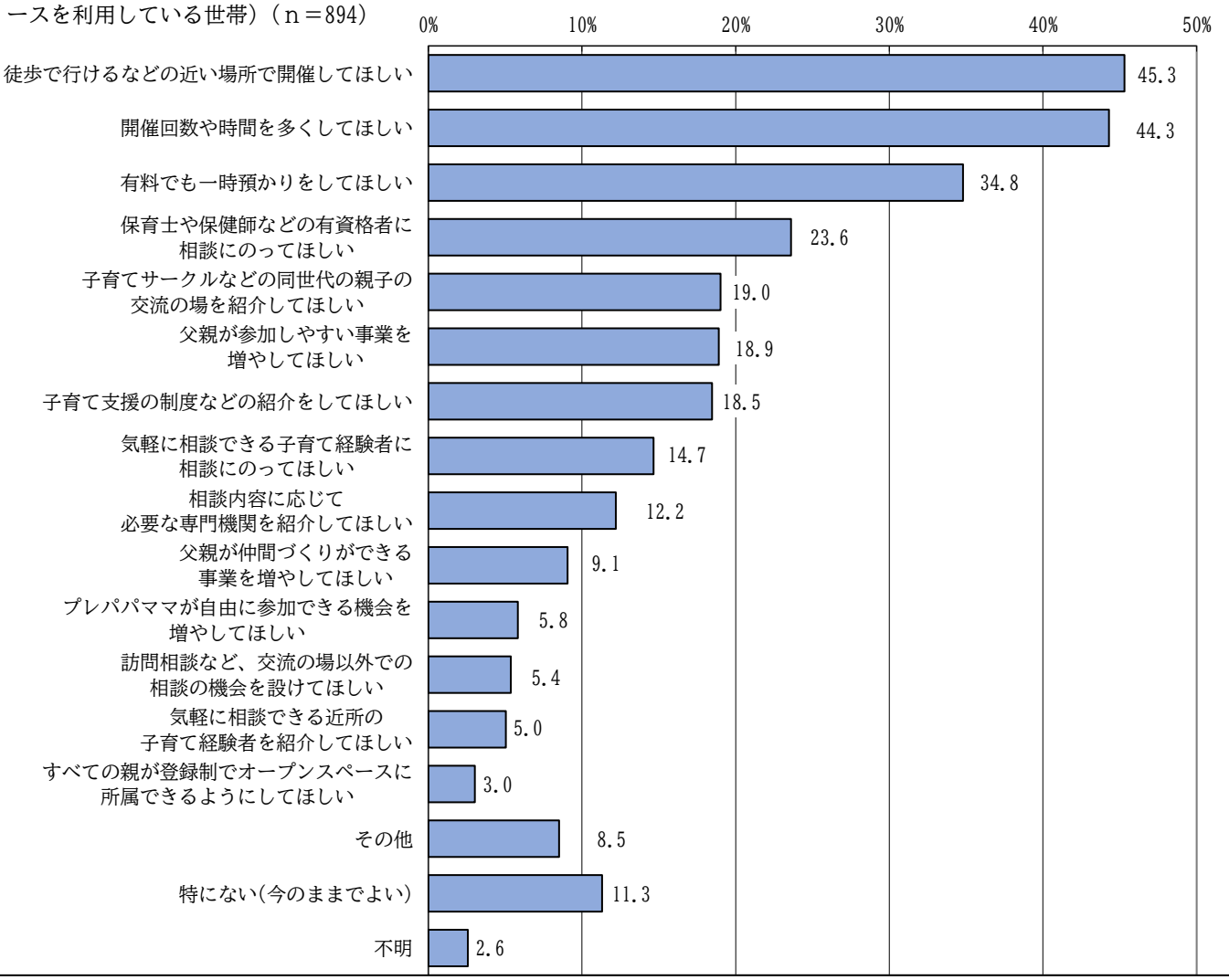
これまでにこどもと一緒に参加した交流の場について、「区の総合福祉センター等の常設オープンスペース」が最も多く 33.1%、次いで「幼稚園、保育園、認定こども園の園庭解放」が 26.5%、「公民館、集会所等で開催（週 1 回～月 1 回）されるオープンスペース」が 23.0%となっている。

＜これまでにこどもと一緒に参加した交流の場＞（複数回答）
（回答対象：就学前児童のいる世帯のうち、こどもが3歳未満の世帯）（ｎ＝2,201）



オープンスペースに対する希望について、「徒歩で行けるなどの近い場所で開催してほしい」が最も多く 45.3%、次いで「開催回数や時間を多くしてほしい」が 44.3%、「有料でも一時預かりをしてほしい」が 34.8%となっている。

＜オープンスペースに対する希望＞（複数回答）（回答対象：就学前児童のいる世帯のうち、こどもが3歳未満でオープンスペースを利用している世帯）（ｎ＝894）

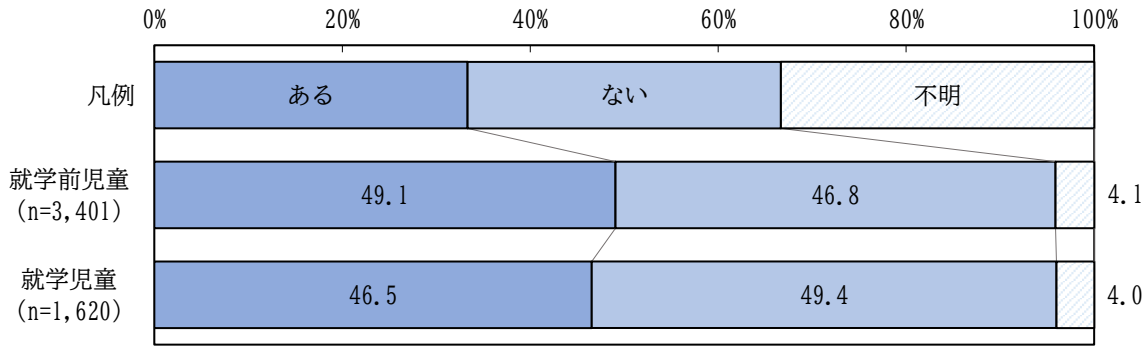


3．子育てに関する悩みや精神的負担等

1）子育てに関する悩みや不安感等の有無

子育て（教育も含む）に関し、悩んでいることや困っていること、不安に感じていることの有無について、就学前児童のいる世帯では「ある」が 49.1%、「ない」が 46.8%、就学児童のいる世帯では「ある」が 46.5%、「ない」が 49.4%となっており、「ある」と「ない」がおおむね半分ずつに分かれている。

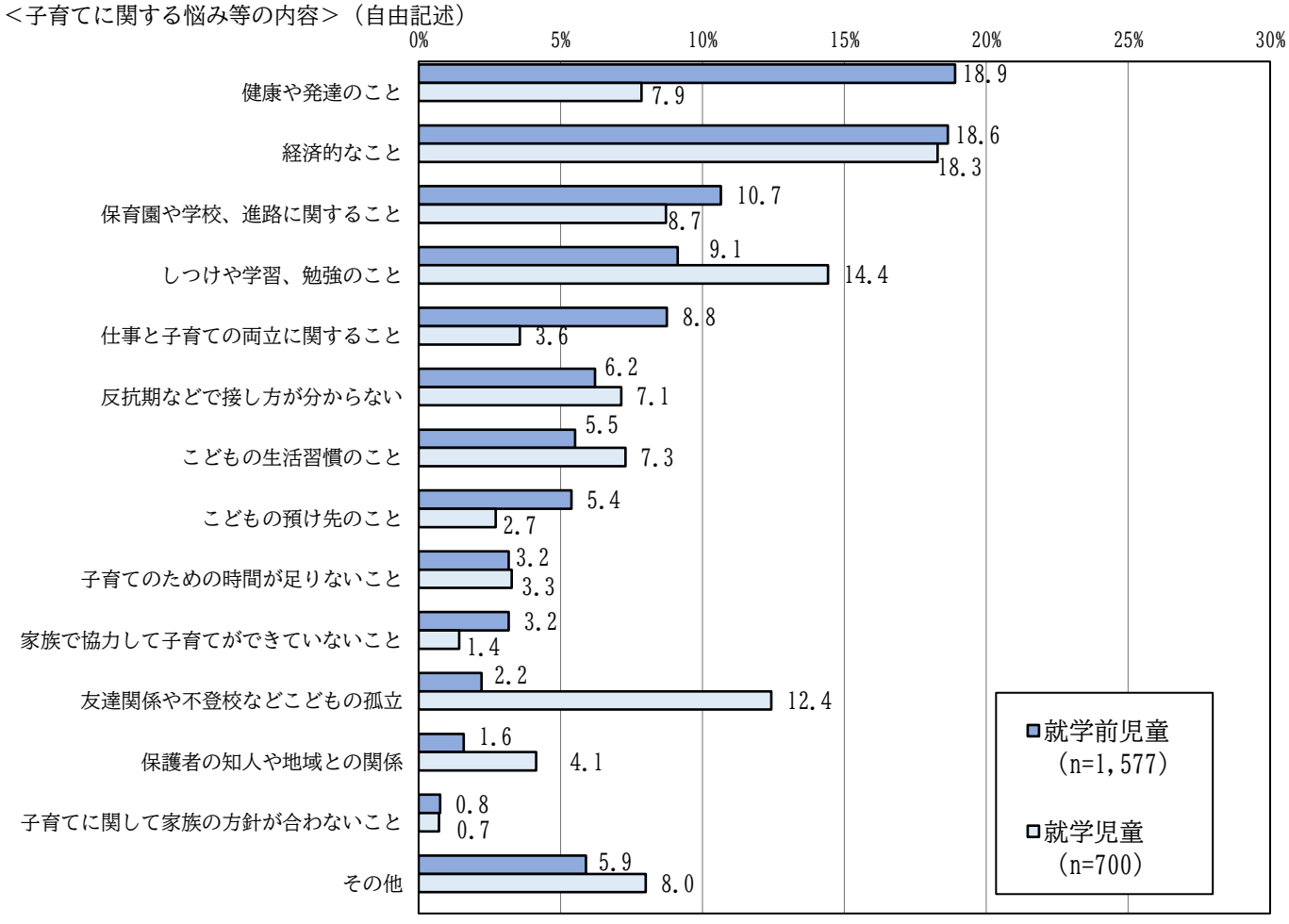
＜子育てについて（教育も含む）悩んでいることや困っていること、不安に感じていることの有無＞



2）子育てに関する悩み等の内容

子育てに関する悩み等の内容に関する自由記述について、キーワードで分類したところ、就学前児童のいる世帯では「健康や発達のこと」に対する意見が最も多く 18.9%、次いで「経済的なこと」が 18.6%、「保育園や学校、進路に関すること」が 10.7%となっており、就学児童のいる世帯では「経済的なこと」が 18.3%、次いで「しつけや学習、勉強のこと」が 14.4%、「友達関係や不登校などこどもの孤立」が 12.4%となっている。

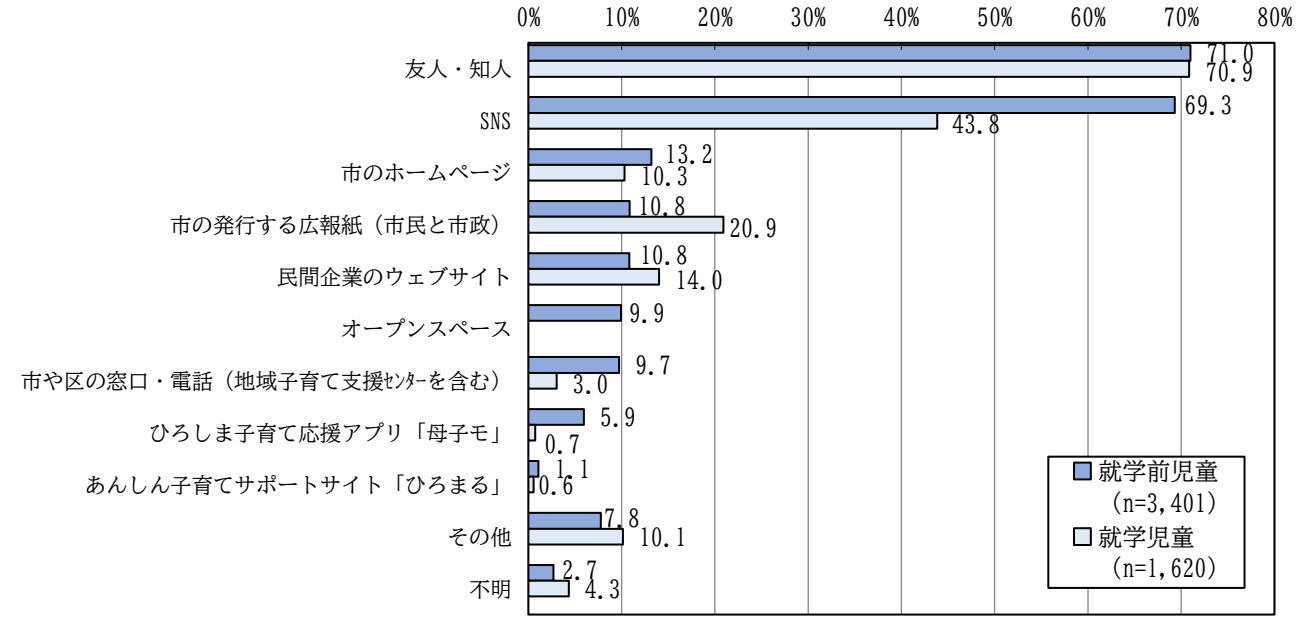
＜子育てに関する悩み等の内容＞（自由記述）



3）子育てに関する情報

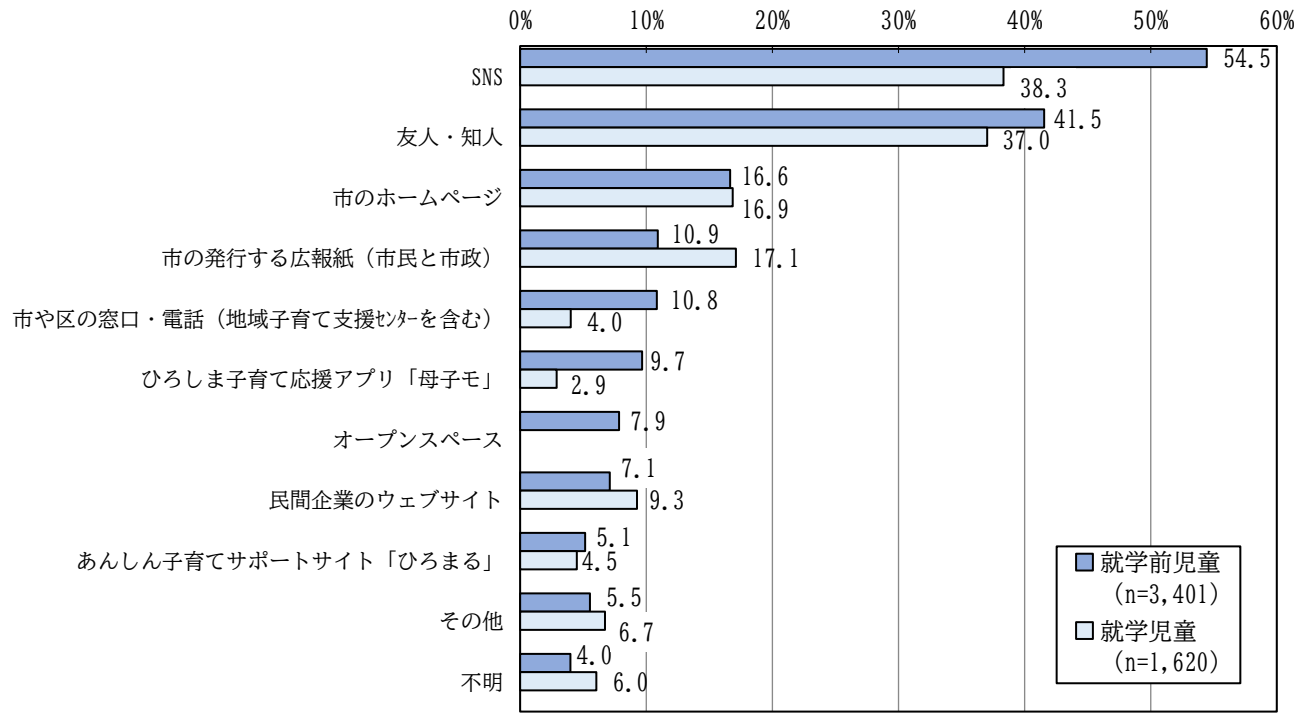
普段、子育てに関する情報をどこから入手しているかについて、就学前児童のいる世帯では「友人・知人」が最も多く 71.0%、次いで「SNS」が 69.3%、「市のホームページ」が 13.2%となっており、就学児童のいる世帯では「友人・知人」が最も多く 70.9%、次いで「SNS」が 43.8%、「市の発行する広報紙（市民と市政）」が 20.9%となっている。

＜普段、子育てに関する情報をどこから入手しているか＞（複数回答）



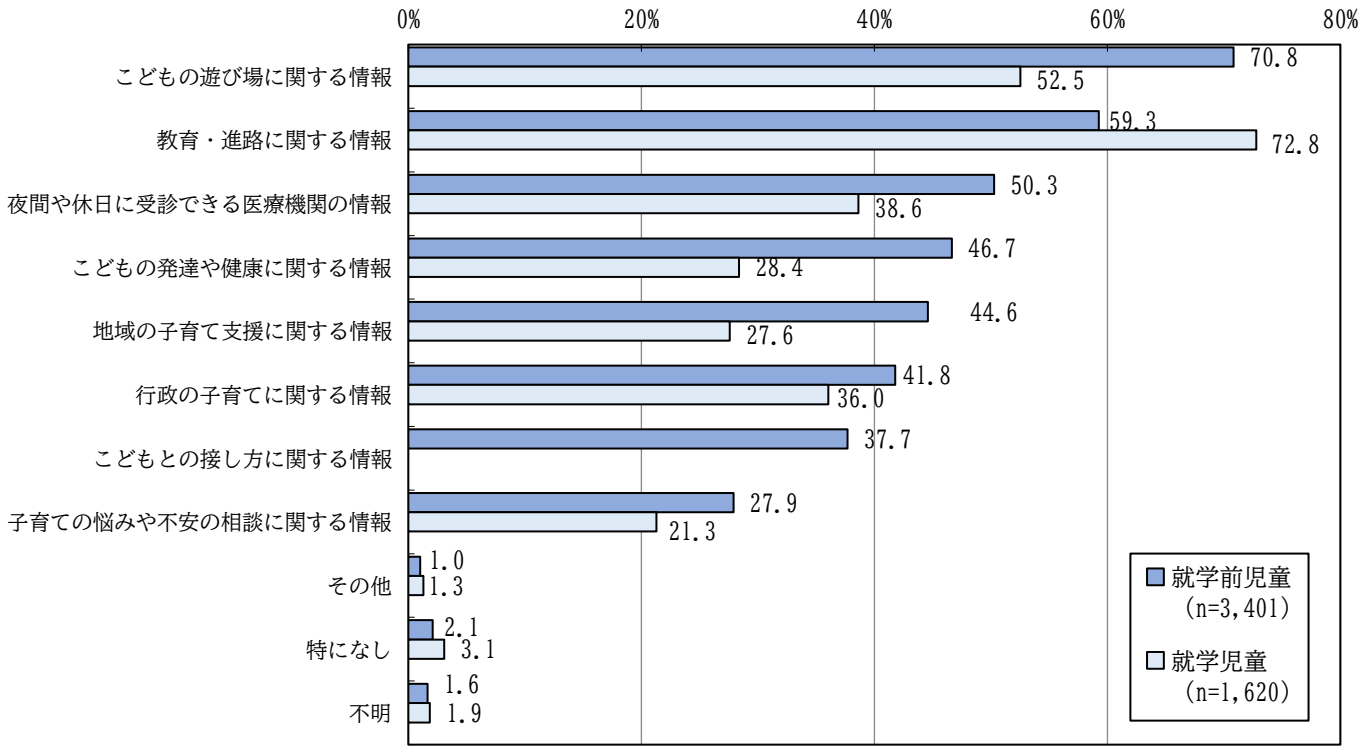
今後、どこから子育てに関する情報を知りたいと考えるかについては、就学前児童のいる世帯では「SNS」が最も多く 54.5%、次いで「友人・知人」が 41.5%、「市のホームページ」が 16.6%となっており、就学児童のいる世帯では「SNS」が最も多く 38.3%、次いで「友人・知人」が 37.0%、「市の発行する広報紙（市民と市政）」が 17.1%となっている。

＜今後、どこから子育てに関する情報を知りたいか＞（複数回答）



子育てに関し特に知りたいと思う情報について、就学前児童のいる世帯では「こどもの遊び場に関する情報」が最も多く 70.8%、次いで「教育・進路に関する情報」が 59.3%、「夜間や休日に受診できる医療機関の情報」が 50.3%となっており、就学児童のいる世帯では「教育・進路に関する情報」が最も多く 72.8%、次いで「こどもの遊び場に関する情報」が 52.5%、「夜間や休日に受診できる医療機関の情報」が 38.6%となっている。

＜子育てに関し特に知りたいと思う情報＞（複数回答）

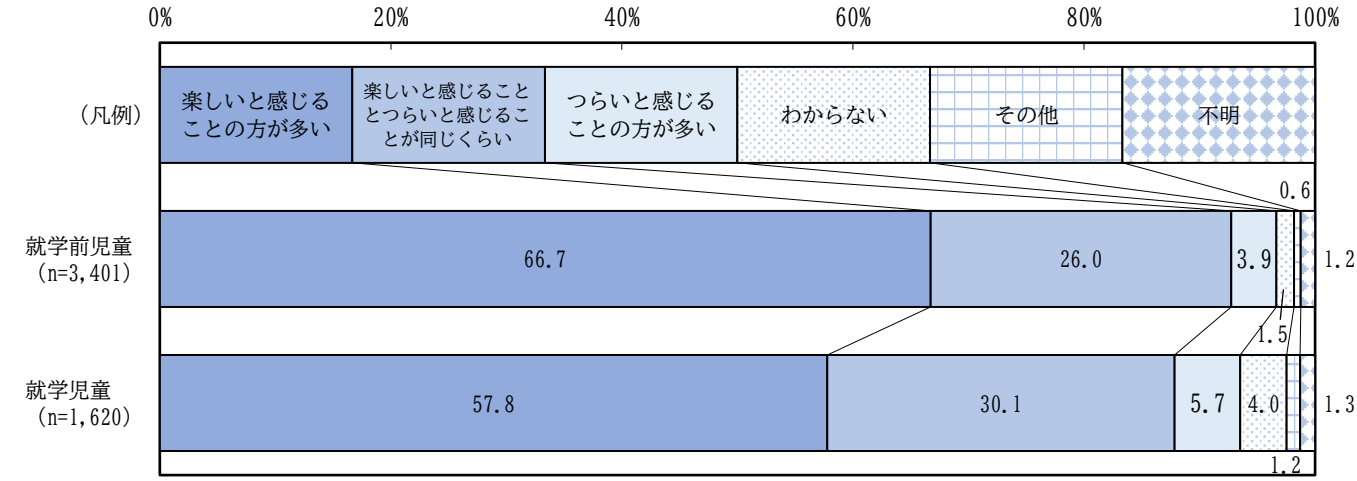


4）子育ての楽しさと精神的負担

子育てを楽しいと感じることが多いか、つらいと感じることが多いかについて、就学前児童のいる世帯、就学児童のいる世帯ともに 50%以上が子育てを「楽しいと感じることの方が多い」と回答しているが、「つらいと感じることの方が多い」との回答も一定数あり、就学前児童のいる世帯で 3.9%、就学児童のいる世帯で 5.7%となっている。

内訳を見ると、「楽しいと感じることの方が多い」と回答した世帯は、0 歳児のいる世帯で最も多く 73.5%となっており、「つらいと感じることの方が多い」と回答した世帯は低学年のいる世帯で最も多く 5.9%となっている。

＜子育てを楽しいと感じることが多いか、つらいと感じることが多いか＞



＜内訳＞

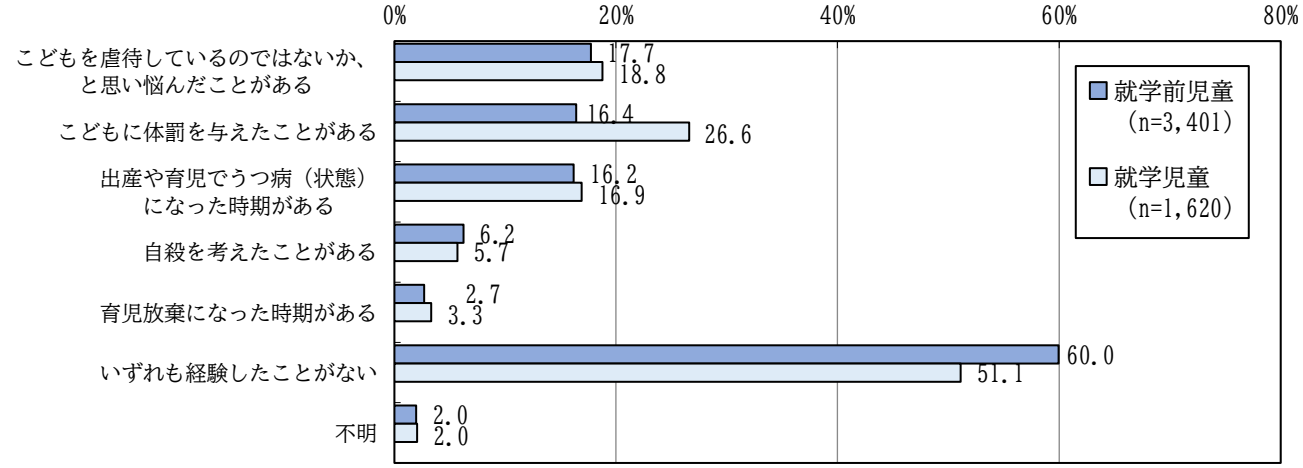
	楽しいと感じることの方が多い	楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい	つらいと感じることの方が多い	わからない	その他	不明
就学前児童・計	66.7%	26.0%	3.9%	1.5%	0.6%	1.2%
0歳	73.5%	20.2%	3.1%	1.6%	0.5%	1.1%
1歳	67.9%	26.4%	3.9%	0.4%	0.5%	0.9%
2歳	64.8%	29.6%	3.6%	0.8%	0.4%	0.9%
3歳以上	60.8%	29.7%	4.7%	2.4%	0.8%	1.6%
不明	55.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	5.0%
就学児童・計	57.8%	30.1%	5.7%	4.0%	1.2%	1.3%
低学年	58.9%	29.7%	5.9%	3.4%	1.1%	0.9%
高学年	57.3%	30.4%	5.2%	4.5%	1.2%	1.4%
不明	44.1%	29.4%	11.8%	5.9%	2.9%	5.9%

5）子育てにかかわってからの経験

子育てにかかわってからの経験について、「いずれも経験したことがない」を除き、就学前児童のいる世帯では「こどもを虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」が最も多く 17.7%、次いで「こどもに体罰を与えたことがある」が 16.4%、「出産や育児でうつ病（状態）になった時期がある」が 16.2%となっている。就学児童のいる世帯では「こどもに体罰を与えたことがある」が最も多く 26.6%、次いで「こどもを虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」が 18.8%、「出産や育児でうつ病（状態）になった時期がある」が 16.9%となっている。

内訳を見ると、「こどもに体罰を与えたことがある」は高学年で最も多く、28.0%となっている。

＜子育てにかかわってからの経験＞（複数回答）



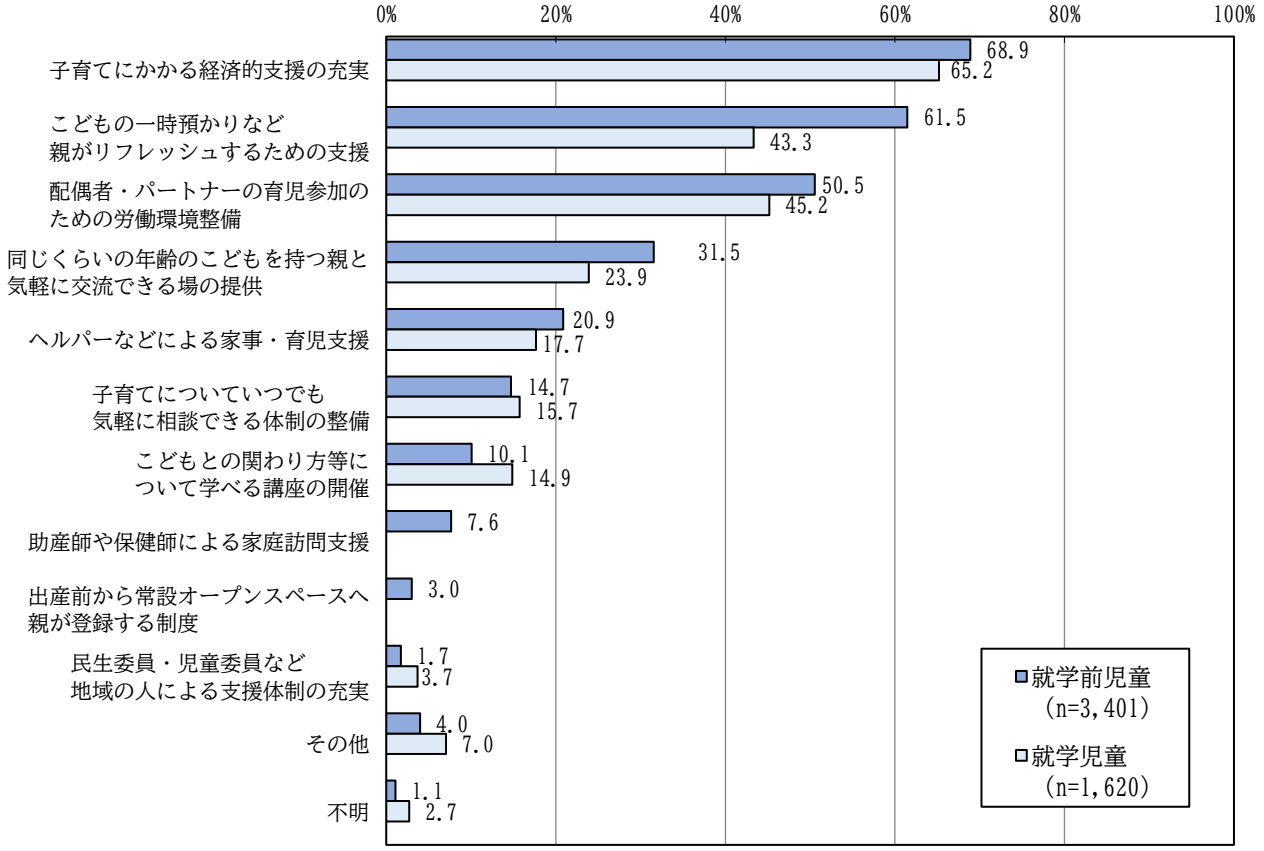
＜内訳＞

	こどもを虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある	こどもに体罰を与えたことがある	出産や育児でうつ病（状態）になった時期がある	自殺を考えたことがある	育児放棄になった時期がある	いずれも経験したことがない	不明
就学前児童・計	17.7%	16.4%	16.2%	6.2%	2.7%	60.0%	2.0%
0歳	13.4%	11.5%	14.1%	5.4%	2.2%	67.5%	1.7%
1歳	18.4%	15.7%	15.2%	6.6%	1.8%	60.0%	1.6%
2歳	18.8%	15.4%	16.4%	5.3%	3.0%	59.7%	1.5%
3歳以上	21.1%	21.8%	18.3%	7.3%	3.4%	53.2%	2.3%
不明	10.0%	15.0%	25.0%	5.0%	5.0%	45.0%	20.0%
就学児童・計	18.8%	26.6%	16.9%	5.7%	3.3%	51.1%	2.0%
低学年	17.7%	25.4%	16.2%	4.6%	3.4%	52.7%	1.8%
高学年	20.0%	28.0%	17.5%	6.5%	3.4%	49.5%	2.1%
不明	11.8%	17.6%	17.6%	8.8%	0.0%	55.9%	5.9%

6）子育ての精神的負担を減らすために必要な支援

子育ての精神的負担を減らすために必要な支援について、就学前児童のいる世帯、就学児童のいる世帯ともに「子育てにかかる経済的支援の充実」が最も多く 65%超となっており、次いで、就学前児童のいる世帯では「こどもの一時預かりなど親がリフレッシュするための支援」が 61.5%、就学児童のいる世帯では「配偶者・パートナーの育児参加のための労働環境整備」が 45.2%となっている。

＜子育ての精神的負担を減らすために必要な支援＞（複数回答）

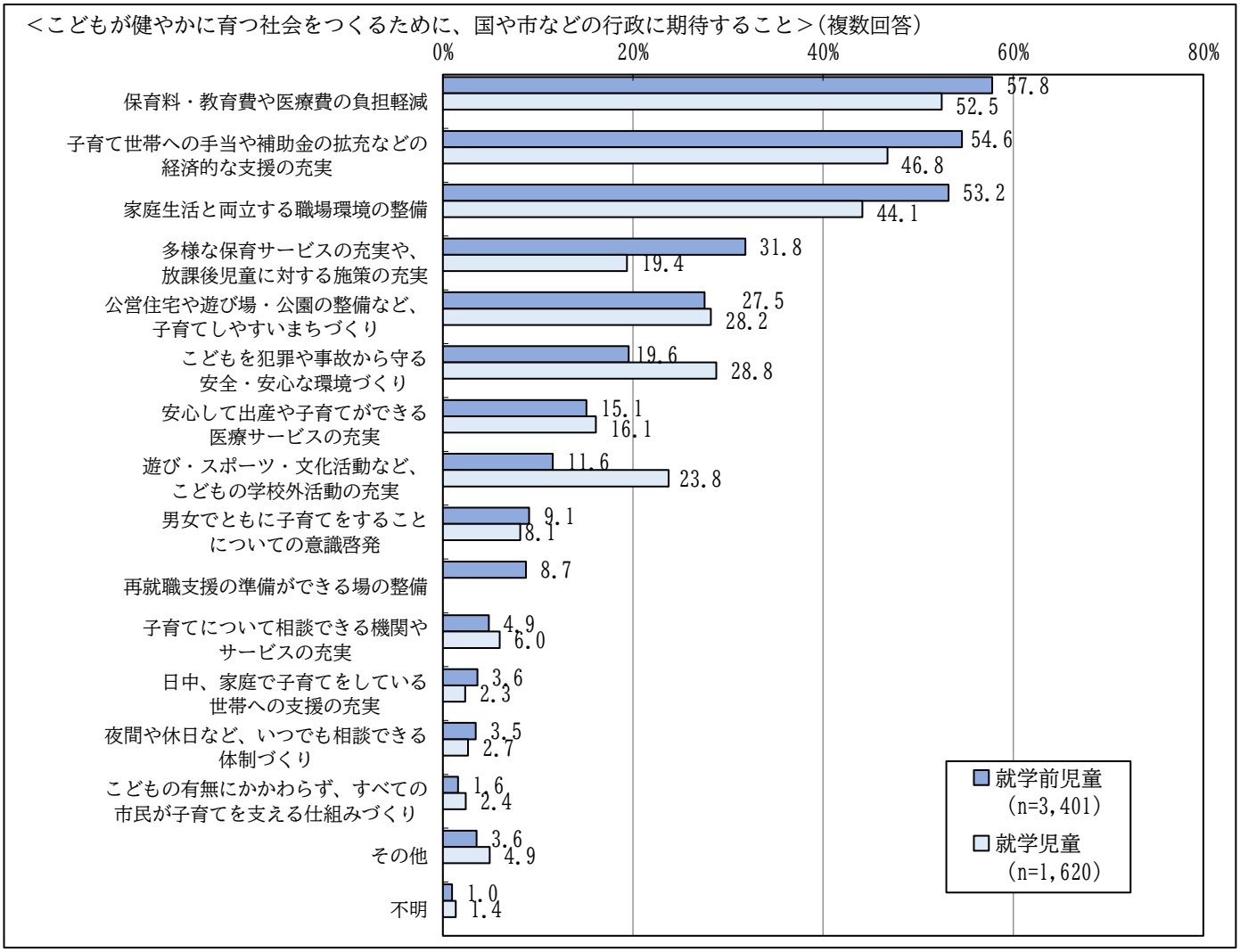


＜内訳＞

	子育てにかかる経済的支援の充実	こどもの一時預かりなど親がリフレッシュするための支援	配偶者・パートナーの育児参加のための労働環境整備	同じくらいの年齢のこどもを持つ親と気軽に交流できる場の提供	ヘルパーなどによる家事・育児支援	子育てについていつでも気軽に相談できる体制の整備	こどもとの関わり方等について学べる講座の開催	助産師や保健師による家庭訪問支援	出産前から常設オープンスペースへ親が登録する制度	民生委員・児童委員など地域の人による支援体制の充実	その他	不明
就学前児童・計	68.9%	61.5%	50.5%	31.5%	20.9%	14.7%	10.1%	7.6%	3.0%	1.7%	4.0%	1.1%
0歳	69.4%	63.3%	53.2%	32.2%	18.2%	15.5%	8.4%	10.3%	3.2%	1.4%	3.7%	1.0%
1歳	70.2%	62.7%	50.7%	30.9%	21.6%	12.9%	10.5%	9.3%	3.9%	2.1%	3.9%	1.3%
2歳	71.4%	65.0%	49.9%	31.6%	23.4%	15.3%	10.2%	6.0%	2.6%	1.3%	4.5%	0.8%
3歳以上	66.8%	57.5%	48.6%	31.4%	21.5%	14.7%	11.4%	5.0%	2.5%	2.1%	4.2%	1.2%
不明	65.0%	70.0%	25.0%	20.0%	45.0%	15.0%	5.0%	15.0%	10.0%	0.0%	0.0%	5.0%
就学児童・計	65.2%	43.3%	45.2%	23.9%	17.7%	15.7%	14.9%			3.7%	7.0%	2.7%
低学年	64.7%	51.4%	44.3%	22.6%	19.3%	13.4%	13.2%			4.1%	7.4%	2.3%
高学年	65.0%	37.0%	46.2%	25.3%	16.4%	18.0%	16.1%			3.2%	6.4%	3.0%
不明	79.4%	26.5%	38.2%	17.6%	11.8%	11.8%	20.6%			8.8%	14.7%	5.9%

7）子育てしやすい社会づくりに向けた行政への期待

こどもが健やかに育つ社会をつくるために、国や市などの行政に期待することについて、就学前児童では「保育料・教育費や医療費の負担軽減」が最も多く 57.8%、次いで「子育て世帯への手当や補助金の拡充などの経済的な支援の充実」が 54.6%、「家庭生活と両立する職場環境の整備」が 53.2%となっており、就学児童のいる世帯では「保育料・教育費や医療費の負担軽減」が最も多く 52.5%、次いで「子育て世帯への手当や補助金の拡充などの経済的な支援の充実」が 46.8%、「家庭生活と両立する職場環境の整備」が 44.1%となっている。



＜内訳＞

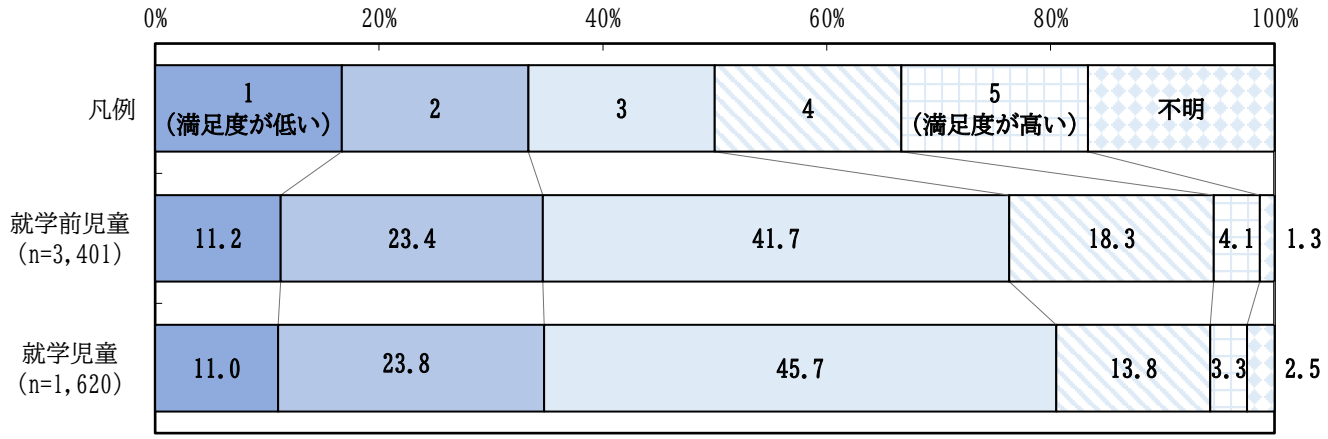
	保育料・教育費や医療費の負担軽減	子育て世帯への手当や補助金の拡充などの経済的な支援の充実	労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など、家庭生活と両立する職場環境の整備	多様な保育サービスの充実や、放課後児童に対する施策の充実	公営住宅や遊び場・公園の整備など、子育てしやすいまちづくり	こどもを犯罪や事故から守る安全・安心な環境づくり	安心して出産や子育てができる医療サービスの充実	遊び・スポーツ・文化活動など、こどもの学校外活動の充実	男女でともに子育てをすることについての意識啓発	再就職支援の準備ができる場の整備	子育てについて相談できる機関やサービスの充実	日中、家庭で子育てをしている（保育園を利用していない）世帯への支援の充実	夜間や休日など、いつでも相談できる体制づくり	こどもの有無にかかわらず、すべての市民が子育てを支える仕組みづくり	その他	不明
就学前児童・計	57.8%	54.6%	53.2%	31.8%	27.5%	19.6%	15.1%	11.6%	9.1%	8.7%	4.9%	3.6%	3.5%	1.6%	3.6%	1.0%
0歳	62.9%	57.7%	54.7%	28.6%	27.4%	17.3%	16.5%	7.5%	8.8%	10.0%	4.1%	4.6%	2.8%	1.4%	3.7%	0.8%
1歳	59.8%	59.3%	58.6%	31.4%	24.5%	18.2%	14.1%	10.9%	9.5%	8.8%	5.2%	4.8%	3.8%	2.0%	2.5%	1.3%
2歳	56.3%	54.2%	53.1%	29.8%	31.5%	16.8%	13.0%	10.5%	7.7%	7.0%	6.4%	4.1%	4.1%	1.9%	3.6%	0.4%
3歳以上	53.0%	49.8%	49.5%	35.7%	27.1%	23.6%	15.1%	16.1%	9.5%	8.2%	4.7%	2.0%	3.6%	1.5%	3.9%	1.1%
不明	45.0%	40.0%	40.0%	50.0%	40.0%	15.0%	25.0%	15.0%	25.0%	15.0%	5.0%	0.0%	10.0%	0.0%	5.0%	10.0%
就学児童・計	52.5%	46.8%	44.1%	19.4%	28.2%	28.8%	16.1%	23.8%	8.1%		6.0%	2.3%	2.7%	2.4%	4.9%	1.4%
低学年	52.3%	45.3%	44.7%	24.2%	31.1%	29.9%	14.3%	23.5%	8.0%		4.7%	2.3%	3.1%	2.3%	4.9%	1.2%
高学年	52.2%	47.9%	43.9%	15.5%	25.9%	27.9%	17.3%	24.3%	8.6%		7.2%	2.4%	2.4%	2.6%	4.8%	1.3%
不明	61.8%	52.9%	38.2%	11.8%	23.5%	26.5%	26.5%	14.7%	0.0%		2.9%	2.9%	0.0%	0.0%	8.8%	5.9%

8）地域における子育ての環境や支援への満足度

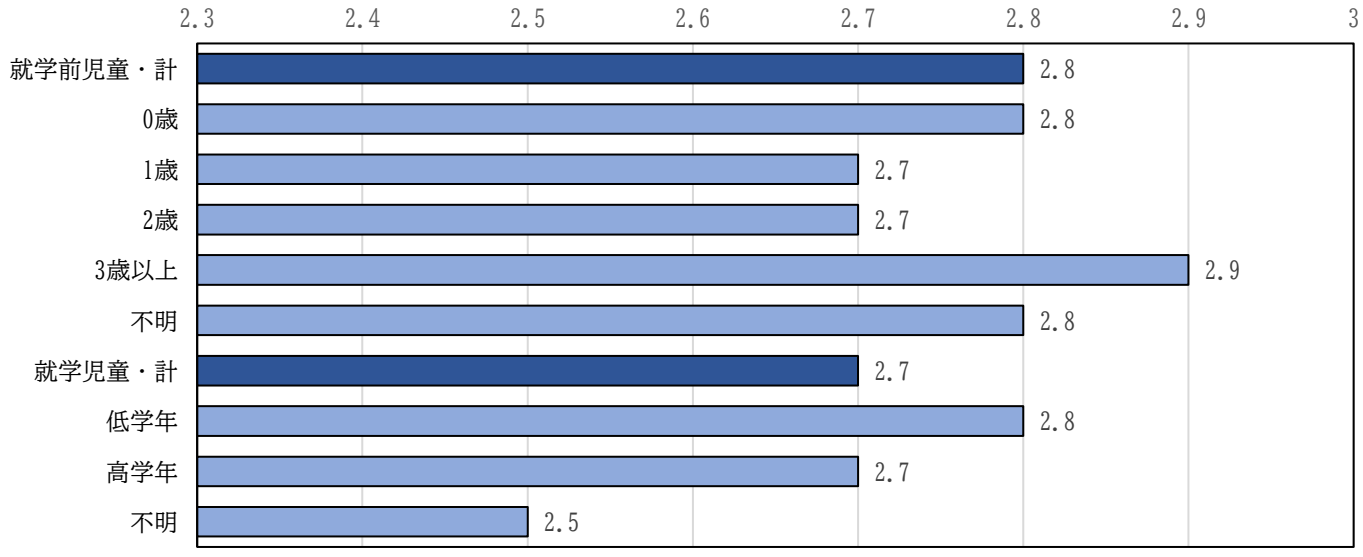
地域における子育ての環境や支援への満足度（5 段階評価）について、就学前児童のいる世帯では「3」が最も多く 41.7%、次いで「2」が 23.4%、「4」が 18.3%となっており、就学児童のいる世帯では「3」が最も多く 45.7%、次いで「2」が 23.8%、「4」が 13.8%となっている。

満足度の平均値は、就学前児童のいる世帯が 2.8、就学児童のいる世帯が 2.7 と、ほとんど同程度となっている。

＜地域における子育ての環境や支援への満足度＞



＜満足度の平均値＞



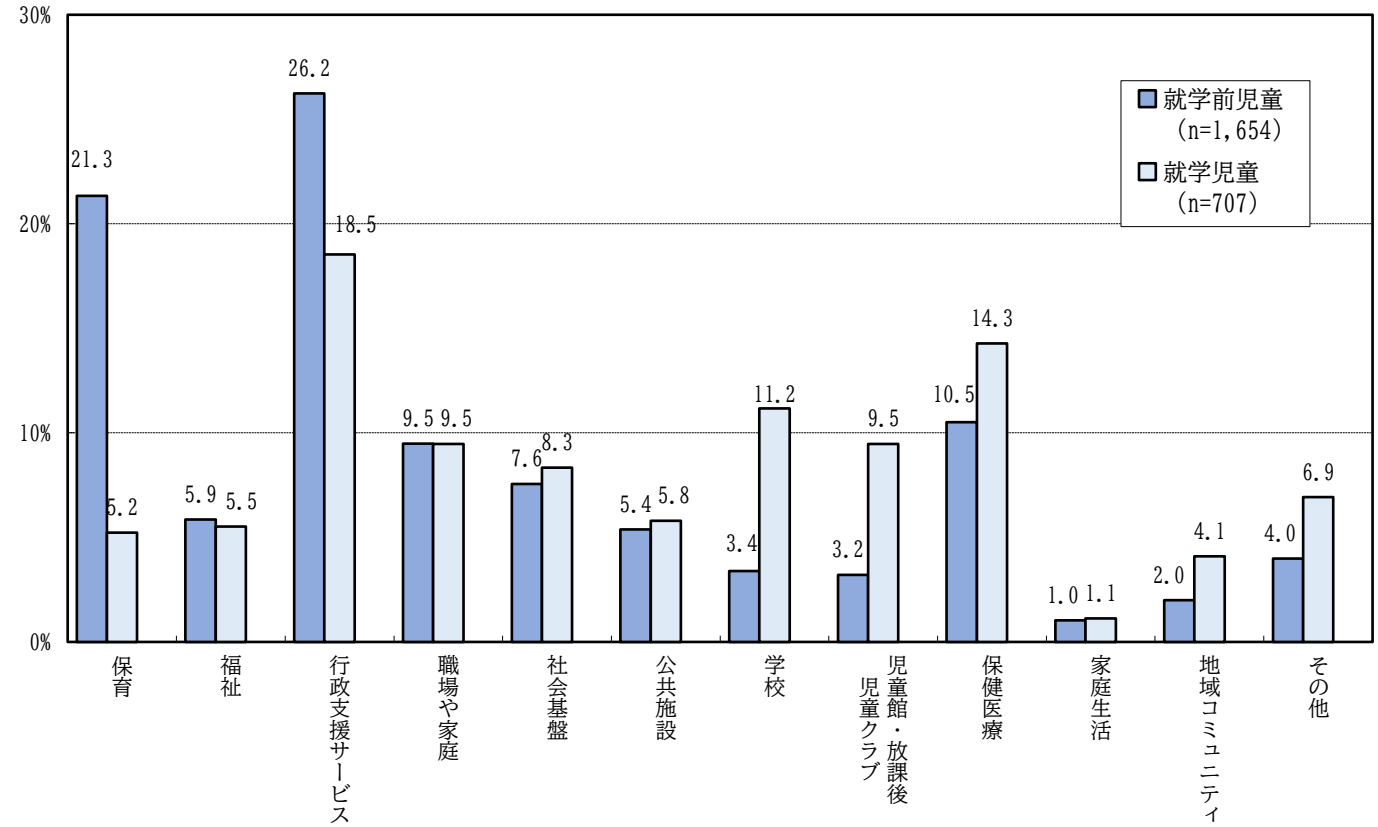
Ⅴ．子育て支援に関する意見

「子育て支援に関する意見」（自由記述）をキーワード分類した結果が下のグラフであり、小分類した結果が次ページの表である。

就学前児童のいる世帯では、「行政支援サービス」に関する意見が最も多く 26.2%となっており、中でも「支援施策」についての意見が多く 7.9%となっている。次いで「保育」に関する意見が 21.3%となっており、中でも「保育料」についての意見が多く 5.3%となっている。

就学児童のいる世帯では、「行政支援サービス」に関する意見が最も多く 18.5%となっており、中でも「支援施策」についての意見が多く 6.1%となっている。次いで「保健医療」に関する意見が 14.3%となっており、中でも「医療・医療費」についての意見が多く 14.4%となっている。

＜子育て支援に関する意見・キーワード分類＞



＜意見・小分類＞　　（単位：人）

		就学前児童		就学児童	
１．保育	(1)施設設備(幼稚園含む)	51	3.1%	5	0.7%
	(2)保育サービス等(幼稚園含む)	28	1.7%	2	0.3%
	(3)保育園・幼稚園入所	43	2.6%	0	0.0%
	(4)待機児童	20	1.2%	3	0.4%
	(5)保育料（保育園・幼稚園共に）	87	5.3%	16	2.3%
	(6)保育士（幼稚園教諭）	49	3.0%	2	0.3%
	(7)認定こども園	4	0.2%	0	0.0%
	(8)一時預かり	38	2.3%	2	0.3%
	(9)病児保育	14	0.8%	4	0.6%
	(10)その他（日・祝、臨時の保育等）	19	1.1%	2	0.3%
	計	353	21.3%	36	5.1%
２．福祉	(11)ひとり親世帯	7	0.4%	5	0.7%
	(12)児童手当	21	1.3%	9	1.3%
	(13)手当(育児休業給付金等)	31	1.9%	14	2.0%
	(14)その他(障害児、発達障害等の支援等)	38	2.3%	11	1.6%
	計	97	5.9%	39	5.5%
３．行政支援サービス	(15)情報提供	60	3.6%	17	2.4%
	(16)支援施策	130	7.9%	44	6.2%
	(17)相談窓口	20	1.2%	22	3.1%
	(18)オープンスペース	64	3.9%	4	0.6%
	(19)経済的支援	105	6.3%	36	5.1%
	(20)その他	55	3.3%	8	1.1%
	計	434	26.2%	131	18.5%
４．職場や家庭	(21)産休・育休	31	1.9%	2	0.3%
	(22)育児の分担	12	0.7%	3	0.4%
	(23)ワークライフバランス	29	1.8%	8	1.1%
	(24)職場環境の改善	40	2.4%	15	2.1%
	(25)その他(経済的負担等)	45	2.7%	39	5.5%
	計	157	9.5%	67	9.5%
５．社会基盤	(26)道路	17	1.0%	8	1.1%
	(27)安全なまちづくり	21	1.3%	11	1.6%
	(28)公園	69	4.2%	23	3.3%
	(29)その他	18	1.1%	17	2.4%
	計	125	7.6%	59	8.3%
６．公共施設	(30)図書館	10	0.6%	7	1.0%
	(31)遊び場	71	4.3%	26	3.7%
	(32)公民館・スポーツ施設等	5	0.3%	6	0.8%
	(33)その他	3	0.2%	2	0.3%
	計	89	5.4%	41	5.8%
７．学校	(34)学校施設	9	0.5%	11	1.6%
	(35)学校教育	11	0.7%	13	1.8%
	(36)学校運営	6	0.4%	15	2.1%
	(37)教員	1	0.1%	14	2.0%
	(38)その他	29	1.8%	26	3.7%
	計	56	3.4%	79	11.2%
８．児童館・放課後児童クラブ	(39)児童館	13	0.8%	14	2.0%
	(40)放課後児童クラブ	35	2.1%	35	5.0%
	(41)土日祝、長期休暇、臨時の預かり	0	0.0%	4	0.6%
	(42)その他(こどもの放課後サポート等)	5	0.3%	14	2.0%
	計	53	3.2%	67	9.5%
９．保健医療	(43)保健センター等	3	0.2%	0	0.0%
	(44)医療・医療費	159	9.6%	102	14.4%
	(45)その他	12	0.7%	0	0.0%
	計	174	10.5%	102	14.4%
１０．家庭生活	(46)家庭・生活	11	0.7%	0	0.0%
	(47)その他（習い事等）	6	0.4%	8	1.1%
	計	17	1.0%	8	1.1%
１１．地域コミュニティ	(48)地域支援	15	0.9%	15	2.1%
	(49)交流	13	0.8%	9	1.3%
	(50)その他	5	0.3%	5	0.7%
	計	33	2.0%	29	4.1%
１２．その他	(51)その他	66	4.0%	49	6.9%
	計	66	4.0%	49	6.9%
総合計		1,654	100%	707	100%

主な意見の抜粋

1．保育

(1)施設設備(幼稚園含む)

【就学前児童】

こどもが精神的又は物理的にゆっくり過ごせる環境が整うとよい。
保育園の施設環境について、公立は建物が古く民間は園庭が狭いと感じるため、行政が指導し改善してほしい。
こどもたちが遊びながら体力づくりできる場所がほしい。
保育園は徒歩圏内に必要である。
自然と触れ合える保育施設を補助することや、公園を設置することなどしてほしい。

【就学児童】

施設が古く、耐震が心配。

(2)保育サービス等(幼稚園含む)

【就学前児童】

家だけではつまらないので、幼稚園に 2 歳児も短時間通えると嬉しい。
保育園には大変感謝している。栄養たっぷりのあたたかい給食、手作りのおやつ、家でなかなかできない泥遊び、スライム遊びなど、こどもが長時間過ごす保育園がどの園でもそうあることを期待する。
月曜日から土曜日までこどもを預かってくれる保育環境には、おおむね満足している。預けすぎかもしれないと悩むこともあるが、保育園からは気にしなくてよいと言われ、安心して預けている。

【就学児童】

市立幼稚園を全て 3 年保育にしてほしい。

(3)保育園・幼稚園入所

【就学前児童】

2 歳まで育休の延長ができたが、下の子の育休を取得すると上の子は保育園に通えなくなった。転園して仲のいい子と遊べなくなり、こどものプラスになるとは全く思えないので、このような仕組みはおかしいと思う。
希望の保育園を選択し、入園できるようにしてほしい。
第一子育休中に第二子を妊娠し、育休を延長した。第一子が保育園に入れるか不安に感じている。2 人のこどもを自宅で育児することは厳しいと感じるので、保育園の空き状態を改善してほしい。
保育園が決まらないと仕事が決まりづらいので、仕事と家庭の両立をしやすい環境にしてほしい。
出産後、少しでも家計に余裕を持たせようと保育園に入れて働こうとしたが、住んでいる地域の区役所からは、求職中では入園は難しいと言われた。働いていなくても入園できる保育の場があれば、安心して求職活動ができる。
保育園に入るハードルが高い。手続きや相談のために福祉センターまで行かないといけないし、時間的に厳しい。
保育園の入所可能人数を増やしてほしい。年度初めでないと入園が難しいと言われ、下の子が 1 歳になる前に下の子も入園させ、職場復帰をしなければならなくなった。
希望したら保育園に入園できるようにしてほしい。
就労証明を出しても保育園に入れず、預かり保育をかけもちして何とか出勤している。

(4)待機児童

【就学前児童】

保育園に 1 歳からは入りづらい等、待機児童がいまだにいることが残念。今後、共働きは増加すると考えられるため、不安を無くしてほしい。
待機児童が多く、保育園を希望していたが 1 年待って入園できず、幼稚園へ入園した。幼稚園に預けながら働く親もいるので、もう少し支援してほしい。
待機児童が多く、近所の保育園に入れない。
住んでいる地域では、こどもが多い割に保育園等が少なく、待機児童が多い。そのため、生活圏内での保育園入所が難しく、別地域で申し込みをしている。近くに託児所もなく、ホームページでは一時あずかり OK となっている近くのこども園に問い合わせても、定期利用で定員がいっぱいのため、受け入れ不可と言われた。

【就学児童】

待機児童が多くて保育園に入れない。また、一時預かりさえも利用できない。

(5)保育料（保育園・幼稚園共に）

【就学前児童】

保育料は 3 歳から無料になっているが、0～2 歳までの保育料の負担がとても大きかったので、負担を減らしてほしい。
保育料、教育料は高い。共働きは、世帯収入が高くなり、補助金など支給されないことが多いので、経済的サポートが必要。
積極的に保育料、教育費の負担軽減に取り組んでほしい。
0 歳～2 歳の保育園の利用料金も無償化にしてほしい。児童手当もありがたいが、支給より無償化を推進してもらう方が、心もお財布も余裕が生まれて育児に前向きになれる。
所得制限のない保育料、医療費の支援をお願いしたい。
3 歳未満児を保育園に預ける際、第 2 子以降の数え方がずる過ぎる。同時に入園している期間しか保育料が減額にならないので、大変不満である。
双子の第 1 子の保育料も今の半分ぐらいにしてほしい。
保育料が高く感じる。保育園を休んだ日を日割りで減免するなど、柔軟な対応をしてほしい。
上のきょうだいが小学生以上だと、第 3 子であっても第 1 子扱いになり、保育料を負担することに不公平感がある。歳が離れていても、3 人を育てていることに変わりない。

【就学児童】

4 人兄弟の 4 人目の歳が離れ、一人分(0～3 歳)の保育料を請求される。上の子の習い事や中学入学で出費が多いため、けっこう負担になっている。せめて、半額にするなどの制度があると助かる。
手当、補助金ではなく、保育料、教育費、医療費の負担軽減に力をいれてほしい。
保育料に関して、園に 3 人以上通っていないと 3 人目からの保育料が無料にならないのはおかしい。兄弟が小学校以上になるとお金がかかるため、負担する金額が多くなり辛い。
保育園に預けるための保育料を、確定申告の経費として認めてほしい。働くために預けているので経費である。
0 歳～2 歳児までの保育料が高すぎて経済的負担になる。

(6)保育士（幼稚園教諭）

【就学前児童】

0 歳から保育園に入園し、保育士に相談しやすいので、深い悩みに至らずよかった。
園長先生をはじめ、先生方は、親切丁寧で園内の連携も素晴らしく、ここに入れて本当に良かったと思う。高い保育料をこういう職員たちに使っていただきたい。施設整備、環境の充実。それが見える形になれば、高くても払うことに対する納得感が出ると思う。
保育園と関わり、10 年が経った。その中で感じる事は、保育園、保育士の質の維持の大変さである。保育時間が長い、開園日が多いので、正社員の負担は大きいと思う。そして、結婚、出産をすると、正社員で働くのはかなり難しそうなので、保育士の給与面、手当ての配慮がより必要であると思う。
毎日こどもをみてもらって、保育園の先生方にはとても感謝している。もっと保育士の仕事が評価されて、給料も上がって、保育士の仕事をする方が増えたらいいなと思う。
保育士不足を解消して、希望する保育園に入りやすいようにしてほしい。
保育士の人数がこどもの人数に対して少なすぎる。保育士が多いと余裕が生まれるので、保育士に笑顔が見られ、こども達が過ごしやすくなる。人数が十分であれば、バスの置き去りや事故などを防げるかもしれないので、コストはかかるが、将来を支えるこども達を守り育てるためには、保育士の十分な人数が必要だと思う。
保育士に現場復帰してほしいのであれば、加点制ではなくて、ランクを上げて保育園に我が子を入れやすくしてほしい。また、きょうだいが同じ保育園に入りやすくしてほしい。
きょうだい 3 人を預けている保育園の保育士の皆さんには、本当によくしていただき感謝している。離職される方もいるので、保育士が働きやすく続けやすい構造になってほしい。保育士、保育所の存在によって仕事と子育ての両立ができている。子育て家庭の支援と並行して、保育施設で働く方の環境改善もお願いしたい。

【就学児童】

保育士と幼稚園教諭の待遇をよりよくしてほしい。

(7)認定こども園

【就学前児童】

地域によってかたよりがあるため、認定こども園を充実させてほしい。
こども園等を増やして、働く前から就職先を幅広く検討できる環境を作ってほしい。

(8)一時預かり

【就学前児童】

リフレッシュのために一時保育を利用するのは罪悪感のある人が多いと思うが、親も 1 人の時間がほしい。また、利用したことのない施設に預けるのは不安がある。出産した産院や、第 2 子以降なら第 1 子の通う保育園などに一時保育の制度があれば良いと思う。
短時間勤務で働けるよう、一時預かりの利用時間を延長してほしい。

保育園の一時預かりやオープスペースの予約が全然とれない。また、1 ヶ月前からの予約というのは、突発的な用事の時に利用できないので、本当に必要な際に困る。
リフレッシュのための一時預かりを希望するが、登録した保育園の枠が一杯で預けられない事がある。
幼稚園の夏休み期間中、預かりの日数が少ない。もう少しみてもらえると働きやすい。夏休み期間中の預かり料金が高い。もう少し補助してもらえると家計が助かる。夏休みの時期だけ休むことはできず、預かりの料金のために働いているようだ。
有料で良いので、一時預かり等が出来る施設を増やしてほしい。
当日でも一時預かりを利用できる施設がほしい。
就労の有無や特別な事情、回数制限もなく、一時預かりを手軽に利用できるとよい。
一時保育は空きがない。また、もっと気軽に利用できるようにしてほしい。オープンスペースは、15 時くらいまでの所が多いが、17 時又は 18 時くらいまでやってほしい。

【就学児童】

幼稚園卒園から小学校入学までの春休み期間に幼稚園の預かりを利用できる制度があると嬉しい。入学前の不安な時期に慣れた環境で過ごせるとこどもが安心すると思う。
認定こども園、幼稚園、保育園に関係なく預かりサービス（保育と時間）を統一して広げてしてほしい。これからはニーズが高まると思うので、未就学児のサービスが充実すると、就学時のケアに時間ができる。

(9)病児保育

【就学前児童】

自宅から遠かったり、道が混んだりすると利用しにくいため、病児保育施設を増やしてほしい。
病児保育を利用したいが、病気の時に初めて会う人にあずけるのは、子も不安になる。いつもの保育園で受け入れる態勢を拡充してほしい。
今通う保育園では病児を預かってくれるので、頼れる人がいない私は本当に助かっている。しかし、3 歳までしか通えないので、その後、別の保育園になることが不安になる。
病児病後児保育施設は空きが少なく、利用できたことが何回かしかないので、対策してほしい。
こどもが風邪をひいたときに病児保育を利用するが、近所にないため、困っている。もっとそのような施設を増やしてしい。団地内に 1 つあると助かる。それが難しい場合は、車で 5 分以内で行ける場所にあると助かる。
病児保育の利用料金を補助してほしい。
病児保育可能な病院が少ない。情報のキャッチアップが難しいので、しっかり情報発信してほしい。
病児保育の利用時、キャンセル待ちでできないことや、コロナは受け入れできないので預け先がなく、長期で仕事を休まないといけないことがあり、職場で大変肩身の狭い思いをしている。こういう時の受け入れ先を拡大してほしい。

【就学児童】

病児保育を利用していたが、利用までに受診が必要であることや、預かりが 8 時からなので、仕事を休んだり遅刻しなければならなかった。急遽の時にも対応してくれる場があるとよい。病児保育が保育園や小学校に併設されたら働きやすい。
働き続けるには、病児保育や病後児保育をもう少し増やしてほしい。
病児保育室の数が少ないため、なかなか予約が取れない。かかりつけでない小児科の病児保育に預けるハードルが高い。小児科に病児保育を併設することを推奨してほしい。

(10)保育　その他（日・祝、臨時の保育等）

【就学前児童】

土日祝関係なく仕事をしているので、日祝もみてもらえる保育園が区内にも出来たら嬉しいし助かる。現在は一番近い区の私立保育園を利用している。
祝日も保育園を利用できるようにしてほしい。
こどもから離れたい。半日でいいから何もしなくて良い時間が、産後～1 年間に欲しかった。そうすると、もっと早く精神的、身体的に回復できたと思う。こどもが欲しくても、また 1 人で頑張らなくてはならないのかと思うと 1 歩踏み出せない。少子化に歯止めをかけるためにも、産後も手厚い支援を願う。

【就学児童】

とてもいい保育園にお世話になったが、延長保育があればありがたかった。こどもが小学校になり、1 年生の頃の学童保育は、迎えが必要なので一人で帰らせることができず、お迎えの時間が厳しかった。
卒園児も受け入れるサービスを作ってほしい。

2．福祉

(11)ひとり親世帯

【就学前児童】

幼稚園の預かり保育でも、ひとり親を対象として少し支援があれば嬉しい。
ひとり親に対する支援のハードルを下げてほしい。同居家族の収入もみられても、生活を共にしてないので生活が厳しい。

【就学児童】

ひとり親家庭の医療費補助等の支援枠を拡大してほしい。
ひとり親の子育て負担が大きい。両親との同居でひとり親の手当てがなく、医療費免除にならないのがつらい。
広島市は、他県にはあるひとり親への家賃の支援が無く、低所得に対する給付が少ないため、子育てに不安がある。もう少し、こどもの為の支援を手厚くしてほしい。

(12)児童手当

【就学前児童】

早生まれは、児童手当等が不利になることが多いので、公平になるように学年ではなく同じ月数にしてほしい。
離婚後、児童手当を受給する手続きをする際、働いていた時の収入を見られて一時期満額をもらえなかった。受給をする時、働いていない状態であるにも関わらず、こどもが生まれる前に働いていた収入を見て減額というのは納得いかない。もう少し個々にあった対策をしてほしい。
児童手当の拡大があればもう少しこどもの娯楽に何かできる。今の支給ではおむつ代だけにもならない。産むときに支給されるお金が増えても、育てるお金がないと産もうという環境にはつながらないと思う。
経済的に余裕があればこどもは 3 人くらい産みたかったが、それは現実的に厳しいことが分かった。もっと児童手当や医療費補助の所得制限撤廃などが進むと良い。
特別児童扶養手当の所得制限も徹底してほしい。

【就学児童】

児童手当も医療の補助も、所得制限によりすべて外されている。納税するほどサービスから外される現状を改善してほしい。
児童手当の支給対象を高校卒業までにしてほしい。支給額は段階的に減らすのではなく維持してほしい。
児童手当について、3 人兄弟だが、18 歳をすぎると 3 番目が 2 番目扱いになる繰り上がりをなくしてほしい。大学進学で費用が掛かるのに負担が大きい。年齢によることなく 3 人兄弟と扱ってほしい。

(13)手当(育児休業給付金等)

【就学前児童】

保育園の待機児童解消のためにも、育休延長時の給付金を 2～3 歳まで県や市が負担するなど手厚さがあってもいいと思う。産み育てやすい社会であれば、こども達にも広島で大人になることをお勧めできるし、人口増加で税収アップにもつながるのではないかと思う。
物価は上昇しているのに育児休業給付金が上がらないと生活が苦しい。
学生であっても、一定の労働時間、労働条件を満たす場合、雇用保険に加入できるようになるとありがたい。大学院に通いながら仕事をしているため、育児休業給付金が支給されないのは大変だった。
働き方によって育児休業給付金の額が大きく異なることは問題だと思う。

【就学児童】

収入で給付金額が違うのはおかしい。同じ金額がほしい。

(14)福祉　その他(障害児、発達障害等の支援等)

【就学前児童】

①障害児でもファミリーサポートを利用しやすくしてほしい。②児童発達支援や放課後等デイサービスの存在を知らず利用開始が遅れたので、必要なときに知ることや利用できるようにしてほしい。障害があると分かったらすぐに、特性ごとの対応方法や利用できるサービス、そのアクセス方法などがわかる手引書のようなものをもらえるとよい。サービスの量、質の向上を希望。③追加料金が発生してもよいので、障害に関することを含む行政手続きを土日も可能にしてほしい。働いていたり、通院したりしていると平日の昼間では手続きできない。
発達障害の疑いのある子が増えているので、保護者が自分の子の理解を得られるように、発達障害の子の関わり方や情報のことを知らせてほしい。
幼稚園、保育園に看護師がいるとよい。また、発達障害児だけでなく難病児にも加配をつけてほしい。
介護や持病で預ける必要がある人は、他都市のように保育料を免除してほしい。
手帳を取得すると必ず保育園で加配対象になり、保育士が見つかるまで通園できないと聞いた。しかし、医師からは加配は必要ないと言われたのだが、保育園に通えないと困るので手帳の申請をするか悩んでいる。医師の診断で加配対象が判断されるようになれば良いと思う。
長男はギフテッド特性がある。持病で通っていた療育センターや幼稚園ではあまり理解されずに結局転園した。文部科学省でも特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する支援が審議されており、広島にもその輪が広がり、インクルーシブな教育をこどもたちが受けられることを望む。

療育の施設が少ないうえ、空きも少ない。児童発達支援の送迎がある事業所を増やしてほしい。
発達障害のあるこどもにとって、生活しやすい環境や遊び集える場などをもっと充実してほしい。
所得により、こども医療費の補助を受けられず、児童発達支援の利用料金も 3 万 7000 円以上かかっており、児童手当等も支給されない。所得制限の廃止を希望する。
発達障がいがある子の支援をもっと充実させてほしい。発達の悩みがある人が相談しやすい環境がない。発達障がいがある子が小学校で生活しやすい支援がほしい。
重度の障害を持つこどもの子育ては、定期的な通院、健康維持のための訓練（ＰＴ（理学療法）、ＳＴ（言語聴覚療法）、ＯＴ（作業療法）等）、療育園で週 2 回は親子通園が必要になる。さらに、現在は年中になるまで親子で毎日通園しなければならず、保育及び介護者は、フルタイムは無論のこと、パートで働くことすら厳しい現状である。福祉手当はありがたいが、それでは厳しいので、両親がどちらも働ける環境作りを早急に整えてほしい。
医療ケアが必要で動けるこどもが行ける場所、預けられる場所がほしい。療育センターの母子通園などは、親がつきっきりで面倒を見なければならないのでしんどい。
こどもが多い家庭は物価高騰のために家計が苦しいで、障害者の親がこどもを預け、就職可能な環境を作ってほしい。
我が子がＡＤＨＤと思っていても、療育センターへ丸投げで相談窓口が少ない。療育先の案内もなく、自分で調べるのもしんどい。こどもの発達に悩む親へのサポートがほしい。
発達の相談は簡単だが、療育センターに入れない、ファミサポ登録の事前予約、登録の場所や持ち物が分かりにくい、結局助けてもらえず家でこどもと我慢するしかないなど、支援を受けるための敷居が高いと感じる。相談や支援を受けようと思えなくなる。
特別支援学校に通わせながら親が働ける制度をつくってほしい。学校開始時間など、現状では難しく不安しかない。
特別支援学級に入るほどではないが、通常学級ではついていくことが困難な学習障害の子に対する理解と支援を充実させてほしい。

【就学児童】

支援学級と療育先をつないで、支援にばらつきが出ないようにしてほしい。去年、訪問支援を入れたいと学校に行ったら断られた。重い障害のある子には、それに対応できる知識のある先生や指導員をつけてほしい。
こどもがこども療育センターに通っており、センターの方から数ヶ月おきに小児科の診療を受けるよう言われるが、全然予約が取れない。定期診療の予約さえ取れない状況なので、本当に困った時に相談したいと思っても診察が受けられない。療育手帳の相談のために児童相談所を予約した時も予約が取れたのは数ヶ月先だった。このような状況を何とかしてほしい。
発達障害は、見た目では分からないので、周りに「できるよね」という目で見られることもあり、非常に病みやすく、軽い障害ではない。その子をサポートする親もかなり病みやすい。そのため、働きたくても働けないが、こどもには、お金がたくさんかかる。障害者への金銭的支援をより充実してほしい。特別児童扶養手当をもっと取りやすくしてほしい。
障害児通所支援を無料にしてもらいたい。

３．行政支援サービス

(15)情報提供

【就学前児童】

保育園・小学校の入園や入学の際に、なるべく早いタイミングで情報がほしい。例えば、具体的にどうしたらいいのか個別アドバイザーがついてくれると助かると思う。
保育園利用者に、保育園から情報発信してもらえると、信頼している園からなので受け取りやすい。
担当者によって、保育園についての相談や申し込みの際に教えてもらえる情報量が違う。早くその情報を知っていれば違う手続きをしたかったこともある。せっかく対面で相談しているので、対応者次第ではない情報提供をしてほしい。
保育園や支援等の情報は、知ろうとしていない人でも知っているレベルで周知するべき。私たちは「知らないことが何なのか。どこまで知らないのか。」を把握していないにも関わらず、窓口では 1 つの質問に 1 つの解答だけで、＋α の回答が無いので、何度も聞きに行くことになる。それでも、知らない部分がまだあることに気づけない。
市が発信している情報がわかりづらい。SNS などでもっと発信してほしい。
様々な情報について、どんな時に、どこを見て、どこに行けばいいのか、どこに相談すればいいのか、というのが分かりにくい。
インターネットで自ら調べるだけではなく、回覧板や病院等の掲示板で目にする機会があれば良いと思う。
自分が身を置く環境についての情報しか知る機会が無いため、私立や認可外の施設など、他の環境についても並行して知ることのできるサービス等があれば、選択肢ができ、選びやすくなる。

【就学児童】

民間企業ではアプリでわかりやすい子育て情報をよく見る。子育て専用アプリがあるなら、もっとアピールして、子育て世代が使えるクーポンをつけ、もっと子どもに対してお金を使い、子育てしやすい街にしてほしい。
情報媒体（冊子や HP の構成）が見にくく、一目で必要な情報を見つけにくい。文字で情報をたくさん記載することは大変だが、世代によってはマンガのように字より絵からの方が情報を拾いやすいと感じる人も多い。とっかかりの部分に関しては、若い世代が見やすく、理解しやすい情報媒体を取り入れるとよいのではないだろうか。

行政が行っていることは、自分で調べないと知り得ない情報が多い気がする。対象となり得る支援等の情報が自動的に知れるようになってほしい。
こどもを育てるにあたり、様々なサービスがあることは分かるが、ネーミングが古いままでネーミングとサービスの内容が一致していない。窓口をまとめ、ネーミングをブラッシュアップするなどして、サービスを利用しやすいようにしてほしい。子育て世代は SNS で情報収集するのでポスティングも不要。アプリの整備をしてほしい。
こどもが生まれてから鬱になり、現在も療養中。支援についてどのようなサービスがあるか、どの窓口に行けばいいかわからず、カウンセラーの先生に聞いている。24 時間チャット等で気軽にわかる仕組みがほしい。

(16)支援施策

【就学前児童】

初めての育児が双子育児で一歳になるまでは本当に悩んだ。時間やお金の支援がもう少しあったら楽しく育児できたと思う。
子と親がお金などの余計な心配をすることなく、せめて 10 歳までは長い時間一緒にいられるように支援してほしい。
広島は親が近くにいることが前提のサービスが多いので、頼れる親族等が近くに住んでいない核家族への支援をしてほしい。
いろいろな場所や施設で色々な経験をさせたいが、何事にもお金が必要で、自宅で過ごすことが多い。動物園の無料化など、こどもに経験、体験させられる施設の利用への支援をしてほしい。
子育てが楽しいので、出来るだけ長い期間こどもと一緒にいたいが、経済的支援がないので、経済的なことを考えると復職せざるを得ない。

【就学児童】

日本人の気質からすると、ファミリーサポート等のサービスを気軽に利用するのは難しい。サポートの充実より、保育園を増やす、中学・高校の必要経費を減らすなど、家庭内で子育てをしやすい環境をサポートすることに目を向けてほしい。
今のままでは、家庭、学校、保育所、こどももしんどい。保育・教育関係予算を数倍に増やし、子育てや教育に関わる大人の数と施設を大幅に増やすべきである。生まれてきてよかった、産んでよかったと心から思える社会にしてほしい。
健常児を基本観念に色々な機関・支援が作られている印象を受ける。もっと多様性のある基本観念(視点)で支援を考えてほしい。
広島市はこどもに対する支援が不足している。給食費の無償化、高校無償化、医療費補助の拡大など、こどもを育てやすい町を目指してほしい。
就学前の支援は多いが、就学後は少ないと感じる。こどもだけでなく、親の支援も同じくらいしてほしい。
こどもは国や地域の将来を支える極めて重要な存在にもかかわらず、出産・育児には経済的・肉体的・精神的な負担が大きすぎるため、真剣にそれらの軽減に注力すべきだと思う。
扶養人数ではなく、育てたこどもの人数で支援してほしい。手が離れており扶養から外れても育てた人数とかかる費用は変わらない。少しでも不公平感が無くなる施策をしてほしい。
こどもたちに夢を持って楽しく生きていけるような環境支援をしてほしい。
沢山ある選択肢の中から、親とこどもにあった支援を選べるような形がよい。色々な支援を用意し、自分にあったものを選べるようにしてほしい。
子育てがしんどいと思ったのは、こどもが小さい就学前の時期。小学生になった今は、だいぶ手が離れたと感じる。サポートがより必要な未就学児へのサービスの充実をしてほしい。
高校生や大学生の 1 番お金がかかる時にも支援を充実してほしい。

(17)相談窓口

【就学前児童】

出産後すぐ民生委員の方が来てくれてすごく嬉しかったが、今思えば、産後すぐは 0 カ月検診など相談する機会が多くあったので、産後半年や 1 年後など、産院からのケアが減るタイミングで相談できたら嬉しかった。
相談窓口が基本平日しか開いていないので利用しづらい。区役所や保健センターまで歩く距離が少しあるので、子連れはしんどい。
母子手帳交付時にリーフレットなどをいただく際に、スマホひとつでいつでも相談できる場や SNS についての情報を知れれば、母親世代はまず安心できると思う。また、直接交流や相談のできる保健師、助産師とのつながりを作ってもらえると嬉しい。私自身はとても助けられた。
電話相談窓口の紹介を含むチラシが定期的にほしい。
自ら相談や連絡する人は多くないと思う。園に迎えに行った際に、困り事をきいてくれたり、こどもの成長を共に見守ってくれたりするスタッフが定期的に園を訪問してくれれば、顔馴染みになり相談しやすい環境になる。
こどもを授かると身体的疲労がひどい。産後にこどもを抱えての移動は大変な作業だが、職場復帰のために、点在する役所へ相談や手続きのため移動を繰り返した。
今でもとても子育てしやすい環境だと思う。欲を言えば、子育て関係の窓口を分かりやすく 1 つにし、そこから担当者につないでほしい。相談したい時はとても疲れている時だと思う。何をどこへ相談すればよいか分からないような時、ホームページから電話番号を探すのは大変である。

【就学児童】

不登校になった時の相談場所、こどもの学校以外の居場所がなくて困ったし、親も孤立する。情報をもらえる場も分からなかったので、気軽にサポートを受けられると良いと思う。
小学校の教員だけでなく、事務や受付、カウンセラー、司書などの常勤のスタッフを増やし、子も親も相談したり図書利用したり、学区の中で支援やサービスが受けられるようになるとよい。
保育園までは身近な先生に相談しやすいが、学校に入ったとたんに相談しにくいと感じる。学校での生活など悩みが多岐にわたるため、どこにどう相談するべきか保護者自身が悩む事が多くなってきた。小学生や中学生の心の支援などの情報を具体的に目につくように発信してほしい。
民生委員に相談すると、古い町なので「ここだけの話」で変な噂が広まるのではないかという不安がある。隣町の民生委員などで成り立てばいいと思う。
土日に気軽に相談できる場所がほしい。
仕事をしていると、空く時間が夜しかないので相談窓口に行けない。メールやネットで相談できると良い。24 時間受付などいつでも気軽に相談に乗ってもらえるとありがたい。
区役所、相談所からもっと積極的に電話などしてきてほしい。来れない、自分からは言えないという人がいると思う。
気軽に利用できる SNS 関係のトラブル窓口があるとよいと思う。

(18)オープンスペース

【就学前児童】

土日も利用できるオープンスペースがほしい。保育園に通っているが、親同士の付き合いがないため、休日は親子だけで過ごしている。こどもは同年代のこどもと一緒に遊びたがっているので、そのような場がほしい。
スタッフの方の負担になるのは承知しているが、オープンスペースや園庭開放の時間を長くしてほしい。土日のオープンスペースもつどいの広場以外開放してほしい。もしくは民間企業の商業施設にこどもが遊べるような広場を設置してほしい。
現状は分からないが、数年前は、近所の子育て支援センターはどこも土日が休みだった。夏・冬・梅雨等、小さな子を連れて外で遊ぶには厳しい時期が長いので、どうにかならないものか。
土日や祝日も行けるようなオープンスペースがあると嬉しい。また、3 歳未満のみだけでなく、小学校入学までに年齢を拡大していただけると通いやすい。
子育て世代が利用する、ベビールーム等の環境のある施設の整備や維持に予算をかけてほしい。オープンスペースを充実してほしい。
保健所のオープンスペースは、手作りおもちゃなどがあり、こどもが飽きずに遊べて助かる。
母親は孤独になりがちなので、オープンスペース等、集える場を充実してほしい。
商業施設内に 1 時間でもいいので一時預かりができる場があれば、身軽に買い物ができるのでありがたい。オープンスペースの時間が 9 時からになれば、上の子を幼稚園に送った後そのまま利用できるのでありがたい。
オープンスペースを利用したくても、周りに迷惑をかけてしまうので利用できない。特性のあるこどもだけの時間や曜日があると気軽に利用しやすい。
室内で広々と遊べる乳幼児向けの施設が少なく、梅雨や寒い間、暑い間遊ぶ場所に困ることが多い。
無料または低料金で利用でき、室内でしっかり体を動かして遊べる施設があまりないので整備してほしい。
月に一度の美容院が併設しているキッズスペースにこどもを預けている。遊んでいる様子がタブレットで見られるし、何よりも安い。こういった施設がもっと必要だと思う。本当に月に一度、自分もリフレッシュでき大変助かっている。
広島市のオープンスペースは開いている時間も短く、またイベントなども少ないように思う。施設も古いものが多いので広くきれいになると嬉しい。

【就学児童】

他県に比べて子育てしやすい環境が整っていない。地域により差があることに不満がある。こどもたちが遊べる子育て支援センターの充実を望む。
こどもが自由に自習や読書をして過ごせる場所を学区内に作ってもらいたい。今は、長期休暇時に、学区内の集会所で 2～3 日程度だけ、自習出来る日を設けてもらい、こどもも家以外で勉強できる場があり喜んでいる。いつでも自由に過ごせる場があればこどもも親も助かる。

(19)経済的支援

【就学前児童】

上の子の時と比べて、オムツやミルクが値上がりしており、金銭的な不安があった。こども医療費の所得制限の撤廃、保育園の副食費や学校給食無料化等、金銭的支援を充実してほしい。保育料の第 2 子半額はありがたい。
広島市在住だが、2 人のこどもの医療費の支援のみで、子育て世帯への経済的な支援が少ない。現在、毎月の保育料と小学生の給食費、学用品、児童館利用料など、払うべきものが多すぎて負担になっている。
子育て世帯に対し、おむつや育児用品の無償提供、医療費無料など、もう少し支援を拡充してほしい。保育園も 1 人目が卒園したら 2 人目が 1 人目扱いになるのを見直してほしい。
物価高で金銭面がとてもしんどいと感じることが多い。金銭面をカバーするためにはフルタイムで働かなくてはいけないので、子育ての時間が取れなくなりこどもとの時間が減ってしまう。両立できるよう、こどもが小さいうちは短時間勤務や、金銭面をサポートしていただける支援があると嬉しい。

子育て支援に所得を絡ませないでほしい。年収 600 万一人っ子の家庭と年収 1000 万 3 兄弟の家庭では、どちらも経済的負担は変わらないと思う。家庭で見るのではなくこども 1 人で見てほしい。
難しいと思うが、お金は必要なので、こども 1 名当たり毎月いくらか手当があれば助かる。通わせたい習い事をしたり、親も少し働く時間を短くできたりできると思う。良い金額を出せば広島県や市に人が増えると思うし、施設を作ると時間もお金もかかるので、こどもがいる世帯に支給してほしい。
遊びも学びも、民間には細かいサービスがあるので、経済的にゆとりがあれば積極的に活用したいが、なかなか全てとはいかない。一人っ子や経済的に余裕のある家庭とそうでない家庭で、こどもたちの体験格差の開きがどんどん大きくなっていることが気になる。
育休中に離婚したが、育児休業給付金のみの生活で、育休前の手取りが多かったため、何の支援もなく、こども達の医療費も高く、色々な支払は高いばかり。給付金は限られており、つらい日々が続いた。もう少し、育休中の方の立場を考えた仕組みにしてほしいと心から思った。結局、自分が働いてしばらくするまで、生活に潤いはなかった。
年少扶養控除を復活させてほしい。こどもに対する支援は、所得で制限せず平等にしてほしい。
広島市は、出産した際の給付金や支援ギフトが他に比べて少ないと感じる。もっと広島市で子育したくなるような支援を期待している。
こどもの支援を親の収入で決めないで平等にしてほしい。医療費等は毎月かかるので、収入で支援がなくなるのは負担が大きくなった。
子育てに対して経済的な支援を優先的にしてほしい(特に、医療費、おむつ代などの定期的な出費に対する支援)。広島市は他の自治体に比べて、経済的支援が甘いと思う。子育て支援を充実させることは、広島市の活性化(人口流出対策)にもきっとなるはずである。

【就学児童】

子育て支援の所得制限をなくしてほしい。正規フルタイムで働くと家庭に負担が大きいのはわかっているのに、収入のためにいやいや選択している。こどもに支援が必要な時に、仕事と両立させようと頑張ろうとするのに、引かれる額が増え、もらえる額が減るのは、本当にヤル気をなくします。
金銭面での支援が有難い。医療費、通学バスの補助など。
教育費、医療費の支援が 1 番助かる。
こどもたちが平等になるように、学校、保育園、幼稚園の教材費だったり給食費だったりを支援してもらえたら助かるなと思う。
学費、保育料の負担をもっと減らしてほしい。第 3 子への経済的支援が広島市はなさすぎる。
親が遠方で頼れず、またこどもに発達障害があるため、日常生活で手一杯で、そこに各手続きが重なると本当に余裕がない。話を聞くとか相談とか以前に、まず人的、金銭的に助けてほしいのが正直なところ。悩みとかは落ち着いた後でいい。
経済的な不安から共働きしている親が多いが、それによりこどもが愛情不足になり、辛い思いをしているケースも見かけるので、子育て世帯への経済的支援をお願いしたい。
世帯の収入に関わらず経済的な支援があったらうれしい。
高校まで授業料が無償とはいうが、教材費や交通費などけっこうお金がかかる。それらも援助してもらいたい。
経済的余裕、時間的余裕、体力的余裕のどれか 1 つでもあれば、ここまでしんどくないのになあと思うことがよくある。経済的支援や、無料又は安価で利用できるサービスの充実をお願いしたい。

(20)行政支援サービス　その他

【就学前児童】

育休後にフルタイムで復帰予定だが、フルタイムになると、保育料も高額になり、何のために働いているのかと不安になる。もう少し、フルタイムで働いていたり、収入制限にかかっていろいろな対象から外れる方への支援も整えてほしい。
少子化対策など色々と聞くが、多く兄弟がいる家庭にしか支援がないような印象。産みたくても産めない方も多くいるので、こども 1 人でも大切に平等に支援を受けられるようになってほしい。
広島市は、子育て支援が充実していると思えない。充実している他の市町村のように、子育てするなら広島市だと思えるような、移り住みたくなるような支援制度が進んでいってほしい。
里帰り出産をする時の県外で受けた検診など、あとから手続きしなければいけないが、かなり書類申請が面倒。また、県によって申請の仕方が全く違う。全国でやり方を統一するべき。もしくは、里帰り出産に関しては、県外でも無料で検診を受けれるようにしてほしい。ただでさえ出産後赤ちゃんの世話で大変なのに、書類をまとめたりするのがかなり大変。
様々なサービスなどがあるが、仕事で利用できていない。母が育児休業中はまだ利用できていたが、時間がなければ利用する機会はない。
日本は資格を持っていた方が有利というのが当たり前だが、お金が払えず資格を取らせてあげられないのが事実としてあるので、そういった支援を増やしていってもらいたい。
独自の子育て支援などがない結果、人口が流出している。他の地域と同等のサービスにするのはスタートラインで、それを上回る新サービスを考案してほしい。
都道府県や市町村によって教育にかかる費用や補助が違うのは、同じ国民として不公平に感じる。こどもはこれからの社会を担う国の宝だと思う。誰もが金銭的な不安や負担なく子育てできる環境をつくってほしい。

【就学児童】

まずは、所得制限の撤廃。あとはこどもが多い家庭に対して補助金を出したり、こどもを預けられる施設を作ったりして、子育てしやすい環境を整えてほしい。
3 つの区が交差する地区だが、住所地の区役所までが遠すぎるのが大変だった。届出も乳児検診も、近場の区役所を選択(変更)できるようにしてほしい。
教育、支援についてはまだ課題が多く難しいだろうけど、縦割りをやめ、こどもたちがこれからの未来を楽しめるような社会にしてほしい。そこを怠るのは大人の怠慢であると思う。

4．職場や家庭

(21)産休・育休

【就学前児童】

男性の育休を半年くらいの長期間でも取りやすい職場環境にしてほしい。
育休中は上の子の保育園が短時間保育になり、朝の保育開始が遅くなるため、仕事をしている父に送ってもらうことが難しくなってしまう。保育時間を延ばしてほしい。
育休制度を長めに取れるようにしてほしい（3 歳まで）。
姉や兄が保育園に通っていたとしても、夫婦共に育休をとれ、保育園を退園しなくてもよいなど、こども一人一人に合わせた育休ができるよう制度を検討してほしい。
育休中の上のこどもの保育園通園条件を、育休対象のこどもが「1 歳になる年度末まで」から「2 歳になるまで」に変えてほしい。企業が 2 歳まで育休取得を可能にしているのに、その制度を活用できない。加えて、冬生まれの子が 2 人おり、保活に本当に苦労した。
育休中でも、期間に制限なく保育所を利用できれば、下の子の育休をもっと長く取れる。制度上は 3 歳まで育休を取れても、実際は上の子が慣れた保育園を辞めないといけなくなるため、1 歳で復帰せざるを得ない。また、復帰時に妊娠中で体調が悪くても無理に復帰せざるを得ず、職場にも迷惑。休みを延長できれば、職場も人員を増やす等対応できる。
現在、2 人目の育休中で、保育園に申し込みをしている段階。4 月からの入園が出来なかった場合、上の子が保育園を退園になる制度に驚いている。もし、上の子が退園となった場合は、2 人同時に再度申し込む形となり、復職がかなり遠のくと感じ、認可外のあまり希望していない園に下の子を入れようと考えている。この制度をもう少し緩和してほしい。
妊娠したことを職場に言いにくいのが現実。派遣であれば、更新のタイミングによっては産休に入る前に更新してもらえず、産前産後休業手当等が受けられなかったりする。大きなお腹では次の派遣先も決まらないことも。もっと産前産後の休業や手当が受けやすいと助かる。産休に入ると嫌がられるのでギリギリまで言いづらかった。こどもができたことをもっと喜べる環境にしてほしい。職場では契約更新のタイミングだったのでストレスがとても大きく、ヒヤヒヤしていた。
父母ともに育休をとって良かった。これがスタンダードになれば良いと思う。ただし経済的には厳しかった。
男性の育休取得率は上がっているかと思うが、職種による開きが大きいように感じる。夫は上司に相談したが、育休を取得できなかった。全ての男性が適切な時期に育休を取得できるよう、働きかけを続けていただきたい。
男性が育児に参加できるよう、職場に対して育休取得を義務化することが望ましい。平社員だと取得しやすいが、管理職だと取得しにくい。
産前産後、育休中の減給をどうにかしてほしい。
3 歳まで育休をとれるのが当たり前の社会にしてほしい。
育休取得は会社によって対応（取りやすさ）が違うので、もっと社会全体で取れるようになってほしい。男性が育児しても当たり前の社会になってほしい。
親の育児休業だけでなく、祖父母が育児休業を取得できる仕組みがあってもいいのではないかと感じる。
慣らし保育から仕事復帰まで 2 週間しか期間がないのは、短すぎる。

【就学児童】

大企業でなければ、現実的に父親が育休など取るのは困難。結局専業である母親に子育ての負担が 100%かかる。もし私が働いていたら、きっと職場に迷惑かける心苦しさで、それがストレスになっていただろう。
父親が育児参加出来る時間が少なくなる傾向は今も根強いと思う。こどもの病気で休める、看病で休める、有給の権利をしっかり認めるなど、核家族化が進む以上、必要な働き方改革の推進をお願いしたい。

(22)育児の分担

【就学前児童】

父親の育休取得率を 100%にしてほしいと思うが、休むだけで育児家事をしない父親もいると思う。とにかく母親の子育ての負担が大きすぎる。1 歳半検診等、平日でなく土日にやってもらいたい。
親が近くにいない、助けがない人でも育児しながら働きやすくなるといいと思う。男女の家庭内での役割の差は、わかっていてもなかなか変わらないもの。女性だけ大変にならないように意識を変えていくことが必要だと思う。
各家庭の祖父母、母ありきの子育てではなく、父親の育児への参加が必要であると思う。
家庭、職場など、子育てや家事に対する意識を男性が変える必要があると思う。

夫婦で家事分担できるよう意識啓発や労働時間短縮などしてほしい。
男性に、妊娠、出産、子育てに関する理解を深める機会が増えてほしい。
これまでは、子育ては母がするものという意識が強かったが、これからは父も育児休業等取得して当たり前という意識が常識として根付いていってほしい。

【就学児童】

女性の社会進出を応援する前に、男性の育児(家庭)進出をもっと推進すべき。企業はまだまだ古い考えの人間が多い。保育園より、小学校にあがってからの方が働き続ける事は困難になることをもっと社会に示すべき。
男女で育児に対する意識、責任感に差がありすぎる。女性が常に負担を強いられる事が多すぎる。
結局、女性の負担が大きくなる。私は仕事も大切。キャリアが積めなかったこと、夫が育児に参加できる時間も十分になかった。つらかった。

(23)ワークライフバランス

【就学前児童】

本当なら働かずこどもの側にいたい。保育園ではなく幼稚園等で他者との関わりは持てるし、小学校に上がれば家でこどもをむかえてあげたい。でも働かないとお金がない。補助金はいらないので、給与から引く金額を減らして手取りを増やしてほしい。それなら母はパート等に変更もできる。
こどもと思い出を作りたい反面、働かなくては生活ができないし、こどもに好きなものを食べさせたいなどと考えると、もっと働かなくてはと不安になる。仕事は嫌いではないが、ある程度仕事をセーブしておもいっきり公園などでこどもと遊べるようになればうれしい。
保護者もリフレッシュできる環境を整えてほしい。現実は平日フルタイムで働き、帰宅後や休日は育児をして疲れ切っている（育児に休みなし）。
父母関係なく家庭に関わる時間と個人的な時間をとれるような労働環境の実現をお願いしたい。時短勤務制度はあっても利用しにくい空気があったり、収入が下がってしまうなどの理由で長時間労働せざるをえない事情がある。
朝から夜まで働いていており、こどもをのびのび遊ばせられるのが休日のみになるので、仕事、家庭がもっと柔軟に選択できる世の中になってほしい（特に労働時間をもっと働きやすくしてほしい）。大人もこどもも心にもっとゆとりがほしい。子育て支援もありがたいが、国・会社の子育てへの理解がもっと進んでほしい。
じっくりこどもに関わっていく時間を増やしたいと思っても、仕事をしなければ生活できず、毎日ゆとりもなく時間だけが過ぎていく。こどもと関われる時間は少ない。看護休暇も 2 日では全く足りない。病児もなかなか入れない。
働かないと生活ができない。でもこどもに寂しい思いをさせたくない。その両方をバランスよく満たせる社会であってほしい。
私は現在働いていないが、子育てになるべく負担のないようにこれから働きたいと思っている。現状は労働時間と預け先の時間の兼ね合いが難しい。労働と育児の充実ができるよう、一度しかない子育てが楽しいと思えるような社会のしくみになってほしい。
子育ても仕事もがんばりたいママが多いかと思う。両方頑張れる環境整備をお願いしたい。
仕事との両立がとにかく難しい。休むのは母親ばかりで、職場で肩身の狭い思いをしている。

【就学児童】

私立小のアフタースクールに通い、長時間学校であずかってくれるため、なんとか仕事との両立ができている。仕事か家庭かを選ぶのではなく、仕事をしたい人は当たり前に両立できるような意識をつくっていってほしい。行政として長期的なプランを立て、働き方改革など根本的なアプローチを期待する。
家庭生活と両立できる職場環境を作ってほしい。こどもの数によって休みをとれるようにしてほしい。
こどもが小学生の間(4 年生くらいまで)は、親の労働時間の短縮や経済的な補助(時短であっても給料が大きく減らない)があれば、こどもと関わる時間やこどものために費やす時間が取れるので良いと思う。
お金もなく働くしかないけど、働いて疲れると、家できちんとこどもをみる時間もなくしんどい。

(24)職場環境の改善

【就学前児童】

小学校に長男が入学を控えているが、学級閉鎖、臨時休校時は学童保育も閉まり、三男が 4 月から保育園に通うこともあり、有給が足りるか心配。そもそも、休むと職場でものすごく怒られる現状。働くことが辛い。職場の理解、こどもの受け皿含め、まだまだこどもが社会にとって軽視されていると感じ悲しい。
どの会社も育休を 3 年とれるようにしてほしい。1 歳じゃかわいそう…。子育て給付金をいただけるのは大変うれしいが、会社が休みを取りやすくしないかぎり、こどもを産もうとは思わないと思う。子育ても仕事もバランスよくできれば、こどもを産む人が増えると思う。育休をとれば出世コースから外れる会社がほとんどだと思う。
子育てする家族の手当も嬉しいが、それをサポートした会社の残されたメンバーが評価される仕組みになると育休が取りやすいし、嫉まれることも減ると思う。
未だに男性社会、子育ても女性、育休とるのも女性、出産時にも配偶者は休みをもらえず、一人で産み、一人で育てている孤独感。男性職場の意識改革をすすめるためにも、男性の育休を国がもっと定め、支援してほしい。最初は会社ごとの取得率を調査してほしい。
こどものいる家庭は、勤務時間 9：00～15：00、週 4 日とかにしてほしい。
こどもがいる家庭が働きやすい職場が増えてほしい。

家庭生活と両立する職場環境、制度の整備を充実させてほしい。フルタイム勤務だが、出社時間が 30 分でも遅らせられたり、自分である程度調整できるようになれば嬉しい。
祖父母が県外、父の勤務地が遠方で平日はほぼワンオペという事もあり、小学生くらいまで時短勤務の制度が利用できたらなと感じている。現在の勤務先では、子が 3 歳になる年度末までで、それ以降はフルタイムで働かなければパートになる風潮。
収入の確保と充分な育児の両立は難しい。出産に対しての職場の厳しさ、役職の解任など現実は普通にまかり通っている。
子育て支援は以前よりもよくなってはいるが、仕事と子育ての両立は想像以上に苦労が絶えない。「こどもの看護で休日勤務や夜勤を休んではいけない」と言われ、心が折れた。どうか、行政による支援で現状を変えてほしい。

【就学児童】

働くにしてもこどもを優先したいと考えると、そういった考えに合う職場に中々出会えず、長く続けることが出来ないのが現状。もっと、柔軟に働き方が選べる職場を増やしてほしい。
仕事で比較的席を空けやすいはずの事務職の私ですら、上司から有給許可を取る際の威圧感は凄いので、シフト制のお仕事をされている方のご負担はいかばかりかと思う。
職場にて子育て世代が休みやすくなったことはよい事だが、他の職員へのしわ寄せがある事も事実。自分はどちらの立場も経験しており複雑な気持ちになる。職場の他の職員への負担が軽減される良い方法はないのか・・・。
職場での子育てへの理解度はまだまだ低く、行事や病気で休んでも良いと言ってくれても、アルバイトやパートの立場では有給をとらせてもらえない会社がある。子育てしている人が有給を使うのは有事の時（こどもの病気）が多いのに、そういうことさえさせてもらえていない。
子育てと、仕事の両立を目指したいが、フルタイム勤務になると難しいので、こどもがいると時短勤務の義務化をしてほしい。
こどもが病気になったりケガをした時に、仕事を休みやすい制度や社会の雰囲気作りを整えてほしい。休める制度はあるけれど取りにくい雰囲気がまだ多い。また長期休み(夏休みなど)に家にこどもたちだけにならないような場が増えればいいと思う。
仕事の有給が 40 日では少なく、転職したばかりだと有給が少なすぎて欠勤扱い。給料自体も少なくなる。
パートで働いているが、やはりこどもの体調不良で休むことは、年内で 5 日ほどはある。職場もそのような時の理解はあるが、やはり休むとなると他の人の負担が多くなるので休みにくい。

(25)職場や家庭　その他（経済的負担等）

【就学前児童】

社会保険や税金の扶養の範囲を拡大してほしい。最低賃金が上がっても、働く時間が短くなるだけで収入も増えない。
現在、経済的な理由から保育園を利用しているが、仕事が終わって家に帰ってからも家事や子育てに追われ、こどもと家でゆっくりと関わりたいと願っていても、現状難しく、何のために働いているのかなと思うことがある。保育料が無償になったことで経済的負担は少し減ったが、こどもが成人するまでにいくらかかるのだろうと不安になることがある。支援にも経済的負担がなくなれば利用しやすいと思う。
仕事をするほど保育施設に頼る必要があるので、その分金銭負担となり、経済的に全く改善されていないと感じている。
子育てにとにかくお金がかからないようにしてほしい。給付じゃなくてタダにしてほしい。
子育て世帯への手当・補助金ではなく減税希望。お金をもらっても税金で回収されるのであまり助からない。
こどもが欲しくても経済的な理由から、2 人目、3 人目をあきらめる人がいるので、医療、保育など、金銭的な負担が減れば何かきっかけになると思う。
こどもとの時間の確保や充分な教育を与えるため、年収アップや家から近い距離の職場への勤務を目指して、転職をしたいと考えている。転職支援などが相談できたらいいと思う。
こどもにもっとお金をかけず、過ごすことができるようにしてほしい。何かと、お金がかかることが多すぎる。
子育ての環境や支援が手厚ければ、もっとこどもが欲しかった。子育てにお金がかかりすぎて、産めないで諦める決断をする夫婦が周りに多い。

【就学児童】

教育が義務化されているのに、入学準備等にお金がかかりすぎる。就学援助の対象にならない人でも、大金がかかって苦しくなる。すべてにおいて（高等学校含む）無料化を実現してほしい。政府は本当に一般家庭の生活を理解していない。
母親をもう少し家にいれる経済的に余裕のある環境にしてほしい。子育てを施設などに任せていて、こどもの心の中はどうなのだろうか。今の子はかわいそう。
親がゆとりを持ってこどもと接するには経済力の安心も必要。賃金を上げて親が休める、安らげる環境を作ってほしい。こどもにチャレンジ体験させたくても、お金がついていかないと、体験することさえできない。
私は 3 人のこどもがいるが、産みたくてもお金の問題で諦める人が多く、とても残念だと思う。産みたい人が産める社会になっていったらよいと思う。
過去に、両親ともにフルタイム・残業ありで子育てしていたが地獄だった。時間、金銭的余裕が子育てを楽しくいいものにすると思う。産めば産むほど金銭的に楽になる制度があるとよい。

５．社会基盤

(26)道路

【就学前児童】

道路の歩道の段差を少しでもなくしてほしい。
学校や公園、踏切付近にしっかり歩道が確保されていたら安心だなと思う。こどもが遊びに行ってもそこが心配。
ベビーカーや子乗せ自転車、手をつないで歩くとき、歩道が狭くて怖いので整備してほしい。
ベビーカーで移動するには道のデコボコが多くて危ない。歩道を広く平たんにしてほしい。

【就学児童】

狭い道や水路が多く、通学路や遊びに行かせるのも心配。
学区内の中学校に通うのに、通学距離は長く、道路(歩道)は狭くガタガタで、雑草だらけで歩くのも困難。バス代の補助または道路等の環境整備をしていただきたい。
通学路に投差のある歩道を設置してもらいたい。

(27)安全なまちづくり

【就学前児童】

こどもが小学校以上になれば、本人の希望で働くことができるようになる。歩ける範囲内であれば、こどもがどこにいても親はある程度心配なく働いたり家事をしたり、息抜きをして暮らせる。そんな当たり前の難しさを想像している。こどもとその親が安心して行ける場所が増えてほしいと願う。
登下校時の安全面の確保（地域全員での見守りや GPS 無料貸与など）に注力してほしい。
保育園の前や周辺の道路を大通りの抜け道として利用する車が多く、スピードを出したり、歩行者がいても止まってくれない車も多い。小学校の通学路でもあるが危険が多い箇所にもなるため、対策をしてほしい。
犯罪情報をウェブサイトで見れるようにしてほしい。
最近、小さなこどもを狙った犯罪の報道を多く感じる。こどもが大きくなり、小学校、中学校と、どんどん親の手から離れていくことになるが、離れている間も安心して仕事に打ち込めるためには、安心して学校に通える、放課後を過ごせる環境が不可欠。こどもと関わる仕事に小児犯罪を犯したことのある者がつけないようにするなど、親子共々安心できる社会づくりにぜひ力を入れてほしい。
こどもが安全に過ごせるために監視カメラの設置を広げてほしい。
不審な人が多いので、地域の人たちのパトロールなど声かけをしていただけるとありがたい。
こども達が毎日、楽しく安全に生活できる環境がほしい。仕事で不在が多いため、地域の方など信頼できる大人の目が増えていただけたらありがたい。

【就学児童】

もっと街灯を増設し、冬に早く日が暮れても安心して学校から帰宅できるようになれば嬉しい。
不審者が多すぎて、こどものみの外出に不安。
犯罪者や不審者からこども達を守る活動(こども達が遊ぶ場所の見守やパトロール)をもっとしてほしい。
安全なことが第一なので、こどもたちが犯罪にまきこまれたり、事故や事件にあったりしないような世の中になってほしいです。

(28)公園

【就学前児童】

広い芝生の公園がほしい。
公園の遊具がどこも古い物が多く、また簡素な物が多い。雨天でも遊べる室内の遊び場の充実をはかってほしい。
悪天候時にでも遊べる（体を動かせる）施設や屋根付きの公園などを増やしてもらえると嬉しい。
電車とバスで行ける手頃な遊び場が本当にないので、車がなくても行ける遊び場を増やしてほしい。スポーツ観戦に興味がないので余計にそう感じる。
晴れた日には大型遊具のある公園で遊び、雨の日は室内の大型遊具であそべるような場所が市内にほしい。夏は水遊びやプールを楽しませてあげたい。
近くにある公園はどこも狭く、かつ小学生以上のこどもが遊びやすい設備のある場所となっており、特に下校時間帯などは遊びづらいと感じるため、幼児でも利用しやすい環境があると助かる。
もっと公園を増やしてほしい。遊具や砂場の整備をお願いしたい。また、車で行ける大きな公園がほしい。小学生がボール遊びをしていると小さな子が遊べないので、スペースを分けてほしい。
公園に小さいこどもでも遊べるような遊具があると良いと思う。近所の公園は、すべり台が大きすぎてあまり遊べない。
公園の遊具が古いし、ボールで遊べるところが少ない。市内に大きめの公園が少ないし、あっても駐車場が少なく、料金も高い。
近所の公園が広すぎて、3 歳未満を遊ばせるのに怖い時がある（小学生がサッカーなどしている）。小さい子が気軽に遊べる小さな遊具がある公園が近くにあるとうれしい。

【就学児童】

サッカースタジアム、こども文化科学館、ひろしまゲートパーク一帯をこどもが遊べるスペースにしてほしい。遊びと買い物、食事、1日中楽しく安全に遊べる環境をつくってほしい。
学区内にこどもの遊び場、公園等が少ない。小さい公園が集中し、思いっきり遊べない。ボール遊びができるぐらいの広い公園が必要。河川敷を整備して遊べるようにしてほしい。地区によっては差がありすぎる。
空き地ができると団地ばかりすぐできるが、自分の住んでいる地域には大型の公園もなく、公園があっても遊具が1つのみの小さな公園。ボール投げをするこどもが来れば、小さいこどもたちは帰っていくしかない。こどもたちの遊び場の環境を地域差なく整えてほしい。
子連れで集まれる駐車場つきの公園や遊び場をもっと増やしてほしい。
公園が少ない。狭い公園ではなく、ボール遊びや自転車に乗る練習ができるような広い公園があるとよい。
こどもが広々と遊べる公園がもっとあれば良いのにと感じる。市内で遊べるプールや施設がもっとほしい。駐車場付きで1日遊べる公園があれば嬉しい。
公園の設備の充実と、トイレや手洗い場の衛生に力を入れてほしい。車の駐車が可能な公園を増設してほしい。夏の日陰を作ってほしい。真夏や雨の日でも遊べるように、スポーツセンターを開放するなど、屋内遊具施設がほしい。こども文化科学館を綺麗に改装してほしい。
公園で自由に遊べない。大人の意見ばかりが融通され、禁止の看板ばかり立つ。禁止するのではなく、どうしたらこどもたちが伸び伸び外で遊べる環境ができるか考えてほしい。

(29)社会基盤　その他

【就学前児童】

市電にベビーカーで乗りやすくしてほしい。エレベーターにベビーカーで乗りたくても、エスカレーターや階段でも大丈夫な人がたくさん乗っていて見送ることが多い。車なしの子育てでもあまり不便のない環境があると嬉しい。
こどもをつくり育てるという選択をした人たちが国にとって尊い存在であるということをもっと明確に発信すべきだと思う。
公共交通機関のこども料金無料化を希望する。
公共交通機関での移動が難しく、車を運転できないと行動の範囲が狭くなる。
虐待が起きる前に行政が介入できるようになるのが理想だが、とにかくこどもの権利条約の大切さを全国民に周知させるべきだと思う。

【就学児童】

学校のグラウンドや体育館、公園等で遊んだり、部活をしていても、近隣からのクレーム等があり、こどもがのびのび遊んだり出来ないのでどうにかしてほしい。
子育てしている人への理解と寛容さがある社会にしていきたい。こどもはさわぐもの、手がかかるもの、多くの大人の手で育てていくもの。両親だけで育てなければならない風潮が非常に辛い。自分の両親がいないと子育てはできないのかという位、職場で風当りがきつい。
物理的支援よりも、こどもの存在や行動に対する寛容性が大切だと思う。

6．公共施設

(30)図書館

【就学前児童】

図書館の本が古いものばかりで、前に住んでいたところよりも、借りに行く回数、こどもが本を読みたがる回数も減った。
他の自治体と比較し、図書館の絵本の所蔵数が少なく、予約しても順番がなかなかまわってこない。
図書館の駐車場を無料にしてほしい。
こどもが好きな本を選べて、好きなところで、それぞれ好きな体勢で読書ができる、素敵な図書館があったらいいなと思う。現在も満足はしているが、さらにこどもがのびのび読書できるスペースや、こども向けの最近の本が増えて、すぐに手にとって読めることがもっと多くなると、より楽しく利用できるのではないかと思う。

【就学児童】

昨今、こどもの本離れが問題になっているが、広島市は図書館行政が異常に貧弱だと思う。もっと気軽にこどもが本に触れ合い、こどもの知的好奇心を満たす機会を提供すべきである。特に身体を動かすことが好きでないこどもの遊び場になるよう、公民館等にたくさん新しい本を置いてあげてほしい。
こどもだけで読書が好きで図書館に通っているが住んでいるところから図書館が遠い。児童館や公民館などで貸し借りが出来たり移動文庫が小学校に月一ベースで来てくれると良い。
図書館の本がどこも古くて種類が少ない。
図書館のこどもコーナーが割と窮屈に感じる。こどもと読めるイスや机がもっとあれば、もっとゆっくりできるのにと思っている。

(31)遊び場

【就学前児童】

とにかく遊べる場所が無い。こどもがワクワク体を動かせる施設を作るべき。屋内で遊ぶ場所が全くない。公共施設が足りていない。作れないなら、企業を誘致してほしい。それでもできないなら、知育玩具をなどを購入し、自宅で遊べるように給付金、手当金を支給すべき。
一日遊べる大型施設（アスレチックなど）を屋内外問わず作ってほしい。利用料が安いとなお嬉しい。
市内は遊園地もなく、プールも少なく、親子連れの遊び場をもう少し充実してほしい。
他県から転入してきたが、以前住んでいた市に比べ、乳児や幼児を日中遊びに行かせる場所が少ない。児童館等の公的施設で開放日やイベントをしてもらえると助かる。
歩行が完了するまでの幼児がしっかり体を動かして遊べる施設などがたくさんできると嬉しい。
広島市には安く遊べる屋内施設がない。お金を出せばあるが、広島市が直接関わっていないので料金も高く、なかなか利用もできない。他県にはあったりするので残念に思う。
無料の室内遊具施設を作ってほしい。子連れは駐車場必須。
広島市は無料で遊ばせるところが本当にない。無料であっても駐車場代がかかったりする。府中市のこどもの国ポムポムや三次市の森のポッケみたいな施設をたくさん作ってほしい。

【就学児童】

こどもの遊びの場・空間・広さが足りないと強く感じて子育てをしている。校庭の開放も無く、ボール遊び、バットを使う遊び、野球が好きでも自由に遊べず、親として制限をかけることは苦しく思う。
こどもに対する周囲の目が厳しい。こども１人でも安心して遊べる場所がほしい。外遊びを思い切りさせてあげたい。
猛暑でもこどもたちが安全にのびのびと過ごせる遊び場があればいいなと思います。
他県に比べて広島はこどもの遊び場が少ない。有料でもいいので、遊園地、体を動かすアクティビティ、真新しい動物ふれあいパークなどの施設を誘致してほしい。大人が楽しい施設ばかり。
広島市は、本当にこどもを遊びに連れていきたいと思うところがない。あっても数が少ないからすごい人の多さ。
広島はこどもの遊べる施設が少ないです。レゴランドや遊園地、バッティングセンターなどの体験型施設をたくさん増やしてほしい。

(32)公民館・スポーツ施設等

【就学前児童】

まわりは幼稚園の後、習い事をさせている人が多いので、公民館等で様々な事が習えたらいいのになと思う。
教育、保育については地域の中で学べる場所をもっと増やしてほしい。気軽に通いやすい公民館や支援センターなどの中で子育てについて話が出来たり、リフレッシュの場所になるとさらに嬉しい。
小学生が放課後に遊ぶ場が少なすぎる。長期休み時や、雨天の時など公民館の体育館など開放してもらえたら嬉しい。
公民館で色々な習い事の体験会等、できると良いなと思う。

【就学児童】

公民館、支援センターが近くになく、情報がない。
乳児や幼児と一緒に参加できるアートのワークショップが公民館で催されていたが、コロナで殆ど見かけなくなってさみしい。こどもだけではなく、子育てしている両親のためにもアートな催しをしてほしい。
公民館主催の教育プログラムに、参加できるものはなるべくしていて充実しているが、いつも利用者は同じ。

(33)公共施設　その他

【就学前児童】

様々な事情があって車の運転ができない親もサービスを利用できるよう、もう少し関連施設を増やしてほしい。
プールをなくさないでほしい。遊べる場所を増やしてほしい。
電車でこどもと出かける時、駅での待ち時間が長いとこどもがトイレに行きたがるが、ペーパーが無かったり、和式では小さい体なので難しく困ることがある。公共交通機関の利用を勧めるのは良いが、環境も整えてほしい。

【就学児童】

こどもがもっと本と触れ合える環境を作ってほしい。
広島市に遊園地や全天候型の動物園がない。休日、外出先が少ない。

７．学校

(34)学校施設

【就学前児童】

公立の幼・小・中学校など、こどもにとって大切な施設の設備はずっと古いまま。

小学校の校庭を放課後に開放し、自由に遊べるようにしていただけると安心して遊びに行かせてあげられると思う。
小学校への通学にスクールバスがあると助かる。
小学校の環境をハード面も整えてほしい。校舎など暗いのが多い。ソフト面でも登校時間、下校時間、教育内容など整えてほしい
園や学校等の設備が古い物（校舎など）は積極的に建て直しなどしてほしい。トイレも古いのはこども達も嫌う。学校の遊具が何年も使用中止になっているのもなぜか。直さないつもりなのか。

【就学児童】

近くの小学校のグランドを放課後に開放してもらえたらなといつも思う。
特別支援学校が遠すぎる。毎日バスで1時間かけて通学している。通っている生徒は、安佐南区に住んでいる子が多数にも関わらず、安佐北区と遠い。安佐南区内に学校があったら…といつも思っている。毎日往復2時間の登下校は小学生には負担が大きい。障害児を取りまく環境はいつも後回しだと感じる。
自宅からすごく近い学校に通いたいが、隣接学校の希望者が多すぎて、本当に希望している人が行かれない。例として、障害を抱えている人が、隣接校を希望したのに特例がないのはかわいそうだった。
学校のトイレが汚いし古いしお粗末過ぎる。和式メインだし、こどもが行う掃除のみなので匂い汚れがこびりついている。せめて年1回の業者の清掃、保護者を入れて掃除してメンテナンスしないと、こどもは汚くて暗くてトイレが嫌なので、いつも我慢して帰宅している。そして男子もそろそろ全て個室にしてあげないと。

(35)学校教育

【就学前児童】

家庭で教育をする時間があまりとれないため、学校や保育園や幼稚園で教育のサポートを強化してもらいたい。そのために現場で活躍する人材への教育や、志を高く持てるように気持ちの余裕ができるような対策をとってもらえると嬉しい。そうする事によって親もこどもも少し気持ちに余裕ができ、フェアな環境づくりができると思う。
学習塾ありきの教育ではなく、公立の学校に通っていれば学力が身につくような教育に見直してほしい。
小学生の英語の授業の開始を1年生からにしてほしい。他の市町村では1年生からの所もある中で、3年生からの開始では遅れが出てしまう。
集団に属するのが全てではなく、教育はもっと多様でよいと思う。

【就学児童】

学校での勉強が理解できていない。家庭学習の負担が大きい。仕事から帰ってきて生活しているだけで精一杯。せめて理解できるまで学習のサポートをしてもらえると助かる。
学校のふれあい教室でも、その子にあった学力の勉強を教えてあげてほしい。
各小学校で、英語の授業のレベルが違うと感じる。中学でいきなり難しくなるので、小学校で共通してもう少し丁寧に教えてもらえると良いのでは。税金の仕組、種類など、新しく変わった事を小学生（5・6年生）にも簡単に教えたり出来ないか。
不登校になった場合の勉強ができる場所の選択肢がもっと増えると良い。
少人数クラスで、教育者からこどもへ目がしっかり届くようになればと思う。集団で社会性を身に着けるのも大切だとは思うが、人数が多いと思う。タブレットは配られるが、家でのWi-Fiは無限ではない。
こどもへの性教育・金融教育をもっと行ってほしい。

(36)学校運営

【就学前児童】

こどもの小学校、入学説明会に行ったが、小学校のシステムが父母ともフルタイム勤務をしている家庭を想定して作られていない。休むか早退か遅刻させることを親に強制している。役員制度とかも、入学説明会もｗｅｂで十分ではと思うし、各種書類もｗｅｂ対応可能なものがいくらでもある。
小学校の帰宅時間を早めてほしい。ランドセルが重いので、置き勉にして宿題は最小限にしてほしい。
市内の中学校、自転車通学が可能になれば良いのにと思う。
学校の先生の負担軽減のため、先生に秘書、事務担当などをつけるなど先生が授業に集中できるよう、職員を増やして、雑用等の先生の負担を減らしてほしい。雇用も増えていいと思う。

【就学児童】

日本の将来はこどもたちにかかっているのに、授業時間は減らされ、学校による格差、家庭による格差がどんどん広がるばかり。ほとんどの母親は働いているのに、ＰＴＡ、町内会、児童会などの役員の負担が大きいため、精神的にも負担になってしまう。
小学校で必要な備品のリサイクル品をいつでも安く買えるアプリを開発してほしい。
近年働き方改革で放課後のグラウンド開放をやめる、登校時間をR6年度から8:00～8:10にするなど、極端な変更が多く戸惑っている。学校の開門は(我が子は近いので問題なくても)遠方の児童の事も考えて発信されているのかどうか。電話も年々対応時間が短くなり緊急時に困る事が多い。事務の先生や役職のついた先生はシフト制にするなどの働き方改革を希望する。働き方改革を盾にこどもたちを困らせる改革が多すぎる。
学校のＰＴＡなど役員と仕事の両立が苦しいので、学校保護者の仕事量を減らしてほしい。
学区内で入学式やその他の行事を被らせないでほしい。

(37)教員

【就学前児童】

教員が増えない理由が給料と聞いた。預かっていただける事に感謝する反面、保育料は安ければ安いほうが嬉しいという気持がある。それでも、働きたくなるような給料の職業になるよう、県、市から支援があればと思う。

【就学児童】

小学校の先生の質がとても悪く、頼りにならない。良い先生ほど異動してしまい、教育現場に不信感がある。先生への教育指導をしてほしい。学級崩壊をどうにかしてほしい。
小・中学校の支援級の指導員を増やしてほしい、中学校も小学校と同様に丁寧に教育してほしい。
教師の質の向上、負担軽減を切に願う。
保育・教育施設のスタッフ増強と、給料・手当の見直し、保育士、教諭の雑用を減らす又は雑用には教諭外のスタッフが担う。よりよいサービスを提供するにはまず人材確保が先である。余裕のある人員でこどもに関わらないと、こどもに良い影響を与えることは出来ないと思う。
先生の数が足りない。授業の手助けは、保護者も当番にしてもよいと思う。
こどもたちが安全安心に生活できるよう、教育や保育の現場で働く人の人数を増やしてもらいたい。たくさんの大人の目、手でこどもたちを育てることで、心も身体も健康健全に日々生活できるのではないかと思う。
教育、保育に関わる方々の賃金向上、研究、研修ができる環境作り。
学級崩壊時に対応が可能な人材を配置してほしい。

(38)学校　その他

【就学前児童】

給食無償化してほしい。小学校の旗振り当番を未就学児のいる家庭は免除してほしい。
教育費の軽減、負担を減らしてほしい。
小学校に入っても保育園のように安心して預けて仕事に行ける環境があればいいなと思う。
市立の保育園や小学校の給食の質を良くしてほしいです。（例：体に悪いマーガリンの使用をやめる。おやつに使っているココアプリンの素をやめるなど）
就学後の不安の方が多い。保育園は長時間、夏休み等なく見てくださるため。
小学校での生活が一番不安。それまで（就学まで）は比較的色んな支援がすでにあるかと思う。それ以降は子が支援級に入れるか微妙な状態なので、普通級になった場合、学校の先生にお世話になると思うが、先生1人の負担が大きい（仕事が多くて）と聞くため適切な支援を受けられるかが心配。
こどもの将来の教育費の心配がなければ、3人目の子がほしいが、現状厳しいと感じる。大学までの教育費の支援が手厚くなると有難い。
教育費が本当に高すぎる。もっと子育てをしている人たちの経済面をしっかり考えてほしい。
兄弟が多くても年齢が離れていたため、給食費の補助や保育費等の制度が利用できなかった。小学校低学年までは下校に不安があるので、兄弟と一緒に帰れるよう待てるような仕組みがほしい。
学区外の学校に通えるようにしてほしい。
学区によって小学校の規模が違う。同じ区内でも1学年のクラスが多かったり少なかったり。分散してどの学校も同じくらいの人数になるようになってほしい。マンモス校にはあまり入れたくない。
保育所、園、学校にカウンセラーや発達相談員のような立場の人をもっと配属してほしい。
不登校支援を拡充してほしい。

【就学児童】

小・中学校は義務教育のはず。学校になじめない子が学校（保健室・ふれあい含む）に行くことができるようになるには、先生の力量にかかっている部分もあるが、その先生方も教室に行けている子の対応で手一杯だったり、通えない子に対する理解不足もある。高校になれば通信教育の高校があるのに、義務教育の間の小中学生は教育ではなく児童デイなどの福祉の対象になるのはなぜか。それならばもっと教育と福祉の連携をしてほしい。学校に行けなくなったときの居場所は学校からの情報提供は全くない。親と子が手さぐりで一つ一つ探していくしかない現状をどうにかしてほしい。
学校で使用しているタブレットが重たい。毎日ランドセルに入れているが、教科書、タブレット、水筒でかなりの重さがあるのに、日によっては習字道具や絵の具などあり、身体の負担になっている。とにかくタブレットが重い。大したことに使用しないのに毎日持たせる必要はないのではないか。
幼児教育・保育の無償化といえど、給食費などの諸経費で1万円以上の支払いがあるし、小学校の給食費も、兄弟がいると出費が多いので、給食費の無償化があると、助かると思う。
中学校の給食も始まっていると聞いてありがたい。子育て環境には満足している。
中学校が遠くバスで通っている。交通費を助成してほしい。
他学区では給食のない中学校があると聞いた。公立中学校で給食を提供してほしい。
学校指定の物（制服や体操服）が高い気がする。
給食費無料はこれからもならないのかなと思った。特に小学校の給食費だけでも半分ぐらい市が負担して支援してほしい。
学校の毎月の教材費や細々した引き落とし分も無料にしてほしい。

越境入学をしやすくしてほしい。隣接する学校の方が近いのに、遠い学区校に行かないといけないのは合理性に欠ける。
友達づきあいをしていく上で、スマートフォンが必須アイテムになりつつある世の中に大いに不安がある。親としては不必要な物だと思っているが、円滑な友人関係を保つ上で与えざる得ないのかと諦めている。高校以下は禁止だと助かる。
不登校に対する支援を充実させてほしい。
奨学金に返済義務がいつか無くなれば、本当の意味で頑張っているこどもを応援できると思う。
給食内容が昔に比べて少ない印象。いろんな家族があるので、一律値上げが厳しいならば、こども弁当等を配るより、給食費を直で養っていただける方が平等で良いのではないかと思う。

8．児童館・放課後児童クラブ

(39)児童館

【就学前児童】

児童館を午前中から開けてほしい。近所にあっても午後から小学生向けのため、乳幼児を連れて利用できない。
乳幼児も小学校の児童館を利用できるようにしてほしい。
以前住んでいた東京都では、未就園児を対象に、区が主催で子育てサークルを児童館などでやられていて、小さいころから週1～2日必ず通う場所があると、こどもの成長にもとても良かったと感じている。広島でもぜひやってほしい。

【就学児童】

下校の時間にどうしても親が帰れない時、一時的に児童館等を利用したい。
全ての小学校に児童館を設置してほしい。
土日に限らず朝早くからこどもを預けられる児童館があれば助かる。職場へ向かう通勤時間も含めたフォローを今後期待する。
児童館を朝から開館してもらえると助かる。(こどもの長期休み期間)有料でも構わない。

(40)放課後児童クラブ

【就学前児童】

放課後児童クラブへの利用条件が厳しいので働きたくても働けない。パートをしようと思っても仕事内容で選ぶことができず、時間や働ける曜日でしか仕事を決められない。条件に合う仕事がほとんどなく、土日祝が出れないと雇用してもらえない所が多い。こどもの長期休暇中は働けないので仕事ができない。放課後児童クラブの利用条件を緩和してほしい。
せめて小4くらいまでは学童保育に必ず入れるようにしてほしい。小3の子を長期休暇中に1人で置いておくことはできない。
4月からうえの子が小学1年になるのでパートを退職する。理由は学童保育に入るための基準（就労日数）が足りず、申し込めなかったから。私の住んでいる地域の学童保育は、常に定員割れ。その様な地域では、柔軟に対応してもらえるとありがたい。せっかく入園できた下の子の保育園も退園。適度に働きたい人にも働きやすい環境になってほしい。
私の住んでいる地域（小学校）の学童保育への預け入れの親の条件が厳しく感じる。児童の人数が多いのも理由の1つだと思うが、親（特に母親）がフルタイムで働いていないと預け入れができないようなので、こどもが小学校に入ってから働こうとしてもフルタイム以外だと夏休みなどの長期休暇の時にどうしていいのか悩んでいる。
学童保育が有料になったが、お弁当が頼める以外に変わったと思えない。時間も短いため、フルタイムで働くのは難しい。
現在、こどもは2歳だが、小学校入学後の学童保育の心配を今からしている。フルタイムでの仕事を続けていくつもりだが、今から数年後のことを不安に感じないような、安心して子育てができる環境が整っていくと嬉しい。
扶養の範囲内の勤務だと学童保育に入れないので大変困っている。
祖父母と同居でも学童保育を使えるようにしてほしい。働いていなくて家に居る場合でも体力的に頼れない。安全管理が不安。
広島は学童保育の申し込みのハードルが高すぎる。自宅などの在宅ワーカーや、短時間労働者は申し込みできず、就労意欲があっても就労できない。
学童保育の受け入れ場所や受け入れ人数の増加を希望する。
育休中に放課後児童クラブが利用できない制度を早く見直すべき。すごく大変だった。
放課後児童クラブに通うには料金がかかるようになったと聞いたが、例えば小学校1～3年生まではこれまで通り無料で通えるなどしてほしい。
放課後児童クラブが利用できる条件をもう少し緩くしてほしい。またできれば、学校の敷地内に作ってほしい。(学区の小学校の児童クラブは敷地内ではない)
放課後児童クラブの土曜日も朝8時から利用させてほしい。
放課後児童クラブの長期休暇中の利用がしやすくなると嬉しい。
放課後児童クラブに入所を希望する全員が入所できる環境になってほしい。

長期休暇中にパート・アルバイトなど短時間勤務の人でも預かってもらえる放課後児童クラブが充実してほしい。低学年のみだったり、普段から利用している人でないと預かってもらえないため。

【就学児童】

学内の放課後、児童クラブの数が少なすぎる。小4までは通わせたかった。夏休みなど、せめて午前中だけでも1人で留守番させなくて済む居場所がほしい。塾も午後からのところが多く、小3から留守番は親子ともに精神的にきつい。理想は放課後プレスクールの充実。
週に3日から4日で6時間程度パートをしていますが、学童保育の利用対象外のため学校長期休暇の際、とても都合が悪いと感じている。週4日、17時までと言うボーダーラインを下げていただきたい。
学童保育の受け入れ人数が余っているところと、そうでなく入れないところがある。どうにかしてほしい。
学童保育の有料化はいいが、無料時と変わった点があまりない。
働くお母さんが多いので、放課後児童クラブに入りやすいと良いと思う。週4日以上、17時以降などの条件に満たさない方もいると思うので、9:00から14:00のパートの方など、小学校の下校時間が早い日は厳しいと思う。
今年度はコロナやインフルエンザによる学級閉鎖が多く、こども自身が元気でも学校に行けず、一人で留守番をさせるも心配だったので、仕事を休まなければならず大変だった。普段から慣れている放課後児童クラブが長期休暇のように臨時で終日開設してもらえるとありがたいと感じた。
放課後児童クラブの改善。先生によって差がありすぎるので、ある程度の統一（教育方針など）をしてほしい。
放課後児童クラブに関して、空きがある場合、対象児童の要件を緩和してもらえたら、パートで働きやすくなると思う。
放課後児童クラブについて、特に長期休暇中の希望するすべての家族が利用できるような環境を整備してほしい。
保育園と比較して放課後児童クラブの質は低いように感じる。自宅から遠い場所にしかなく、送迎が必要となり保護者の負担となっている。
田舎なので放課後等デイサービスが選べない。送迎もないため。放課後児童クラブに入れる条件を緩めてほしい。入りやすくしてほしい。
長期の休暇期間に放課後児童クラブを利用しているが、たった1週間の利用でも1ヶ月分の料金を支払わないといけないのは納得いかない。日割りで計算してほしい。

(41)土日祝、長期休暇、臨時の預かり

【就学児童】

夏休みなど長期休みも親が共働きが多いので、ほぼこどもだけ留守になるため、減らしていいと思う。
安価で気軽にこどもを預けられる環境がほしい。

(42)児童館・放課後児童クラブ　その他（こどもの放課後サポート等）

【就学前児童】

学童保育でなくても、大人がいて、こどもが気軽に安心して集える場所があればありがたい。働きたくても一度退職すると、こどもが小学校から帰った後、預ける場所がなく、働くことが出来ない。小学校入学後からでも安心して預ける場所やこどもたちが気軽に安心して集える場所があると、こどもにとっても親にとっても、社会にとっても良い循環が生まれると感じる。
学童保育は利用していないので、夕方または放課後に利用できるサービスがあったらいい
放課後等デイサービスの無償化。放課後等デイサービスの保育園や児童館と同時間の預かり。
こどもが小学生になるタイミングで育児制度が終わるが、小学校へ慣れるまで見守れたり安心して預けられる場所がほしい。

【就学児童】

共働きの家庭が多く、平日放課後に大人不在の家で遊ばせることが出来ないため、こどもだけ家に閉じこめることになり、友達と遊ぶ機会を奪っている気がして申し訳ない気持ちになる。
塾が近くにないので、学校帰りによれる子に比べて学力が低いと思う。そういう施設を増やしてほしい。
こどもの放課後の過ごし方について、こどもだけで留守番できる年齢にはなったが、夏休みなど親の就業中気軽に利用できる施設があればいいなと思う。
放課後、こどもの居場所の充実。放課後等デイサービスなどで健常児も受け入れできるようになれば、受け皿が増えるのでは。障害児、健常児と線を引くのではなく同じこどもとして見ていくことは、インクルーシブ教育にもつながるのではないか。そういう環境整備を早急に考えてほしい。
一時預かりの小学生版の拡充がほしい。働いていなくても少し預かってほしい。ファミリーサポートセンターも預けれない時があるので。
放課後プレイスクールがあると良い。宿題を終わらせたり、運動ができる場がもう少し増えると嬉しい。

9．保健医療

(43)保健センター等

【就学前児童】

転入してきたが、行政の手続きなど転入前の都市はインターネットでできることが多く、広島市の今後に期待したい。こどもの手続きや福祉の手続きもわざわざ福祉センターに行かないといけないのも大変。

(44)医療・医療費

【就学前児童】

他の地域では医療費が 0 円がほとんどなのに、広島市は所得制限があることに不満を感じる。
医療費、教育費、保育料は無料にしてほしい、高校卒業まで。
乳幼児検診を平日だけでなく、土日にも行ってほしい.
医療費や学童保育、保育の無償化やインフルエンザの予防接種補助金等があれば助かる。
こども医療受給を収入で 500 円→1000 円、回数制限もかけるのをやめてほしい。500 円にしてほしい。
こどもが保育園に通い始めると病院に通うことが多く、広島市は他の自治体に比べてこども医療費の上限額の設定が高く経済的負担が大きい。所得制限もあり、こどもが 3 人いるので、切れるとしんどく、病院受診を渋ってしまう。こどもが健やかに育つためにもこども医療を充実してほしい。
所得制限のある医療費を全世帯無償にしてほしい。（外の市区町村はしているのに...）
こども医療費を高校生まで無料にしてほしい。
こどもに向けたインフルエンザワクチンのクーポンがあると助かる。医療費は、自治体や所得に関わらず一律 500 円/日などにしてほしい。
こども医療費の所得制限を緩和してほしい。こどもは病気、ケガが多いので医療費が負担になります。病児保育の利用のハードルが高いので、柔軟に利用できる施設・仕組みが出来ると助かる。
こども医療費受給者証の所得制限をなくしてほしい。コロナも増えたなか、軽い症状でも受診が必要になるため、医療費の負担が大きい。特にこどもは体調を崩す事が多いので、とても困っている。
全てのこどもの医療費を無料にしてほしい。

【就学児童】

地方によっては医療費無料が中学・高校卒業までだったり、給食費無料等お金がかからない制度になっているが、広島市は子育てにお金が必要な場面が多いと思う。我が家は 4 人こどもがいる。多子家庭は所得制限なしで補助が受けられる様になることを期待する。
こどもにかかる医療費や高校の助成金等に所得制限がある事に納得が出来ない。
休日の医療機関などわかりやすくなればいい。
広島市のこどもの医療費の負担が所得に応じて違うことを改善してほしい。
こどもの医療費等、こどもに関することは、所得制限をやめて平等にしてほしい。
こども医療費の補助を中学校卒業程度まで延長してほしい。
どのこどもにも平等に高校生までは医療や支援などを充実していただけたらいいなと思う。
全国的にみると、こどもの医療費が無料だったりなど地域格差がある。地域によってばらつきがあるのが納得できない。（所得制限によって行政の恩恵を受けにくい）
所得制限のため、医療費の補助が受けられない。十分な所得があるのかもしれないが、こどもが 4 人もいると出費が多く、医療費の負担がきつい。こどもの医療費の所得制限をなくしてほしい。
広島市はこども医療費負担が他県に比べて大きい。妊娠中の補助も少ないと感じた。

(45)保健医療　その他

【就学前児童】

(出産前・出産時)母親が入院したときの上のこどものサポートが必要。夫だけでは無理。(産後)自治体のサポートを利用したが料金が高い。いつ出産するかもわからないのに事前申請はできない。スピード感がない。
西部こども療育センターに療育で通っているが、土曜日もしてもらえると父親も付き添えるので、可能なら開放してほしい。
小児科の予約がとりにくいので、増やしたり取りやすくしてほしい。
コミュニティナース制度の拡大。
乳幼児健診の集団でのやり方を見直してほしい。時間が真っ昼間だと昼食や昼寝の時間に被るし、兄弟がいると迎えの時間に被る。待ち時間が長すぎて、こどもがぐずるから親も疲れるしイライラしてくる。健診がどうでもよくなる。もっと人数を少なくするか、午前・午後で分けるか、健診の内容を空いてる所から受けられるようにするかして短時間にしてほしい。
身近な場所で保健師さんによる健康相談室があるとありがたい。
1 歳児検診や 3 歳児検診等について、普段午睡をしている時間に行うと、グズって大変な子もいるのではないかと感じている。時間を検討できるのであれば少しずらしても良いのではと思う。
1 歳半検診の時の保健師さんの流れ作業的なやっつけ仕事みたいな対応がとても悲しくなる。いろいろ相談したいのに感じが悪い。そういうところから直して、気軽に相談出来るようにしてほしい。

１０．家庭生活

(46)家庭・生活

【就学前児童】

平日は仕事なので土日しか自由に動けず、土日は買い物へ行きたいのでこどもが小さいと留守番もさせることができず、連れて行く。しかし、じっとしておくのは難しいので買い物はままならない。買い物の間だけでも預けられる場所があると助かる。〇〇円以上の買い物で預かり料金無料などのサービスがあるとよりうれしい。
昔と比べて祖父母の定年が延び、なかなか頼れない。保育園の空きもなかなかないため、家庭内で何とかしないといけないのは大変なので、子育てをしている家庭をサポートしている家族・友人などの支援も充実してほしい。（病気などで両親の代わりに休みを取った際の給料の補てんなど）
子育てにはお金がたくさんかかるから必要だが、手当金よりは家事代行のようなサービスを提供してほしい。特にこどもが小さい頃は、自分から積極的に注力できず、ストレスを抱え込んでしまうことが多い。
男女が共に社会に出て、家庭生活と両立できる支援が充実するのではなく、どちらか片方が働けば、もう片方の親が家庭に入れるくらい経済的に余裕のある社会になってほしい。その方がこどももしっかり親と触れ合えて、温かい気持ちで過ごせると思う。
昔と比べて家庭に人がいない。昼間はガラーンとして静かな町。ゆとりをもって一家庭に 1～2 人は誰かがいる、鍵っ子が 1 人でも少ない街づくりを望む。家庭力の強化。みんな忙しく働きすぎ！お父さんお母さんのゆとりの日を持ちましょう。
ワンオペで子育てする家庭に家事代行のチケットの配布をしていただきたい。

(47)家庭生活　その他（習い事等）

【就学前児童】

放課後、児童館に民間児童クラブのような習い事をさせてもらえる機会を設けていただきたい。費用は各家庭で負担する。（例えば、英語教室、そろばん、書道など）
地域にある習い事スペースのマップがほしい。ピアノや習字は口コミや近所の人から情報を得るのが大変。
習い事をさせたいが、働きながら送迎、見守りが難しく、休日を利用すれば良い事はわかっていても、習い事のスケジュールと合わない。家族との時間をあまり割きたくなく、まだ何も始められていない状況なので、何かいい方法がないか考えているところ。
習い事の送り迎えなどを平日に頼めたらとても利用したい。
子育てで通える習い事（近所にあまりないため）が、もう少し選択肢が増えたら嬉しい。

【就学児童】

塾みたいに勉強を格安で教えてくれる場所があればうれしい。県の大学生の方にバイトで家庭教師の登録サイトとかあれば安心できる。
学校の無償化は進んでいると思うが、習い事や塾などはやはり親の収入によって大きく差が出ていると思う。また、こどもの人数によっても制限が出てきたりする。
放課後児童クラブで様々な習い事ができるようにしてもらいたい。希望者には有料で構わないので、親が仕事で送り迎えできないことで、こどもが色々な習い事ができなくなってしまうことをなくしてほしい。
公民館での児童の習い事をもっと増やしてほしい。放課後に気軽に行ける環境を希望(英語・算数・絵画・体操・ダンスなど）。
高学年になるにつれて、毎日 6 時間授業になるので、それに習い事等をこなしていくと、お友達と遊んだり話したりする時間が減っていきます。共働きの多い時代ですので、夏休みを 35 日→25 日程度にして、その分、週 1 回でも 5 時間授業の日を増やしてあげると、こどもも先生も多少は楽なのではとも思っている。
休日にこどもと一緒に親も習い事が出来る場所があると、預けなくてもリフレッシュになるので、音楽、絵を描く、習字、スポーツなどをやってみてほしい。
こどもが気軽に行ける様な、無料で勉強を教えてくれる場が出来れば嬉しい。

１１．地域コミュニティ

(48)地域支援

【就学前児童】

教育系の大学とコラボして、地域支援などコミュニティの場として活用できないか。
個人の充実も大切ですが、助け合える当たり前の環境・思想が持てると一人で我慢せず、地域でみんなで子育てに向き合えるようになれるかなと思った。
こどもは社会全体で育てる考えを広めていってほしい。私たちはその役割の一部を担っており、こどもの成長に悩むのは家庭という場で関わっているからこそだと思う。
制度の充実も子育てのしやすさには大切ですが、周りの人の理解も大切だと思う。「母親なのに」「母親のくせに」と言う考えを向けられることは育児において大きなストレスになる。育児をするのは母親だけではない、父親も担うことである、地域や周りの人たちでするものという意識が根付けば、もう少し育てやすいと感じるのかなと思う。母親に優しい社会が大切と考える。
こどもの数が減少している状況において、地域ぐるみで子育てを育む土壌は必要不可欠と考える。

こどもは親が育てなくてはいけない。当たり前ですが、その当たり前がつらく過酷な時もある。社会が一緒に子育てをしてくれるととても心強い。

【就学児童】

子育てが個々人、各家庭のみで行っている。地域の人、友人の親が、こどもに声を掛けたり、注意するなど関わりのある環境が必要。
私の住んでいる学区は地域と学校の繋がりがあり、全体でこども達を見守って下さる環境にある。こどもに注意して叱って下さるおじいちゃんもいれば、挨拶を進んでやるこども達。地域全体で子育てをしている感じ。
登下校時の地域の方の見守りについて、学区により差がある。ボランティアなので仕方ないと思うが、犯罪の抑制、事故を未然に防ぐことにつながると思う。
地域の年配の方とこども達の接点を増やし、顔見知りを増やす。
地域での活動継続が難しくなっている。こどもに関する地域活動を行うにも世話役の負担が大きく、また担い手がいない。そのあたりの支援があればよいと思う。
私は地域の子育て広場やサークルで、同じように子育てをがんばっているママやこどもたちに出会い、楽しい子育て時代を過ごすことができた。とても感謝している。もし 1 人でがんばっているお母さんがいたら、地域の集会所や幼稚園開放など、子育て支援の場や頼れるところが実はあるんだよと教えてあげたい。知らない人や行ってみたいけど、1 歩が出ないママさんをたくさん見てきたので、もっとお知らせをして発信を強化していってほしい。
こどもが地域の中でいきいきと生活できるよう、保護者、こどもに関わる大人、直接は関わらない人も含めて、温かく見守る風土があることが理想。地域の大人がこどもたちの未来を考えて自分にできることをやっていく環境づくりを自治体の方にお願いしたい。

(49)交流

【就学前児童】

私は専業主婦で育児をしているので、同じ世代のこどもを持つ親との交流がどうしても幼稚園や保育園に行かないとないので、もう少し 1～3 歳でも交流できる場所を開いてほしい。
私は、区役所や相談センターなどへ相談に行くのが苦手。なぜなら相談したいのではなく、悩みや不安を話して共感してほしかったりするだけだから。解決したいわけではない。だってこども 1 人 1 人性格が違うし、解決策を言われて実践してうまくいかなければ、また落ち込んだり、できない自分に嫌気がさすから。共感されると「あ、自分だけが悩んでるんじゃないんだ」と安心できる。そんなみんなが話せる場があればいいなと思う。
物価高騰で大変なのは子育て世代だけではありませんが、交流の場を充実してほしいと思う。それだけでも息抜きになる。
同じくらいのこどもとの交流の場をもっと増やしてほしい。自宅保育なので、子・親共に友達を作りたい。
小さい頃から外国人の方と交流できる場があると、こどもの成長に役立つかもしれない。
とにかく世代間の意識の差が大きいと感じる。子育て世代は高齢者が恵まれているというが、実際には各世代様々な深刻な悩みがあるはず。逆もそう。行政としては異世代が集え自然に交流できるような場を作ってほしい。結果的に良い方向に動くのではと思う。
同じくらいの年齢の子の親と関わる場所がもう少しほしい。
こどもも親もたくさんの人達が年の差関係なく楽しめるイベントを企画してほしい。

【就学児童】

コロナになりコミュニティがなくなったり、疎遠になったりしている。小学校区など地域の方々が参加できやすいものがあればいいと思う。
小学校でも「たてわりあそび」で学年の垣根を超えた交流があり、とても良い事だと思う。
地域の中高大学生と一緒に遊んだり、勉強したりできる場所があったらなと思う。
学外でのイベント事に、もっと沢山の人が参加出来るような機会を増やしてもらいたい。すぐに人数制限が一杯になり、やりたくても出来なかったイベント事が多いので、人数の枠や回数を増やしてもらいたい。

(50)地域コミュニティ　その他

【就学前児童】

楽しむことができる町内であってほしい。
お祭りなど、地域のイベントが減っていっているのがさみしい。

【就学児童】

昔と比べて、こども会に入会する方が少なくなってきた。地域の親同士の交流が少なくなり、他のこどもに対して、声をかけにくくなってきている。地域、行政、学校の役割の境目が分かりづらくなっているところもある。
もっと、地域に出向いて、地域の方々の声を聞いてほしい。紙ではわからないこと、伝えられない事がいっぱいある。窓口に来る人だけを対応するだけでは何も変えられないと思う。

１２．その他

(51)その他

【就学前児童】

全てのこども達が公平に教育を受けられ、親子ともに不安を感じることなく理想的な生活を生涯継続できるような環境づくりを希望している。こどもにも妻にも「幸せか」と尋ねたとき「幸せだよ」と心から思ってくれるような社会であってほしい。
自分も楽しく大切にできることがないと、この先こどもが増えることはないと思います。若い世代がこどもを産みたい、産みやすくなる環境と感じないと無理だと思う。なんでもガチャに例えられるこの時代に。「子育て思ったより安心してできそう」と、これからの世代が感じられる制度がつくられると良いな。
支援したい！環境を整えたい！と思われているのはすごく感じるしありがたいと思う。でもやっぱり区役所に行って何度も相談に行ってってゆうのは、なかなか時間が取れないのが現実かなとは思う。
制服のリユースのためのお店、バザーの充実。算数セット、彫刻などは備品にしてほしい。

【就学児童】

サービスが必要なのは小学校低学年(2 年生くらい)までだと思う。この年齢まで仕事・子育て共に頑張れたら乗り切れると思う。
親、子、先生、他の保護者との関わりが難しい。いいこともよくないことも言いづらい。当たり障りなく関わりすぎて全体がふわっとしている。
支援が必要な方を見つけてあげるのは大変難しいと思う。見つけてあげやすい環境にしてあげてほしい。頑張ってほしい。
こども達が過ごしていく社会はどんどん変化が早くなっていて、ついていけなくなった時、もう社会から取り残されるしかないのか。不登校などへの支援はあるが、そこから社会に出て働いていけるのか不安に思う。
行政の対応のスピード感が本当に遅すぎる。常に他人事にしすぎではないか。民間のあり方の良い所を取り入れるべきではないか。このアンケートでは言いたいことは伝えられない。
育児に追われ、なかなか行政に対して思う事があっても声をあげている時間がないので、定期的にこのようなアンケートがあると良いと思う。ただ、回答期限が短く、なかなかこの量のアンケートに目を通している時間がないので、インターネットで回答できる仕組みになると通勤時間、休憩時間など隙間時間を活用して回答できるので助かる。

「こどもアンケート」

■ 調査の概要

1．調査目的等

（1）調 査 目 的 ： こどもの悩みごとの相談状況、居場所の状況、国や市に意見を言いやすい手段や方法等を把握し、「広島市子ども・子育て支援事業計画」の策定のための基礎資料とする。

（2）調 査 実 施 方 法 ： 郵送配付回収、無記名自記式

（3）調 査 時 期 ： 令和 6 年 2 月

（4）調 査 対 象 者 ： 広島市内に居住する小学生とその兄弟姉妹（小学生以上 18 歳未満）

（5）送 付 数 ： 就学児童（小学生）のいる世帯 5,500 世帯（各世帯 3 通、計 16,500 通）

（「広島市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の対象世帯のうち、就学児童のいる世帯に「こどもアンケート」の調査票 3 通を同封）

（6）調査結果の表示方法 ： ○ 表やグラフ中の「ｎ」は、回答総数を表している。

○ 比率（%）は小数点以下第 2 位を四捨五入で算出しているため、合計が 100%にならないことがある。

○ 表やグラフ、文章において、回答の選択肢等の表現を一部省略している場合がある。

（7）送付数及び回収数 ：

調査区分（こどもの年齢）	送付数	回収数	回収率
小学校低学年（6～8歳）	16,500通（5,500世帯）	630通	-
小学校高学年（9～11歳）		977通	-
中学生（12～14歳）		566通	-
高校生（15～17歳）		143通	-
不明		51通	-
計	16,500通	2,367通	14.3%

２．回答者の属性

１．令和５年4月１日現在の対象子ども年齢

	人数	%
6歳	40	1.7%
7歳	275	11.6%
8歳	315	13.3%
9歳	332	14.0%
10歳	396	16.7%
11歳	249	10.5%
12歳	374	15.8%
13歳	119	5.0%
14歳	73	3.1%
15歳	68	2.9%
16歳	46	1.9%
17歳以上	29	1.2%
不明	51	2.2%
全体	2,367	100.0%

２．性別

	人数	%
男	1,104	46.6%
女	1,208	51.0%
その他	42	1.8%
不明	13	0.5%
全体	2,367	100.0%

３．居住区

	人数	%
中区	215	9.1%
東区	259	10.9%
南区	269	11.4%
西区	358	15.1%
安佐南区	598	25.3%
安佐北区	212	9.0%
安芸区	136	5.7%
佐伯区	304	12.8%
不明	16	0.7%
全体	2,367	100.0%

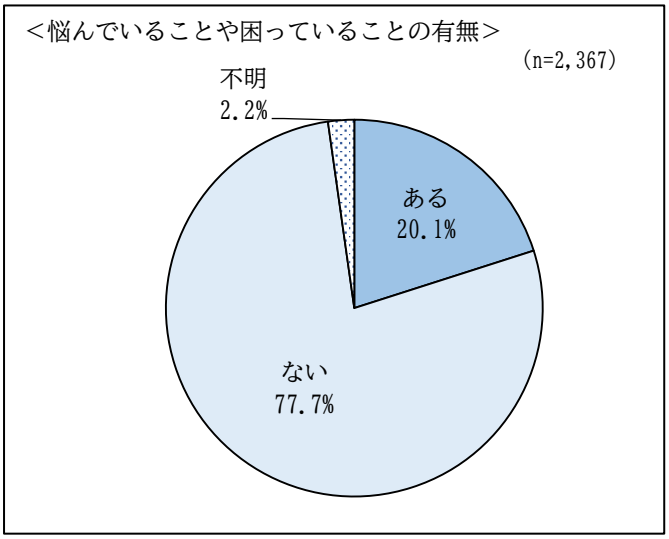
■ 調査の結果

1．悩みごと等の相談状況

1）悩みごと等の有無

悩んでいることや困っていることの有無について、「ある」が 20.1%、「ない」が 77.7%となっており、内訳を見ると、「ある」は、小学校低学年で最も多く 20.8%、高校生で最も低く 19.6%となっている。

＜悩んでいることや困っていることの有無＞



＜内訳＞

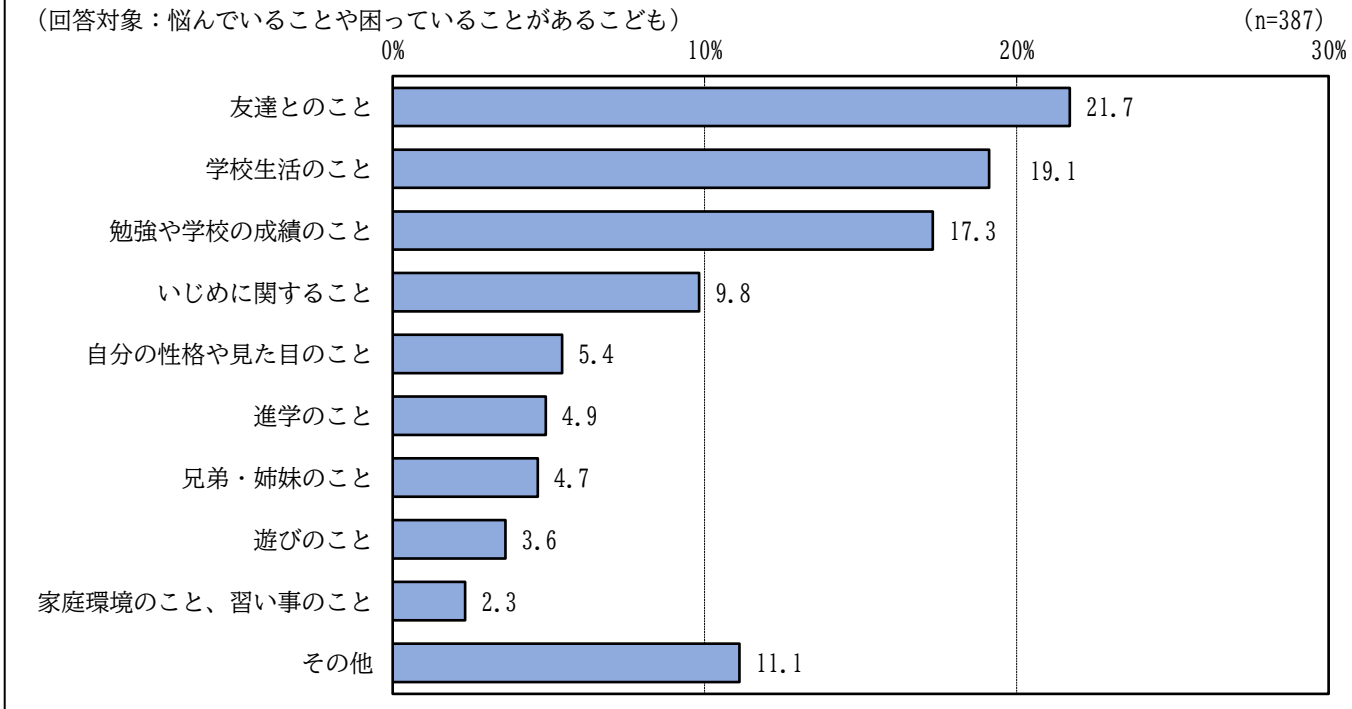
	ある	ない	不明
全体	20.1%	77.7%	2.2%
小学校低学年	20.8%	77.3%	1.9%
小学校高学年	19.8%	78.5%	1.7%
中学生	20.3%	77.2%	2.5%
高校生	19.6%	79.0%	1.4%
不明	15.7%	68.6%	15.7%

2）悩みごと等の内容

悩んでいることや困っていることがあるこどもの具体的な悩み等の内容について、「友達とのこと」が最も多く 21.7%、次いで「学校生活のこと」が 19.1%、「勉強や学校の成績のこと」が 17.3%となっている。

＜悩んでいることや困っていることの内容＞（自由記述）

（回答対象：悩んでいることや困っていることがあるこども）

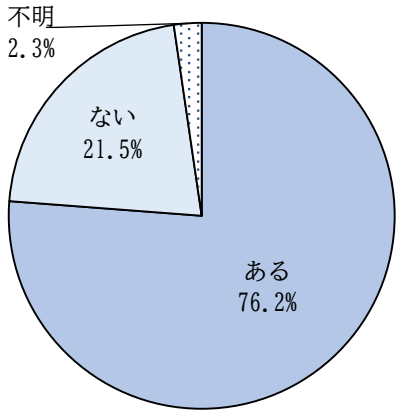


3）相談先の有無

悩みごと等があるこどもの「気軽になんでも話せて、相談できる人や場所の有無」について、「ある」が 76.2%、「ない」が 21.5%となっており、内訳を見ると、「ある」は、高校生で最も高く 85.7%、小学校低学年で最も低く 71.8%となっている。

＜気軽になんでも話せて、相談できる人や場所の有無＞
（回答対象：悩んでいることや困っていることがあるこども）

（n=475）



＜内訳＞

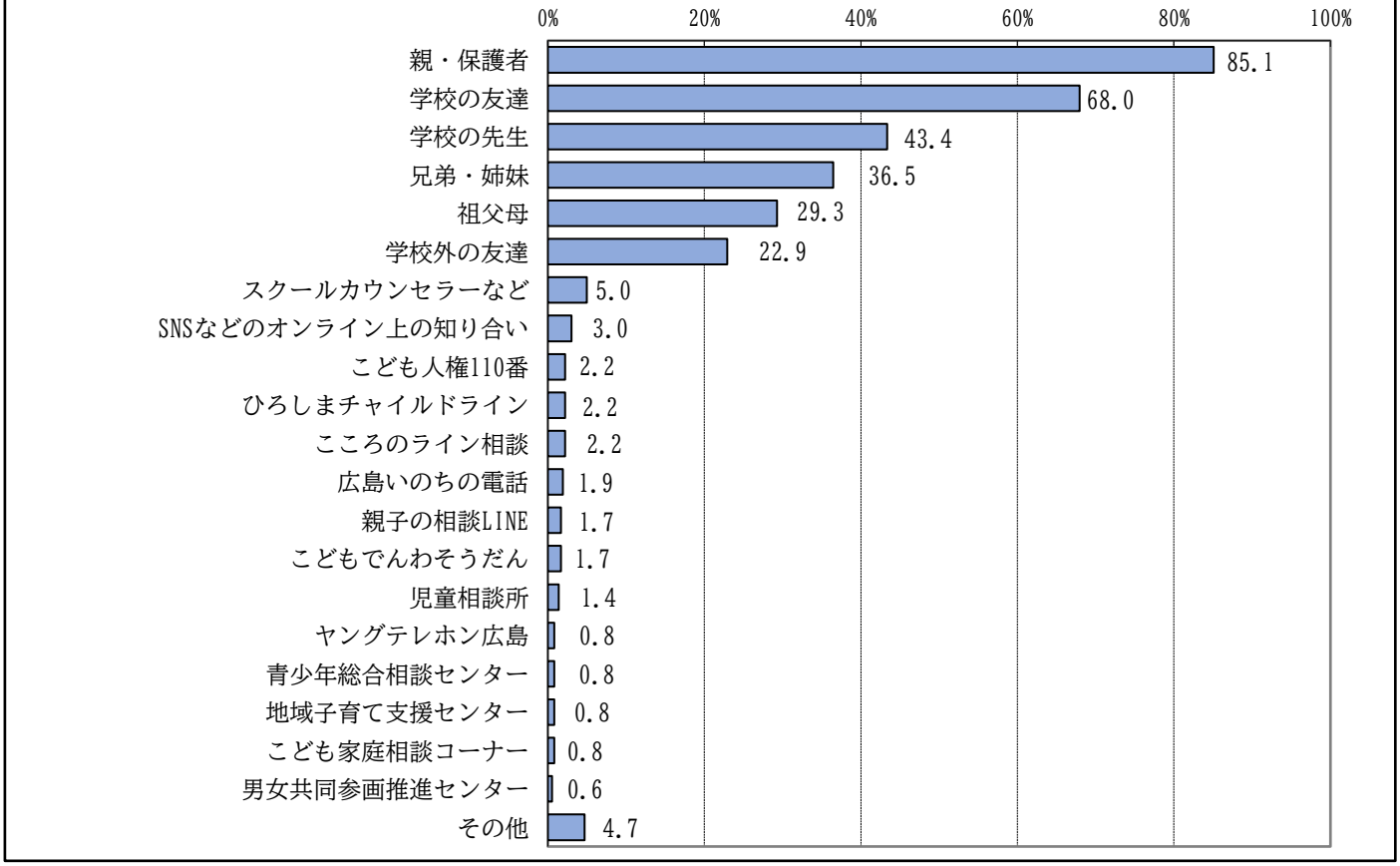
	ある	ない	不明
全体	76.2%	21.5%	2.3%
小学校低学年	71.8%	26.%	2.3%
小学校高学年	75.1%	22.8%	2.1%
中学生	80.9%	16.5%	2.6%
高校生	85.7%	14.3%	0.0%
不明	75.%	12.5%	12.5%

4）具体的な相談先

気軽に何でも話せて相談できると思う人や場所について、「親・保護者」が最も多く 85.1%、次いで「学校の友達」が 68.0%、「学校の先生」が 43.4%となっており、内訳を見ると、「親・保護者」は、高校生で最も高く 91.7%、中学生で最も低く 83.9%となっている。

また、「SNS などのオンライン上の知り合い」については、概ね年齢が上がるにつれて増加する傾向が見られ、高校生で最も高く 8.3%となっている。

＜具体的な相談先＞（複数回答）（回答対象：気軽に何でも話せて相談できる人や場所があるこども）　（n=362）



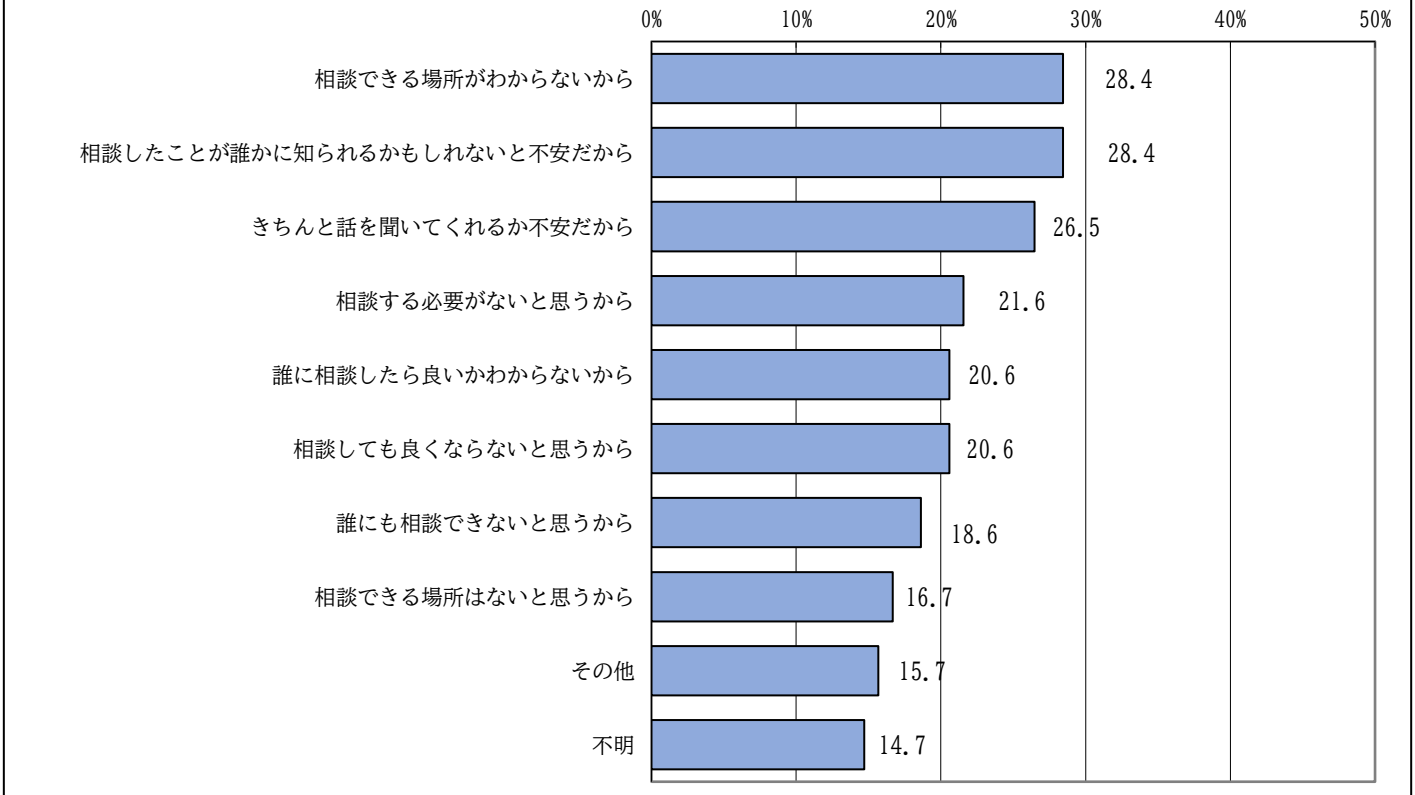
＜内訳＞

	親・保護者	学校の友達	学校の先生	兄弟・姉妹	祖父母	学校外の友達	スクールソーシャルワーカーなど	SNSなどのオンライン上の知り合い	こども人権110番	ひろしまチャイルドライン	こころのライン相談	広島いのちの電話	親子の相談LINE	こどもでんわそうだん	児童相談所	ヤングテレホン広島	青少年総合相談センター	地域子育て支援センター	こども家庭相談コーナー	男女共同参画推進センター	その他
全体	85.1%	68.0%	43.4%	36.5%	29.3%	22.9%	5.0%	3.0%	2.2%	2.2%	2.2%	1.9%	1.7%	1.7%	1.4%	0.8%	0.8%	0.8%	0.6%	0.8%	4.7%
小学校低学年	86.2%	67.0%	58.5%	39.4%	40.4%	20.2%	0.0%	0.0%	4.3%	5.3%	3.2%	2.1%	3.2%	3.2%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	1.1%	2.1%	6.4%
小学校高学年	84.1%	64.1%	37.2%	35.2%	26.2%	18.6%	5.5%	3.4%	1.4%	0.7%	2.1%	2.1%	2.1%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	4.8%
中学生	83.9%	76.3%	37.6%	34.4%	23.7%	29.0%	8.6%	3.2%	1.1%	2.2%	2.2%	2.2%	0.0%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%
高校生	91.7%	70.8%	37.5%	37.5%	25.0%	33.3%	8.3%	8.3%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
不明	83.3%	33.3%	66.7%	50.0%	33.3%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

5）相談できる人や場所がないと答えた理由

気軽に何でも話せて相談できると思う人や場所がないと答えたこどもの、その理由について、「相談できる場所がわからないから」、「相談したことが誰かに知られるかもしれないと不安だから」が最も多く 28.4%、次いで「きちんと話を聞いてくれるか不安だから」が 26.5%となっている。

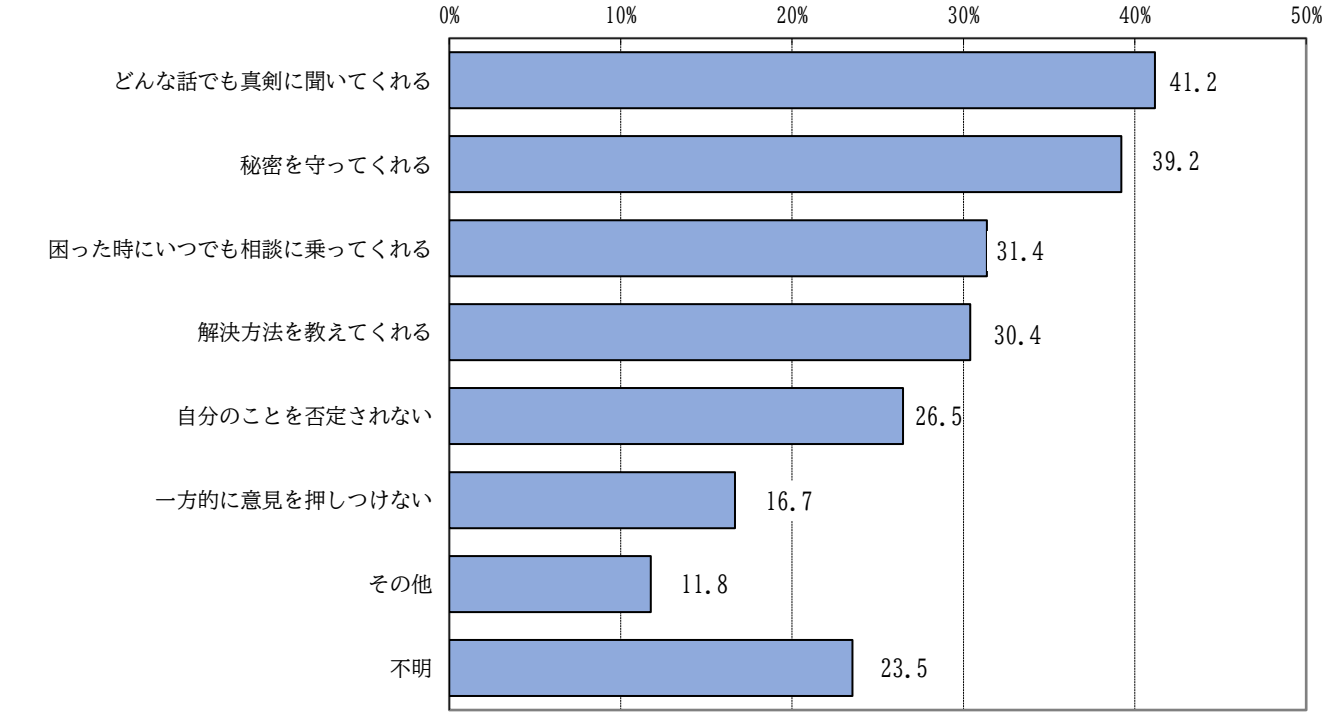
＜気軽に何でも話せて相談ができる人や場所がないと思う理由＞（複数回答）
（回答対象：気軽に何でも話せて相談できる人や場所がないこども）　（n=102）



6）相談できるようになるために必要なこと

どのような人や場所であれば気軽に何でも話せて相談できるようになるかについて、「どんな話でも真剣に聞いてくれる」が最も多く 41.2%、次いで「秘密を守ってくれる」が 39.2%、「困った時にいつでも相談に乗ってくれる」が 31.4%となっている。

＜相談できるようになるために必要なこと＞（複数回答）
（回答対象：気軽に何でも話せて相談ができる人や場所がないこども）　（n=102）



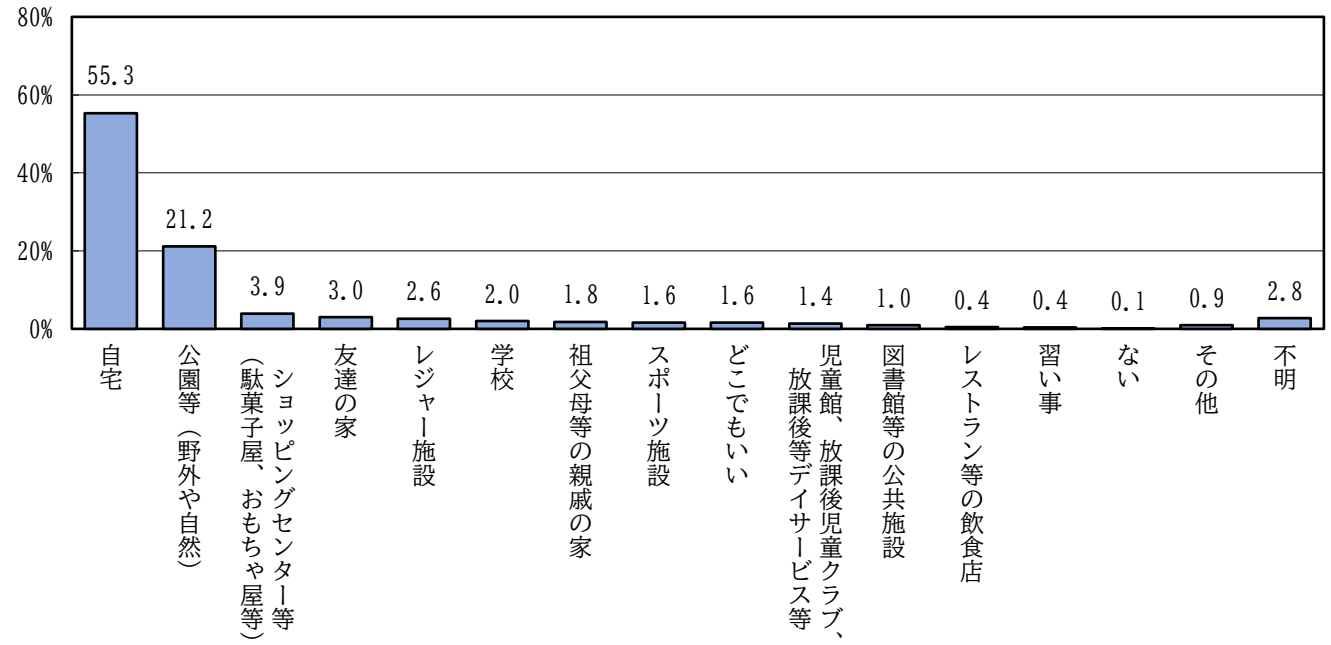
２．家や学校以外の居場所

１）放課後や休みの日に過ごしたい場所

放課後や休みの日に過ごしたい場所について、「自宅」が最も多く 55.3%、次いで「公園等（野外や自然）」が 21.2%となっている。その他の回答は、5%以下にとどまっており、ほとんど差は見られず、最も高いものでも「ショッピングセンター等（駄菓子屋、おもちゃ屋等）」の 3.9%となっている。

＜放課後や休みの日に過ごしたい場所＞（自由記述）

（n=2,367）

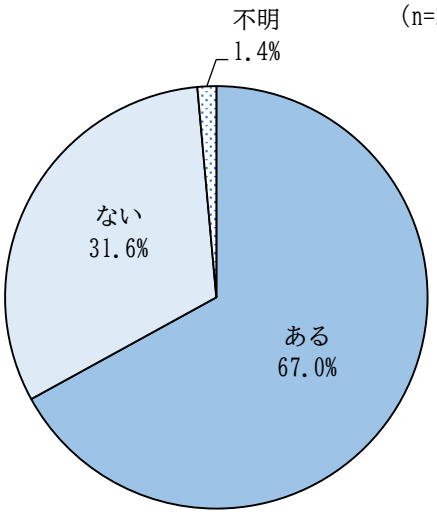


２）家や学校以外の居場所の有無

家や学校以外の居場所の有無について、「ある」が 67.0%、「ない」が 31.6%となっており、内訳を見ると、「ある」は、中学生で最も高く 69.6%、高校生で最も低く 60.8%となっている。

＜家や学校以外に「ここに居たい」と感じる居場所の有無＞

（n=2,367）



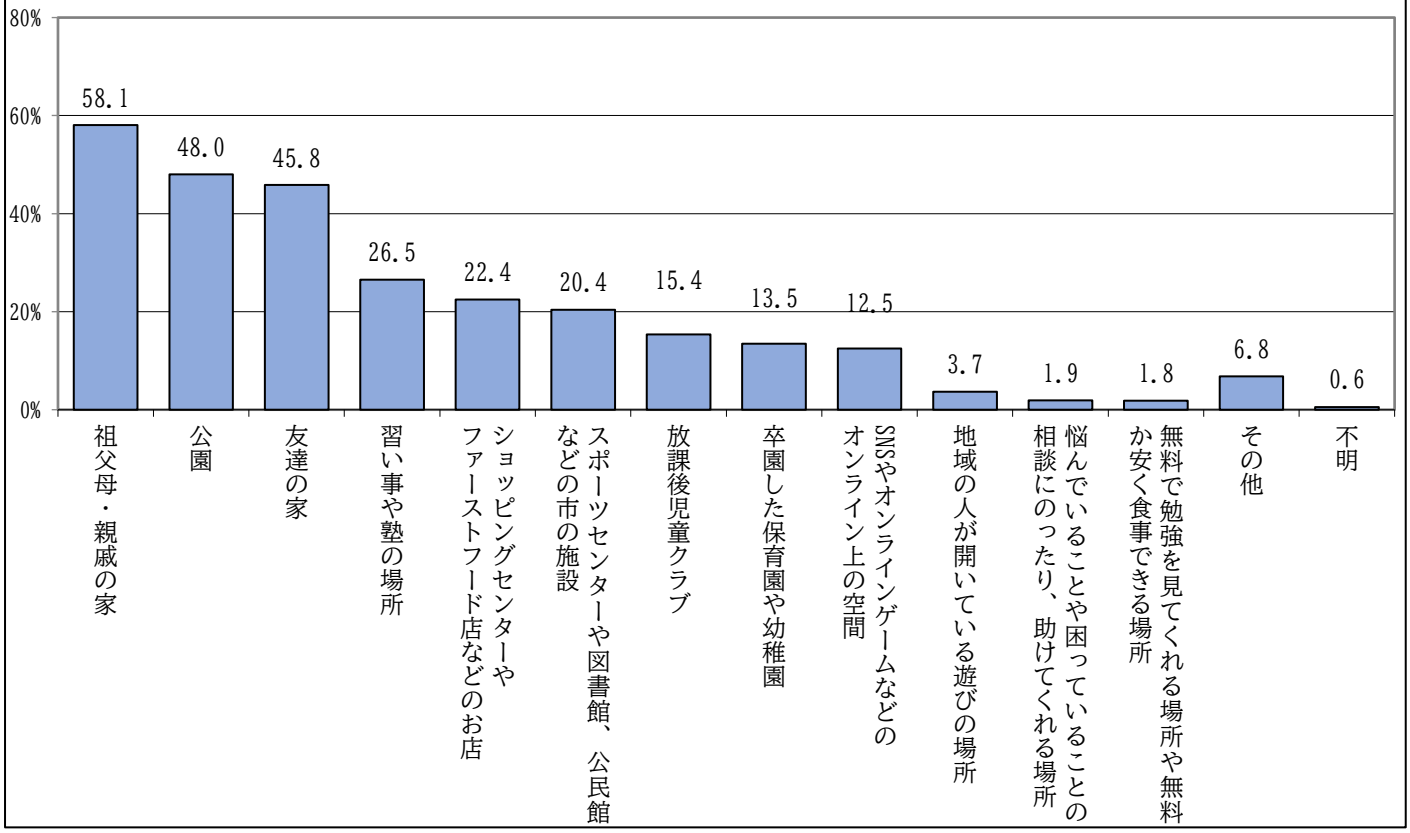
＜内訳＞

	ある	ない	不明
全体	67.0%	31.6%	1.4%
小学校低学年	67.8%	30.0%	2.2%
小学校高学年	66.4%	32.5%	1.0%
中学生	69.6%	29.3%	1.1%
高校生	60.8%	39.2%	0.0%
不明	56.9%	35.3%	7.8%

3）家や学校以外で居場所だと感じている場所

家や学校以外で居場所だと感じている場所について、「祖父母・親戚の家」が最も多く 58.1%、次いで「公園」が 48.0%、「友達の家」が 45.8%となっており、その内訳を見ると、いずれの年齢区分でも「祖父母・親戚の家」が最も多く、次いで、小学校低学年と高学年では「公園」がそれぞれ 55.0%と 52.5%、中学生では「友達の家」が 43.7%、高校生では「ショッピングセンターやファーストフード店などのお店」37.9%と多くなっている。

＜家や学校以外で居場所だと感じている場所＞（複数回答）
（回答対象：家や学校以外で「ここに居たい」と感じる居場所があるこども）　（n=1,586）



＜内訳＞

	祖父母・親戚の家	公園	友達の家	習い事や塾の場所	ショッピングセンターやファーストフード店などのお店	スポーツセンターや図書館、公民館などの市の施設	放課後児童クラブ	卒園した保育園や幼稚園	SNSやオンラインゲームなどのオンライン上の空間	地域の人が開いている遊びの場所	悩んでいることや困っていることの相談にのったり、助けてくれる場所	無料で勉強を見てくれる場所や無料か安く食事できる場所	その他	不明
全体	58.1%	48.0%	45.8%	26.5%	22.4%	20.4%	15.4%	13.5%	12.5%	3.7%	1.9%	1.8%	6.8%	0.6%
小学校低学年	59.7%	55.0%	42.9%	25.3%	19.4%	21.1%	29.5%	26.0%	2.3%	4.7%	2.3%	2.1%	6.1%	0.7%
小学校高学年	60.9%	52.5%	50.2%	26.8%	18.6%	19.1%	13.9%	12.3%	10.0%	4.9%	2.0%	1.7%	7.1%	0.5%
中学生	52.0%	40.4%	43.7%	28.2%	29.7%	20.8%	6.1%	4.6%	23.9%	1.0%	1.3%	1.3%	6.6%	0.5%
高校生	60.9%	17.2%	37.9%	21.8%	37.9%	25.3%	1.1%	0.0%	31.0%	1.1%	2.3%	2.3%	5.7%	1.1%
不明	44.8%	41.4%	44.8%	31.0%	6.9%	17.2%	10.3%	17.2%	6.9%	3.4%	0.0%	6.9%	17.2%	0.0%

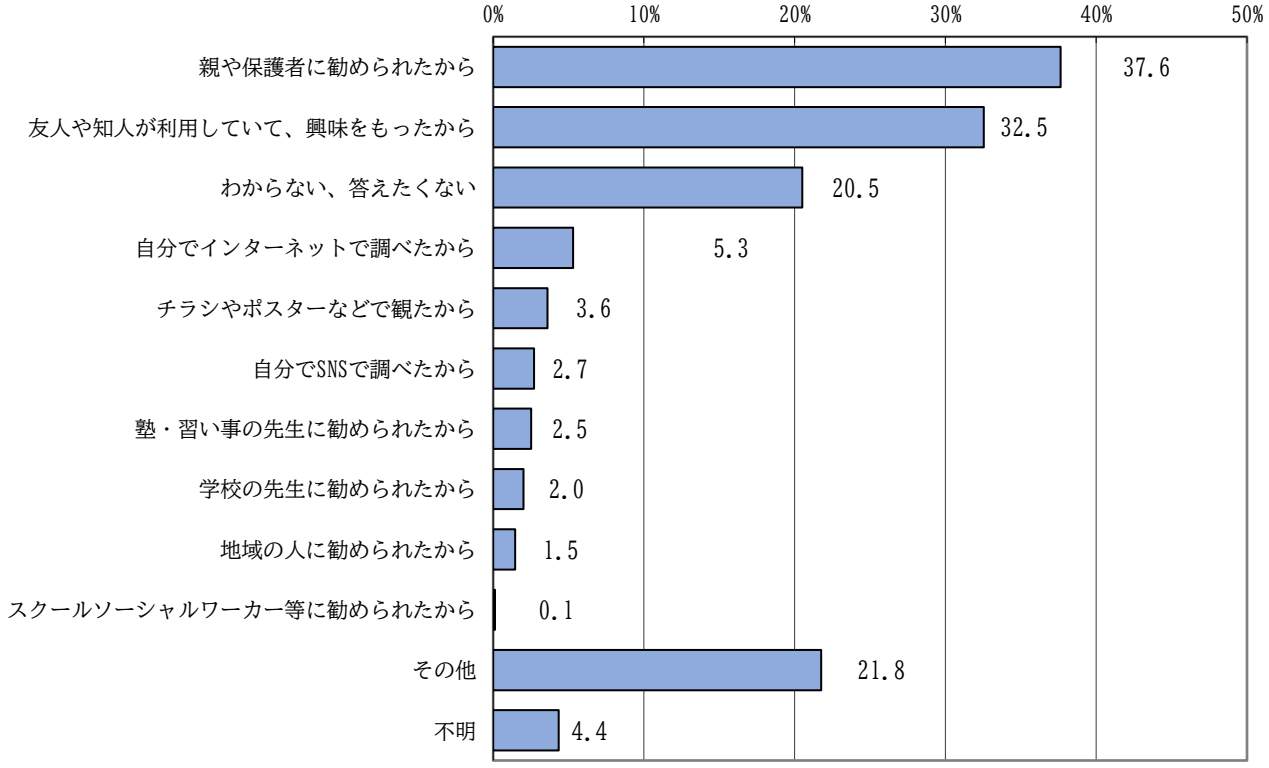
4）居場所だと感じている場所の利用を始めた理由

家や学校以外で居場所だと感じる場所があるこどもの、利用を始めた理由について、「その他」を除き、「親や保護者に勧められたから」が最も多く 37.6%、次いで「友人や知人が利用していて、興味をもったから」が 32.5%、「わからない、答えたくない」が 20.5%となっている。

内訳を見ると、「親や保護者に勧められたから」は、小学校低学年で最も高く 51.3%、中学生で最も低く 32.2%となっている。

また、「友人や知人が利用していて、興味をもったから」、「自分でインターネットで調べたから」については、年齢が上がるにつれて増加する傾向が見られる。

＜家や学校以外で居場所と感じる場所の利用を始めた理由＞（複数回答）
（回答対象：家や学校以外で「ここに居たい」と感じる場所があるこども）　（n=1,586）



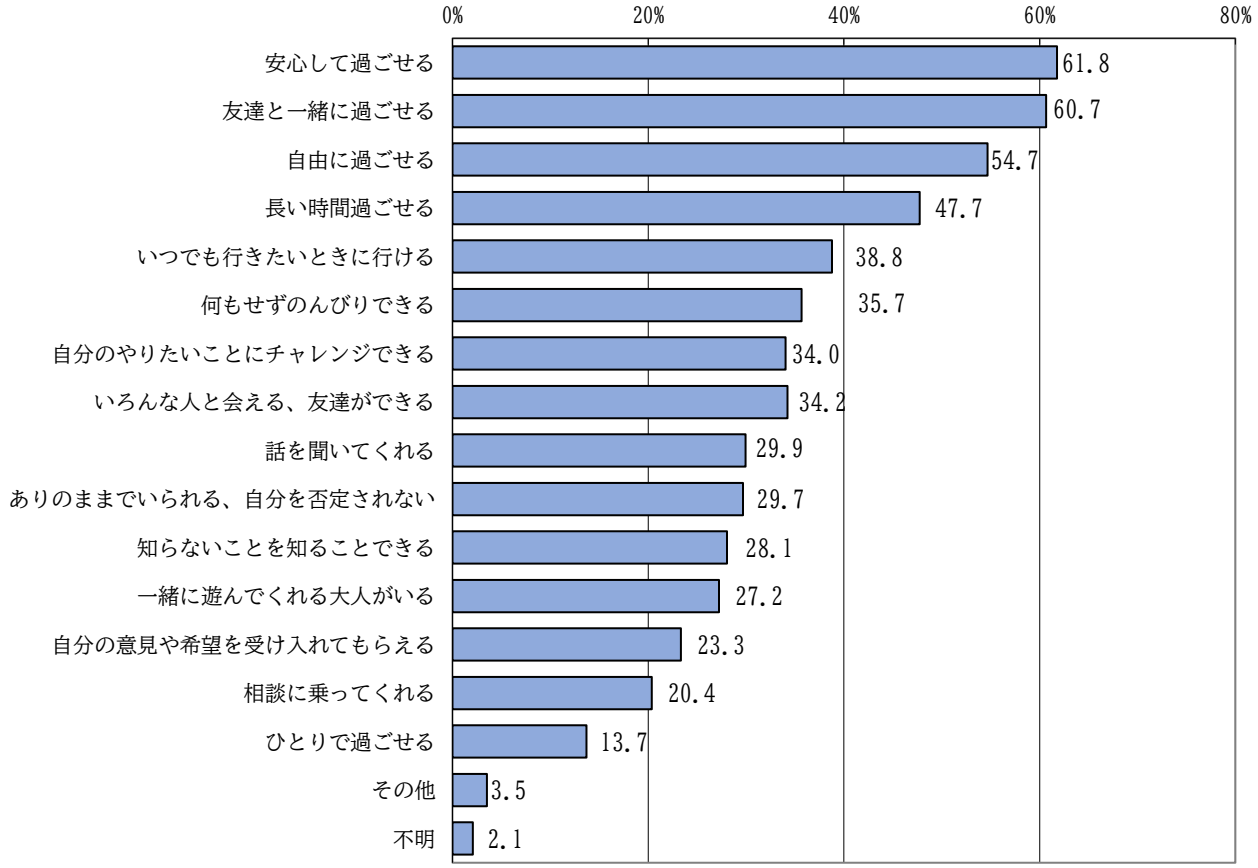
＜内訳＞

	親や保護者に勧められたから	友人や知人が利用していて、興味をもったから	わからない、答えたくない	自分でインターネットで調べたから	チラシやポスターなどで観たから	自分でSNSで調べたから	塾・習い事の先生に勧められたから	学校の先生に勧められたから	地域の人に勧められたから	スクールソーシャルワーカー等に勧められたから	その他	不明
全体	37.6%	32.5%	20.5%	5.3%	3.6%	2.7%	2.5%	2.0%	1.5%	0.1%	21.8%	4.4%
小学校低学年	51.3%	24.6%	19.2%	1.2%	3.0%	0.0%	3.3%	2.6%	1.6%	0.5%	15.7%	5.9%
小学校高学年	32.5%	32.8%	21.4%	3.5%	5.4%	1.4%	1.8%	1.7%	1.8%	0.0%	26.3%	3.2%
中学生	32.2%	37.1%	21.1%	8.1%	1.5%	6.6%	2.8%	1.5%	0.5%	0.0%	22.6%	5.1%
高校生	36.8%	49.4%	13.8%	25.3%	3.4%	9.2%	3.4%	4.6%	2.3%	0.0%	14.9%	2.3%
不明	27.6%	31.0%	31.0%	6.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.2%	3.4%

5）居場所だと感じている場所の印象

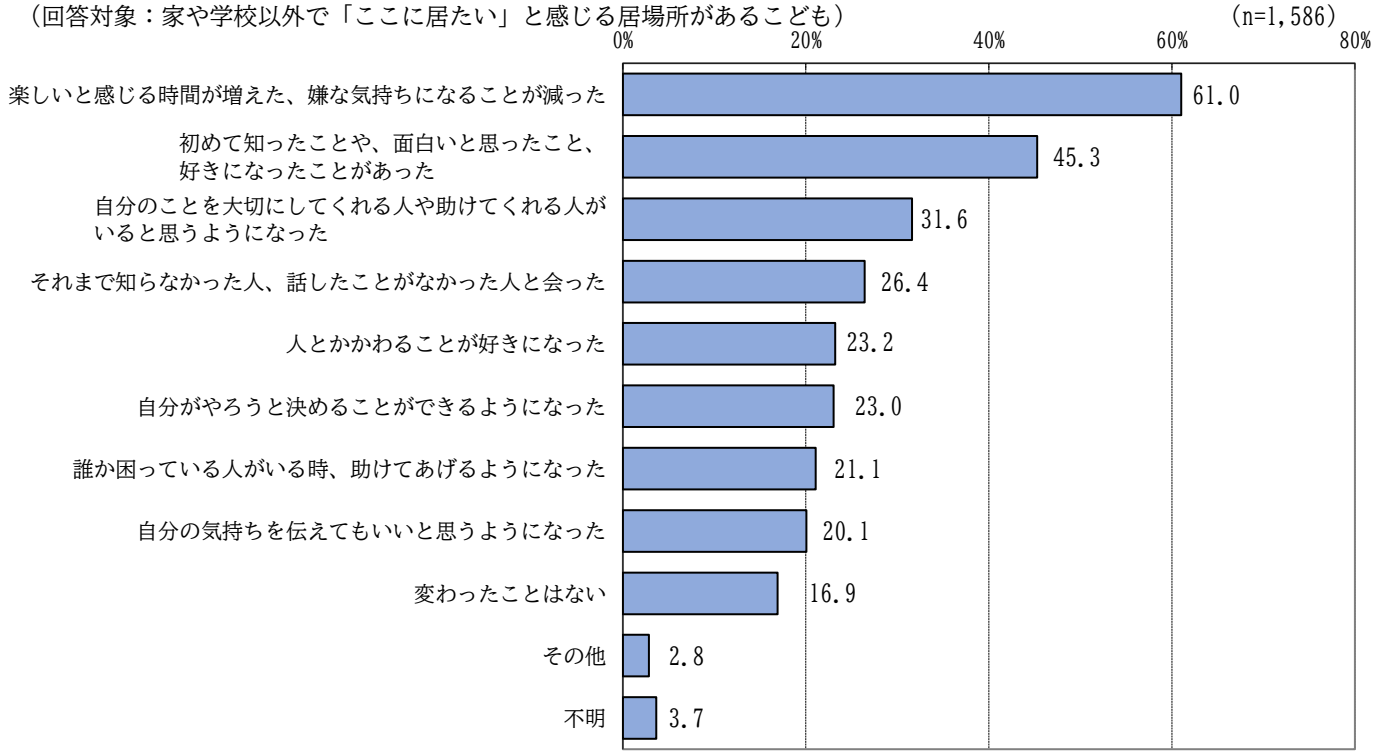
家や学校以外で居場所だと感じる場所があるこどもの、居場所だと感じている場所の印象について、「安心して過ごせる」が最も多く 61.8%、次いで「友達と一緒に過ごせる」が 60.7%、「自由に過ごせる」が 54.7%となっている。

＜家や学校以外で居場所と感じる場所はどんな場所か＞（複数回答）
（回答対象：家や学校以外で「ここに居たい」と感じる居場所があるこども）　（n＝1,586）



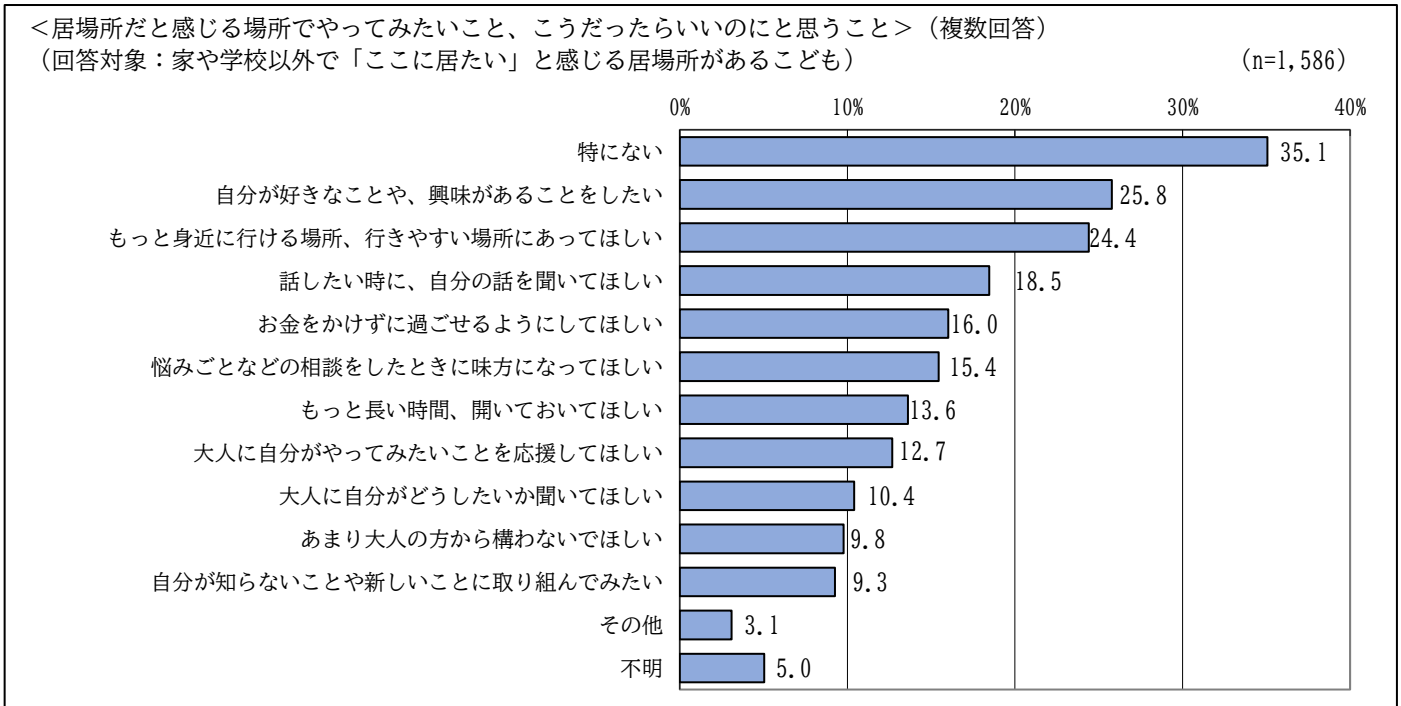
6）居場所だと感じる場所に行くようになって変わったこと

家や学校以外で居場所だと感じる場所があるこどもの、その場所に行くようになって変わったことについて、「楽しいと感じる時間が増えた、嫌な気持ちになることが減った」が最も多く 61.0%、次いで「初めて知ったことや、面白いと思ったこと、好きになったことがあった」が 45.3%、「自分のことを大切にしてくれる人や助けてくれる人がいると思うようになった」が 31.6%となっている。



7）居場所だと感じる場所でやってみたいこと

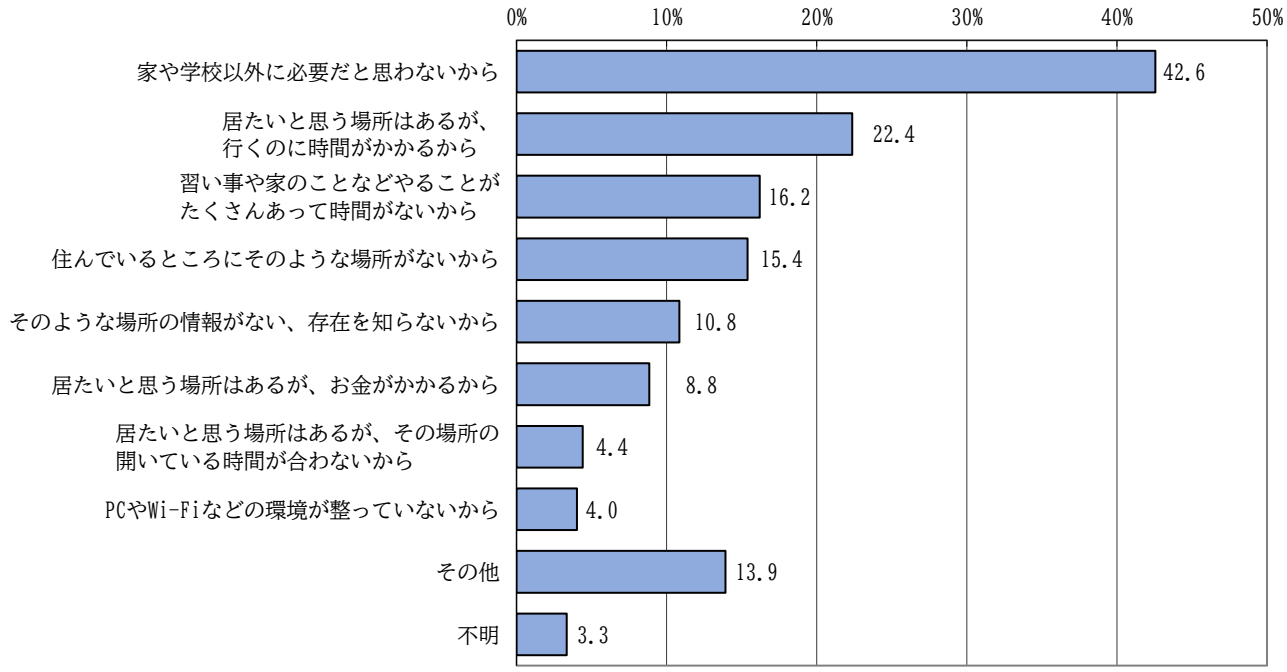
家や学校以外で「ここに居たい」と感じている居場所があるこどもの、その場所でやってみたいこと、こうだったらいいのにと思うことについて、「特にない」が最も多く 35.1%、次いで「自分が好きなことや、興味があることをしたい」が 25.8%、「もっと身近に行ける場所、行きやすい場所にあってほしい」が 24.4%となっている。



8）ここに居たいと思う場所がないと答えた理由

ここに居たいと思う場所がないと答えたこどもの、その理由について、「家や学校以外に必要だと思わないから」が最も多く 42.6%、次いで「居たいと思う場所はあるが、行くのに時間がかかるから」が 22.4%、「習い事や家のことなどやることがたくさんあって時間がかかるから」が 16.2%となっている。

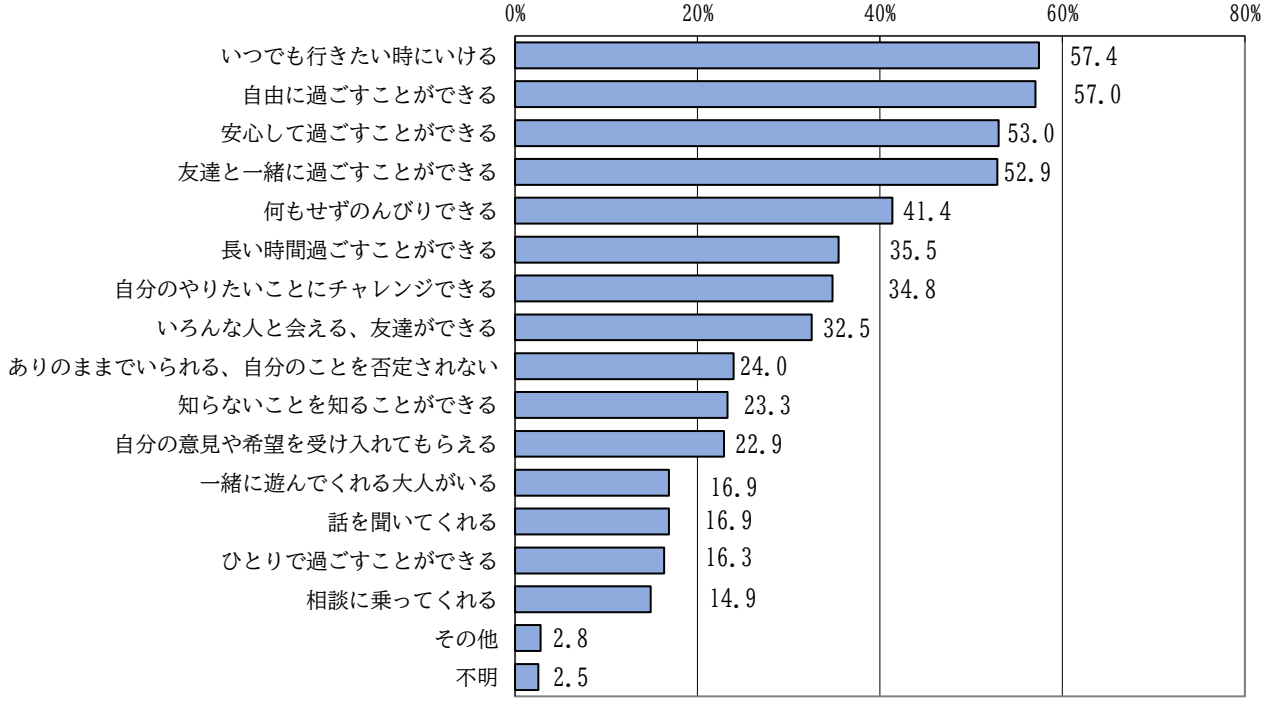
＜家や学校以外で居場所だと感じる場所ないと答えた理由＞（複数回答）
（回答対象：家や学校以外で「ここに居たい」と感じる居場所がないこども）　（n=747）



9）どんな場所があれば行ってみたいと思うか

どんな場所があれば行ってみたいと思うかについて、「いつでも行きたい時にいける」が最も多く 57.4%、次いで「自由に過ごすことができる」が 57.0%、「安心して過ごすことができる」が 53.0%となっている。

＜どんな場所があれば行ってみたいと思うか＞（複数回答）
（回答対象：家や学校以外に「ここに居たい」と感じる居場所がないこども）　（n=747）

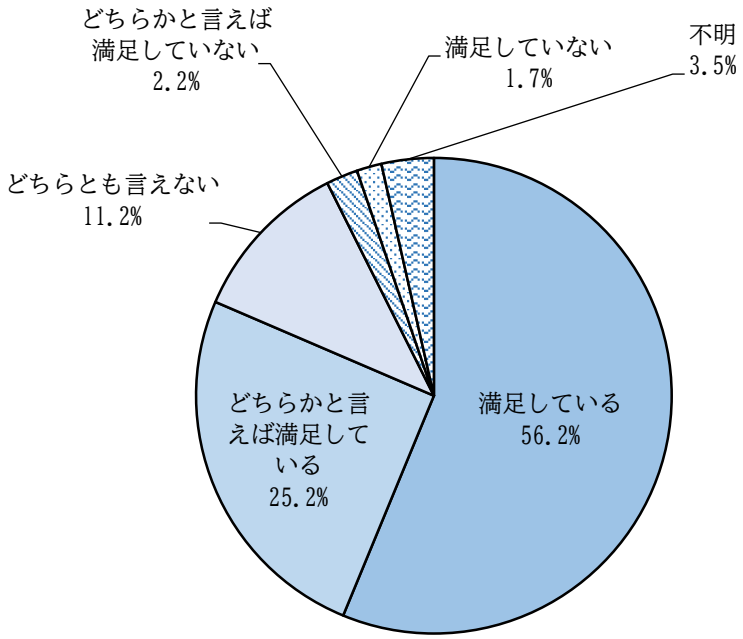


３．最近の生活の満足度

最近の生活の満足感について、「満足している」が最も多く 56.2%、次いで「どちらかと言えば満足している」が 25.2%、「どちらとも言えない」が 11.2%となっており、内訳を見ると、「満足している」は、小学校低学年で最も高く 59.8%、高校生で最も低く 45.5%となっている。

＜最近の生活の満足度＞

（n=2,367）



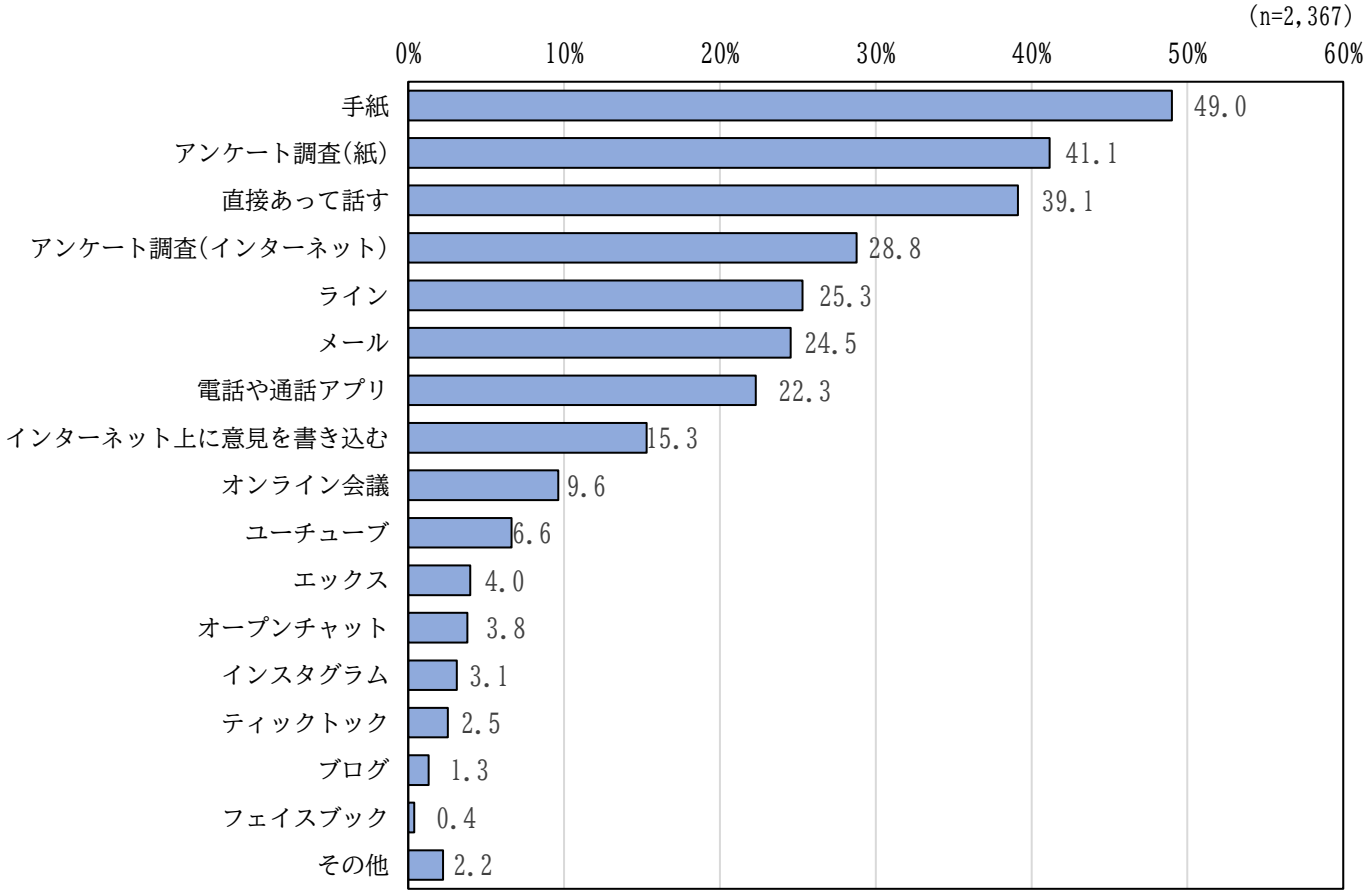
＜内訳＞

	満足している	どちらかと言えば満足している	どちらとも言えない	どちらかと言えば満足していない	満足していない	不明
全体	56.2%	25.2%	11.2%	2.2%	1.7%	3.5%
小学校低学年	59.8%	20.5%	11.4%	1.1%	2.1%	5.1%
小学校高学年	56.6%	25.8%	9.2%	3.0%	2.0%	3.4%
中学生	54.1%	26.9%	14.3%	1.9%	0.7%	2.1%
高校生	45.5%	39.2%	9.8%	2.1%	1.4%	2.1%
不明	58.8%	15.7%	13.7%	2.0%	2.0%	7.8%

４．国や広島市への意見表明

国や広島市に自分の気持ちや意見を言いやすい手段や方法について、「手紙」が最も多く 49.0%、「アンケート調査（紙）」が 41.1%、「直接あって話す」が 39.1%となっている。また、インターネットを利用した「アンケート調査」、「ライン」、「メール」はいずれも 20%超と多くなっている。

＜どのような手段や方法があれば国や広島市に自分の気持ちや意見を言いやすいか＞（3 つまで回答）

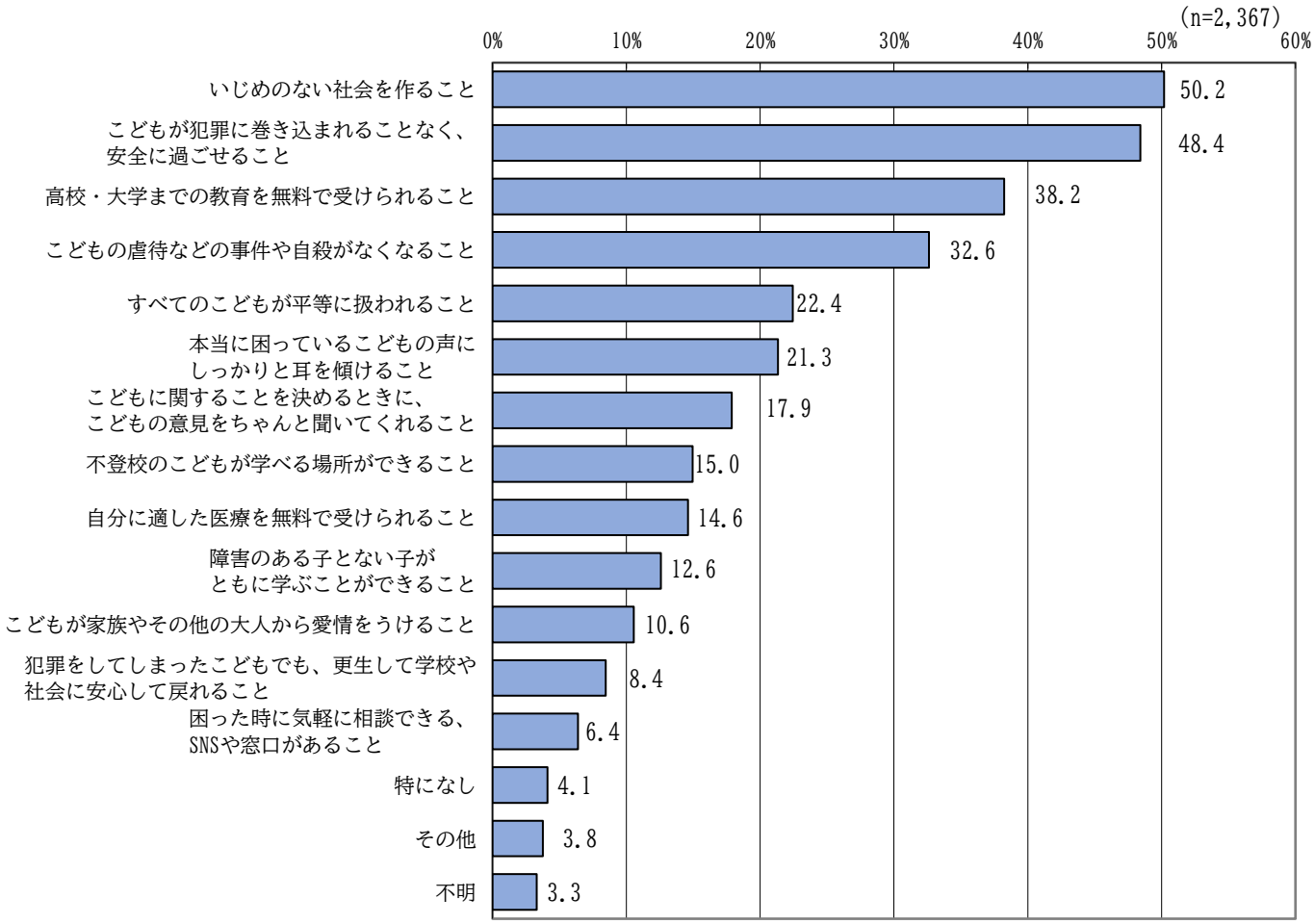


５．国や広島市がこどもたちのために力をいれた方がいいこと

国や広島市がこどもたちのために力を入れたほうがいいと思うことについて、「いじめのない社会を作ること」が最も多く 50.2%、次いで「こどもが犯罪に巻き込まれることなく、安全に過ごせること」が 48.4%、「高校・大学までの教育を無料で受けられること」が 38.2%、「こどもの虐待などの事件や自殺がなくなること」が 32.6%となっている。

内訳を見ると、最も多い回答は、小学校低学年では「こどもが犯罪に巻き込まれることなく、安全に過ごせること」で 61.4%、小学校高学年では「いじめのない社会を作ること」で 54.7%、中学生及び高校生では「高校・大学までの教育を無料で受けられること」でそれぞれ 48.6%、71.3%となっている。

＜国や広島市がこどもたちのために、力を入れたほうがいいと思うこと＞（複数回答）



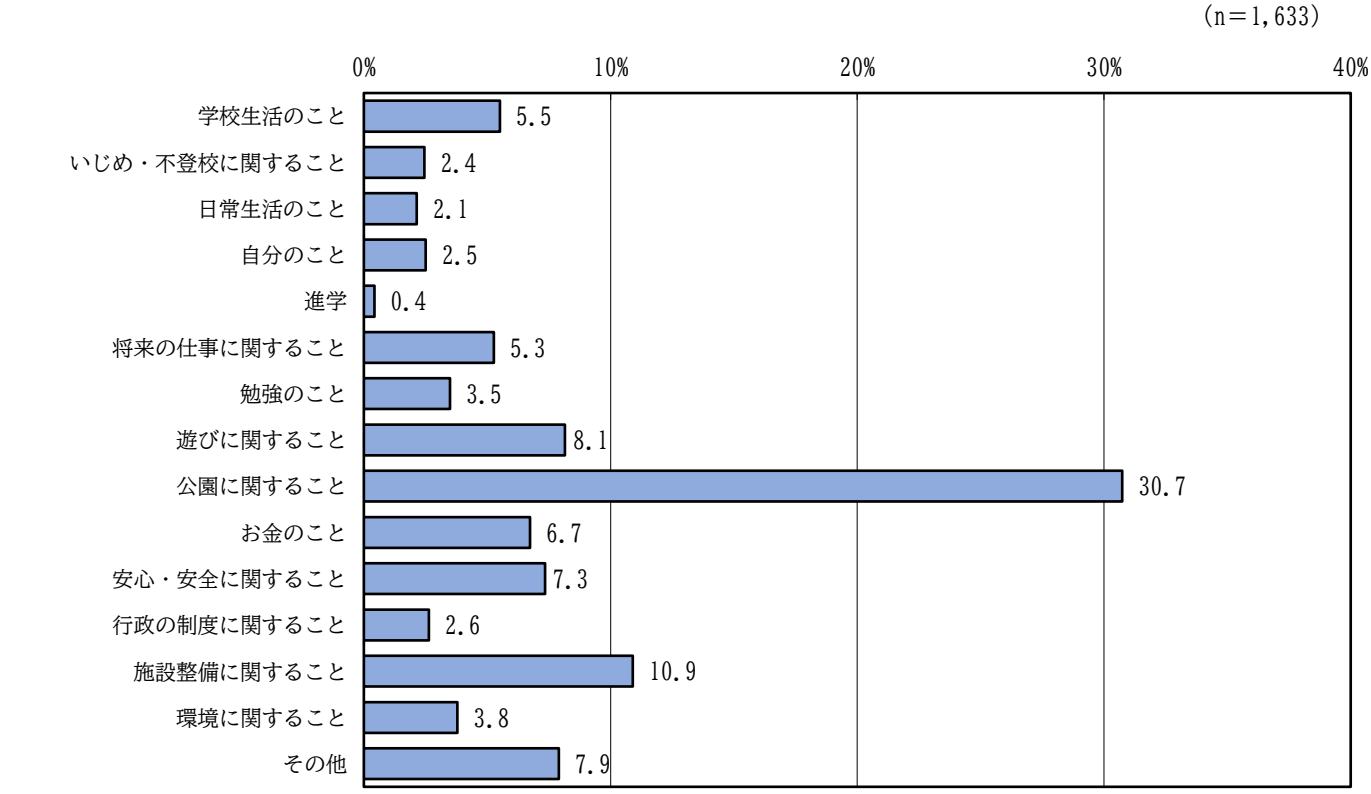
＜内訳＞

	いじめのない社会を作ること	こどもが犯罪に巻き込まれることなく、安全に過ごせること	高校・大学までの教育を無料で受けられること	こどもの虐待などの事件や自殺がなくなること	すべてのこどもが平等に扱われること	本当に困っているこどもの声にしっかりと耳を傾けること	こどもに関することを決めるときに、こどもの意見をちゃんと聞いてくれること	不登校のこどもが学べる場所ができること	自分に適した医療を無料で受けられること	障害のある子とない子がともに学ぶことができること	こどもが家族やその他の大人から愛情をうけること	犯罪をしてしまったこどもでも、更生して学校や社会に安心して戻れること	困った時に気軽に相談できる、SNSや窓口があること	その他	特になし	不明
全体	50.2%	48.4%	38.2%	32.6%	22.4%	21.3%	17.9%	15.0%	14.6%	12.6%	10.6%	8.4%	6.4%	3.8%	4.1%	3.3%
小学校低学年	54.0%	61.4%	30.0%	28.1%	12.2%	20.2%	13.2%	11.9%	11.4%	9.8%	9.8%	8.7%	5.4%	2.7%	7.3%	5.2%
小学校高学年	54.7%	51.6%	33.2%	37.3%	28.7%	19.4%	18.2%	15.5%	12.9%	16.0%	10.8%	9.9%	7.9%	3.8%	3.2%	3.1%
中学生	43.8%	33.4%	48.6%	31.3%	25.1%	24.4%	20.8%	18.0%	19.6%	11.8%	10.2%	6.4%	4.9%	4.4%	2.7%	1.8%
高校生	29.4%	29.4%	71.3%	28.0%	15.4%	25.9%	23.8%	14.7%	21.7%	7.0%	13.3%	4.2%	5.6%	5.6%	0.7%	1.4%
不明	47.1%	47.1%	29.4%	27.5%	19.6%	25.5%	19.6%	9.8%	11.8%	5.9%	9.8%	11.8%	7.8%	3.9%	7.8%	5.9%

６．役所の人などの大人に伝えたいこと

役所の人などの大人に伝えたいこと（自由記述）をキーワード分類した結果が下のグラフである。
「公園に関すること」の意見が最も多く 30.7%、次いで「施設整備に関すること（レジャー施設、ショッピングセンター、スポーツ施設等）」が 10.9%、「遊びに関すること」が 8.1%となっている。

＜役所の人などの大人に伝えたいこと＞（自由記述）



＜役所の人などの大人に伝えたいこと＞　（n＝1,633）

	件数	割合
学校生活のこと	90	5.5%
いじめ・不登校に関すること	40	2.4%
日常生活のこと	35	2.1%
自分のこと	41	2.5%
進学	7	0.4%
将来の仕事に関すること	86	5.3%
勉強のこと	57	3.5%
遊びに関すること	133	8.1%
公園に関すること	502	30.7%
お金のこと	110	6.7%
安心・安全に関すること	120	7.3%
行政の制度に関すること	43	2.6%
施設整備に関すること	178	10.9%
環境に関すること	62	3.8%
その他	129	7.9%
合計	1,633	100.0%

主な意見の抜粋

1．学校生活のこと

学校のトイレをきれいにして欲しい。
学校で遊べる遊具などを追加して欲しい。
給食を運ぶ時、手で運ぶと手に食い込んだり重かったりして運ぶのが辛いから、給食用の運ぶやつを入れて欲しい。
学校の休憩時間をすこし増やして欲しい。
休憩の時間と楽しい時間をもっと増やして欲しい。
もっと、学校での交流を盛んにしたい。自分の好きなことがみんなの前で発表ができるようにしたい。いつでも喧嘩の無いようにしたい。
学校のタブレット授業を増やして欲しい。
学校を新しくしてバリアフリーにして欲しい。
デジタル化で教科書をなくして欲しい。
休憩の時間と楽しい時間をもっと増やして欲しい

2．いじめ・不登校に関すること

不登校の友達が安心していられる場所や、安心して勉強やしたいことができる環境作りをがんばって欲しい。近くにそういう子がいるのでお願いしたい。
いじめを二度とないようにしたい。
いじめがあるかないかの調査を定期的にして欲しい。
学校での、いじめ対策をもっとしっかりして欲しい。
いじめられたことがあります。しかし、相談できませんでした。その時私は、1 人になれるところがあったらいいなと思いました。
不登校の子が再び不登校にならないように学校側がサポートして欲しい。
いじめやかげ口がいけないのはみんな分かっているけど、それをもっと強く実感できるような教育の場を増やして欲しい。
いじめをされている子を助けて欲しい。

3．日常生活のこと

ずっとずっと家族と仲良く過ごしたい。
子供が心から笑顔になれる場所が欲しい。
子供の居場所をもっとつくって欲しい。
子供食堂を作って欲しい。昔あった遊具を作って欲しい。
友達と仲良く時間を過ごしたい。
近場に年齢に関係なく集まれる場所を作って欲しい。
自由に過ごせるところをたくさん作って欲しい。
友達と過ごせる時間を増やして欲しい。

4．自分のこと

悲しい時に慰めて欲しい。
もっと物知りになりたい。
もっと自分に構って欲しい。
早く大人になりたい。
子供の意見を取り入れて欲しい。
人と楽しく関われるようになりたい。
もっといろんなことができるようになりたい。
子供たちの意見を否定せずに最後まで聞いて欲しい。

5．進学

自分に合う高校を探しやすくして欲しい。
友達が障害のせいで高校選択の幅が狭くなっているので、その子が困らないような社会を作って欲しい。
行きたい高校に行けるように助けて欲しい。

6．将来の仕事に関すること

将来なりたい仕事に、気軽になれるようにして欲しい。
将来はペットショップの店員になりたい。
自分たちの夢の可能性をひろげて欲しい。
将来の夢が見つけられるような体験する場を設けて欲しい。
将来の夢が叶うように助けて欲しい。
ニュースキャスターになれるように助けて欲しい。
将来何になりたいのか決まらないから助けて欲しい（お仕事紹介など）。
将来の夢が叶うように助けて欲しいです（KPOP アイドル）。
パティシエの夢が叶うように助けて欲しい。
どんな仕事があるか、叶えるために教えて欲しい。
将来の夢である司書に関係する勉強が気楽にできる場所を身近なところに設けて欲しい。
美容系の仕事につきたい。

7．勉強のこと

学校でもアンケートをとって欲しい、勉強の仕方を教えて欲しい。
塾以外でも気軽に自習出来る場所が欲しい。
勉強が苦手でも好きな大学に行きたい。
自分の好きなことを深掘りできる授業があったら良いと思う（カメラ、DIY）。わからない授業はもう一度学び直せると良いと思う。
学校に行かなくても授業を受けれるようにして欲しい。
私はひまわり学級だけれど、勉強が大好きなので、発達障害の子が安心して勉強できる中学校や高校を増やして欲しい。
学校によって内申点の基準となるテストの難易度を全ての中学校で同じにして欲しい。
中学校でもプログラミングや経済の授業をして欲しい。
英語を覚えたいから助けて欲しい。

8．遊びに関すること

もっと遊べる時間を増やして欲しい。ものを買うのにとてもお金がかかるので「子供は割引！」みたいなのが欲しい。
無料でゲームができるところが欲しい。
ボルダリングがやりたい。
ボール遊びができて雨の日でも遊べるようにして欲しい。
中高生の遊び場があまりないので作って欲しい。
広島でももっとアニメなどに関するイベントを開いて欲しい。わざわざ県をまたぐのは難しい。
子供の遊ぶ場所を増やして欲しい。
もっと近くに子供でも大人でも遊べるような場所を作って欲しい。
学校終わりの時間や夏休みに気軽に行ける場所を作って欲しい。
スポーツセンター以外の雨の日でも集まって遊べる空間が欲しい。
自転車やローラースケートをしても危なくない場所を作って欲しい。
一緒に遊んでくれる大人を（仕事で）いれて欲しい。
遊びに関することを学べる所。
放課後、小学校のグランドで遊べるようにして欲しい。

9．公園に関すること

ボール遊びができる公園を増やして欲しい。
公園にもっとゴールなどを置いて欲しい。
サッカーゴール、または、サッカーゴールの大きさの的当てもつけて欲しい。川の近くの公園は、フェンスをつけてボールが川に落ちないようにして欲しい。
もっとバスケができる公園を増やして欲しい。
身近な場所に大きな公園があればいいなと思う。
総合スポーツ公園を増やして欲しい。
遊具がたくさんある公園を増やす、テーマパークを増やす。
雨の日でも無料で遊べる公園が欲しい。
ボールが禁止されている公園しかないので、多くの小中学生がボールを使って遊べる場所を増やして欲しい。
ボールで遊べる公園やとても広い公園が欲しい。
広くて遊具がたくさんある公園を増やして欲しい。
野球のできる公園を増やして欲しい。
ローラブレードができる公園が欲しい。
遊具もあって、川で網もできるいっぱい遊べる公園が欲しい。小学校にブランコがあって欲しい。もっと公園を増やして欲しい。
可部運動公園に走るだけではなく、クライミングと登り棒とかもっと遊具を増やして欲しい。
駅周辺にある公園、施設などに、駅から徒歩何分かを表示して欲しい。
遊具をもっと増やして欲しい。
小さい子供も遊ぶ公園で、ボールを使ったり鬼ごっこをすると危ないから、〇〇をする公園などと分けて欲しい。公民館のような、雨が降ったりしても友達と楽しめる施設を増やして欲しい。
公園が広くなって欲しい。将来、不審者などがいなくなるようなところになって欲しい。
広島市中区に、図書館や遊具がたくさんある公園などがとても少ないので、そういうのをいっぱい増やして欲しい。
木や花壇のある公園や、雨宿りができて外に読書スペースのある公園が欲しい。
パルクールのできる公園を増やして欲しい。
親がついて行かなくても子供達だけで安心して遊べる公園にして欲しい。
とても大きいアスレチックがある公園が欲しい。
障害児、親が安心して気を遣わずに遊べる公園、屋内遊び場が欲しい（年齢制限がない）。

10．お金のこと

高校、大学までの教育を無料で受けられるようにして欲しい。
税金減らして欲しい。将来好きなことを学びたいので、大学費無料にして欲しい。
無料券で困っている人に勉強をさせてあげたい。
高校や大学の無償化。
大人はお金を持っているけど子供にもお金が欲しい。
ひとり親の家庭で生活している高校生が、大学進学できるように金銭的に助けて欲しい。
私たちこどもの将来への可能性や希望が潰されることがないよう、高等学校までを無料で受けることのできる教育へと変えて欲しい。親の収入で生まれる格差に苦しむ子供たちをなくし、行きたいところに行き、成長していけるよう頑張って欲しい。
大学に行きたいし兄弟が多いので大学無償化を希望する。
3 人以上の子供がいる家庭は大学費が無料になるなどの取り組みを行う前に、給食費を無償化することや学校までの交通費をタダにするなどもっとたくさんの人が平等に受けられるようにした方がいい。
給付金を増やして欲しい。
一人暮らしで大学に通う場合の費用を下げて欲しい。
もっと税金を役に立つことに使って欲しい。

11. 安心・安全に関すること

地震や災害、不審者の対策をして欲しい。そして私たちが安心して暮らせるところにして欲しい。
全ての子供の安心できる場所を増やして欲しい。
部活帰り暗くてこわいので、夜道を明るくして欲しい。
みんなが安心して暮らせる社会を作って欲しい。
帰り道が怖いので安全になったらいいと思うから、遠くの家の人のところも見回りをいっぱいして欲しい。
通学路の階段のところで猪が出ることがあって怖いから、柵か塀を高くして欲しい。
みんなが安全に暮らせるようにして欲しい。
不審者をなくして欲しい。
いつまでも平和でいられるようにして欲しい。
自転車が通る道をひいて欲しい。放課後に子供が過ごせる場所を増やして欲しい。
不審者がいないところをどんどん増やして欲しい。
街に監視カメラも増やして欲しい。
人の目が行き届くような安全な場所を増やして欲しい。
どんな人でも入れるような安心できる場所を増やして欲しい。

12. 行政の制度に関すること

もっと子供の教育や子育てのために力を入れた方がいい。
大人の皆さんが私達子供の為にいろんなことをしてくれているのは自分でも分かっているつもりです。ですが、最近のニュースを見ていると、政治家の人々が私たちの両親を含む大人が働いて稼いだお金の一部である税金を使って、沢山の不正をしているではないですか。私が大人なら、自分が働いて作り出したお金をそんなことに使われようものならたまったもんじゃない。私もあと 4 年で成人です。今の政治を見ていると、働いて社会に貢献する気力なんて全く湧いてきません。選挙投票率の低下も、若者が私と同じく政治を「面白くない」と思っているのが要因の一つでは？私は恵まれた環境に居ますし、決して不幸ではありません。幸せです。でもそうでない人だって絶対にいます。広島に限らず国全体が今の政治を見直すべきです。
誰にも（家族にも）知られないで悩みなどを聞いてくれる場所が出来て欲しい。
日本が抱える問題に対して良い打開策を打ち出し、その効果や有効性をもっと発信して欲しい。もっと明るい未来を見れるような社会をつくれるようにして欲しい。
条例や決まりをわかりやすくして欲しい。
若い子たちの意見を今より多く世の中に反映させるために、選挙でインターネット投票をできるようにして欲しいから、頑張って欲しい。
もっと全国に広島の良さを発信して欲しい。
国会議員の数をもっと減らし、若い議員を増やして欲しい。
犯罪を起こしてしまった人の遺族などで生活に影響を受ける人がいたら、犯罪を起こしてしまった人の顔や名字などをニュースなどで報道しない制度を作って欲しい。

13. 施設整備に関すること（レジャー施設、ショッピングセンター、スポーツ施設等）

プールを増やして欲しい。
もっと家の近くに図書館が欲しい。
図書館を増やして欲しい。
昔の駄菓子屋みたいにこどもの広場を作って欲しい。
多少大きい音を出しても良い所を作って欲しい。
プールを無くさないで欲しい。
スポーツセンターをもう少し利便性が良いところに作って欲しい。また、土日は専用利用で個人利用ができないことが多いので、もう少し個人利用ができるようにして欲しい。
図書館を増やして欲しい、中高生の公共施設のフリーパスを作る。
広島市内に大きい遊園地が欲しい。
大きいショッピングセンターが家の前にあればいいと思う。
サッカーができるコートを増やして欲しい。

野球のできる場所を増やして欲しい。
近いところに勉強ができるカフェが欲しい。

14. 環境に関すること

歩道橋を綺麗にして欲しい。
ゴミがそこらへんにたくさん落ちているからゴミ拾いのイベントを増やして欲しい。
トイレをもっと綺麗にして欲しい。公共施設、例えば公園とかプールとか。地震や災害をなくして欲しい。それに対策をして欲しい。
新しい建物を作るのもいいけれど、県に一部でもいいから緑を増やして欲しい（自然を生かして）。
動物と触れ合いができるところを増やして欲しい。
ごみ箱を町に増やして欲しい。
道に落ちているごみを拾って欲しい。
もっと自然あふれるところにしたい。
ポイ捨て禁止の看板をポイ捨てがゼロになるようにして欲しい。
川の周辺を、より過ごしやすいように整備して欲しい。例えば、木を植えたり、道をきれいにしたりすること。また、川の景観をしっかり美しく保って欲しい。
50 年後の未来を創造した街づくり（道路や信号の整備、マンションの高さ）などで、住みやすくなってると嬉しい。

15. その他

楽しい未来。
もっと色々な人を見てみて欲しい。文房具を出して欲しい。
石川県の地震などで普段の幸せな生活を奪われた人たちのために支援して欲しい。
伝えたいことはない。
私が大人になった時には、子供がつらい思いをしないように素敵な社会にしたい。
町を喜ばせたり、学校の給食や便利な機械を作ったりしてくれてありがとう。わたしはすごく感謝している。
今のままがいい。
出来ればでいいから楽しい所がいっぱいあって欲しい。
自由な世界や色々な学びができる所。
誰もが幸せになれるようにして欲しい。
プロ野球が続いて欲しい。
これからもお仕事をがんばって欲しい。私たちも大人に向けてあきらめず色々なことにチャレンジしていきたい。
全員が幸せに暮らせるようにして欲しい。

登録番号　広 G3-2024-227

名　　称　「広島市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」及び「こどもアンケート」　報告書

発　　行　広島市こども未来局こども未来調整課

所 在 地　〒730-8586　広島市中区国泰寺町一丁目６番 34 号

電　話：082-504-2812